

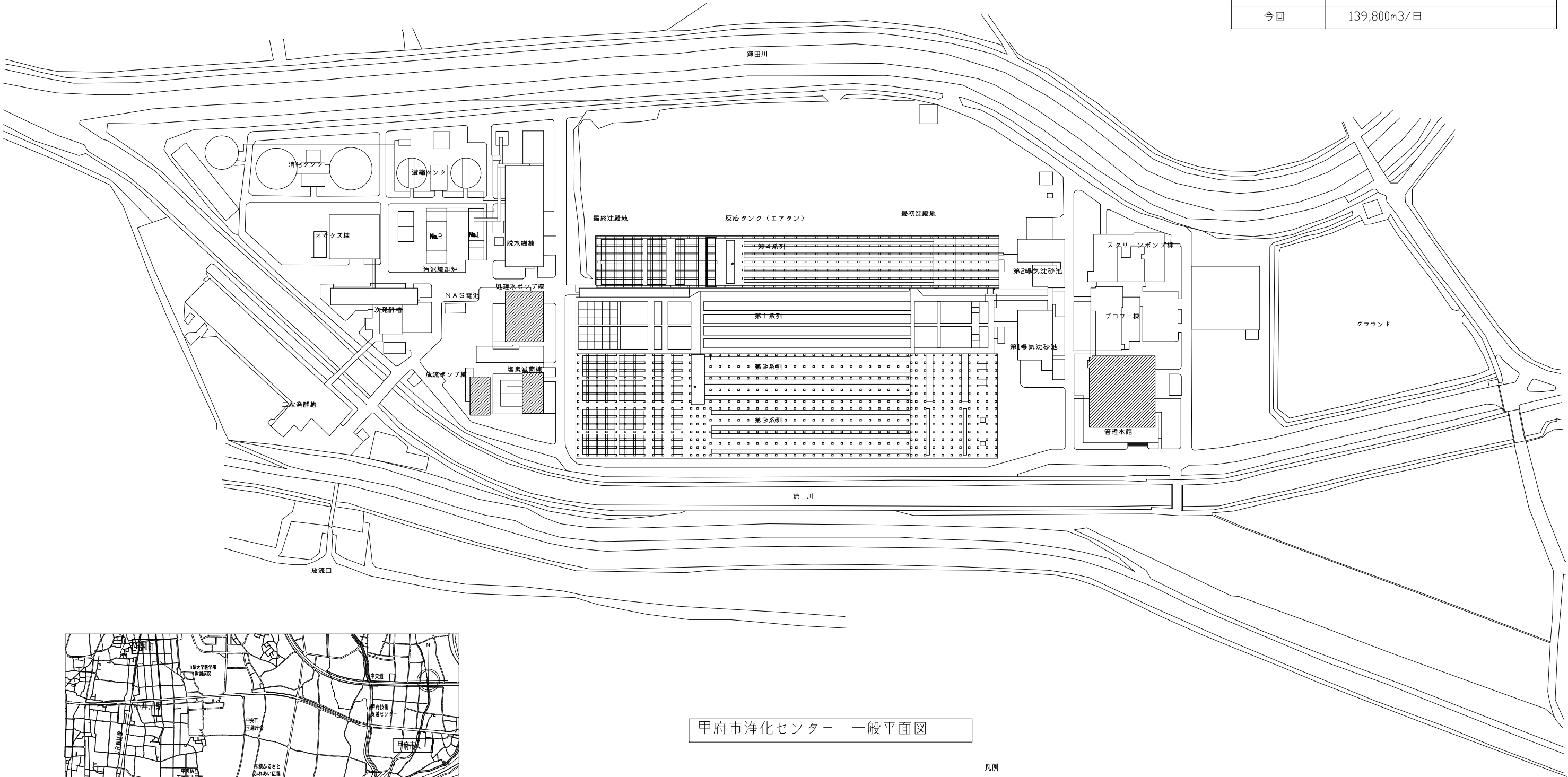
甲府市浄化センター管理本館ほか浸水対策詳工事

図 面 目 録 (1 / 2)

図面番号	名 称	縮 尺	備 考	図面番号	名 称	縮 尺	備 考
D-1	一 般 平 面 図	1/600		2D-11	詳 細 図 (改 修 前 後) (2)	1/20	
D-2	建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (1)	-		2D-12	詳 細 図 (改 修 前 後) (3)	1/20	
D-3	建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (2)	-		2D-13	詳 細 図 (改 修 前 後) (4)	1/20	
D-4	建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (3)	-		2D-14	1 階 仮 設 図 (参 考 図)	1/100	
D-5	建 築 工 事 特 記 仕 様 書 (4)	-		3D-1	仕 上 表	-	
1D-1	仕 上 表	-		3D-2	地 階 平 面 図 (参 考 図)	1/100	
1D-2	B1 階 平 面 図 (参 考 図)	1/100		3D-3	1 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100	
1D-3	1 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100		3D-4	1 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100	
1D-4	1 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100		3D-5	立 面 図 (改 修 前) (1)	1/100	
1D-5	立 面 図 (参 考 図) (1)	1/100		3D-6	立 面 図 (改 修 後) (2)	1/100	
1D-6	立 面 図 (参 考 図) (2)	1/100		3D-7	断 面 図 (改 修 前) (1)	1/100	
1D-7	立 面 図 (改 修 前 後) (3)	1/100		3D-8	断 面 図 (改 修 後) (2)	1/100	
1D-8	立 面 (参 考 図) (4)	1/100		3D-9	建 具 枠 回 り 詳 細 及 び 記 号 (ア ル ミ 製)	-	
1D-9	断 面 図 (参 考 図) (1)	1/100		3D-10	建 具 リ ス ト	1/50	
1D-10	断 面 図 (改 修 前) (2)	1/100		3D-11	詳 細 図 (改 修 前 後) (1)	1/20	
1D-11	断 面 図 (改 修 後) (3)	1/100		3D-12	詳 細 図 (改 修 前 後) (2)	1/20	
1D-12	建 具 リ ス ト	1/50		3D-13	詳 細 図 (改 修 前 後) (3)	1/20	
1D-13	詳 細 図 (改 修 前 後)	1/50		3D-14	詳 細 図 (改 修 前 後) (4)	1/20	
1D-14	詳 細 図 (改 修 前 後)	1/50		3D-15	詳 細 図 (改 修 前 後) (5)	1/20	
1D-15	1 階 仮 設 図 (参 考 図)	1/100		3D-16	詳 細 図 (改 修 前 後) (6)	1/50	
2D-1	仕 上 表	-		3D-17	詳 細 図 (改 修 前 後) (7)	1/50	
2D-2	1 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100		3D-18	詳 細 図 (改 修 前) (8)	1/50	
2D-3	1 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100		3D-19	詳 細 図 (改 修 後) (9)	1/50	
2D-4	立 面 図 (改 修 前) (1)	1/100		3D-20	詳 細 図 (改 修 前 後) (10)	1/50	
2D-5	立 面 図 (改 修 後) (2)	1/100		3D-21	詳 細 図 (改 修 前 後) (11)	1/50	
2D-6	立 面 図 (参 考 図) (3)	1/100		3D-22	詳 細 図 (改 修 前 後) (12)	1/50	
2D-7	断 面 図 (参 考 図)	1/100		3D-23	詳 細 図 (改 修 前 後) (13)	1/20	
2D-8	建 具 枠 回 り 詳 細 及 び 記 号 (ア ル ミ 製)	-		3D-24	1 階 仮 設 図 (参 考 図)	1/100	
2D-9	建 具 リ ス ト	-					
2D-10	詳 細 図 (改 修 前 後) (1)	1/20		S-1	構 造 細 目 共 通 図 (1)	-	

図面番号	名 称	縮 尺	備 考	図面番号	名 称	縮 尺	備 考
S-2	構 造 細 目 共 通 図 (2)	-		AM-14	管 理 本 館 参 考 断 面 ・ 東 側 立 面 図 仮 設 足 場 参 考 図	1/50	
S-3	構 造 細 目 共 通 図 (3)	-					
S-4	構 造 細 目 共 通 図 (4)	-		AE-1	建 築 電 気 設 備 特 記 仕 様 書	-	
S-5	構 造 細 目 共 通 図 (5)	-		AE-2	建 築 電 気 設 備 凡 例	-	
S-6	構 造 細 目 共 通 図 (6)	-		AE-3	1 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100	
1S-1	管 理 棟 補 強 配 筋 概 要 図 (1)	1/30		AE-4	3 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100	
1S-2	管 理 棟 補 強 配 筋 概 要 図 (2)	1/30		AE-5	立 面 図	1/100	
1S-3	室 外 機 架 台 伏 図	1/20		AE-6	1 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100	
1S-4	室 外 機 架 台 断 面 図	1/20		AE-7	3 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100	
1S-5	室 外 機 架 台 二 次 部 材 リ ス ト	1/20					
2S-1	塩 素 滅 菌 池 棟 補 強 配 筋 概 要 図 (1)	1/30		M-1	処 理 水 ポ ン プ 棟 機 械 設 備 図 (更 新)	1/100	
3S-1	処 理 水 ポ ン プ 棟 補 強 配 筋 詳 細 図 (1)	1/30		M-2	処 理 水 ポ ン プ 棟 機 械 設 備 図 (撤 去)	1/100	
3S-2	処 理 水 ポ ン プ 棟 補 強 配 筋 詳 細 図 (2)	1/30		M-3	処 理 水 ポ ン プ 棟 機 械 設 備 図 (仮 設)	1/100	
3S-3	処 理 水 ポ ン プ 棟 補 強 配 筋 詳 細 図 (3)	1/30					
3S-4	処 理 水 ポ ン プ 棟 補 強 配 筋 詳 細 図 (4)	1/30		E-1	処 理 水 ポ ン プ 棟 1 階 平 面 図	1/100	
3S-5	処 理 水 ポ ン プ 棟 補 強 配 筋 詳 細 図 (5)	1/30		E-2	塩 素 滅 菌 地 棟 1 階 平 面 図	1/100	
AM-1	機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書	-					
AM-2	一 般 平 面 図	1/1,200					
AM-3	空 調 設 備 管 理 本 館 1 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100					
AM-4	空 調 設 備 管 理 本 館 2 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100					
AM-5	空 調 設 備 管 理 本 館 3 階 平 面 図 (改 修 後)	1/100					
AM-6	空 調 設 備 管 理 本 館 参 考 断 面 ・ 東 側 立 面 図 (改 修 後)	1/50					
AM-7	空 調 設 備 管 理 本 館 1 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100					
AM-8	空 調 設 備 管 理 本 館 2 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100					
AM-9	空 調 設 備 管 理 本 館 3 階 平 面 図 (改 修 前)	1/100					
AM-10	空 調 設 備 管 理 本 館 参 考 断 面 ・ 東 側 立 面 図 (改 修 前)	1/50					
AM-11	管 理 本 館 1 階 平 面 図 仮 設 足 場 参 考 図	1/100					
AM-12	管 理 本 館 2 階 平 面 図 仮 設 足 場 参 考 図	1/100					
AM-13	管 理 本 館 3 階 平 面 図 仮 設 足 場 参 考 図	1/100					

処 理 方 法	
水処理	標準活性汚泥法
汚泥処理	脱水→焼却→搬出
計画汚水量（日最大）	
全体	139,800m3/日
既設	139,800m3/日
今回	139,800m3/日



甲府市浄化センター 一般平面図

凡例
今回建物を示す

計画場所：山梨県甲府市大津町1645

案内図 1/48000

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	一般平面図		
図面番号	D-1		
縮 尺	A1:1/600 A3:1/1200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所	山梨県甲府市大津町1645番地
2. 敷地面積	156.100 m ²
3. 工事項目	管理棟 改修工事
	規模 地下1階 地上3階
	構造 鉄筋コンクリート造
	建築面積 1,605.22 m ²
	延べ面積 5,290.49 m ²
	塩素減菌池棟・放流ポンプ棟 改修工事
	規模 地上1階 (塩素減菌池棟・放流ポンプ棟 共)
	構造 鉄筋コンクリート造 (塩素減菌池棟・放流ポンプ棟 共)
	建築面積 300.43 m ² (塩素減菌池棟)、239.65 m ² (放流ポンプ棟)
	延べ面積 300.43 m ² (塩素減菌池棟)、239.65 m ² (放流ポンプ棟)
	処理水ポンプ棟 改修工事
	規模 地下1階 地上1階
	構造 鉄筋コンクリート造
	建築面積 655.26 m ²
	延べ面積 1,553.88 m ²

4. 工事内容

5. 工事範囲

※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。

・「3. 工事種目」のうち における工事範囲は下記表とおとりとする。

ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

工事項目	
2	仮設工事
3	防水改修工事
4	外壁改修工事 コンクリート打ち直し仕上げ
	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ
	外壁改修工事 タイル張り仕上げ
	外壁改修工事 塗り仕上げ
5	器具改修工事
6	内装改修工事
7	塗装改修工事
8	耐震改修以外の躯体改修工事
	耐震改修工事
9	環境配慮改修工事
10	その他

Ⅱ 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

① 国土交通省大臣官房官庁情報部制定「公共建設工事標準仕様書（建築工事編）」（令和４年版）（以下、「改修仕様」という。）ただし、改修仕様上、記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁情報部制定「公共建設工事標準仕様書（建築工事編）」（令和４年版）（以下、「仕様」という。）

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
(2) 特報事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、添印の付いたものを適用する。
○印と△印の付いた場合は、共に適用する。
(3) 特報事項に記述の【 】内表記番号は、改訂版仕の当該項目、当該版又は当該表を示す。
(4) 特報事項に記述の【 】内表記番号は、審定の当該項目、当該版又は当該表を示す。

1. 本工事とは、選抜2日制講習会であり、1月第2の週2日より取り組むことを標準とし、さらに、賃の向上を図る
場合第2日（本）に賃上げの取組を行う。

2. 選抜2日制の取組みについては、施工計画書により提出する。

3. 当該取組については、令和7年5月16日から適用する「選抜2日制適用工事実施要綱」及び「選抜2日制適用工事に
要する費用の計上について」による。

①一般共通事項

①適用基準等

②工事実績情報の登録

③発生材の処理等

④品質計画等

⑤電気保安技術者

⑥条件明示項目

⑦建築材料等

⑧化学物質を発散する建築材料等

⑨特別な材料の工法

⑩技能士

①完成図等

②設備工事との取り扱い

③設計 G L

④工事写真

②仮設工事

①足場その他

②養生

③仮設間仕切り

④監督職員事務所

⑤工事用水

⑥工事用電力

特記事項

○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官庁官庁庁舎建築部建築図監修 令和４年版）
○建築工事写真撮影要領（令和４年版）・同解説
○建築物解体工事共通仕様書（国土交通省大臣官庁官庁庁舎建築部監修 令和４年版）
※適用する
○機外搬出適切処理
・建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事
※風速（ $V_0 = 34 \text{ m/s}$ ）
※地表面粗糙度区分（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ）
・積雪区分 H12 積雪示第 145 号 別表（24）
・
※適用する
○現場説明による
本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークの表示のない材料及びその製造業者等は、次の（１）～（６）の項目を満たすものとする。
（１）品質及び性能に関する試験データが整備されていること
（２）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
（３）安定的供給が可能であること
（４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
（５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
（６）販売、保守等の営業体制が整えられていること
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会 他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承認を受けるものとする。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承認を受ける。
本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の１）から５）を満たすものとする。
１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ウリア樹脂板及び仕上塗材は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
２）保温材、被覆材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
３）接着剤はフタル酸ジエチル及びフタル酸ジブチルエチルヘキシルを含有しない難燃発火性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
４）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
５）１）及び４）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。
改修共仕及び、共に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法とする。

【1.7.2】

適用工事種別	技能検定の職種
防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塗膜防水工事作業 ・シーリング防水工事作業
外壁改修工事	・左官 ・タイル張り ・塗装（建築塗装作業） ・樹脂接着材注入施工
建具改修工事	・サッシ施工 ・ガラス施工
内装改修工事	・プラスチック床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業 ・内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業） ・表装（壁装作業） ・左官 ・建築大工 ・タイル張り
塗装改修工事	・塗装（建築塗装作業）
耐震改修工事	・鉄筋施工 ・型枠施工 ・とび
ブロック、ALC工事	・ブロック建築 ・ALCパネル施工
石工事	・石材施工（石張り施工）
補装工事	・造園

①完成図等
○完成図
・既存図面修正
※作成する 提出部数 ※各 2 部 ・部（A3 版第 2 原図及び電子媒体（CD-R））
種類 ※改修仕様表 1.8.1 による。
ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。
※施工計画書 提出部数 ※1 部 ・部
・施工図 提出部数 ※1 部 ・部
・保全に関する資料 提出部数 ※1 部 ・部

②設備工事との取り扱い
設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承認を受ける。
※図示 ・設計 G L＝図表 G L
・「営繕工事電子納品要領（令和元年版）」による

【1.9.1～3】【表1.9.1】

①完成図等
○完成図
・既存図面修正
※作成する 提出部数 ※各 2 部 ・部（A3 版第 2 原図及び電子媒体（CD-R））
種類 ※改修仕様表 1.8.1 による。
ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。
※施工計画書 提出部数 ※1 部 ・部
・施工図 提出部数 ※1 部 ・部
・保全に関する資料 提出部数 ※1 部 ・部

②設備工事との取り扱い
設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承認を受ける。
※図示 ・設計 G L＝図表 G L
・「営繕工事電子納品要領（令和元年版）」による

【1.9.1～3】【表1.9.1】

②仮設工事

①足場その他

②養生

③仮設間仕切り

④監督職員事務所

⑤工事用水

⑥工事用電力

内部足場 種別 ※きつたつ、足場板等
外部足場 種別 ○枠組足場・単管足場・仮設ゴンドラ・移動式足場
防護シートによる養生 ※行わない ・行う

材料、撤去等の選別
・A 種 ※日種 ・C 種 ・D 種 ・E 種

②養生
既存部分の養生 ※ビニルシート等
固定家具等の移動 ※行わない ・行う（図示）
既存家具等の養生 ※ビニルシート等

③仮設間仕切り
仮設間仕切りの種別

種 別	下 地	仕上材（厚さ mm）	充てん材	塗 装
・A 種	※軽量鉄骨	・合板（※9.0 ）		※無し
○B 種	・木下地	※せっこうボード（※9.5 ）	厚さ mm	・片面
※C 種	単管下地	防犯シート		
仮設扉	※木製扉	※合板厚さ程度		※無し
	・鋼製扉	※片面フラッシュ程度		・有り

④監督職員事務所
・既存建物内の一部を使用する
・構内に設置する ○設けない
・監督職員事務所に設ける備品等は現場説明書による

⑤工事用水
構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）

⑥工事用電力
構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる（※有償 ・無償）

【2.2.1】
【2.2.1】
【2.2.1】
【2.2.1】
【2.3.1】
【2.3.2】【表2.3.1】
【2.4.1】

③ 防水改修工事

アスファルト防水		【3.1.4】 【3.3.3】 【表3.1.1】 【表3.3.3～10】	
	防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類
	保 ・ P1B		・ B-1 ※B-2
	機 ・ P1BⅠ ・ T1BⅠ		・ BⅠ-1 ※BⅠ-2
	防 ・ P2AⅠ		・ AⅠ-1 ※AⅠ-2
	水 ・ P2A	屋上	・ A-1 ※A-2
	露出 ・ M4C		・ C-1 ※C-2
	防水 ・ M3D ・ P0D		・ D-1 ※D-2
	屋内防水 ・ P1E ・ P2E		・ E-1 ※E-2 (保護層は図示による)
	アスファルトの種類 ※3種 ・ 4種 【3.2.2】 【3.3.2】		
	保護コンクリートのコンクリート種類	※無筋コンクリート 【3.2.2】	
P0D工法の二重ドレン		※設けない	・ 設ける 【3.2.5】
M3D、P0D工法の脱気装置		※設けない	・ 設ける 【3.3.3】
既存露出防水層表面の仕上げ塗装 (M4C工法の場合)		・ 除去する 【3.2.6】	
断熱工法の断熱材 厚さ (mm) ※25		・ 【3.2.2】	
		ただし、特定フロンを含まないもの。	
立上り部の保護		【3.3.2】	
・ れんがの種類		※見え隠れ部分は市販品のれんが又は、市販品のれんが形コンクリートブロックとする。	
・ 乾式保護材の材料		※押出成形セメント板 厚さ15mm	
2 改質アスファルトシート防水		【表3.1.1】 【3.4.3】 【表3.4.1～3】	
	防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類
	・ M4S工法	屋上	・ AS-T1 ・ AS-T2 ・ AS-U2
	・ M3AS工法		・ AS-T3 ・ AS-T4 ・ AS-U1
	・ P0AS工法		・ AS-U3
	脱気装置 ・ 設けない ・ 設ける		
3 合成高分子系ルーフィングシート防水		【表3.1.1】 【3.5.3】 【表3.5.1～3】	
	防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類
	・ P0S工法	チャンバー室	・ S-F1 ・ S-M1
	・ S4S工法		・ S-F2 ・ S-M2
	・ S3S工法		・ S-F3
	・ M4S工法		・ S-M1 ・ S-M2
脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない			
目地処理 P/Cコンクリートの場合 ()			
4 塗膜防水		【表3.1.1】 【3.6.3】 【表3.6.1～2】	
	防水改修工法の種類	施工箇所	新規防水層の種類
	・ P0X工法		・ X-1
	・ L4X工法		・ X-2
	既存塗膜防水層表面の仕上げ塗装 (L4X工法の場合) ・ 除去する 【3.2.6】		
	脱気装置 ※設けない ・ 設ける 【3.6.3】		
5 脱気装置		【3.3.3】 【3.4.3】 【3.5.3】 【3.6.3】	
	種 類	材 質	設置数量
	・ 平面部脱気型	・ ポリエチレン樹脂	・ ABS樹脂 ()
		・ ステンレス	・ 鉄鍍 m'当たり1箇所
	・ 立上り部脱気型	・ 合成ゴム	・ 塩化ビニル樹脂 ()
		・ ステンレス	・ 銅 m'当たり1箇所
⑥ シーリング		【3.1.4】 【表3.1.2】	
シーリング改修工法の種類		【3.1.4】 【表3.1.2】	
○シーリング充てん工法		・ シーリング再充てん工法	
・ 拡張シーリング再充てん工法		・ ブリッジ工法	
シーリング材の種類、施工箇所		【3.7.2】 【表3.7.1】	
※下表以外は、改修共仕共3.7.1を標準とする			
		施工箇所	シーリング材の種類 (記号)
＊			PS-2
建築用鋼・防水立上り78水切り部・押出成形材修け金具			MS-2
※改			SR-1
7 とい		【3.8.2】 【表3.8.1】	
・ といの材質		【3.8.2】 【表3.8.1】	
・ ※配管用鋼管		・ 硬質塩化ビニル管	
・ ※ステンレス管			
鋼管製といの防露		【3.8.3】 【表3.8.4】	
・ 次の箇所は行わない ()			
・ ロックウール又はグラスウール保温断熱のアルミヒドの発散量			
※F☆☆☆☆		・ F☆☆☆☆	
排 除 口 ※有り		・ 無し	
縦どい受け金物の取付け		【3.8.3】	
※図示 ・ 仕様3.15.3. (d) (2)による			
8 アルミニウム製止水		【3.9.2～3】 【表3.9.1】	
	種 類	板厚 (mm)	表面処理
	・ 2.0の形	2.2以上	

④ 外壁改修工事

3

可とう性エポキシ樹脂

性 能	常温物性	低温性	加熱変化	引張接着性
引張強さ	1.0 N/mm ² 以上	1.0 N/mm ² 以上	1.0 N/mm ² 以上	最大引張応力 1.0 N/mm ² 以上
伸び	3.0.0%以上	3.0.0%以上	3.0.0%以上	破断時の伸び 10%以上
比重	表示値±0.10			
押出し性	60秒以下			
スランプ	3mm以下			
加熱減量	5%以下			

a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

b. 対象とする接着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。

c. 常温・常温（温度5℃～35℃、湿度45%～85%）において製造所の指定する期間又は製造後6か月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。

4

タイル部分張替用エポキシ樹脂

接着強さ	標準	低温硬化	アルカリ温水	冷熱水中経返し	熱劣化
強度 (N/mm ²)	0.60以上	0.40以上	0.40以上	0.40以上	0.40以上
湿薬破壊率 (%)	75以上	50以上	50以上	50以上	50以上

皮膜物性	標準	高温	低温	アルカリ温水	熱劣化
引張強さ (N/mm ²)	1.00以上	1.00以上	1.00以上	1.00以上	1.00以上
伸び (%)	30以上	30以上	30以上	20以上	20以上

貯蔵安定性 容積と粘度に著しい変化がないこと。

耐熱性 JIS A 5548に準じて試験において、80℃で4週間、0.8Nおもりで安定していること。

a. 外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。

b. タイル、石材、下地等侵すものでないこと。

c. 「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」に基づく特定化学物質及び「労働安全衛生法」に基づく、「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第1種有機溶剤を使用しないこと。

d. 常温・常温（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造後6か月保存しても上記の品質・性能に適合していること。

e. すれ抵抗性があること。

f. 混練終結時の確認が容易なように色が明瞭であること。

5

エポキシ樹脂モルタル

接着強さ	圧縮強さ	曲げ強さ
1.0 N/mm ² 以上	2.0 N/mm ² 以上	1.0 N/mm ² 以上

a. こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。

b. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

c. 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第1種有機溶剤を使用しないこと。

d. 形状に異常が無く、だれが生じないこと。

e. 常温・常温（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造後6か月保存しても上記の品質・性能に適合していること。

6

ポリマーセメントモルタル

ポリマーセメントモルタルの種類

合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢ビ系等		接着強さ (N/mm ²)	
曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	標準時	低温時
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上
			0.5以上

表面状態 だれの下り量は5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。

透水性 表面の濡れ、水滴の付着がないこと。

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

7

ポリマーセメントスラリー

広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (7.2時間)	耐久性 (劣化曲げ強さ)
3以上	3%以下	0.5 N/mm ² 以上	5.0 N/mm ² 以上	15%以下	5.0 N/mm ² 以上

保水係数 0.35～0.55

粘潤係数 0.50～1.00

8

既製調査目地材

項 目	品 質 ・ 性 能
保水性	30%以上
長さ変化率	0.2%以下 (収縮)
吸水量	50g以下

1

施工数量調査

調査範囲 ※全体コンクリート面・図示の範囲

【1.5.2】

ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。コンクリート表面のはれ及びはく落部を壁面に表示する。

調査報告書の部数 ※2部

2

ひび割れ部改修工法

※樹根注入工法

【4.1.4】【4.2.5】【4.3.6】

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	・
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	・
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	・
	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	・

注入材料

※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024低粘度型又は中粘度型)

【4.2.4】

検査 (コア採取) ※行わない

【4.2.5】

・行う (採取部)の補修方法:

・リカットシール材充てん工法

【4.1.4】【4.2.6】【4.3.7】【4.3.5】

充てん材料	品質・規格等	備 考
・シーリング用材料	※1成分型又は2成分型ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂		

・シール工法

【4.1.4】【4.2.7】【4.3.5】【4.3.8】

シール材料	品質・規格等
・パテ状エポキシ樹脂	
・可とう性エポキシ樹脂	

3

欠損部改修工法

※充てん工法

【4.1.4】【4.2.8】【4.3.5】【4.3.9】

充てん材料	品質・規格等
・エポキシ樹脂モルタル	
・ポリマーセメントモルタル	

外壁改修工事

コンクリート打放し仕上げ外壁

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	建築工事特記仕様書（１）		
図面番号	D-2		
縮 尺	—	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

②

外壁改修工事

モルタル塗り仕上げ外壁

2

既存モルタル塗りの撤去

3

ひび割れ部改修工法

4

欠損部改修工法

5

浮き部改修工法

調査範囲

※既存モルタル面

・躯体コンクリート面

・図示の範囲

調査内容

ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。浮き部分を壁面に表示する。また、モルタルの欠損部の形状寸法等を調査する。コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。

調査報告書の部数

※2部

・

・行う

（※全面

・図示の範囲）

・既存モルタル撤去工法（範囲は図示

撤去部分の補修は、4.欠損部改修工法による）

※樹脂注入工法

（※既存モルタル面

・既存躯体コンクリート面）

注入工法の種類

ひび割れ幅（mm）

注入口間隔（mm）

注入量（ml/m）

備 考

※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法

0.2以上～1.0未満

※200～300

※

〃

・手動式エポキシ樹脂注入工法

0.2以上～0.3未満

※50～100

※40

・

注入工法

0.3以上～0.5未満

※100～200

※70

・

・機械式エポキシ樹脂注入工法

0.5以上～1.0未満

※150～250

※130

・

注入工法

〃

〃

※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度型又は中粘度型）

検査（コア採取）

※行わない

・行う（採取部りの補修方法：

〃

・Uカットシール材充てん工法（既存タイル張り撤去面）

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

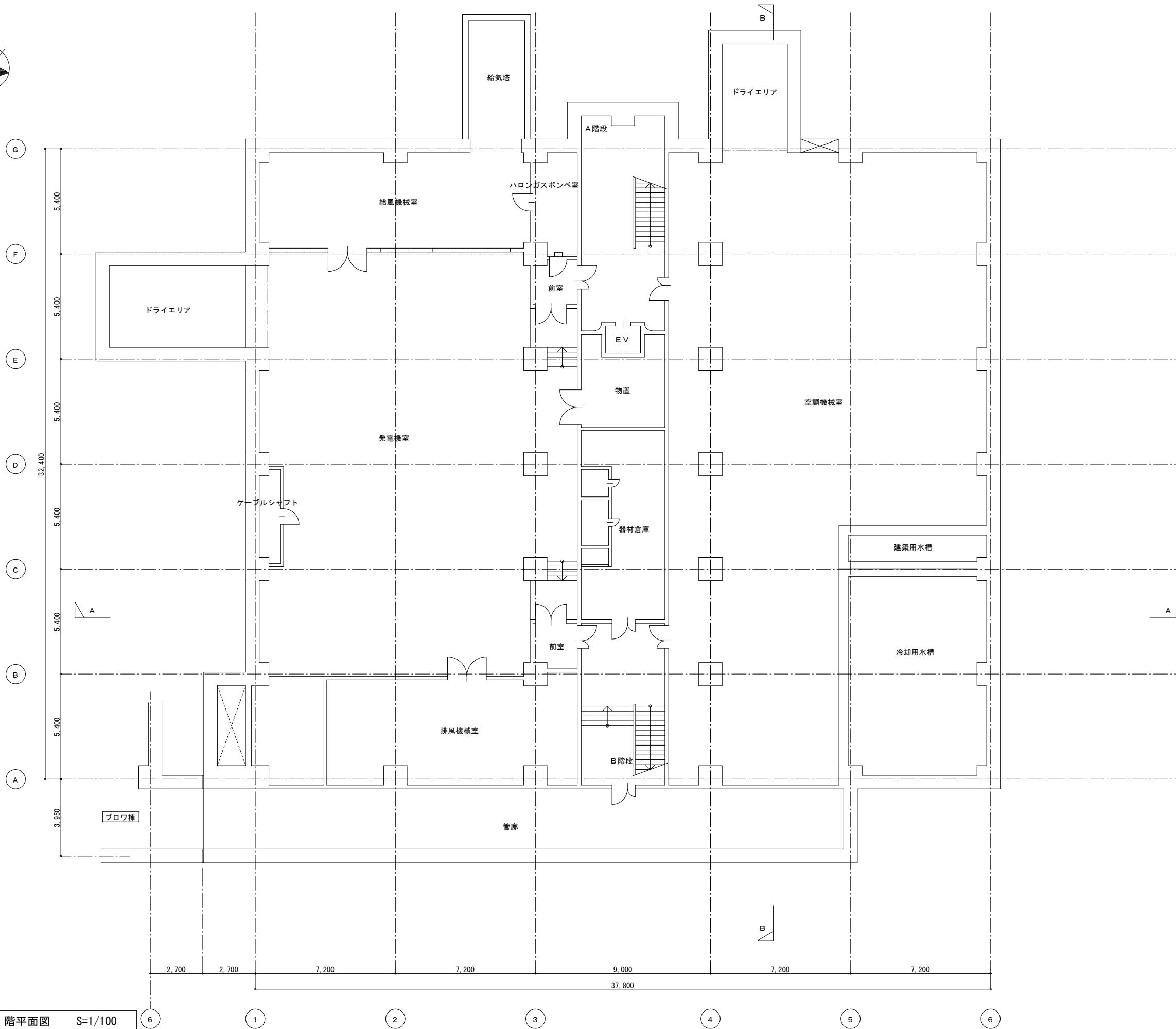
〃

〃

〃

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	建築工事特記仕様書（２）		
図面番号	D-3		
縮 尺	-	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

[illegible]

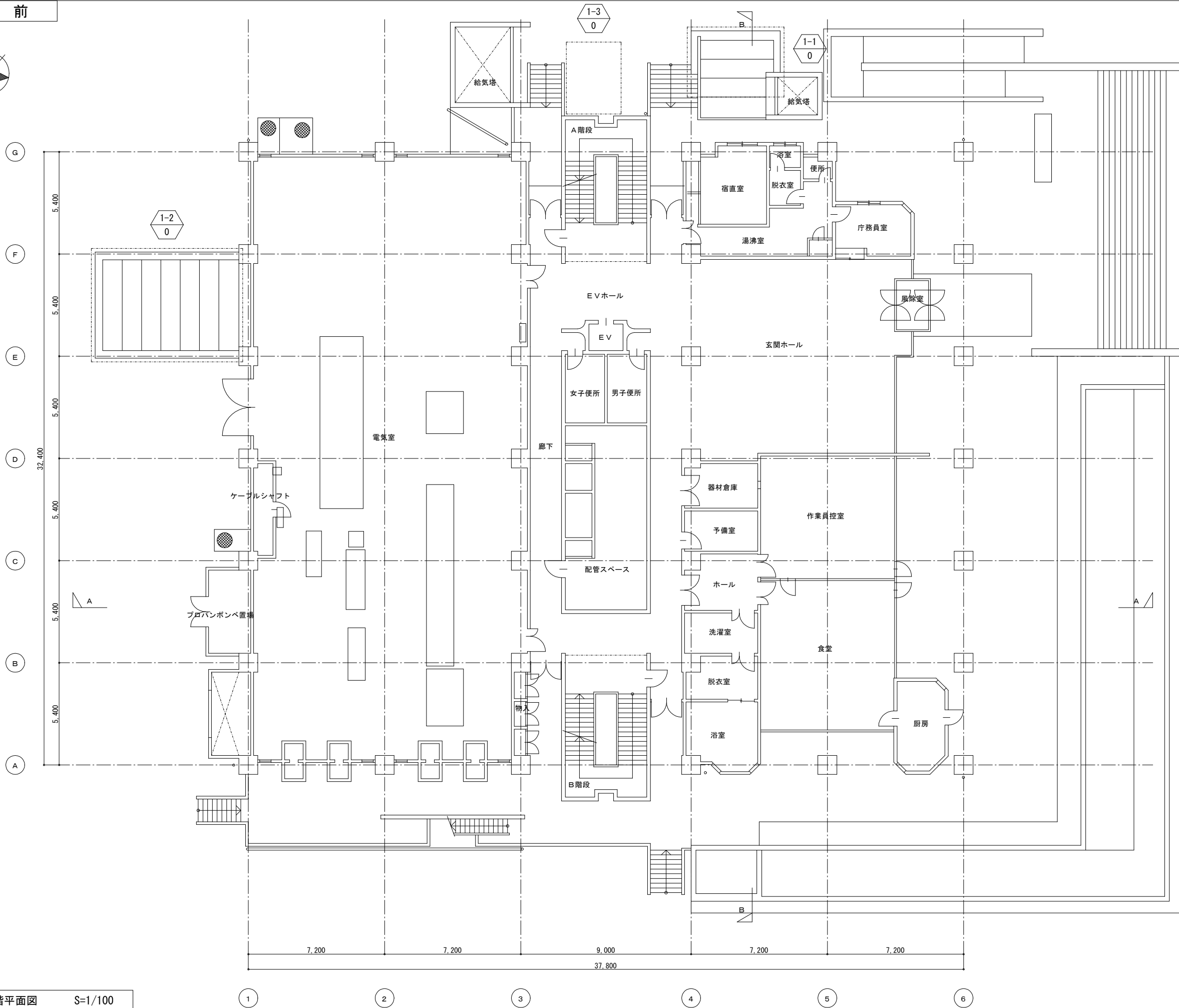


B 1 階平面図 S=1/100

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	B 1 階平面図（参考図）			
図面番号	1D-02			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

管理棟

改 修 前



1 階平面図

S=1/100

凡 例

改修工事範囲

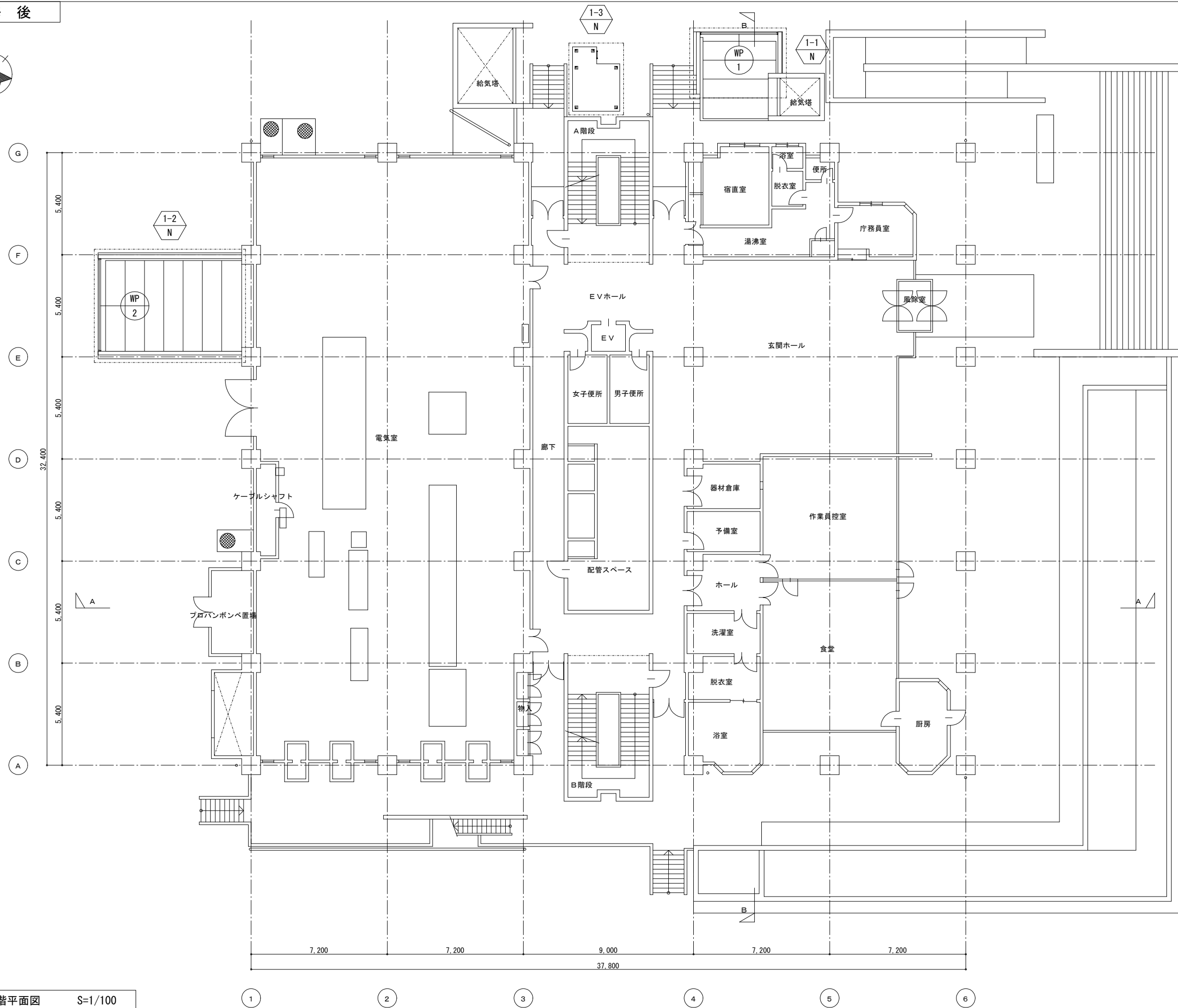
撤去建具

新設建具

階数 0-0 部位番号

0: 改修前、N: 改修後

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1 階平面図 (改修前)		
図面番号	1D-03		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
管理棟	甲 府 市 上 下 水 道 局		


$$S=1/100$$

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1階平面図（改修後）		
図面番号	1D-04		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

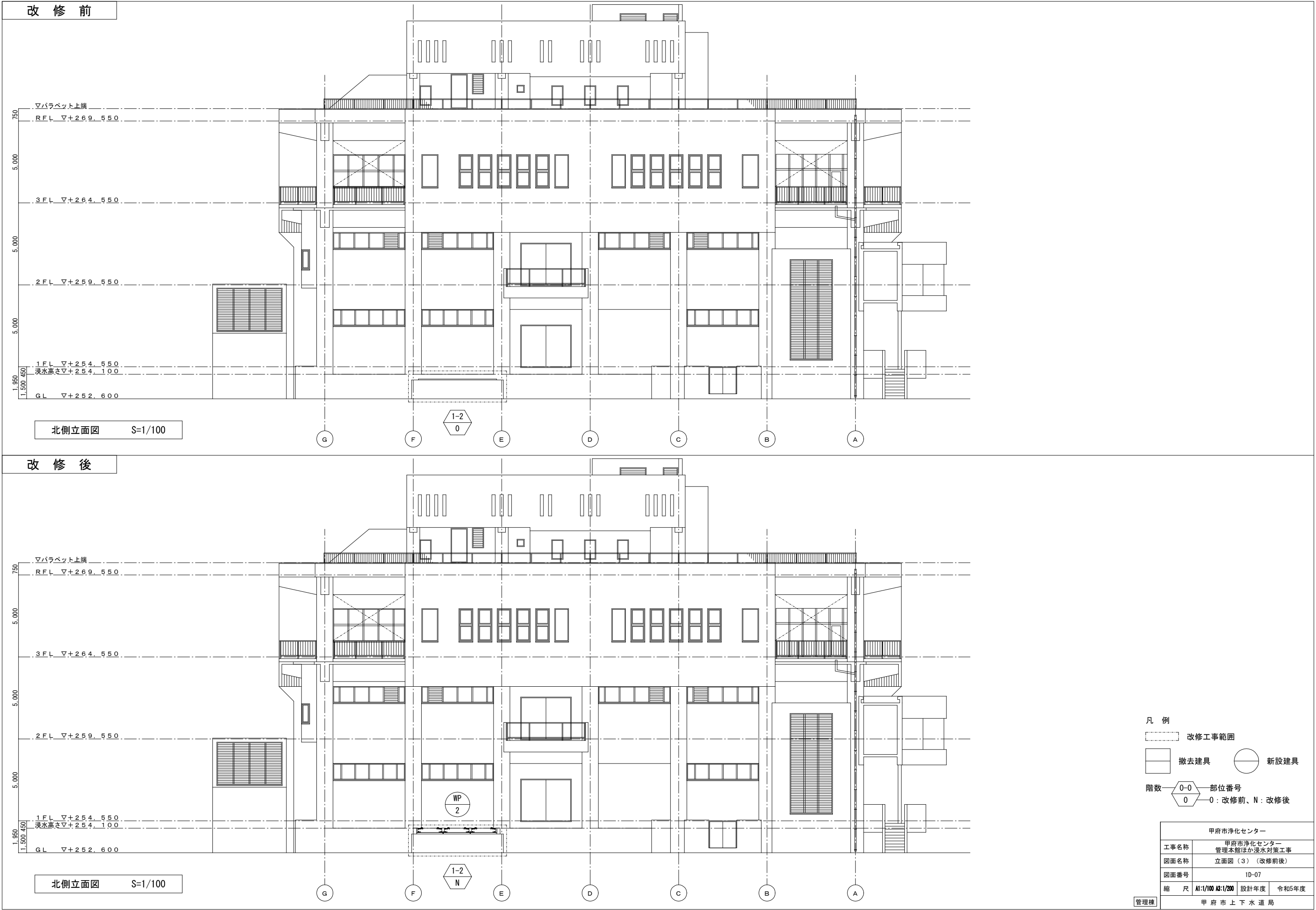
管理棟

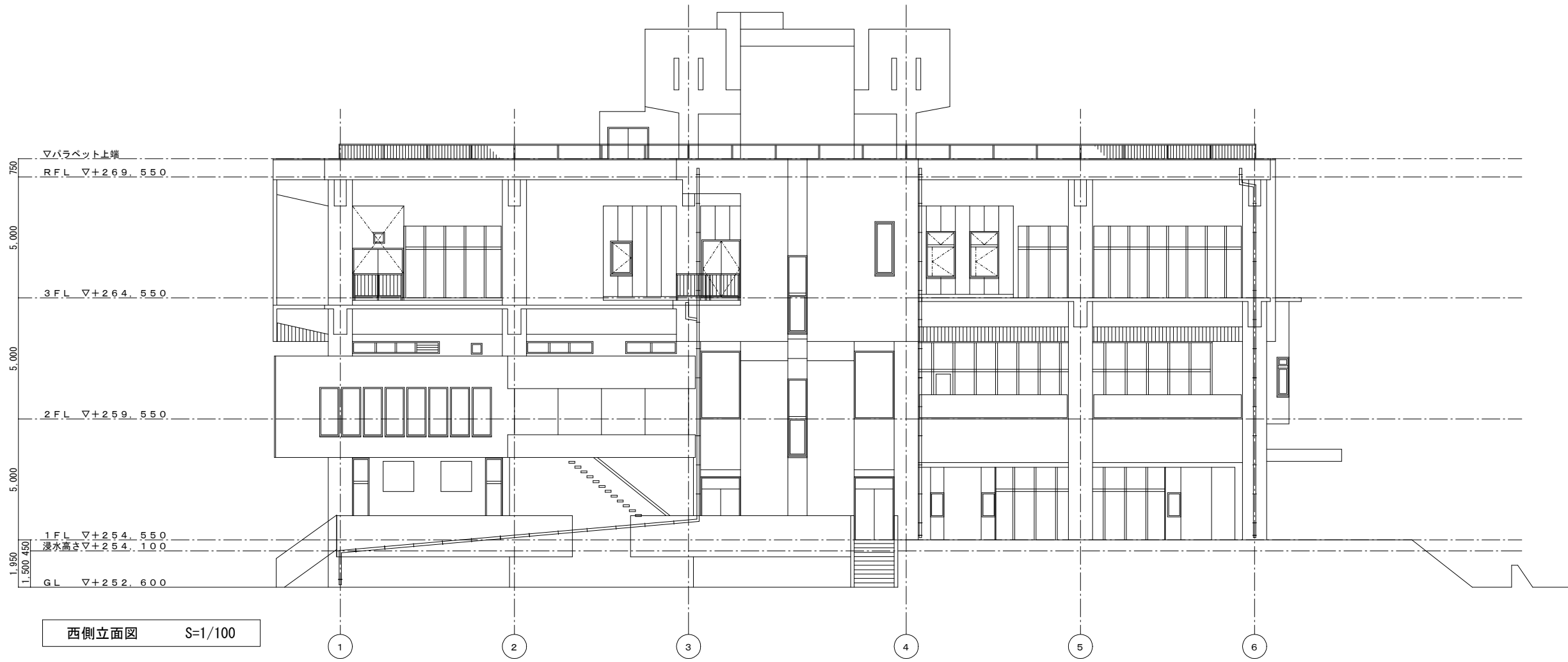


甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	立面図（１）（参考図）			
図面番号	1D-05			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

管理棟

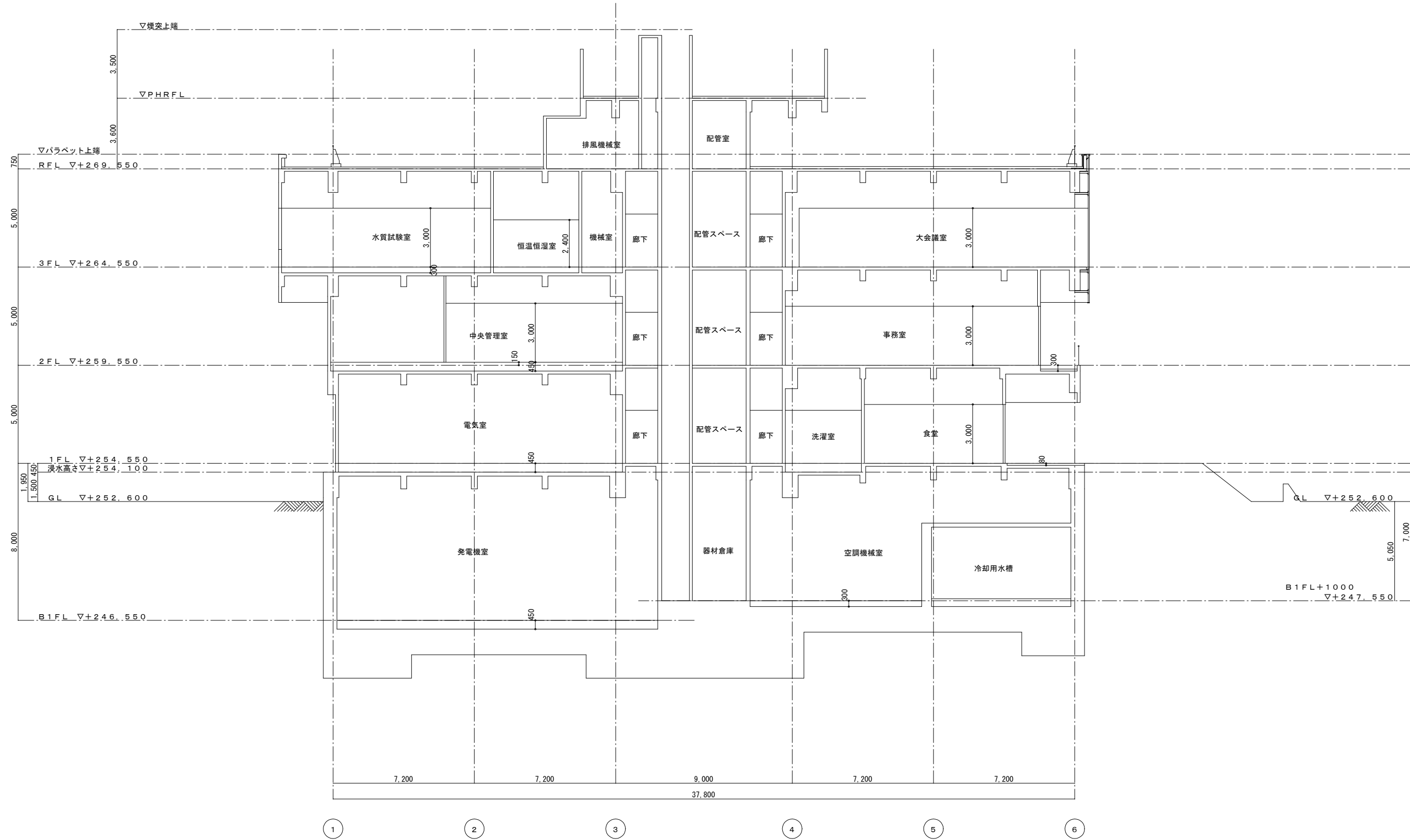






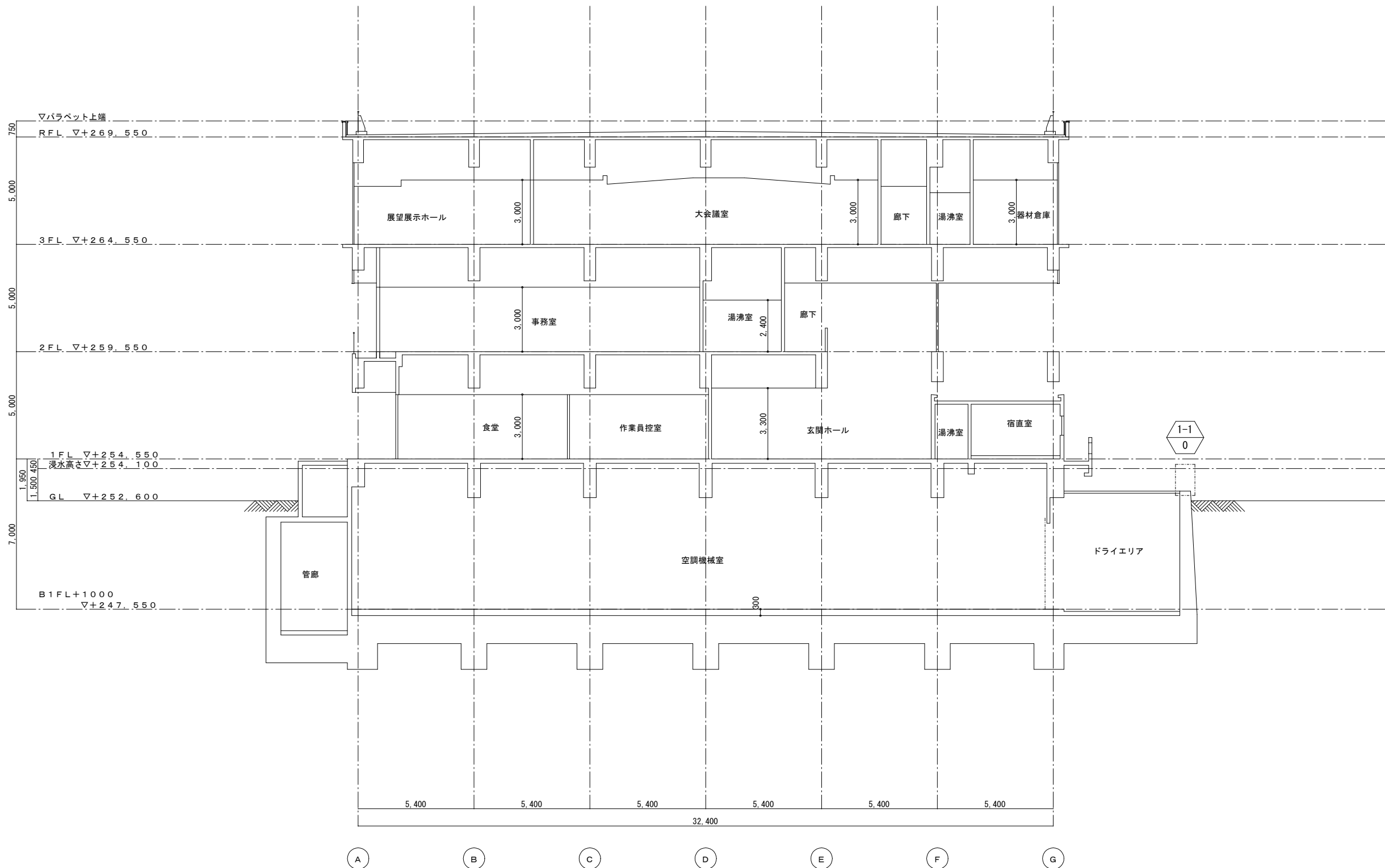
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図（４）（参考図）		
図面番号	1D-08		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

管理棟



A-A断面図 S=1/100

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	断面図（１）（参考図）			
図面番号	1D-09			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
管理棟	甲 府 市 下 水 道 局			



B-B断面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

撤去建具

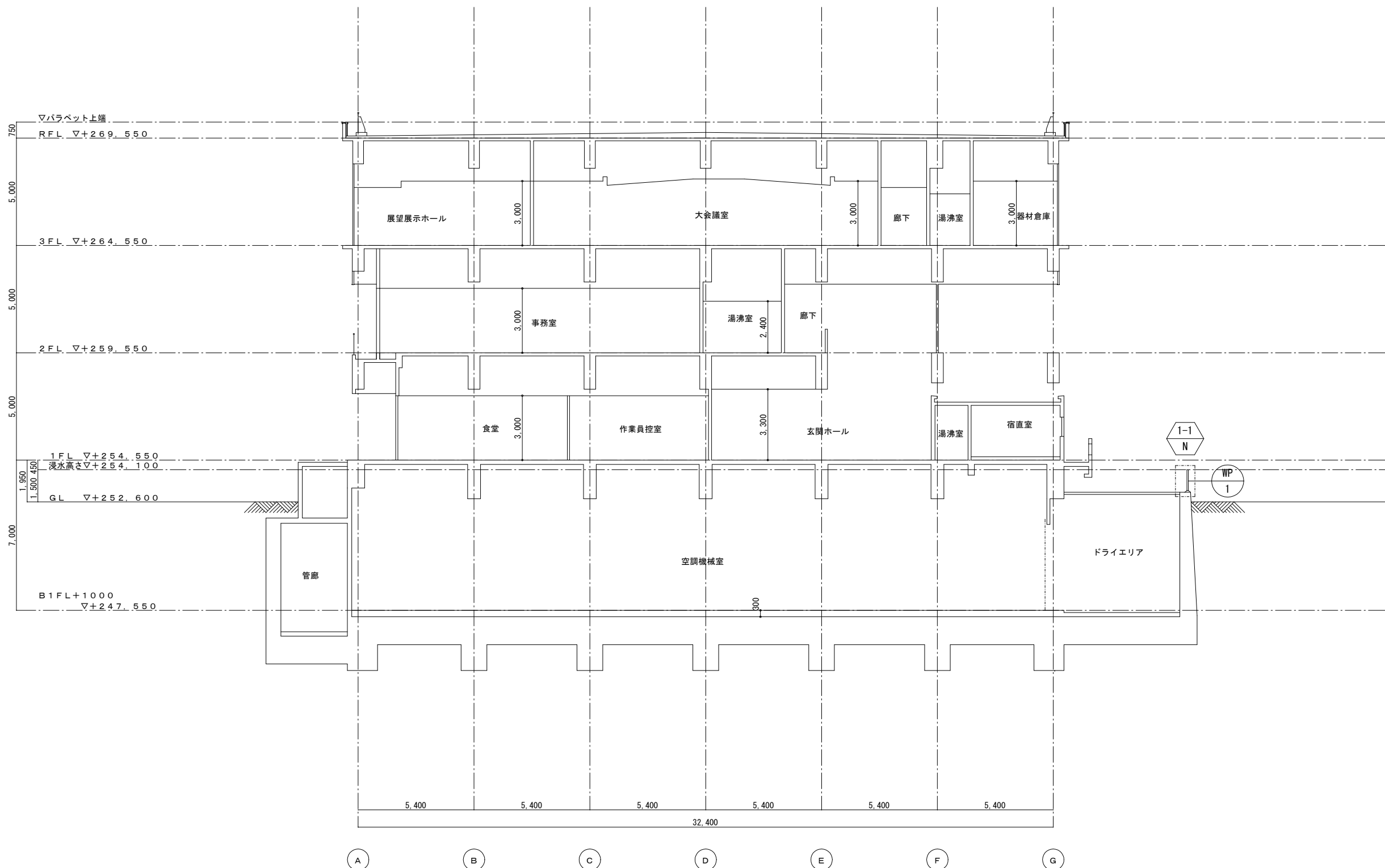
新設建具

階数 0-0 部位番号

0: 改修前、N: 改修後

管理棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	断面図 (2) (改修前)		
図面番号	1D-10		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



B-B断面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

撤去建具



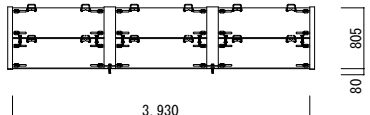
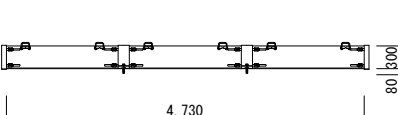
新設建具

階数 0-0 部位番号

0: 改修前、N: 改修後

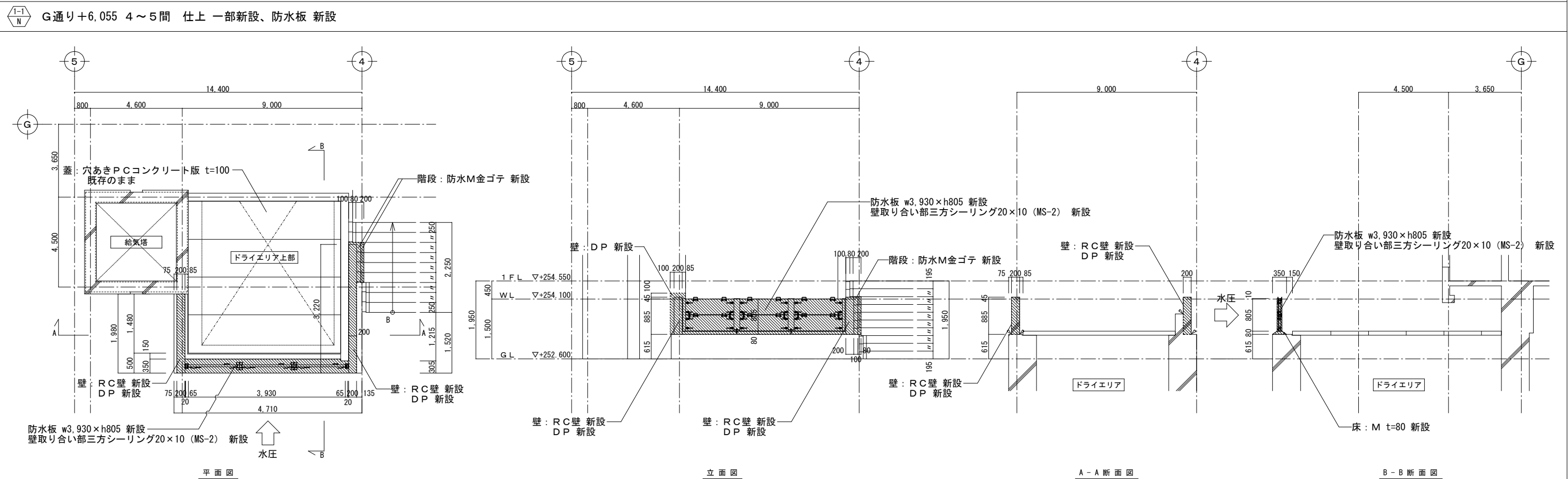
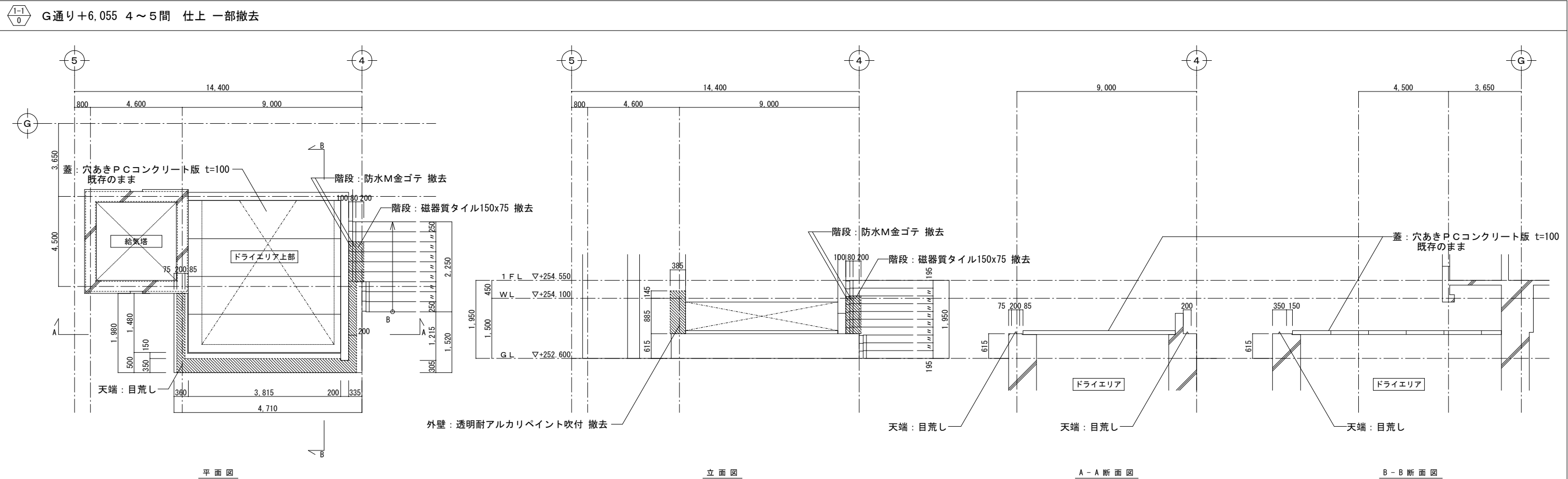
管理棟


甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	断面図 (3) (改修後)		
図面番号	10-11		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			


建具 リスト																
符号 ・ 名称 ・ 個数		 防水板 新設	1	 防水板 新設	1											
場所		外部（ドライエリア上部）			外部（ドライエリア上部）											
仕上（枠共）		アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種											
建具	見込 （ランマ）	製造所の仕様による			製造所の仕様による											
	硝子 （ランマ）	—			—											
	ガラリ	—			—											
建具枠	見込取合 査摺	製造所の仕様による			製造所の仕様による											
枠記号 査摺（水切）記号		—			—											
建具金物		製造所の仕様による			製造所の仕様による											
その他		設計浸水高さ=防水板下端+805、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+270、WS-5相当											
形状・寸法		<div>※間口寸法 W4100 建具寸法は製造所の仕様による。</div> <div></div>			<div>※間口寸法 W4900 建具寸法は製造所の仕様による。</div> <div></div>											
符号 ・ 名称 ・ 個数																
場所																
仕上（枠共）																
建具	見込 （ランマ）															
	硝子 （ランマ）															
	ガラリ															
建具枠	見込取合 査摺															
枠記号 査摺（水切）記号																
建具金物																
その他																
形状・寸法																
符号 ・ 名称 ・ 個数																
場所																
仕上（枠共）																
建具	見込 （ランマ）															
	硝子 （ランマ）															
	ガラリ															
建具枠	見込取合 査摺															
枠記号 査摺（水切）記号																
建具金物																
その他																
形状・寸法																
共通事項	1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。 但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。 2. バイブスペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。 （内部はサムターン付） 3. 便所等の施設を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。 4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。 壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。） 5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。 6. アルミニウム製窓の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1、500以内とする。 7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。															
	8. 特記なき限り内部建具ガラリはイ型とする。（枠廻り詳細による。） 9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。 10. 防火戸の位置は建具配置図による。 11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。 12. 階段室の施設を必要としない箇所は空錠とする。 13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。 14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。 15. AT-2、AT-4の補強材はアングル（L-50×50×6）の通し物とする。															
	建具略号	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッド	紙障子	ふすま	シャッター	網戸						
		アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW						
		鋼 製	SD	SW	SG	SOD			SS							
		鋼 製 軽 量	LD						LS							
		ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS							
	ガラス略号	木 製	WD	WW	WG		P	H								
		F 型板ガラス			金物略号	D C ドアクローザー										
		P フロート板ガラス				A H オートヒンジ										
		N 網入型板ガラス				F H フロアヒンジ										
		NP 網入みがき板ガラス				P H ピボットヒンジ										
<div>管理棟</div>																

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	建具リスト			
図面番号	10-12			
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

凡例

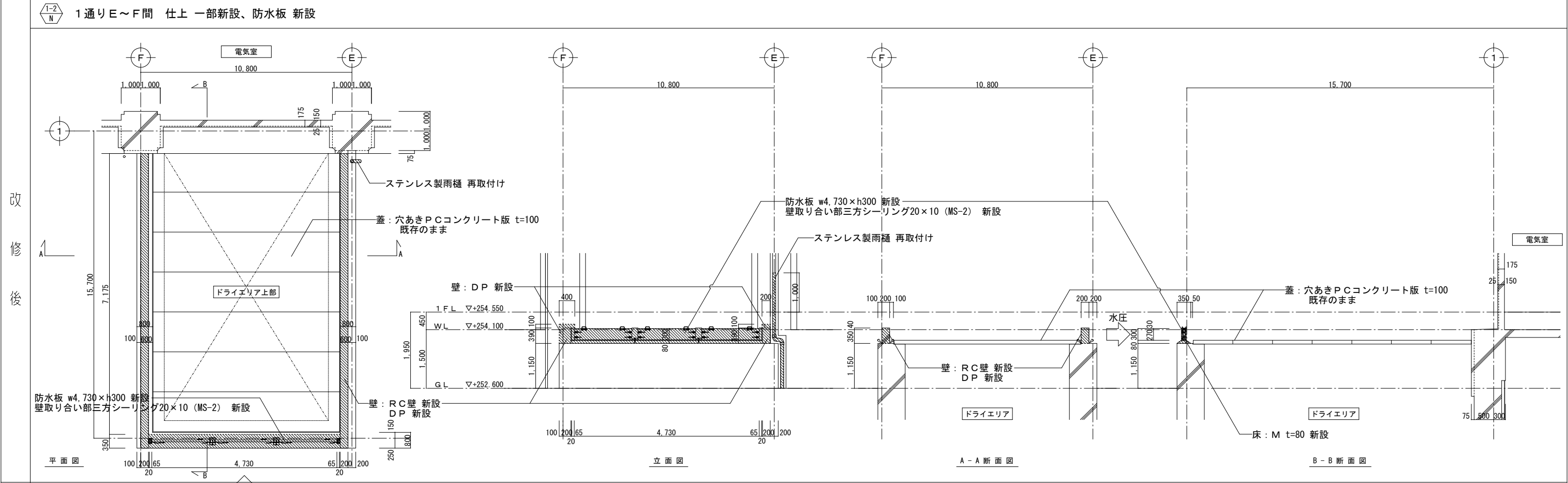
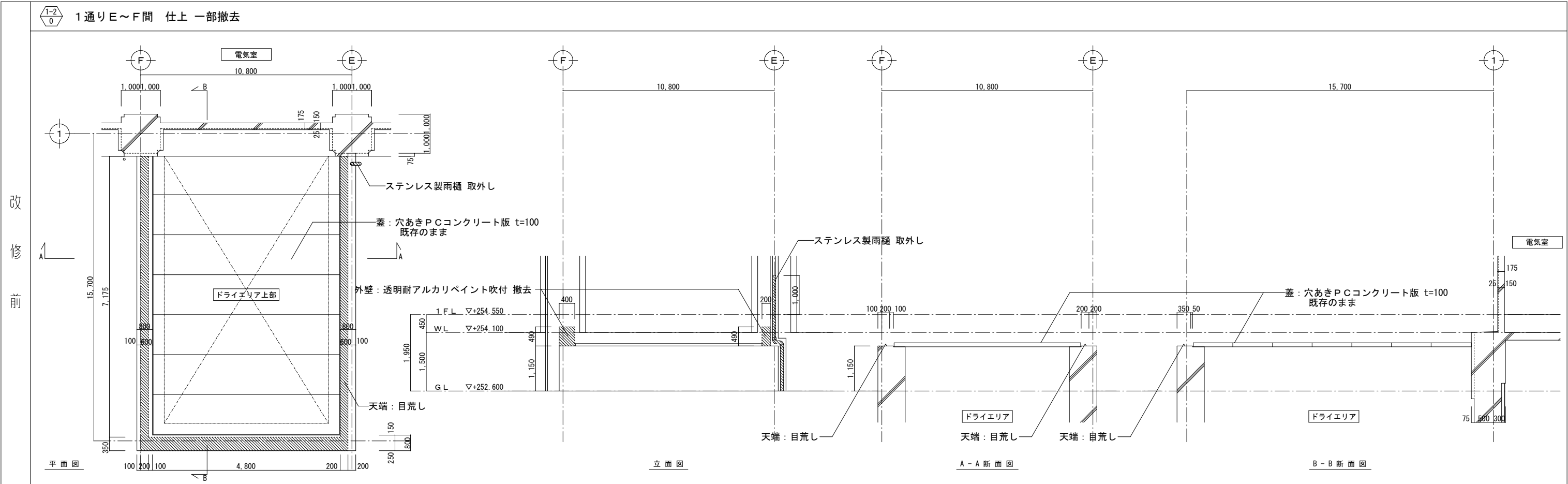


 撤去・新設（復旧）範囲

階数——部位番号
0—0：改修前、N：改修後

▽ カッター入れ（躯体） ヽ シーリング20x10（P U－2）
▼ カッター入れ（仕上） ヽ シーリング20x10（M S－2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（１）（改修前後）		
図面番号	1D-13		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
管理棟	甲 府 市 上 下 水 道 局		



凡例

撤去・新設（復旧）範囲

階段 0-0 部位番号
0 0: 改修前、N: 改修後

▽ カッター入れ（躯体）
▼ カッター入れ（仕上）






シーリング20x10（PU-2）

シーリング20x10（MS-2）

水圧

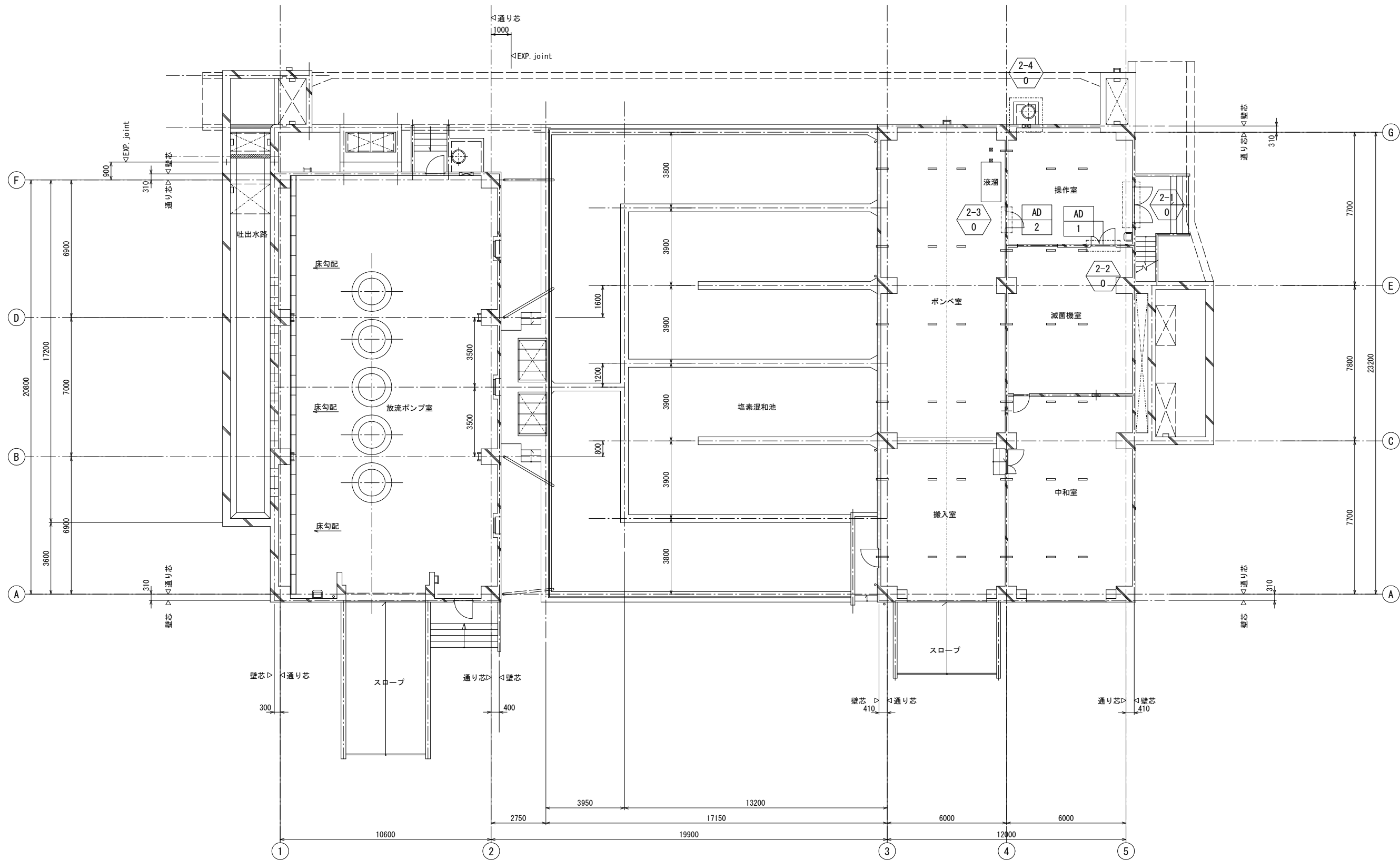
管理棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（2）（改修前後）		
図面番号	1D-14		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			

凡		改修用養生・整理・清掃
		通路用養生・整理・清掃
		仮設間仕切 B種
		外部・内部足場：枠組本足場 900枠
例		外部・内部足場：脚立足場
		※H=4.0m以下



甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1階設備図(参考図)		
図面番号	ID-15		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



1 階平面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

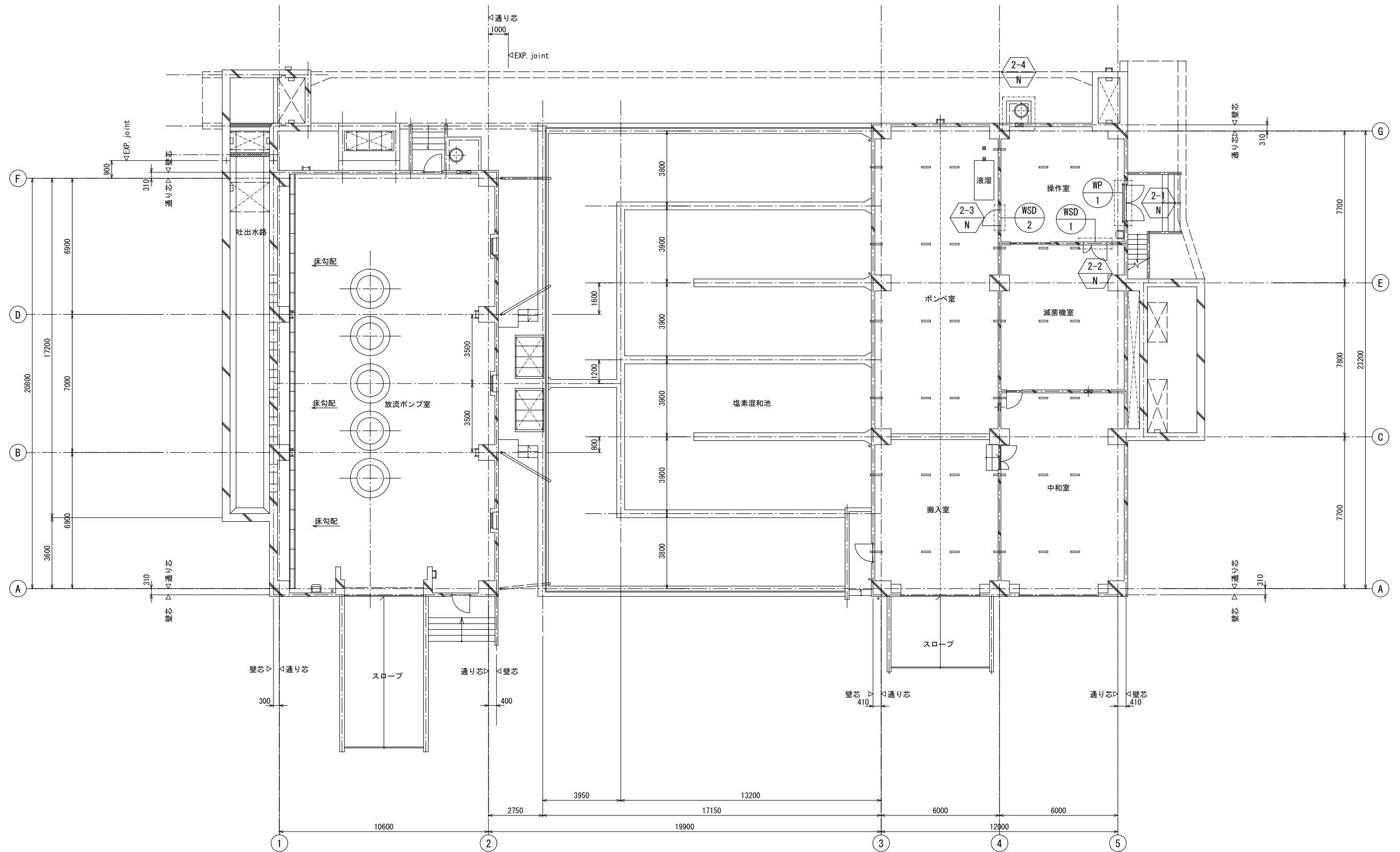
撤去建具

新設建具

階数 0-0 部位番号
0 0: 改修前、N: 改修後

塩素減菌池棟・放流ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1 階平面図 (改修前)		
図面番号	2D-02		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



1 階平面図 S=1/100

凡 例

改修工事範圍

撤去建具

撤去建具

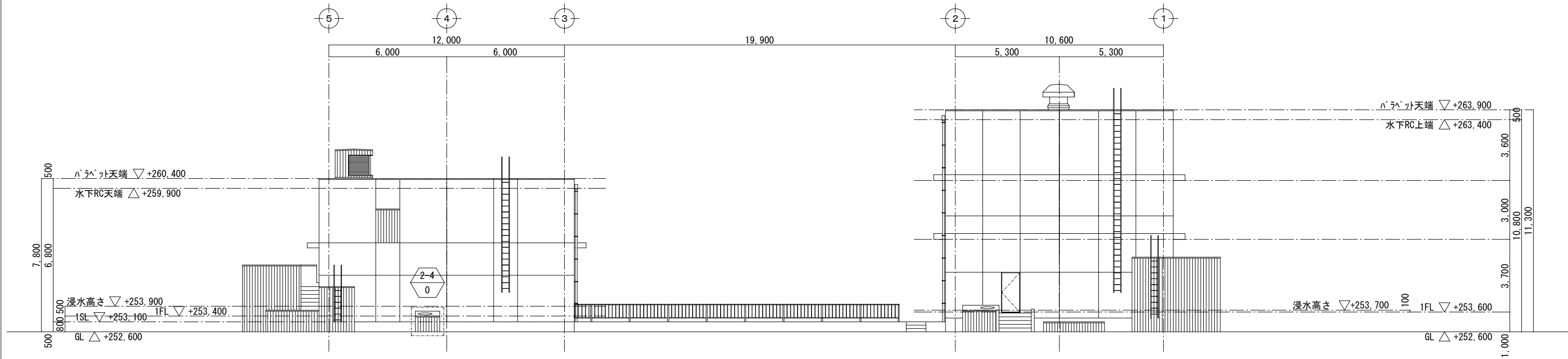
階数——0-0——部位番号

0 : 改修前、N : 改修後

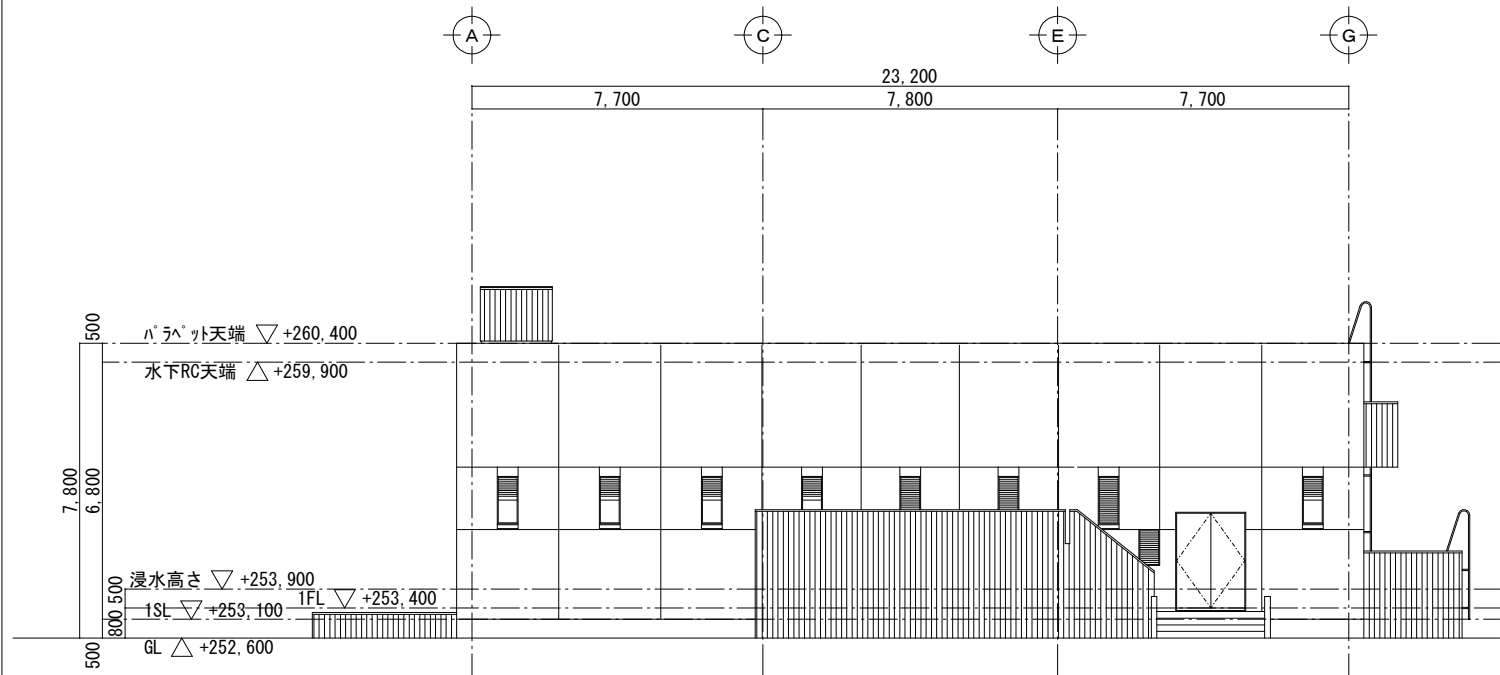
塩素滅菌池棟・放流ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1 階平面図（改修後）		
図面番号	2D-03		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
果	甲 府 市 上 下 水 道 局		

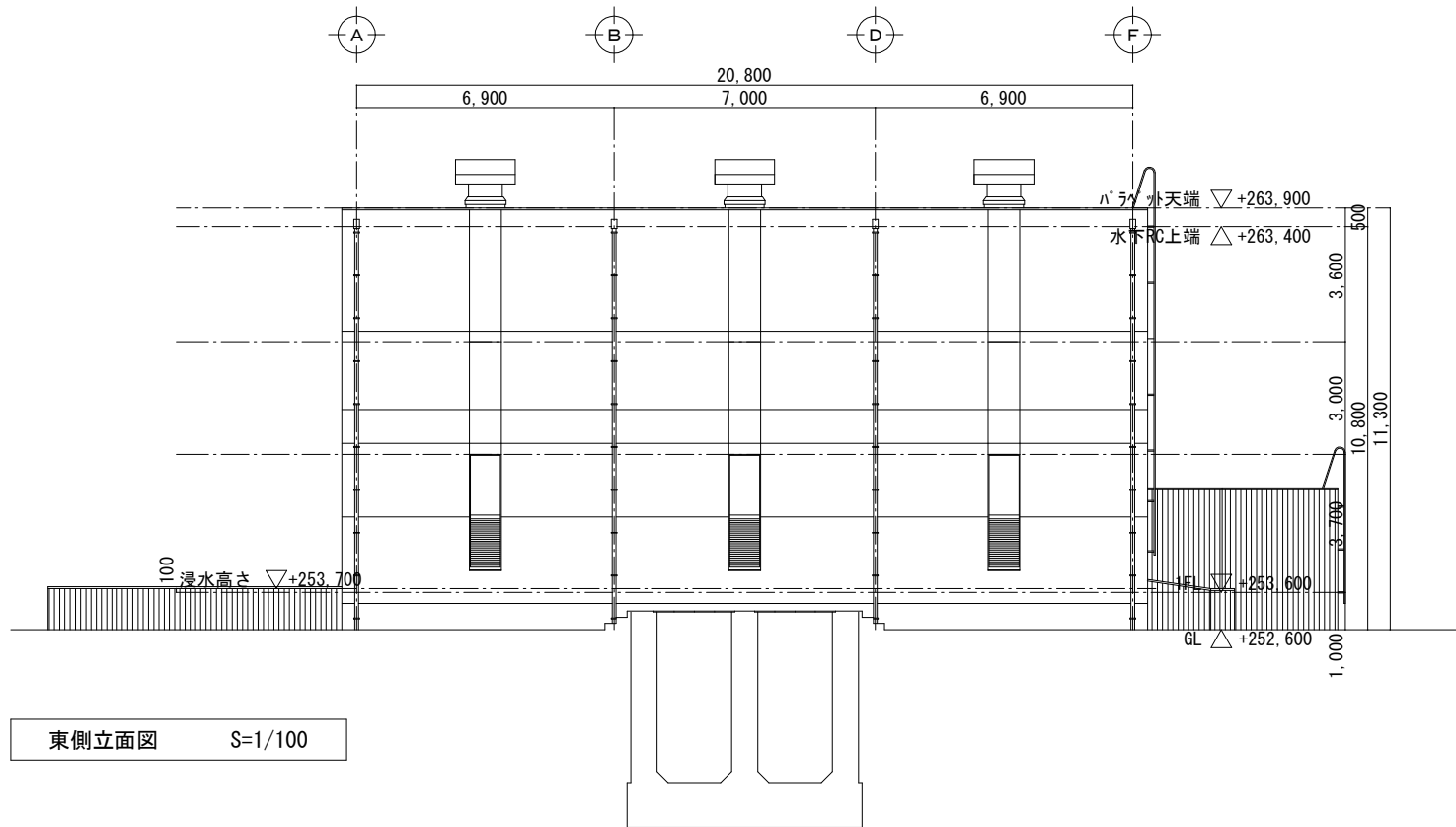
改 修 前



北側立面図 S=1/100



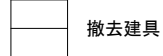
東側立面図 S=1/100



東側立面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

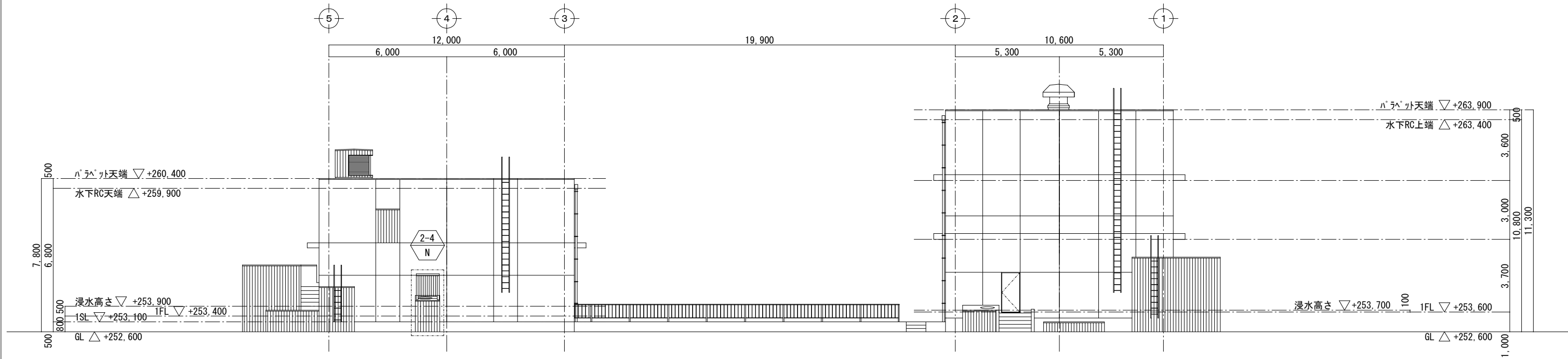


階数 0-0 部位番号 0: 改修前、N: 改修後

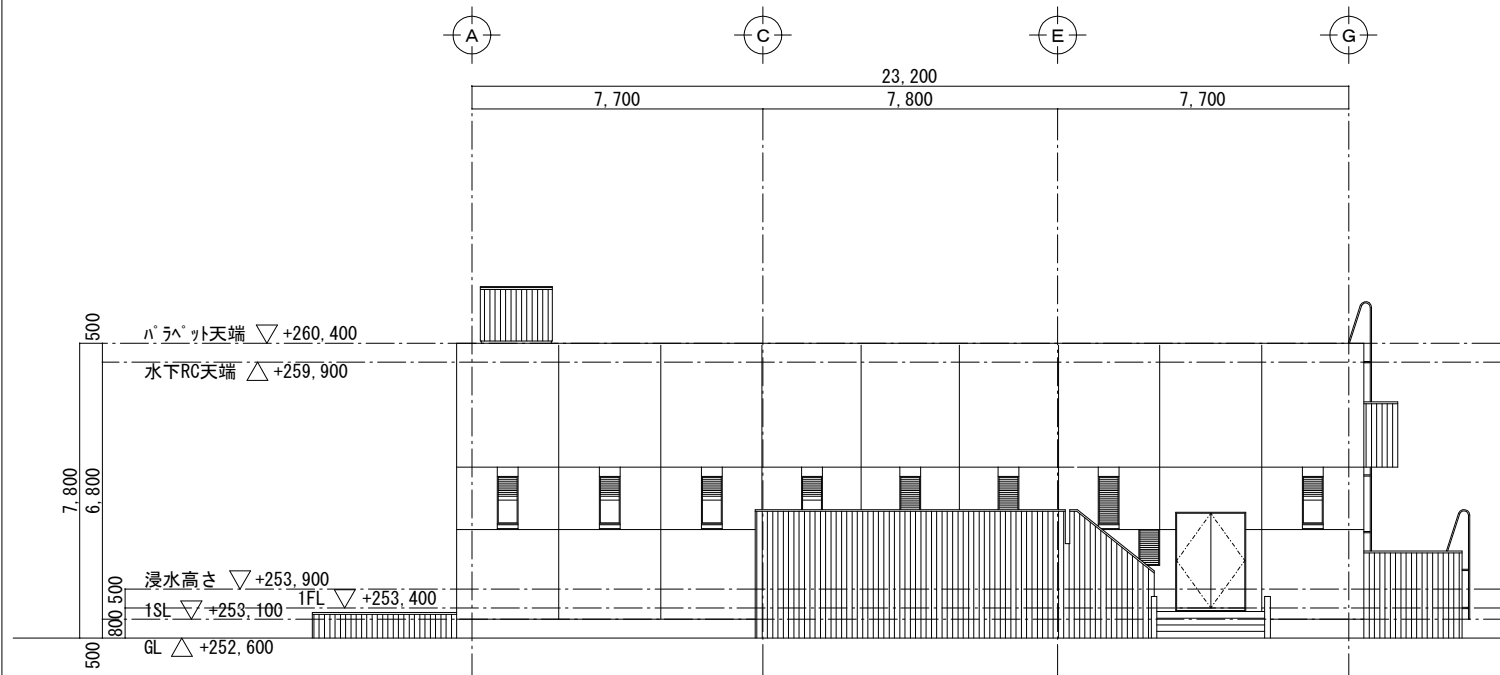
塩素滅菌池棟・放流ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図 (1) (改修前)		
図面番号	2D-04		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

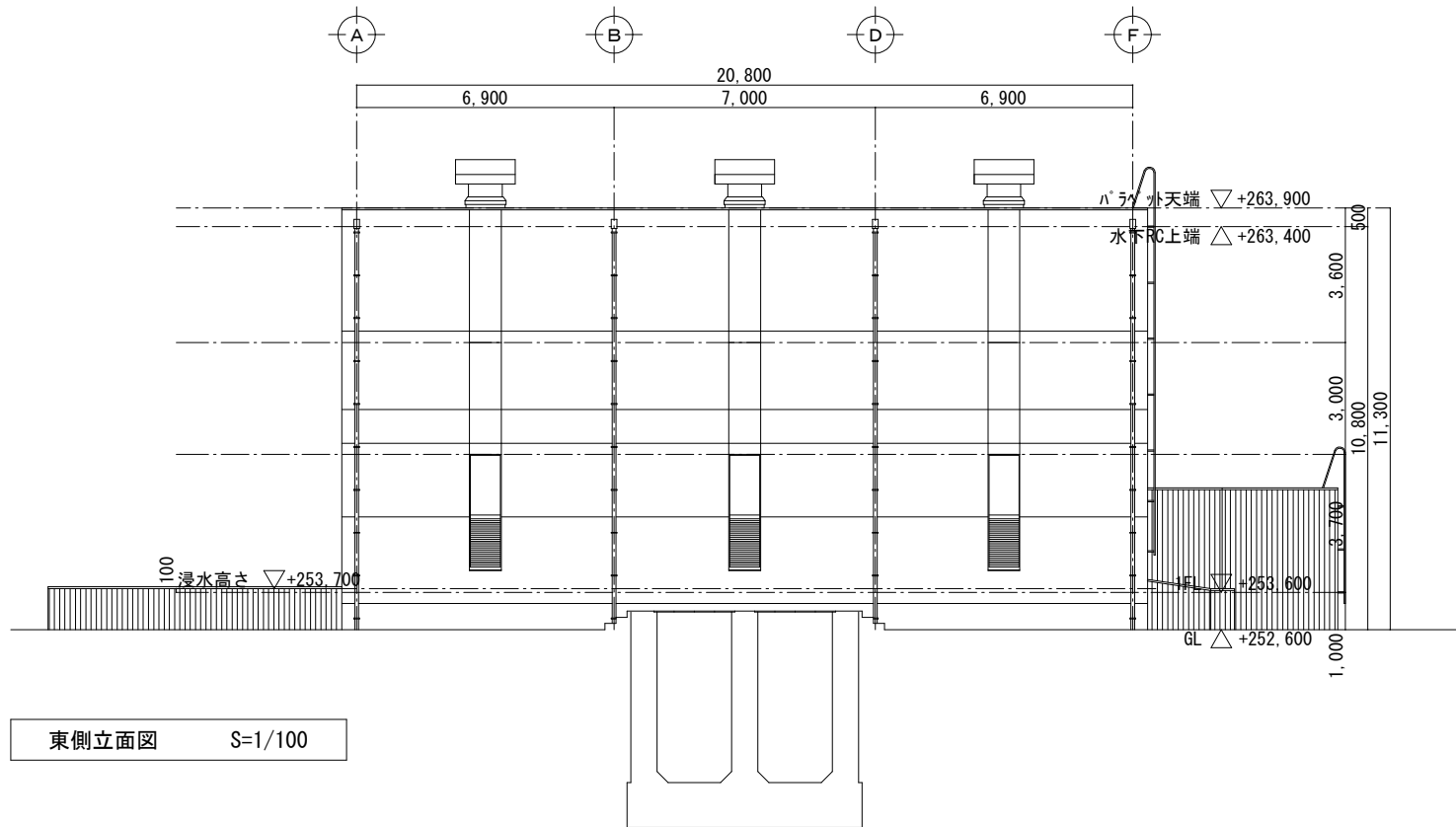
改 修 後



北側立面図 S=1/100



東側立面図 S=1/100



東側立面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

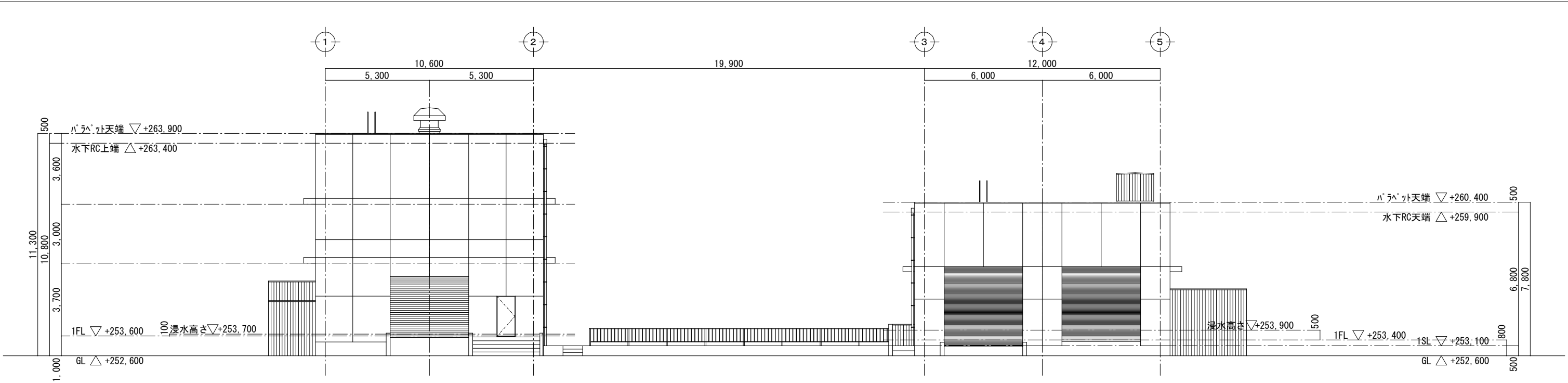
撤去建具

新設建具

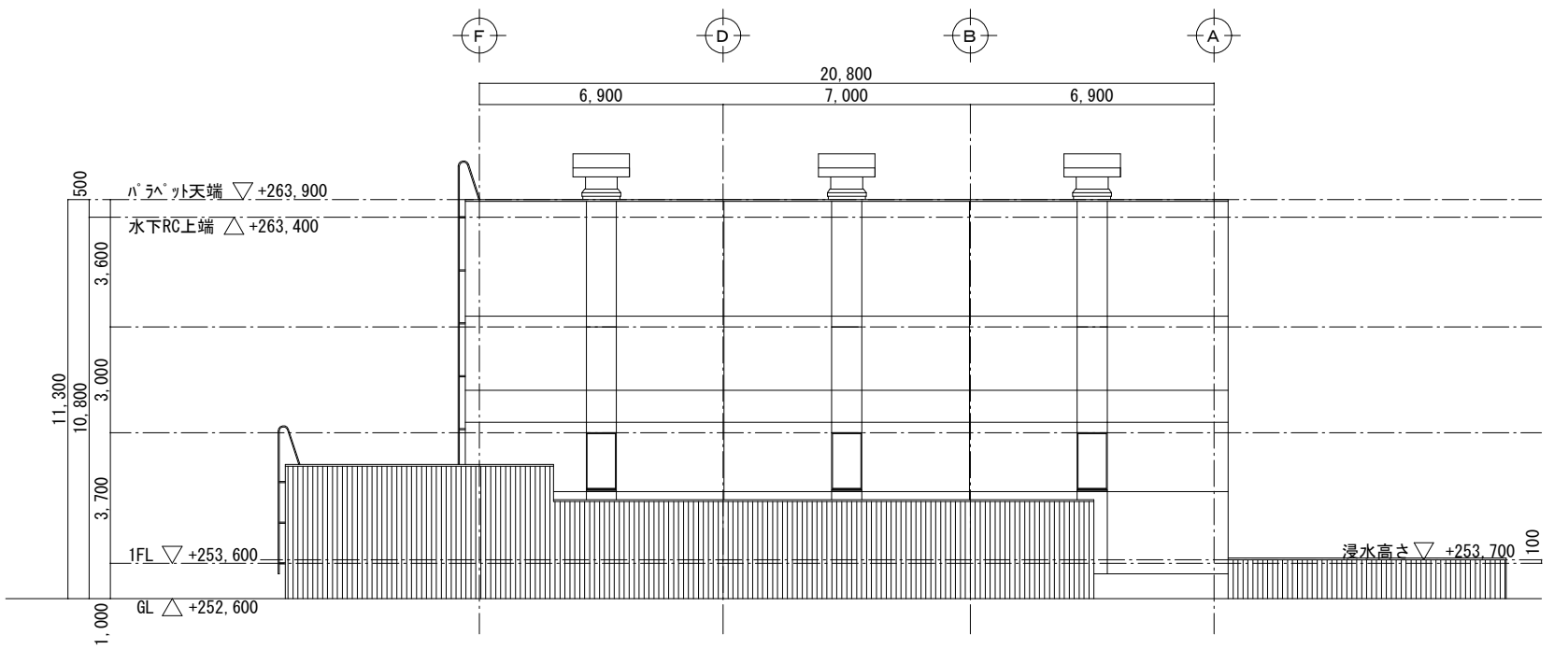
階数 0-0 部位番号 0: 改修前、N: 改修後

塩素滅菌池棟・放流ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図（2）（改修後）		
図面番号	2D-05		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

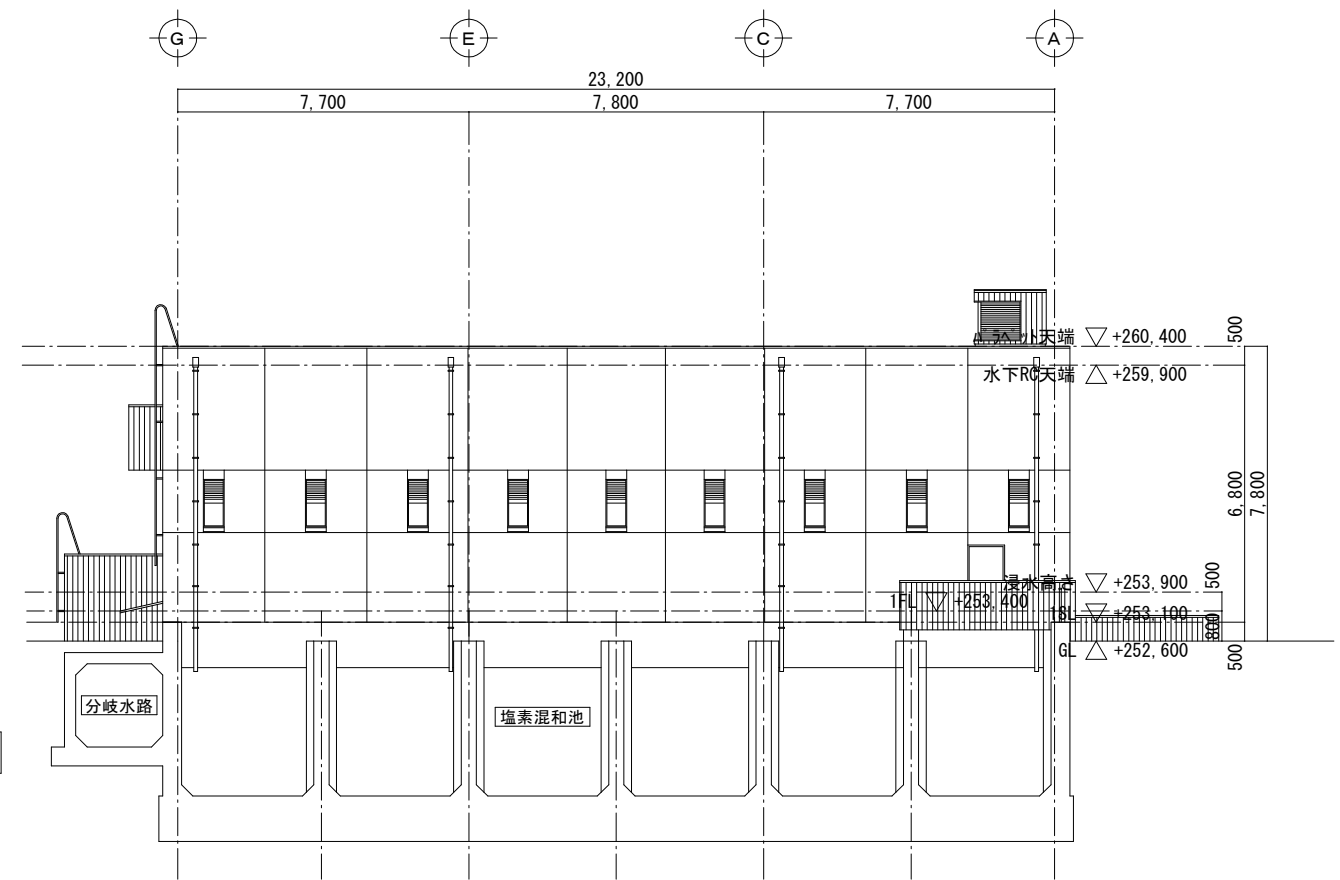


南側立面図 S=1/100



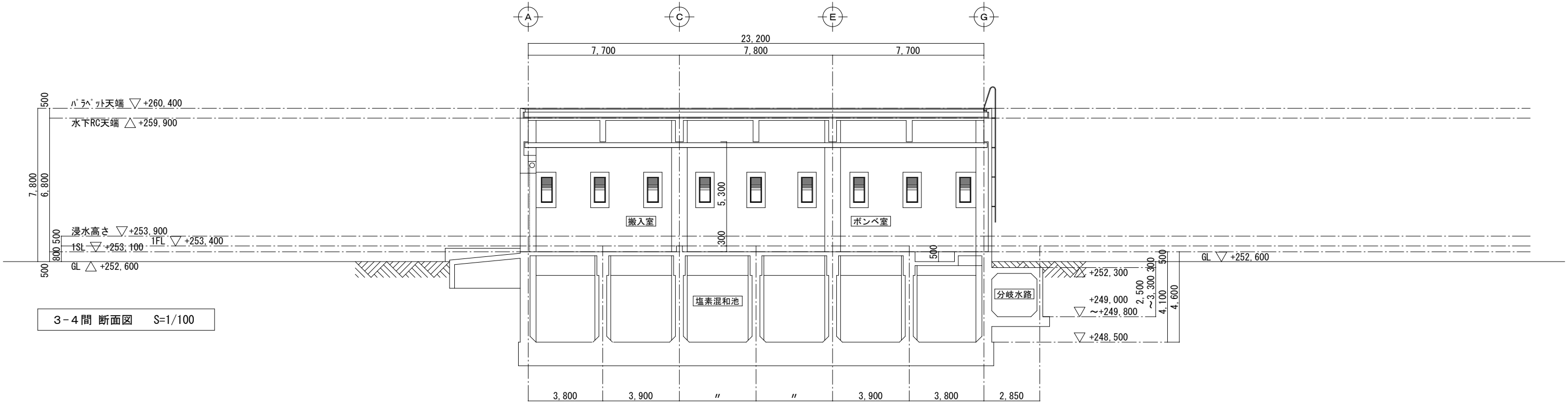
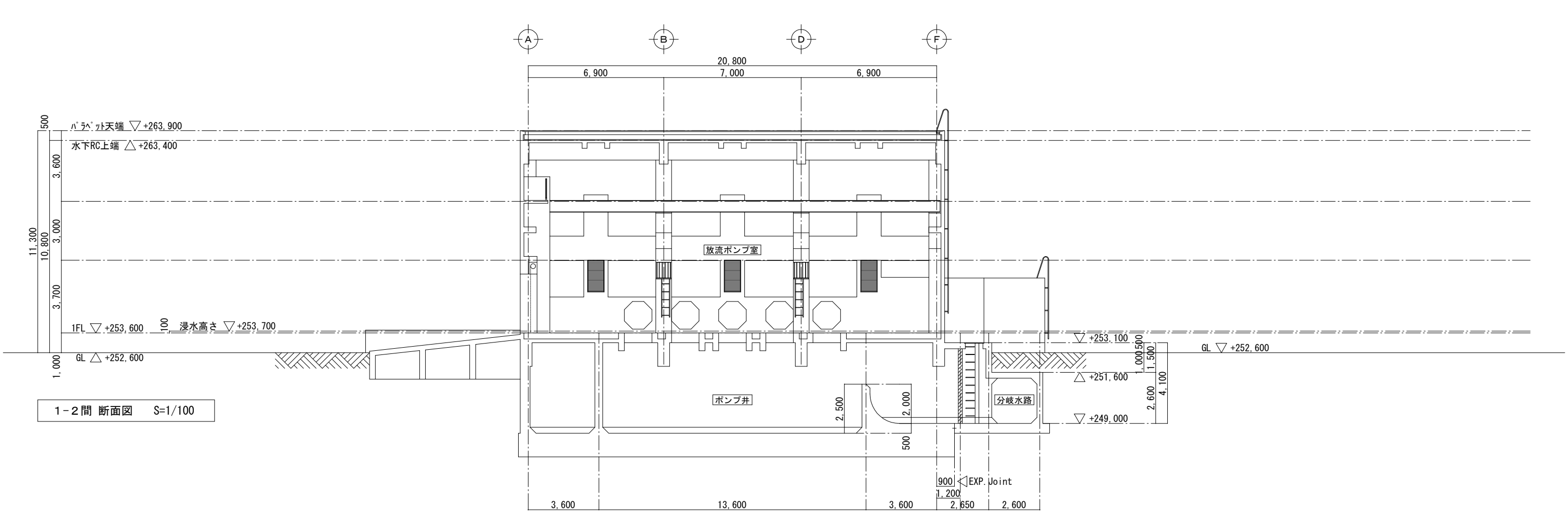
西側立面図 S=1/100

西側立面図 S=1/100



甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図（3）（参考図）		
図面番号	2D-06		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			

塩素減菌池棟・放流ポンプ棟



甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	断面図（参考図）			
図面番号	2D-07			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

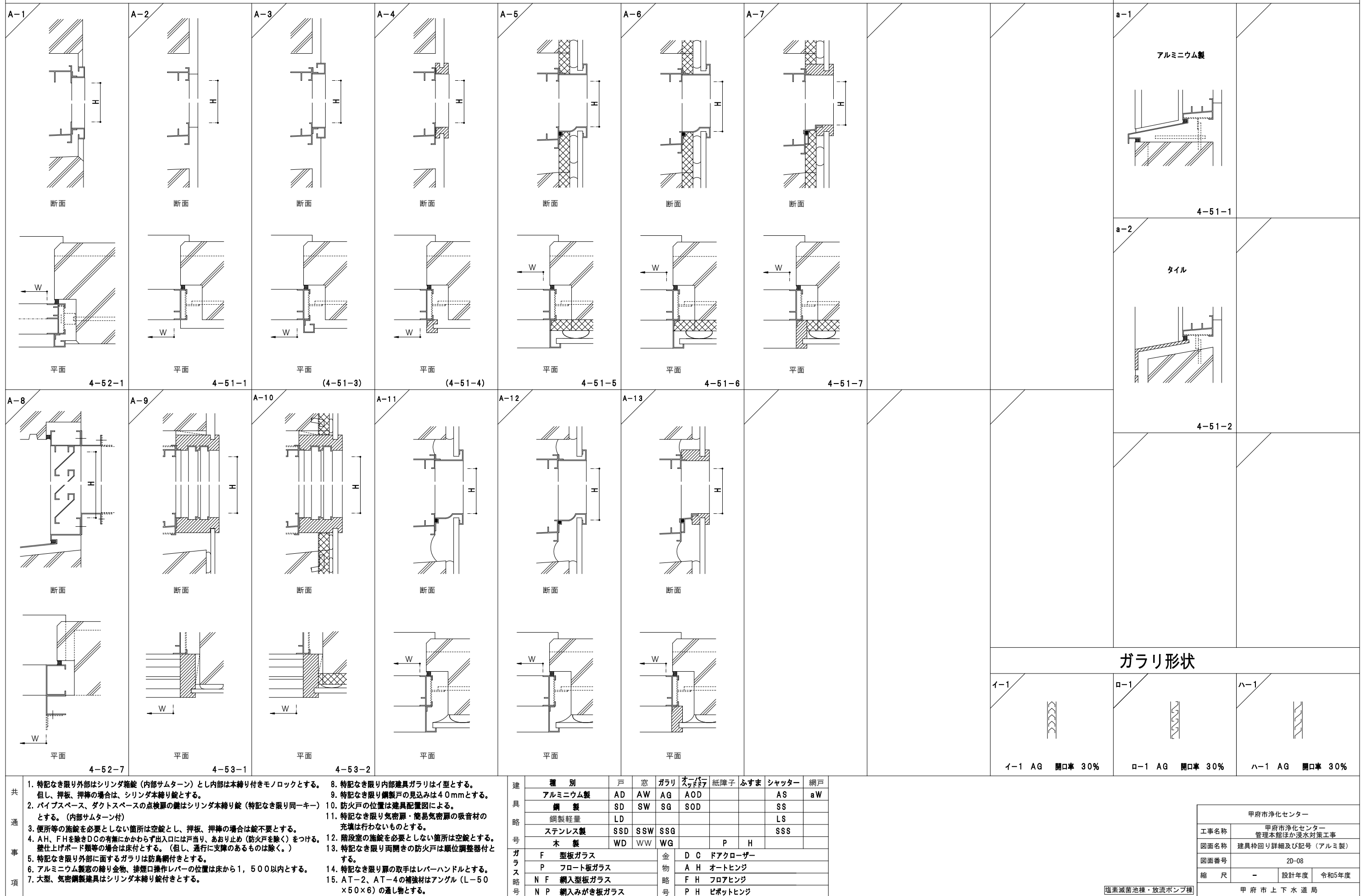
[塩素減菌池棟・放流ポンプ棟]

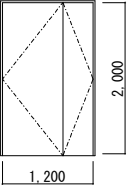
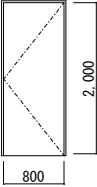
建具枠廻り詳細及び記号 (アルミ製建具)

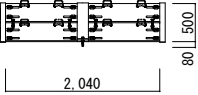
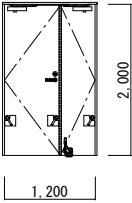
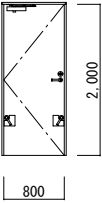
アルミ製建具

(ー ー) は詳細図番号に準ずる

水切り



建具 リスト											
符号 ・ 名称 ・ 個数			<div>AD 1</div>	アルミ製親子開きフラッシュ戸 撤去	1	<div>AD 2</div>	アルミ製片開きフラッシュ戸 撤去	1			
場所			操作室			操作室					
仕上（枠共）			アルミ表面処理 BB－2種			アルミ表面処理 BB－2種					
建具	見込	（ランマ）	—			—					
	硝子	（ランマ）	—			—					
	ガラリ		—			—					
建具枠	見込取合	査摺	70			70					
枠記号 査摺（水切）記号			—			—					
建具金物			丁番3枚、DC、フランス落し、握り玉、付属金物一式			丁番3枚、DC、握り玉、付属金物一式					
その他			3方アルミ額縁 25x75			3方アルミ額縁 25x75					
形状・寸法											

符号 ・ 名称 ・ 個数			<div>WP 1</div>	防水板 新設	1	<div>WSU 1</div>	防水扉 新設	1	<div>WSU 2</div>	防水扉 新設	1			
場所			操作室			操作室			操作室					
仕上（枠共）			アルミ表面処理 BB－1種			DP			DP					
建具	見込	（ランマ）	製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による					
	硝子	（ランマ）	—			—			—					
	ガラリ		—			—			—					
建具枠	見込取合	査摺	製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による					
枠記号 査摺（水切）記号			—			—			—					
建具金物			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による					
その他			設計浸水高さ=防水板下端+500、WS-5相当			設計浸水高さ=防水扉下端+400、WS-5相当			設計浸水高さ=防水扉下端+500、WS-5相当					
形状・寸法			※間口寸法 W2000 建具寸法は製造所の仕様による。 											

符号 ・ 名称 ・ 個数														
場所														
仕上（枠共）														
建具	見込	（ランマ）												
	硝子	（ランマ）												
	ガラリ													
建具枠	見込取合	査摺												
枠記号 査摺（水切）記号														
建具金物														
その他														
形状・寸法														

共
通
事
項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。

2. バイパススペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部はサムターン付）

3. 便所等の錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。

4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鳥網付きとする。

6. アルミニウム製窓の締め金物、排煙口操作レバーの位置は床から1, 500以内とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（枠廻り詳細による。）

9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。

10. 防火戸の位置は建具配置図による。

11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行なわないものとする。

12. 階段室の錠を必要としない箇所は空錠とする。

13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。

14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

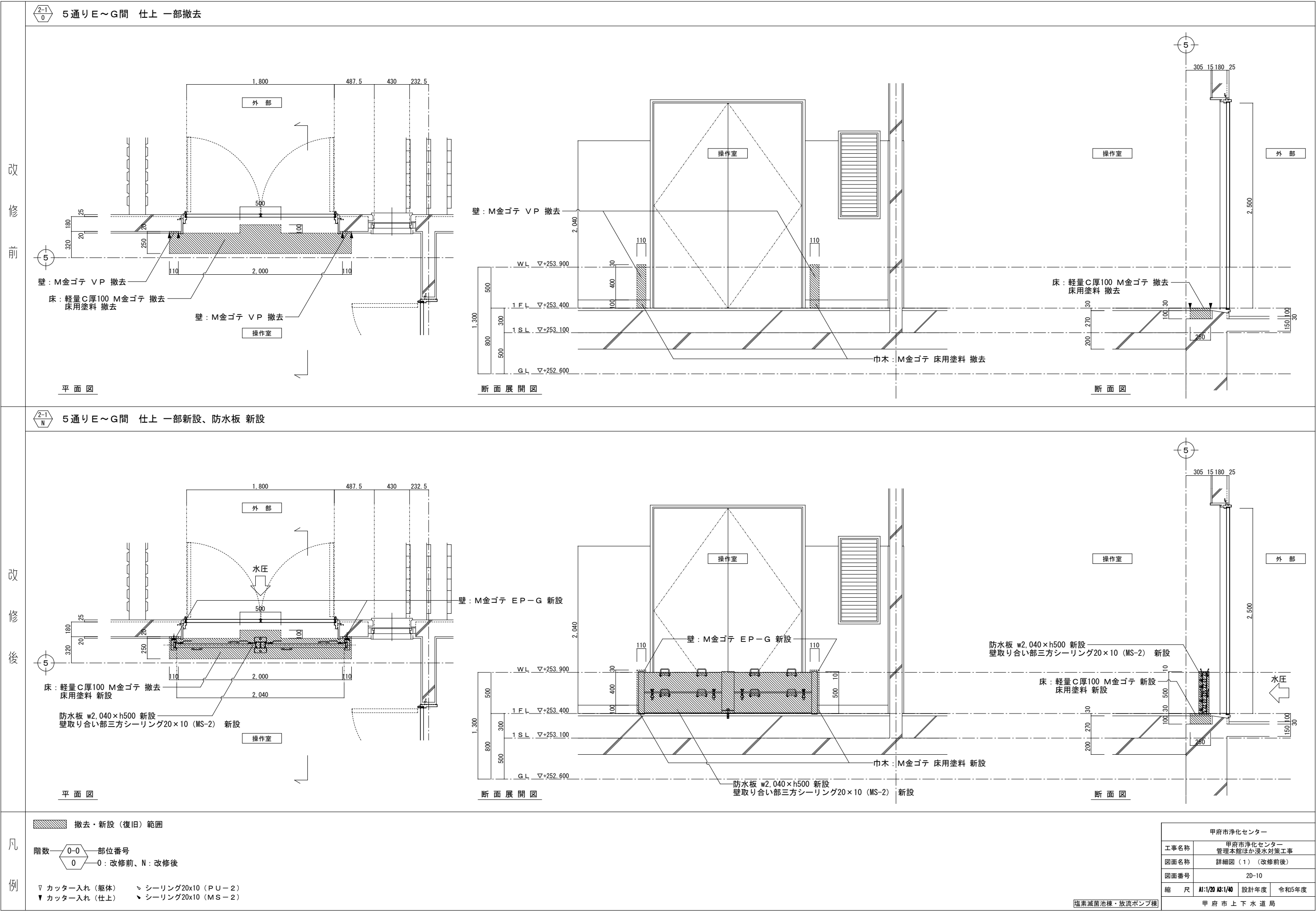
15. AT-2、AT-4の補強材はアングル（L-50×50×6）の通し物とする。

建具略号

種別	戸	窓	ガラリ	オーバーヘッド	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木製	WD	WW	WG		P	H		
F 型板ガラス			金物略号	D C	ドアクローザー			
P フロート板ガラス				A H	オートヒンジ			
N 網入型板ガラス				F H	フロアヒンジ			
NP 網入みがき板ガラス				P H	ピボットヒンジ			

塩素減菌池様・放流ポンプ様

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	建具リスト		
図面番号	2D-09		
縮尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			



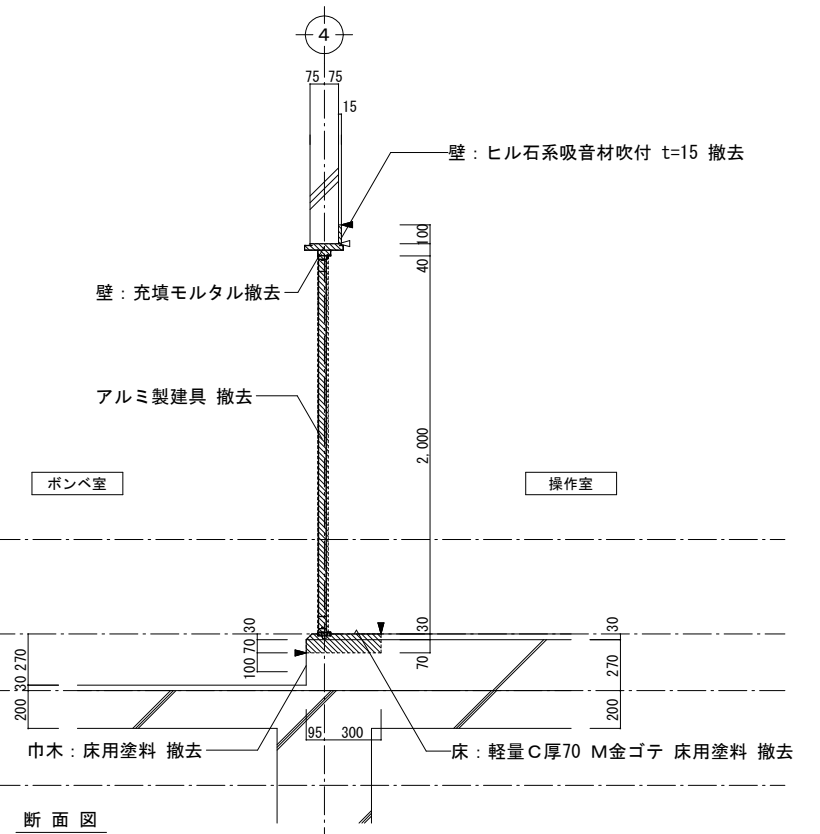
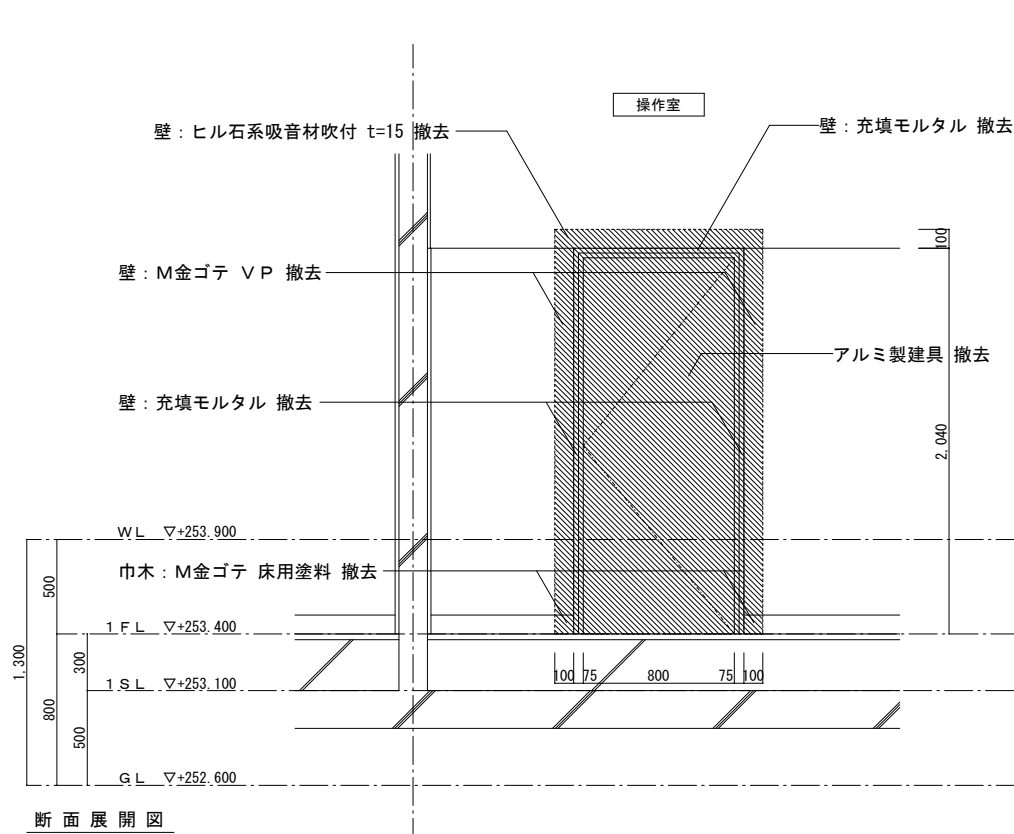
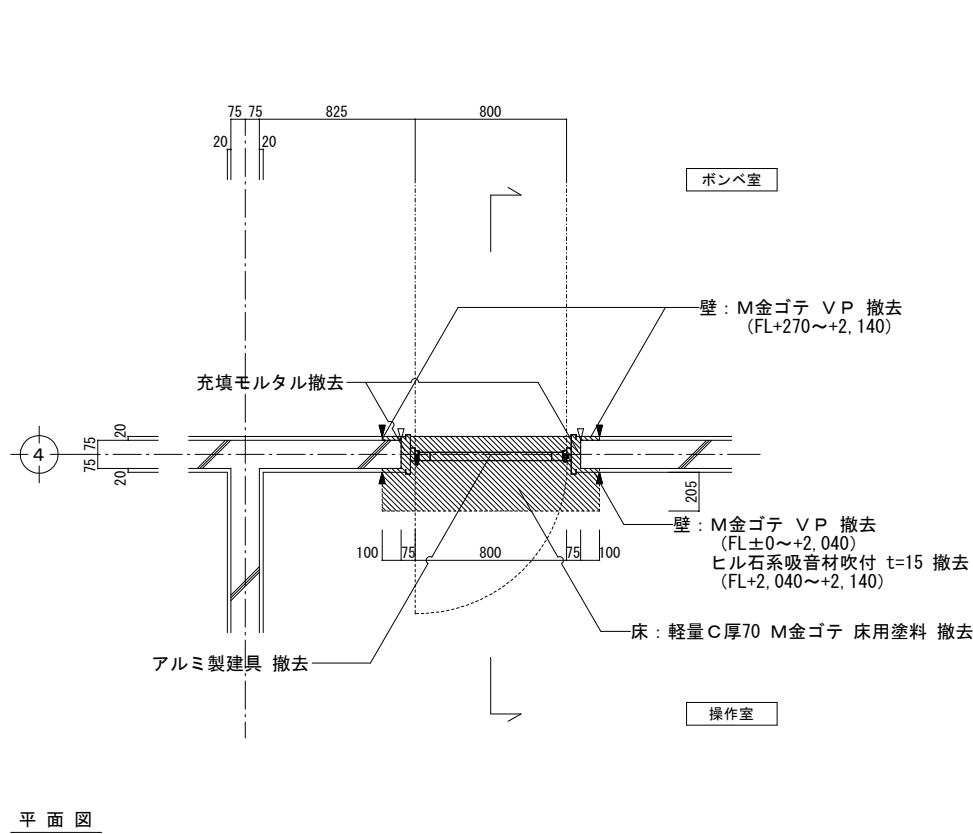
改
修
前



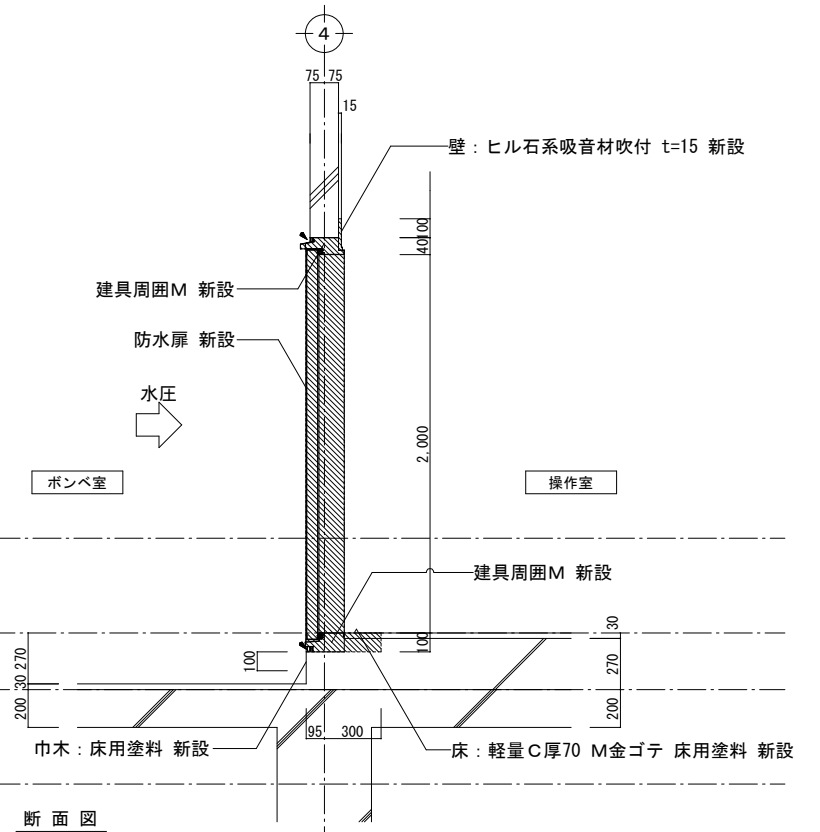
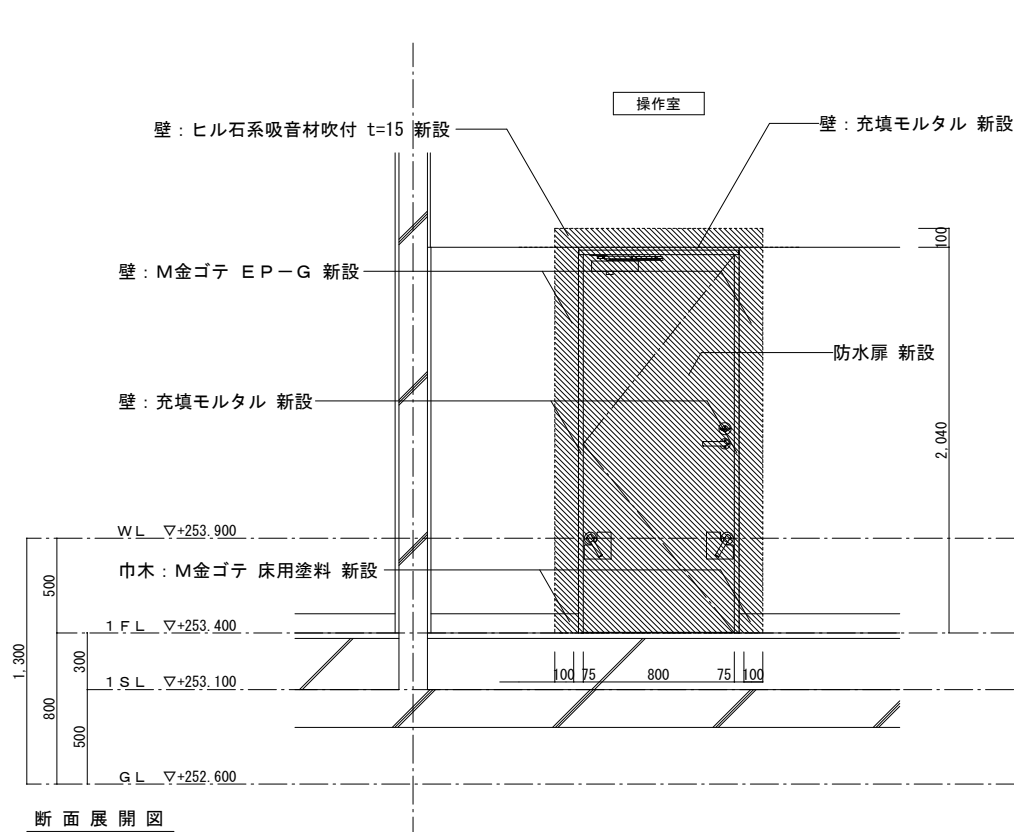
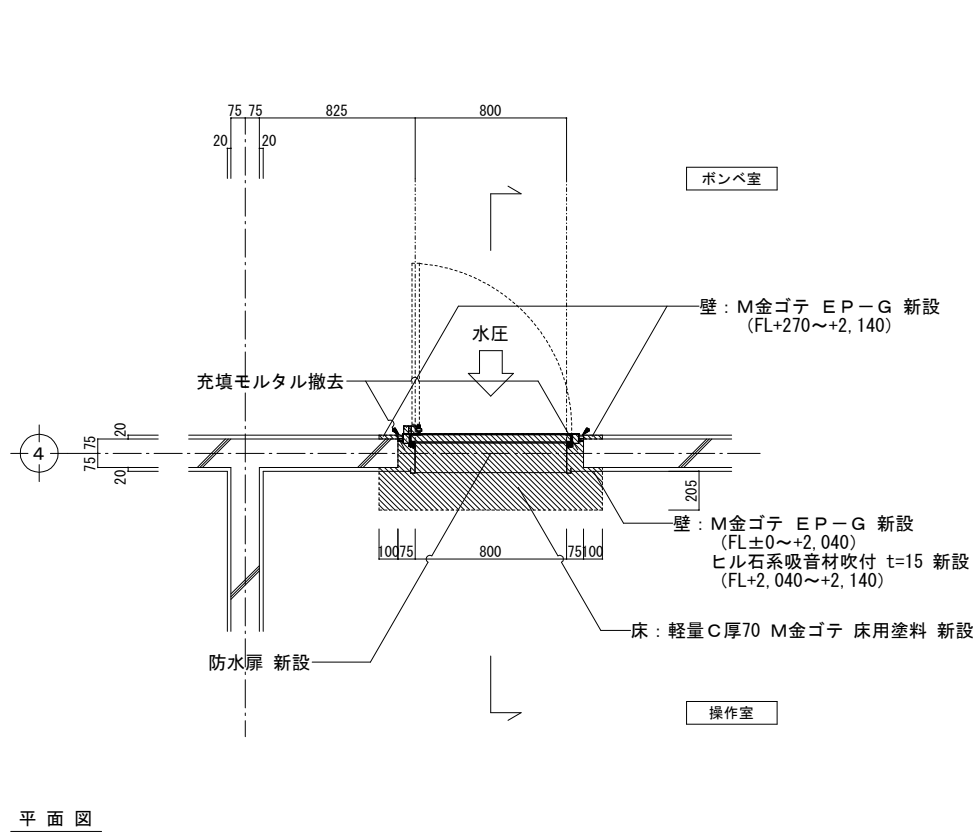
塩素滅菌池棟・放流ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（２）（改修前後）		
図面番号	2D-11		
縮 尺	1:1/20	1:1/40	設計年度 令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

改
修
前



改修後



凡例

 撤去・新設（復旧）範圍

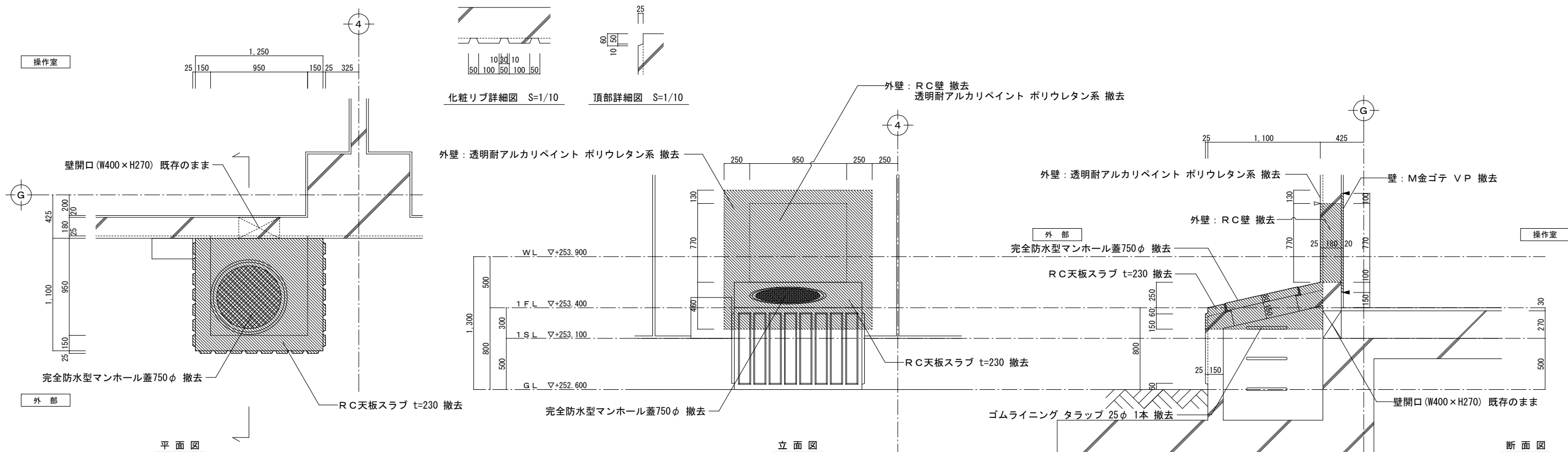
階数 — 0-0 — 部位番号
0 — 0 : 改修前、N : 改修後

▽ カッター入れ (躯体) ♪ シーリング20x10 (PU-2)
▼ カッター入れ (仕上) ♪ シーリング20x10 (MS-2)

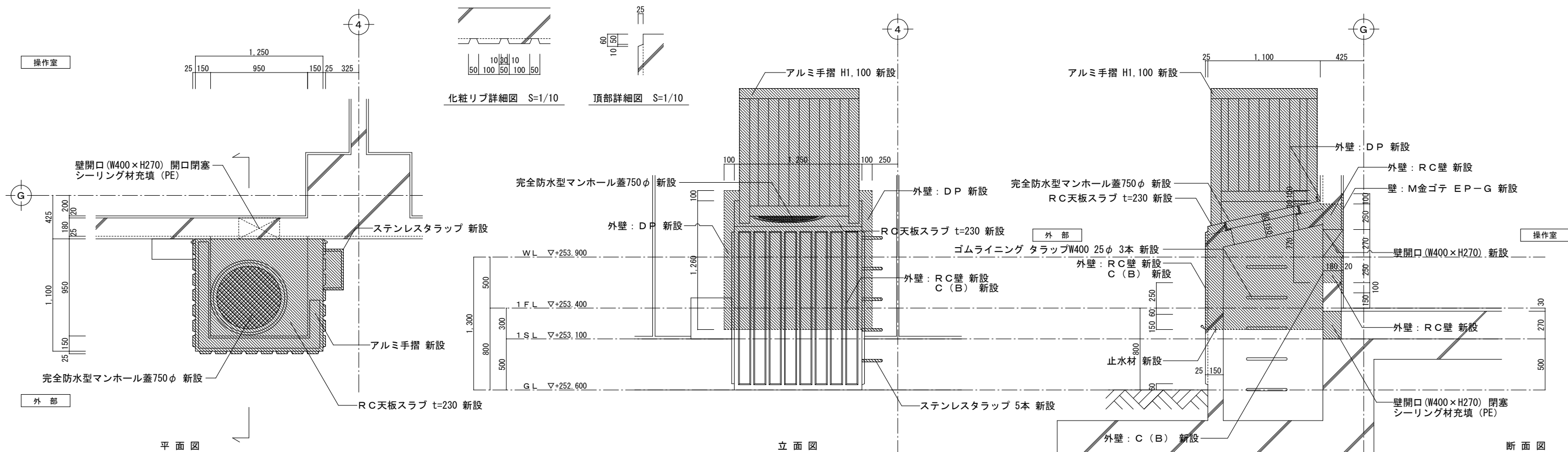
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（３）（改修前後）		
図面番号	2D-12		
縮 尺	1:1/20 13:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

塩素滅菌池棟・放流ポンプ棟

改
修
前



改修後



凡例

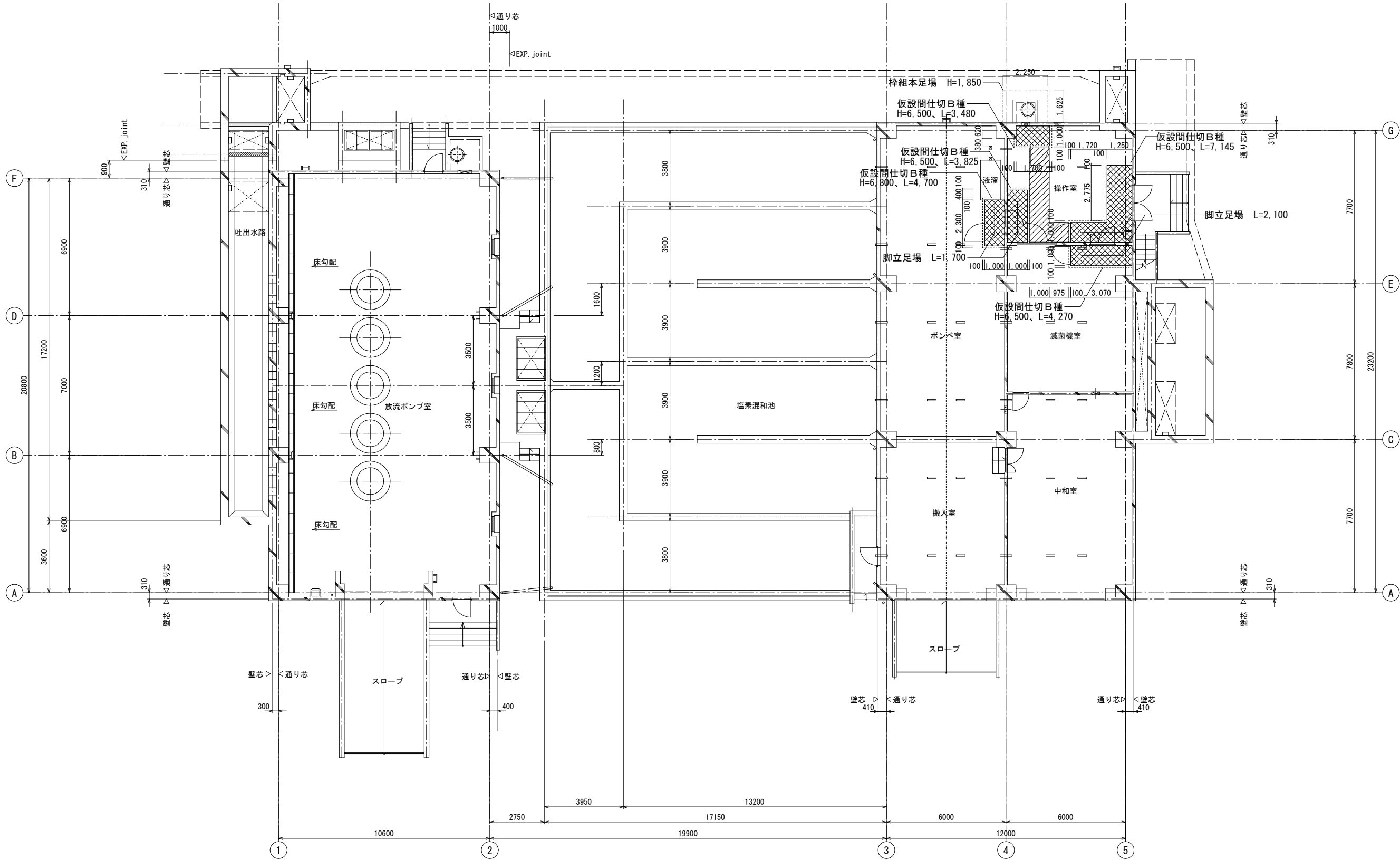
 撤去・新設（復旧）範囲

階数—0-0—部位番号
0—0：改修前、N：改修後

▽ カッター入れ（躯体） ♪ シーリング20x10（PU-2）
▼ カッター入れ（仕上） ♪ シーリング20x10（MS-2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（４）（改修前後）		
図面番号	2D-13		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

塩素滅菌池棟・放流ポンプ棟



1 階平面図 S=1/100

凡例

- 改修用養生・整理・清掃
- 通路用養生・整理・清掃
- 仮設間仕切 B種
- 外部・内部足場：枠組本足場 900枠
- 外部・内部足場：脚立足場 ※H=4.0m以下

※「参考図面」は請負契約上の拘束力を生じるものでなく、
請負者は施工条件、地質条件を十分考慮して、仮設、施工方法、
安全対策等、工事目的物を完成させるための一切の手段について
請負者の責任において定めるものとする。

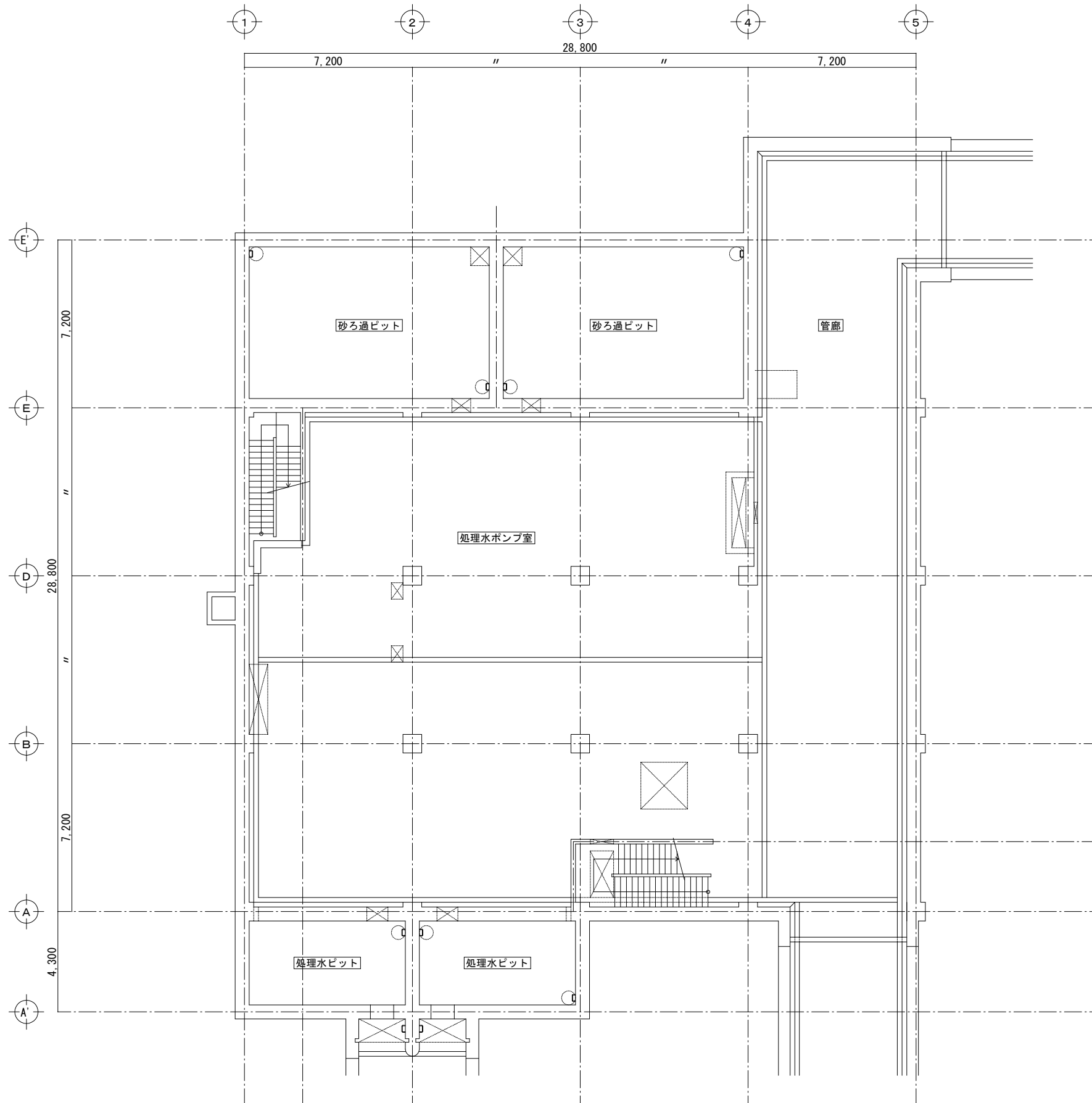
塩素減菌池棟・放流ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1階仮設図（参考図）		
図面番号	2D-14		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

（ 処 理 水 本 ） 棟 仕 上 表		略 号		外部付属物及び詳細番号		内部付属物及び詳細番号	
1. 外・内仕上表及び、外・内付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	G	コンクリート	複層塗材 (GE)	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・ 屋上点検口	・ 5-21-1	・ 5-21-1
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、（例）1-0-2-3は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。	GB	コンクリートブロック	複層塗材 (E)	合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ 屋上管頭取り出し口	・ 5-22-1	・ 5-22-1
	W	木造	複層塗材 (RE)	反応硬化型合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材	・ クーリングタワー基礎	・ 5-22-2	・ 5-22-3
	LGS	軽量鉄骨	複層塗材 (S1)	テレビアンテナ基礎	・ 電気用ハンドホール蓋	・ 8-22-1	・ 8-22-2
	GB-R	せつこうボード	CL	クリヤラッカー塗り	・ 文字板	・ 図 示	・ 図 示
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室廻りは除く。	GB-NC (N)	不燃複層せつこうボード (化粧無し：下地張り用)	DP	耐候性塗料塗り	・ 図 示	・ 図 示	・ 図 示
4. 付属物のうち、窓名札、床点検口、掲示板、案内板、ピクトグラフ、階段表示板等は、平面図による。	GB-NC (NT)	不燃複層せつこうボード (化粧有り：トラバーチン模様)	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・ 煙 突	・ 図 示	・ 図 示
	GB-S	シーリングせつこうボード	EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	・ 足掛け金物	・ 図 示	・ 図 示
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。	GB-F	強化せつこうボード	UG	ウレタン樹脂ワニス塗り	・ タラップ	・ 図 示	・ 図 示
	ケイカル板	けい酸カルシウム板 (タイプ2)	OS	オイルステイン塗り	・ と い	・ 5-31. 32. 33	・ 5-31. 32. 33
6. P.F板、木毛板等打込み箇所は、別図による。	DR	ロックウール化粧吸音板 トラバーチン模様	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	・ ルーフドレン	・ 5-32-1	・ 5-32-1
	DR (凹凸)	ロックウール化粧吸音板 凹凸模様	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	・ 5-33-1	・ 5-33-1	・ 5-33-1
7. 内装の見え掛りとなるP.F板打込み部分は、GB厚1.2.5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。	DR (軒天)	ロックウール化粧吸音板 軒天井用：トラバーチン模様	WP	木材保護塗料塗り	・ トップライト	・ 図 示	・ 図 示
	DR (軒天凹凸)	ロックウール化粧吸音板 軒天井用：凹凸模様			・ EXP. J金物	・ 既製品	・ S-13
8. 壁のボード張りには水平方向には原則として継手は設けない。	P.F板	押出法ポリスチレンフォーム保温材			・ 笠木兼用遮音導体	・ 図 示	・ 図 示
9. 天井仕上ボード張りのうち、GB-NC (NT) 及びDR (下地GB共)は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。	木毛板	木質系セメント板			・ 手すり	・ アルミ	・ 図 示
	TB	テラゾーブロック					
	外装薄塗材 (E)	外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材					
10. 直接地床工事に據する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	内装薄塗材 (S1)	内装けい酸系薄付け仕上塗材					
	内装薄塗材 (E)	内装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材					
	C (B)	コンクリート打放し (B)					
	C (G)	コンクリート打放し (G)					
	M	モルタル					
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材					

[illegible][illegible]

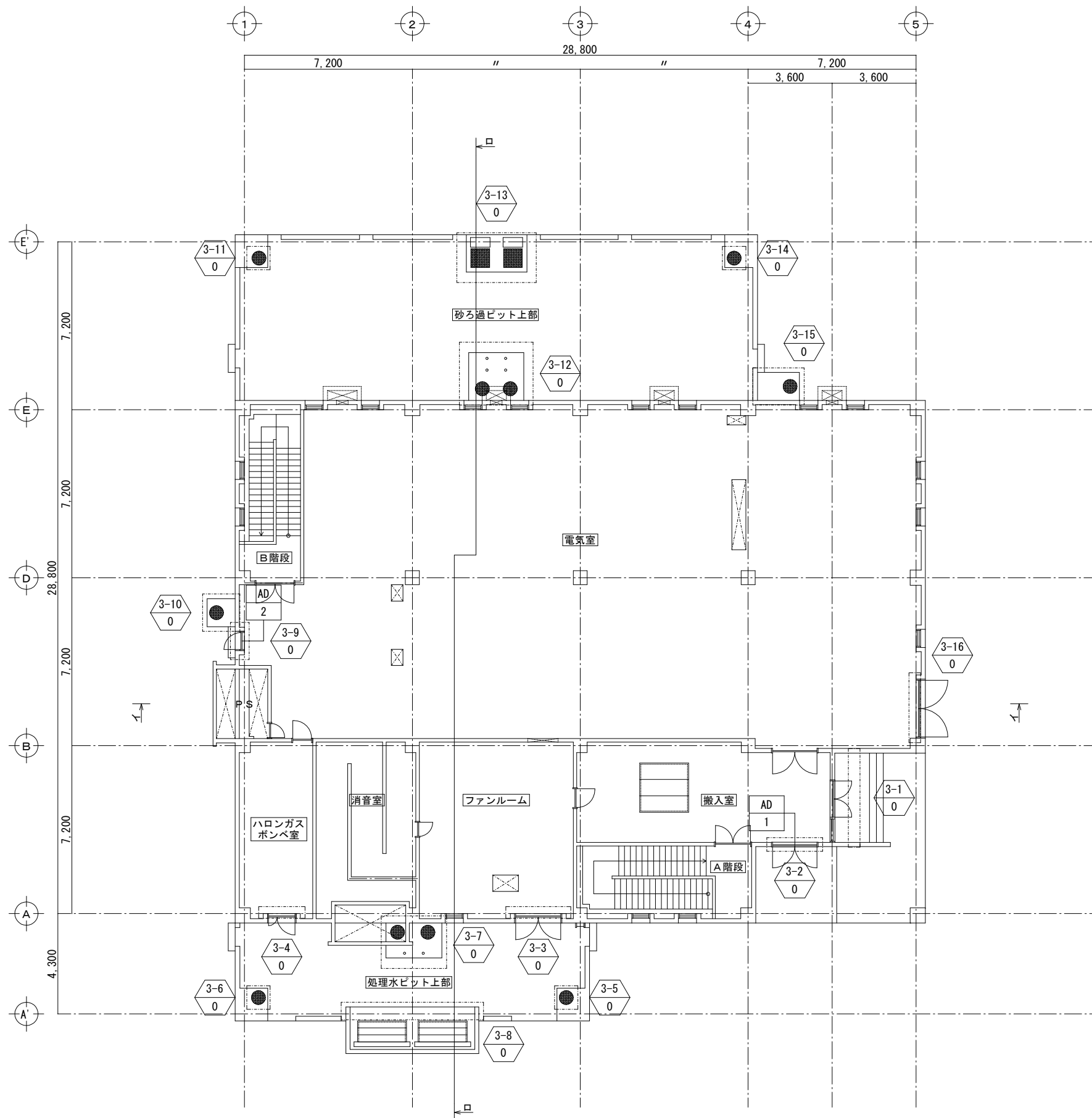
特記なき限り																	
改修後の 仕上材の 厚さ	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	工 事 区 分 略 号	< > C	: 土木工事	改 修 内 容 凡 例	改修前	改修後	甲府市浄化センター 工事名称 甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事 図面名称 仕上表 図面番号 3D-01 縮 尺 - 設計年度 令和5年度 甲府市上下水道局
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板 (タイプ2)		12	10	NM-8578		< > AM	: 建築機械設備工事		A : 仕上撤去	a : 仕上新設	
		下地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25			< > AE	: 建築電気設備工事		B : 図示の仕上撤去	b : 図示の仕上新設	
	GB-NC (N)	下地		9.5	NM-8613 又は同等	壁 紙						< > PM	: プラント機械設備工事		C : 下地共撤去	c : 下地共新設	
	GB-NC (NT)			9.5								< > PE	: プラント電気設備工事		D : 図示の下地共撤去	d : 図示の下地共新設	
	DR			12	NM-8599										E : 下地の調整	e : 差装の差し替え	
															F : 既存のまま	f : 既存のまま	
処理水ポンプ機																	



地階平面図 S=1/100

処理水ポンプ棟

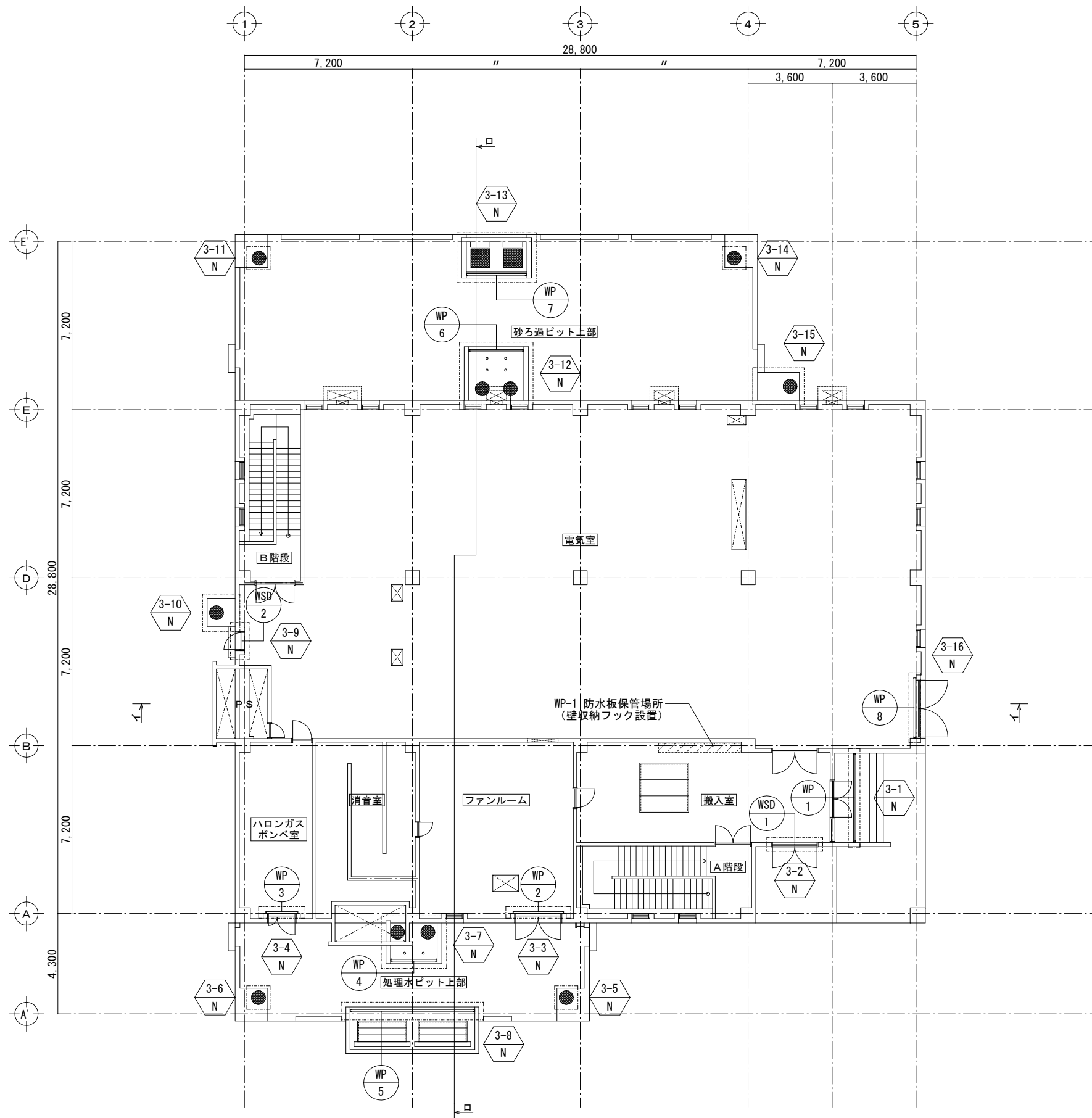
甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	地階平面図（参考図）			
図面番号	3D-02			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
関	甲 府 市 上 下 水 道 局			



凡 例

- 改修工事範囲
- 撤去建具
- 新設建具
- 階数 0-0 部位番号 0: 改修前、N: 改修後

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	1 階平面図（改修前）			
図面番号	3D-03			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
関	甲 府 市 上 下 水 道 局			

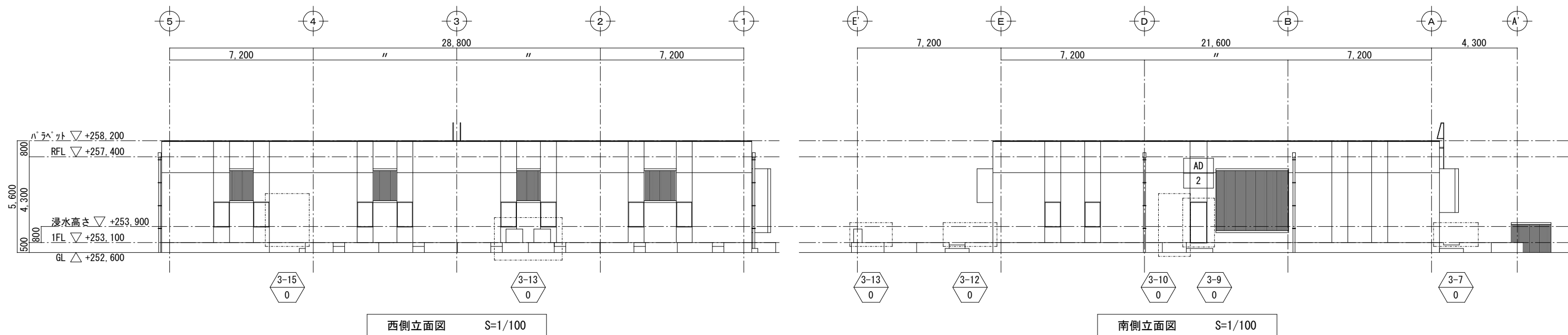
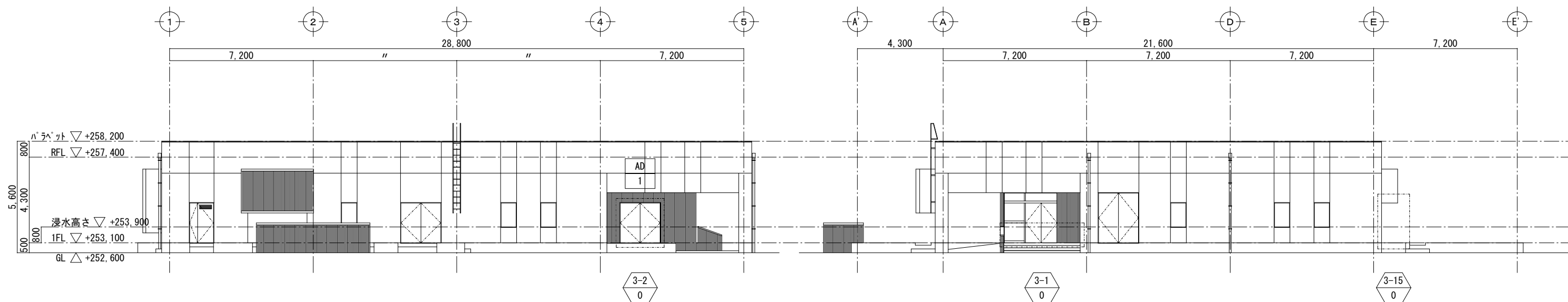


- 凡 例
- 改修工事範囲
- 撤去建具
- 新設建具
- 階数 0-0 部位番号 0 0 : 改修前、N : 改修後

1 階平面図 S=1/100

処理水ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1 階平面図（改修後）		
図面番号	3D-04		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
関	甲 府 市 上 下 水 道 局		



凡 例

改修工事範囲

撤去建具

新設建具

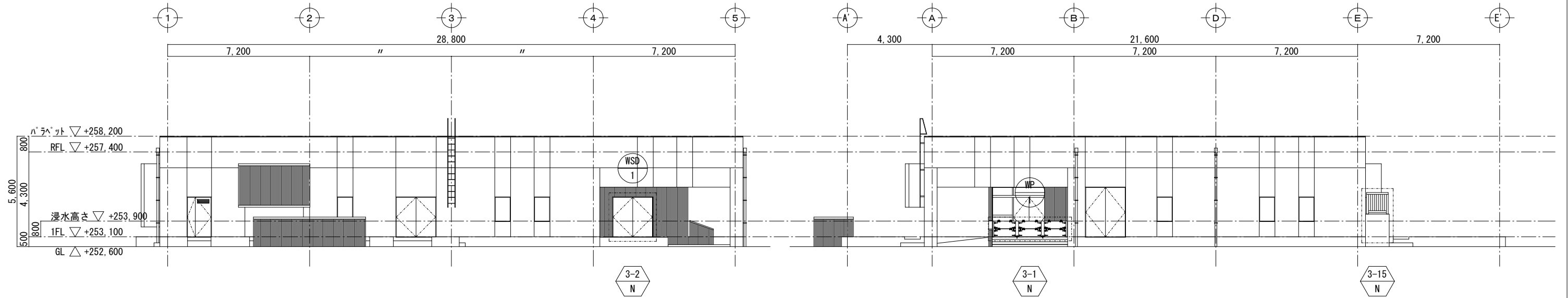
階数 0-0 部位番号

0: 改修前、N: 改修後

処理水ポンプ棟

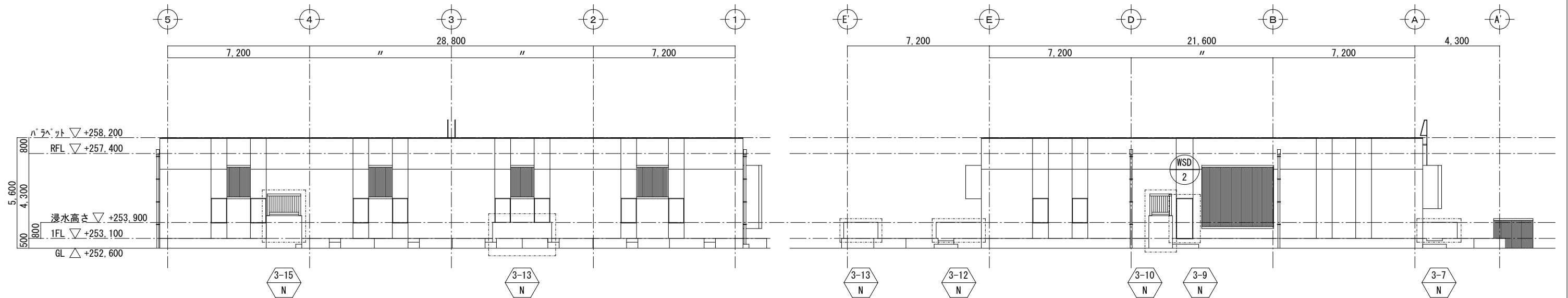
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図 (1) (改修前)		
図面番号	3D-05		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

改修後



東側立面図 S=1/100

北側立面圖 S=1/100



西側立面図 S=1/100

南側立面図 S=1/100

凡 例

改修工事範圍

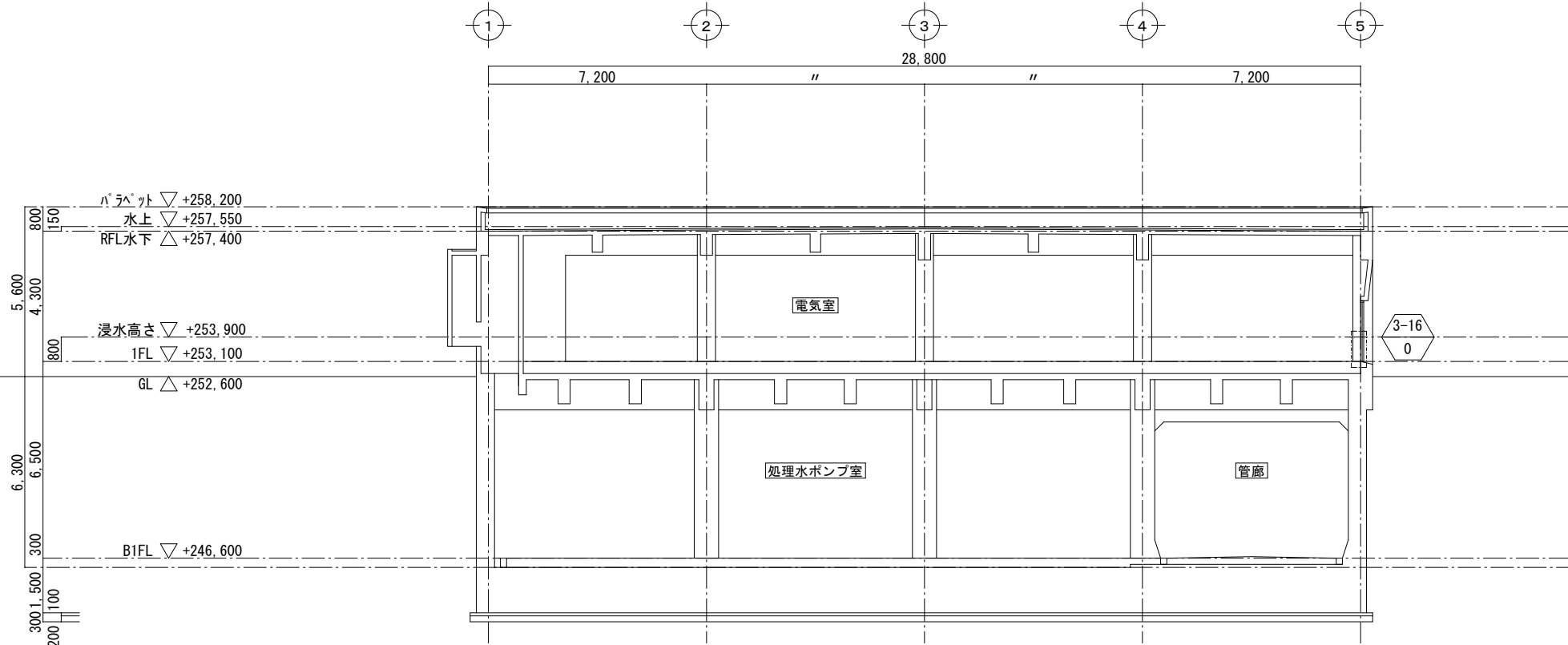
撤去建具 新設建具

階数 — 0-0 — 部位番号
0 — 0 : 改修前、N : 改修後

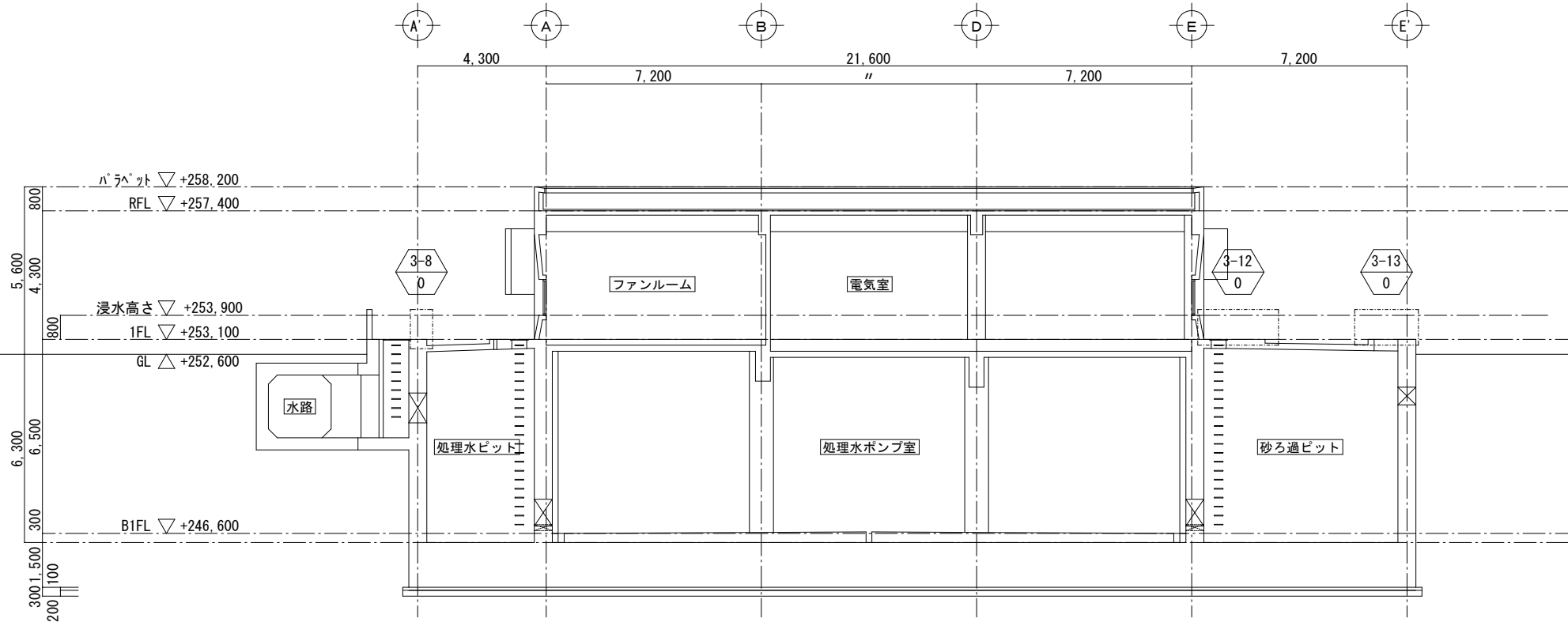
処理水ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図（２）（改修後）		
図面番号	3D-06		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

改 修 前



イ-イ断面図 S=1/100



ロ-ロ断面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

撤去建具

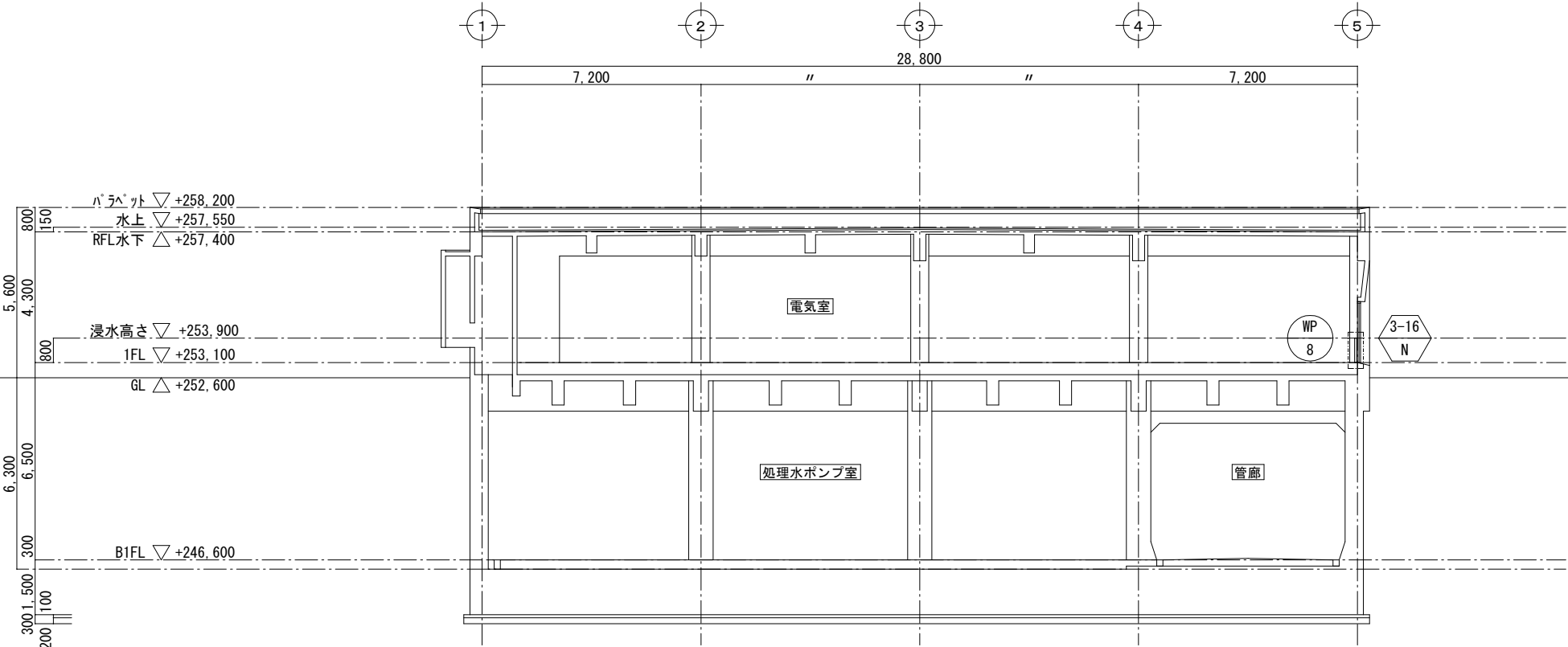
新設建具

階数 0-0 部位番号 0

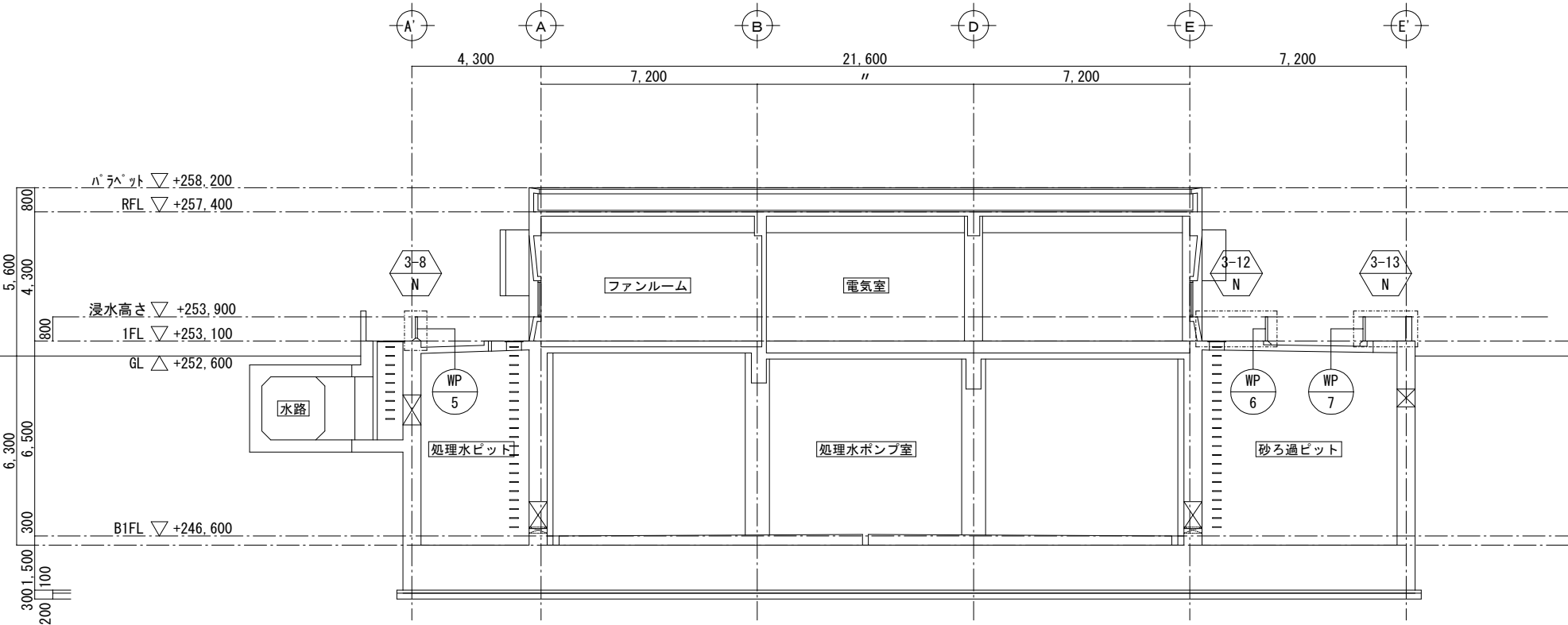
0 : 改修前、N : 改修後

処理水ポンプ機

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	断面図（１）（改修前）		
図面番号	3D-07		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



イ-イ断面図 S=1/100



ロ-ロ断面図 S=1/100

凡 例

改修工事範囲

撤去建具

新設建具

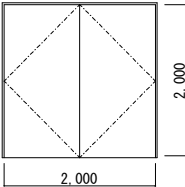
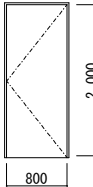
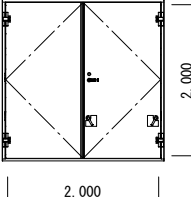
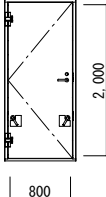
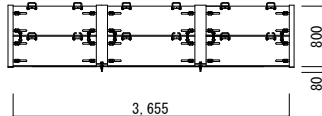
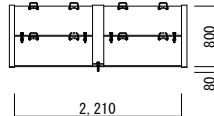
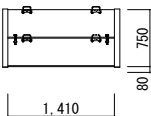
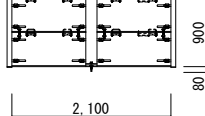
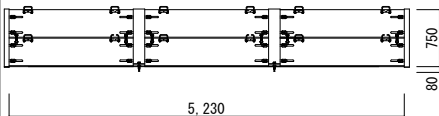
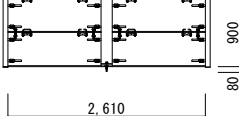
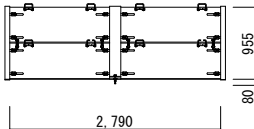
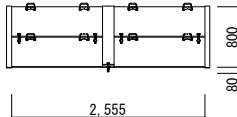
階数 0-0 部位番号 0 0 : 改修前、N : 改修後

処理水ポンプ機

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	断面図（2）（改修後）		
図面番号	3D-08		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

建具枠廻り詳細及び記号 (アルミ製建具)

アルミ製建具																		水切り			
A-1		A-2		A-3		A-4		A-5		A-6		A-7						a-1			
断面		断面		断面		断面		断面		断面		断面						アルミニウム製			
4-52-1		4-51-1		(4-51-3)		(4-51-4)		4-51-5		4-51-6		4-51-7						4-51-1			
平面		平面		平面		平面		平面		平面		平面						タイル			
A-8		A-9		A-10		A-11		A-12		A-13											
断面		断面		断面		断面		断面		断面											
4-52-7		4-53-1		4-53-2																	
平面		平面		平面		平面		平面		平面											
</																					

建具 リスト																				
符号 ・ 名称 ・ 個数			<div>AD 1</div>	アルミ製両開きフラッシュ戸 撤去	1	<div>AD 2</div>	アルミ製片開きフラッシュ戸 撤去	1				<div>WS 1</div>	防水扉 新設	1	<div>WS 2</div>	防水扉 新設	1			
場所			搬入室			電気室						搬入室			電気室					
仕上（枠共）			アルミ表面処理 BB－2種			アルミ表面処理 BB－2種						DP			DP					
建具	見込	（ランマ）	—			—						製造所の仕様による			製造所の仕様による					
	硝子	（ランマ）	—			—						—			—					
	ガラリ		—			—						—			—					
建具枠	見込取合	沓摺	70			70						製造所の仕様による			製造所の仕様による					
枠記号 沓摺（水切）記号			—			—						—			—					
建具金物			丁番3枚、シリンダー錠、フランス落し、握り玉、戸当り、煽り止め、付属金物一式			丁番3枚、シリンダー錠、DC（ストッパー無し）、握り玉、付属金物一式						製造所の仕様による			製造所の仕様による					
その他			3方アルミ顔縁、沓摺ステンレス			3方アルミ顔縁、沓摺ステンレス						設計浸水高さ=防水扉下端+780、WS-5相当			設計浸水高さ=防水扉下端+800、WS-5相当					
形状・寸法																				
符号 ・ 名称 ・ 個数			<div>WP 1</div>	防水板 新設	1	<div>WP 2</div>	防水板 新設	1	<div>WP 3</div>	防水板 新設	1	<div>WP 4</div>	防水板 新設	1	<div>WP 5</div>	防水板 新設	1	<div>WP 6</div>	防水板 新設	1
場所			外部（搬入室前）			ファンルーム			ハロンガスボンベ室			外部（ファンルーム前）			外部			外部（電気室前）		
仕上（枠共）			アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種		
建具	見込	（ランマ）	製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による		
	硝子	（ランマ）	—			—			—			—			—			—		
	ガラリ		—			—			—			—			—			—		
建具枠	見込取合	沓摺	製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による		
枠記号 沓摺（水切）記号			—			—			—			—			—			—		
建具金物			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による			製造所の仕様による		
その他			設計浸水高さ=防水板下端+800、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+800、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+750、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+800、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+750、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+900、WS-5相当		
形状・寸法			※間口寸法 W3825 建具寸法は製造所の仕様による。 			※間口寸法 W2030 建具寸法は製造所の仕様による。 			※間口寸法 W1230 建具寸法は製造所の仕様による。 			※間口寸法 W2270 建具寸法は製造所の仕様による。 			※間口寸法 W5400 建具寸法は製造所の仕様による。 			※間口寸法 W2780 建具寸法は製造所の仕様による。 		
符号 ・ 名称 ・ 個数			<div>WP 7</div>	防水板 新設	1	<div>WP 8</div>	防水板 新設	1												
場所			外部			電気室														
仕上（枠共）			アルミ表面処理 BB－1種			アルミ表面処理 BB－1種														
建具	見込	（ランマ）	製造所の仕様による			製造所の仕様による														
	硝子	（ランマ）	—			—														
	ガラリ		—			—														
建具枠	見込取合	沓摺	製造所の仕様による			製造所の仕様による														
枠記号 沓摺（水切）記号			—			—														
建具金物			製造所の仕様による			製造所の仕様による														
その他			設計浸水高さ=防水板下端+955、WS-5相当			設計浸水高さ=防水板下端+800、WS-5相当														
形状・寸法			※間口寸法 W2960 建具寸法は製造所の仕様による。 			※間口寸法 W2620 建具寸法は製造所の仕様による。 														

共
通
事
項

1. 特記なき限り外部はシリンダ箱錠（内部サムターン）とし内部は本締り付きモノロックとする。但し、押板、押棒の場合は、シリンダ本締り錠とする。

2. バイパススペース、ダクトスペースの点検扉の鍵はシリンダ本締り錠（特記なき限り同一キー）とする。（内部はサムターン付）

3. 便所等の錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。

4. AH、FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め（防火戸を除く）をつける。壁仕上げボード類等の場合は床付とする。（但し、通行に支障のあるものは除く。）

5. 特記なき限り外部に面するガラリは防鼠網付きとする。

6. アルミニウム製の締り金物、排煙口操作レバーの位置は床から1, 500以内とする。

7. 大型、気密鋼製建具はシリンダ本締り錠付きとする。

8. 特記なき限り内部建具ガラリはI型とする。（枠廻り詳細による。）

9. 特記なき限り鋼製戸の見込みは40mmとする。

10. 防火戸の位置は建具配置図による。

11. 特記なき限り気密扉・簡易気密扉の吸音材の充填は行わないものとする。

12. 階段室の錠を必要としない箇所は空錠とする。

13. 特記なき限り両開きの防火戸は順位調整器付とする。

14. 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。

15. AT-2、AT-4の補強材はアングル（L-50×50×6）の通し物とする。

建具略号

種 別

戸

窓

ガラリ

オーバーヘッド

紙障子

ふすま

シャッター

網戸

アルミニウム製

AD

AW

AG

AOD

AS

aW

鋼 製

SD

SW

SG

SOD

SS

鋼 製 軽 量

LD

LS

ステンレス製

SSD

SSW

SSG

SSS

木 製

WD

WW

WG

P

H

ガラリ略号

F 型板ガラス

P フロート板ガラス

N 網入型板ガラス

NP 網入みがき板ガラス

金

物

略

号

D C ドアクローザー

A H オートヒンジ

F H フロアヒンジ

P H ピボットヒンジ

処理水ポンプ棟

甲府市浄化センター

工事名称

甲府市浄化センター
管理本館ほか浸水対策工事

図面名称

建具リスト

図面番号

3D-10

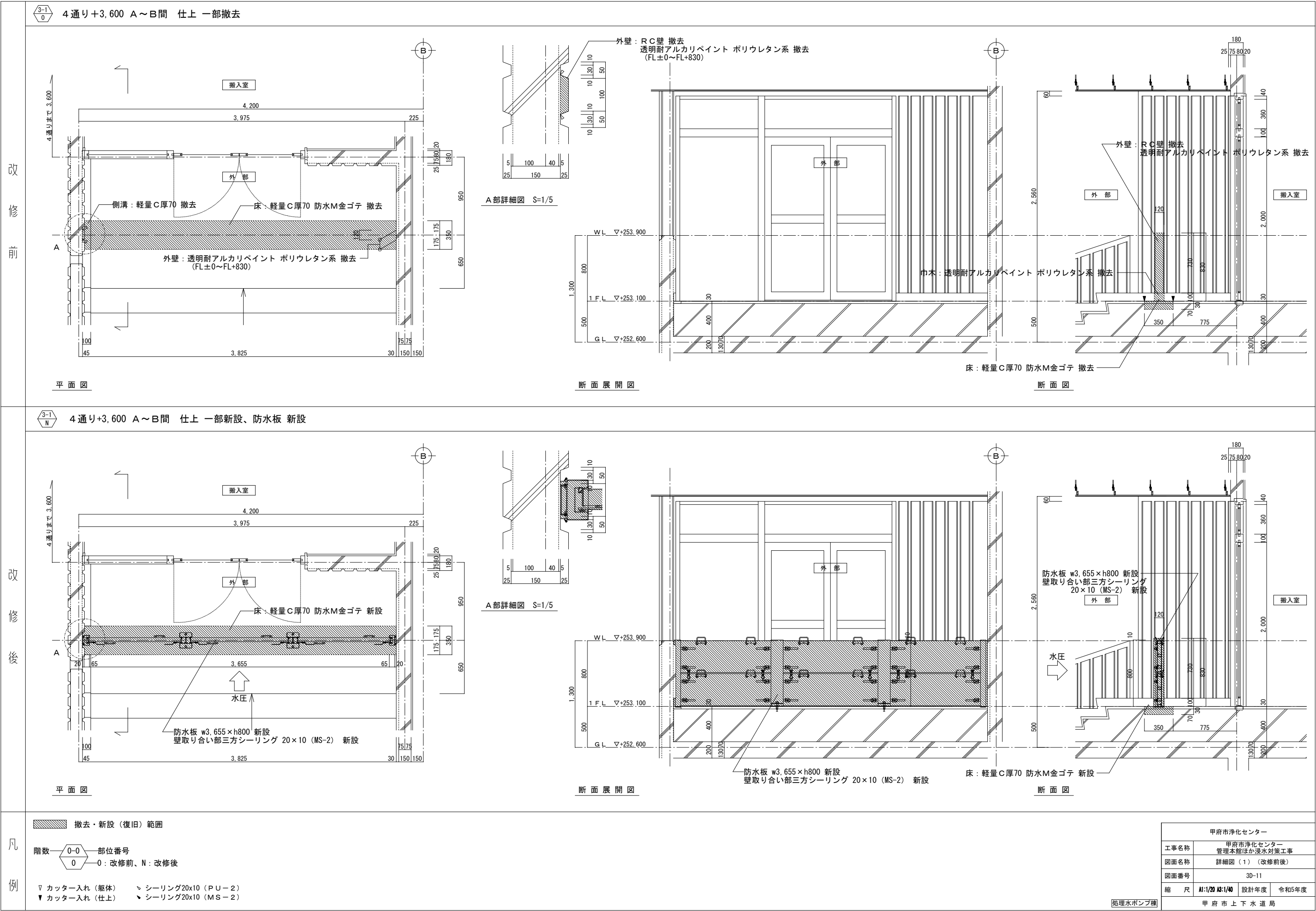
縮 尺

A1:1/50 A3:1/100

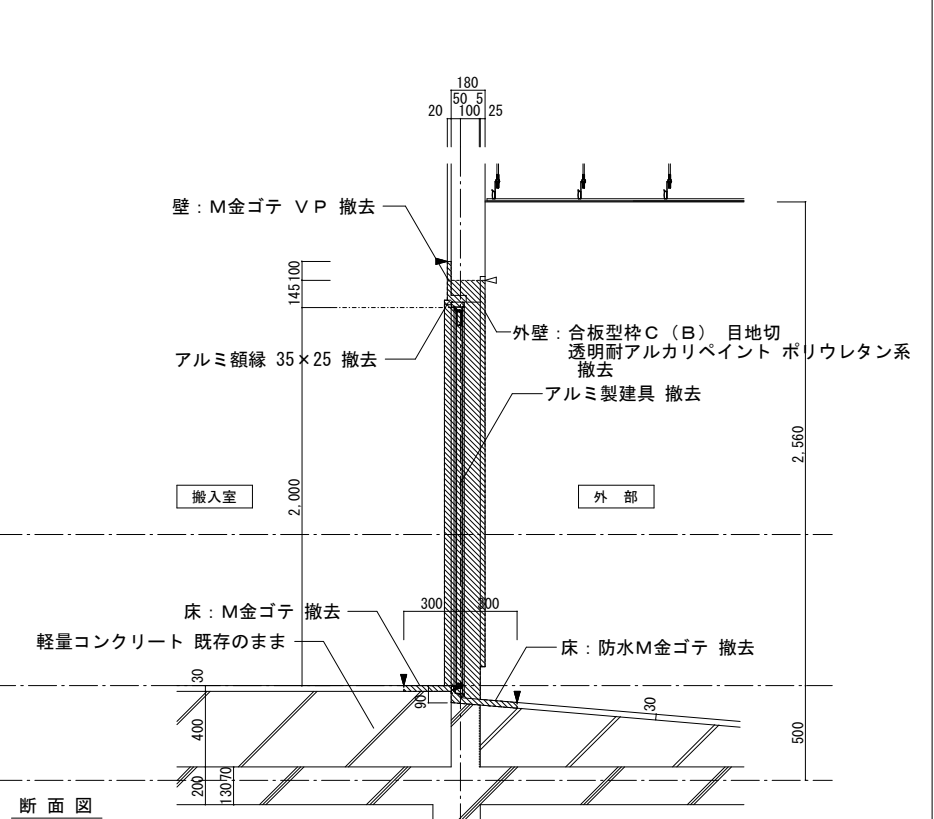
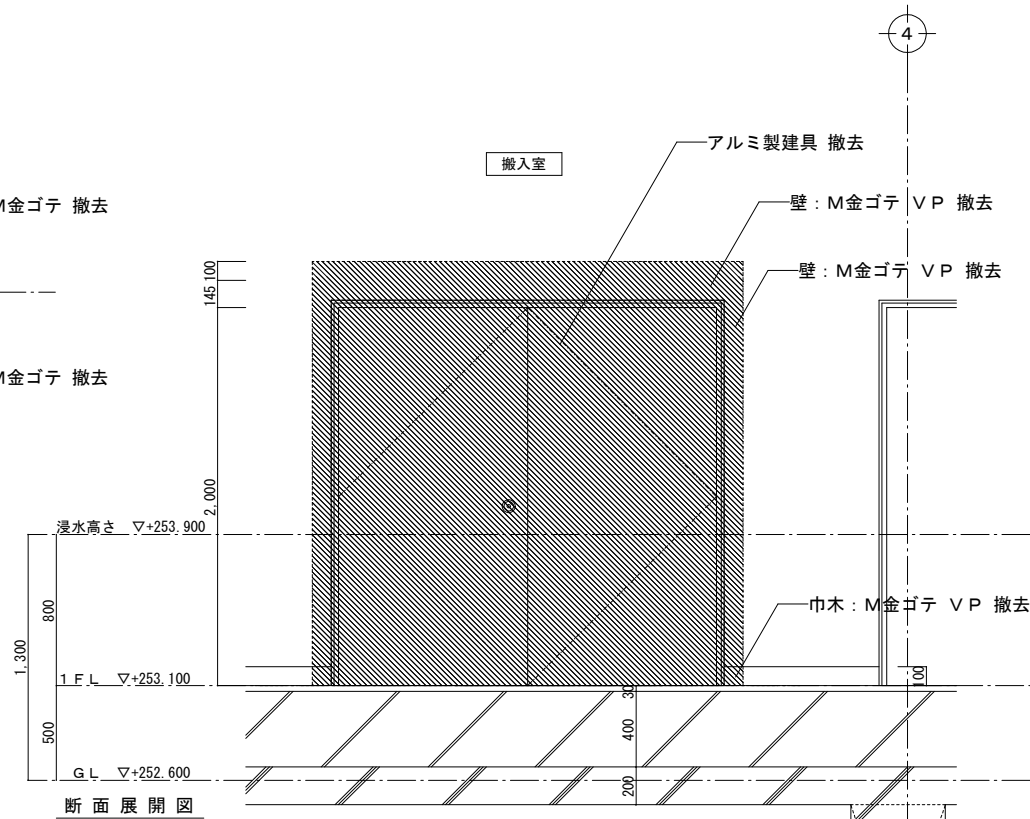
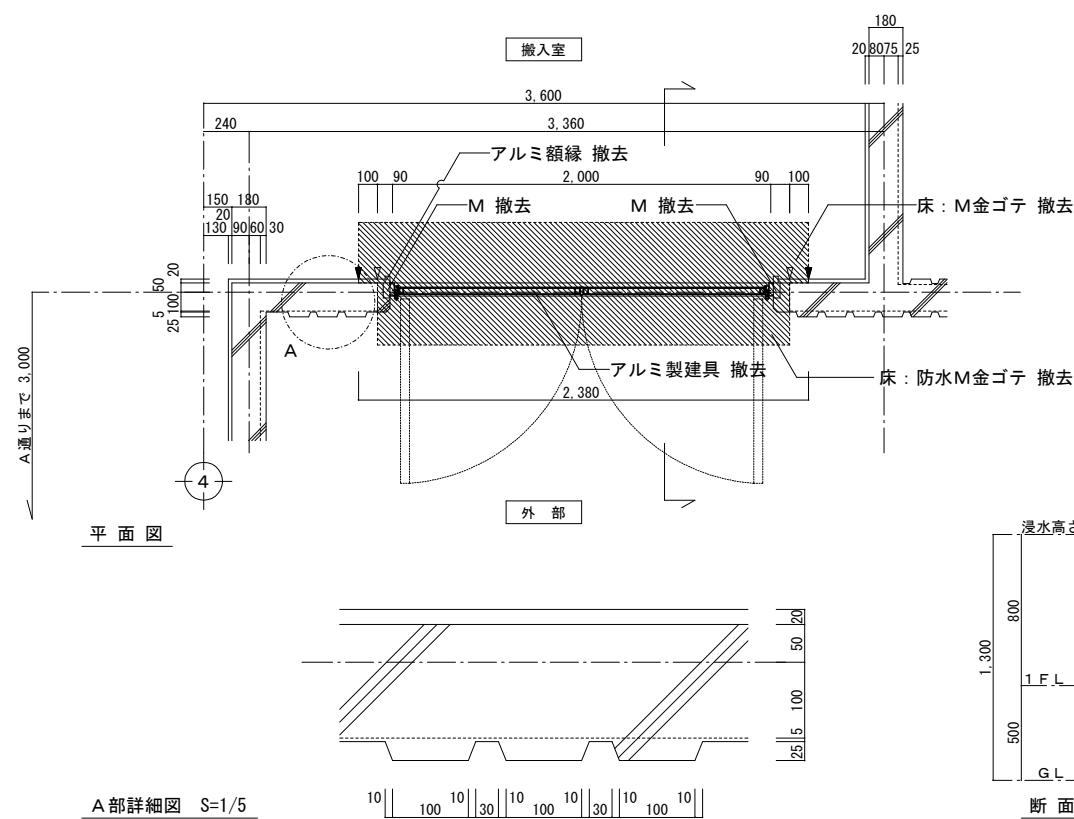
設計年度

令和5年度

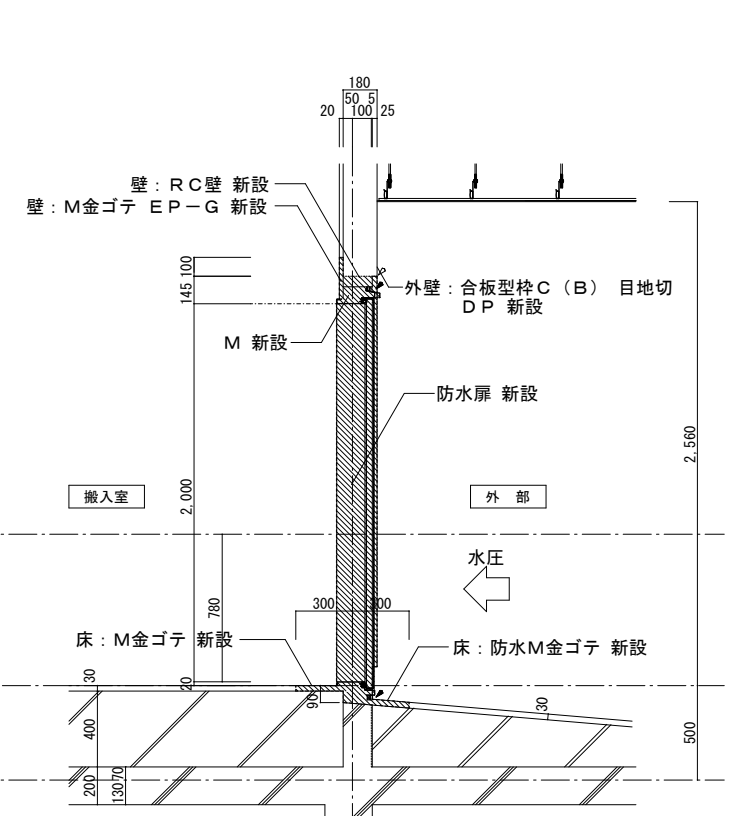
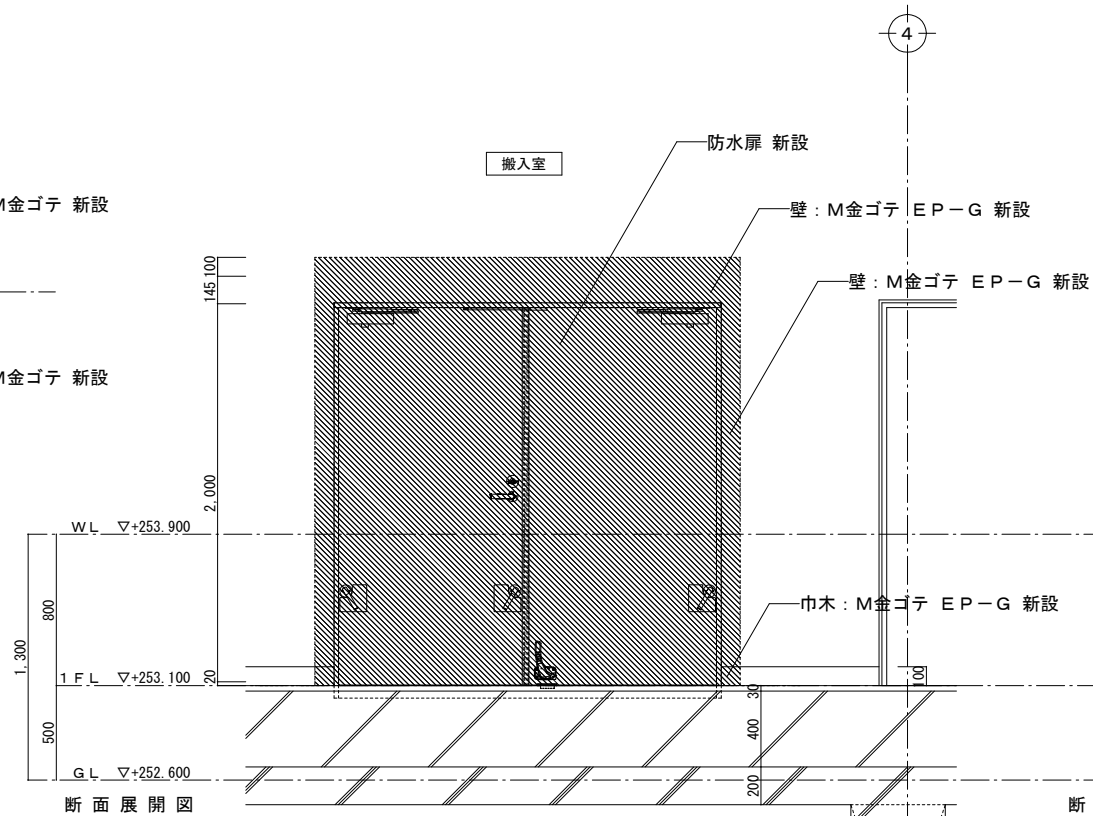
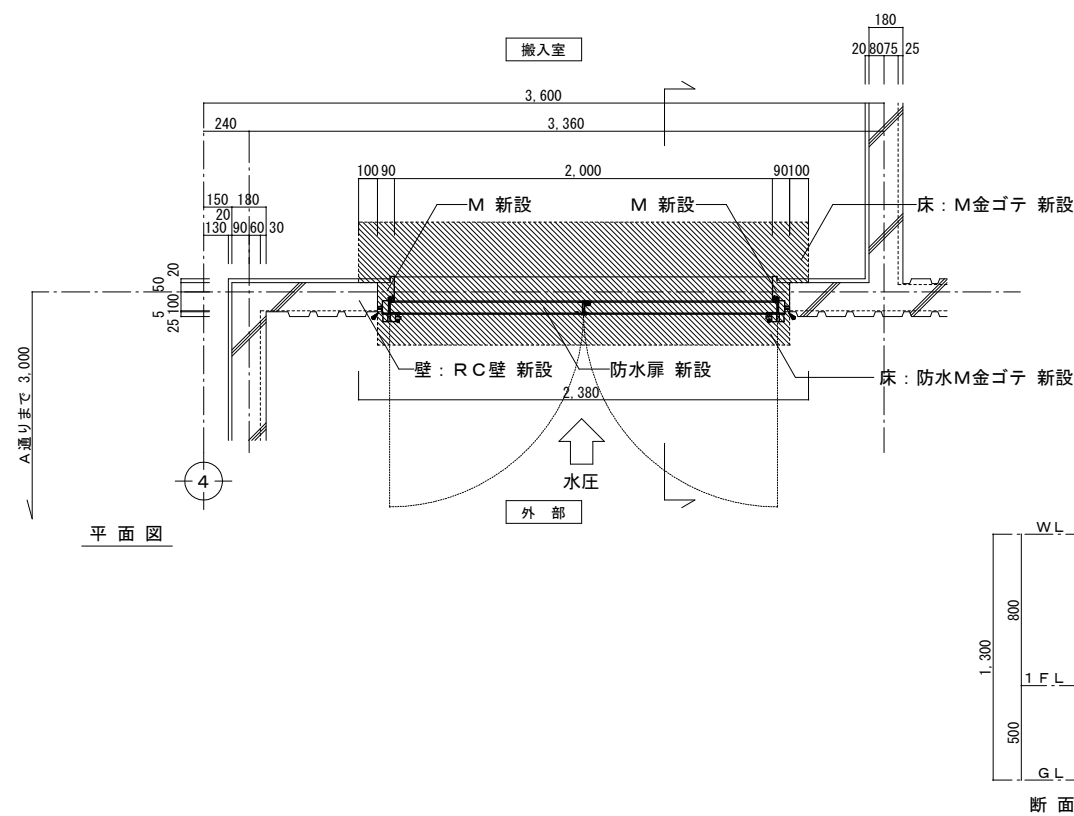
甲府市上下水道局




A通り+3,000 4～5間 仕上 一部撤去、アルミ製建具 撤去



A通り+3,000 4～5間 仕上 一部新設、防水扉 新設



 撤去・新設（復旧）範囲

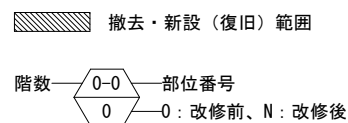
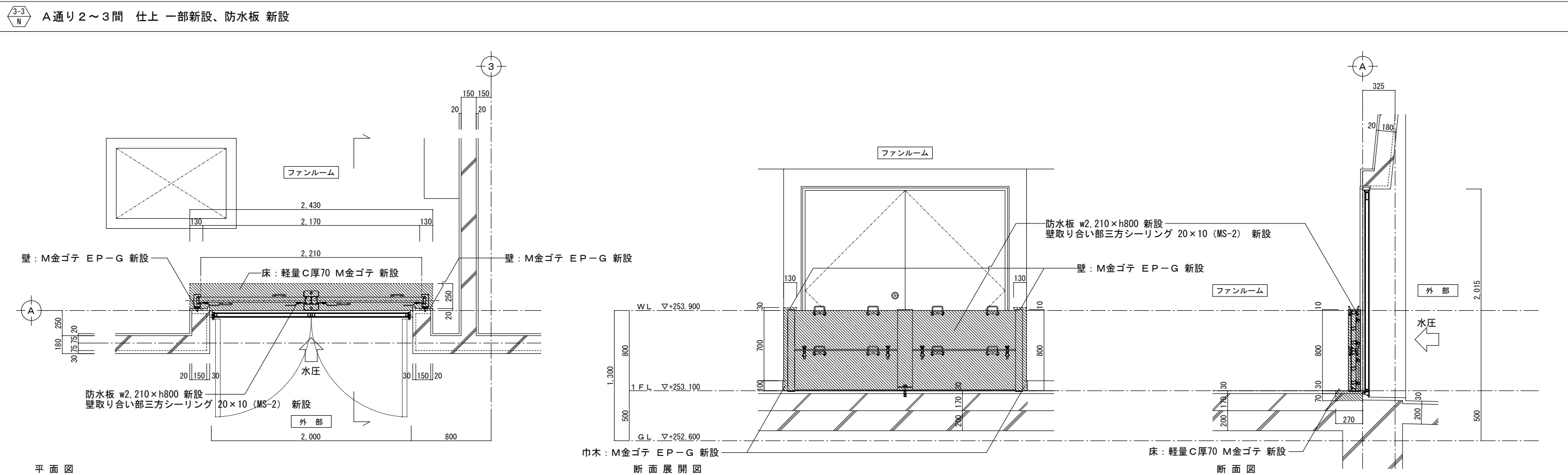
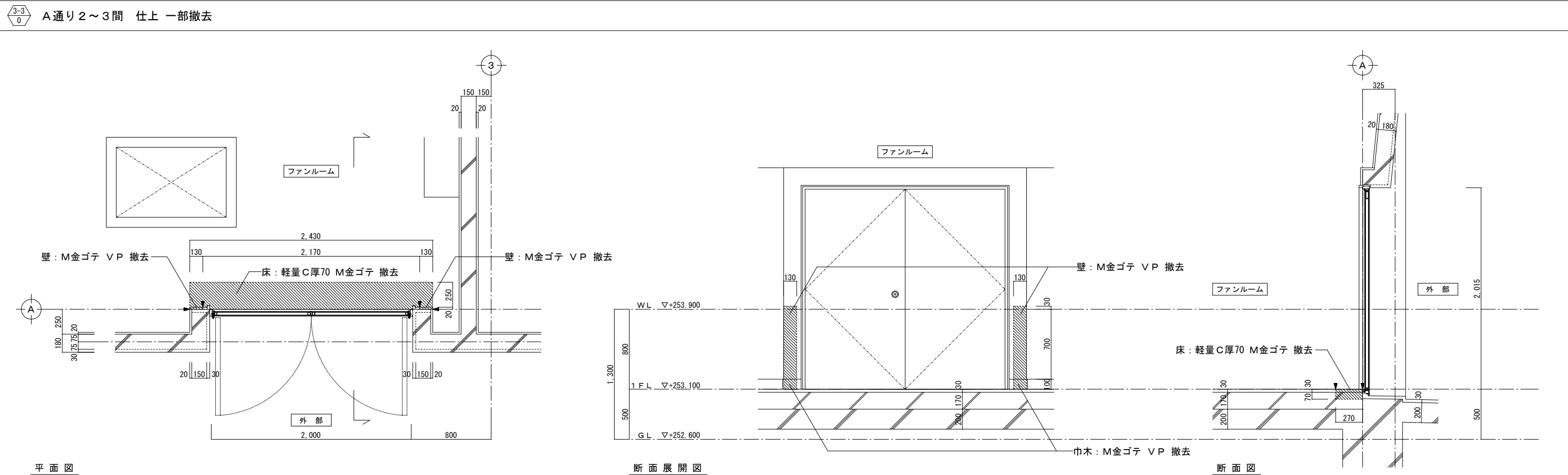
階数—0-0—部位番号
0—0：改修前、N：改修後

▽ カッター入れ（躯体） ♪ シーリング20x10（PU-2）
▼ カッター入れ（仕上） ♪ シーリング20x10（MS-2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（２）（改修前後）		
図面番号	30-12		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

改修後

凡例

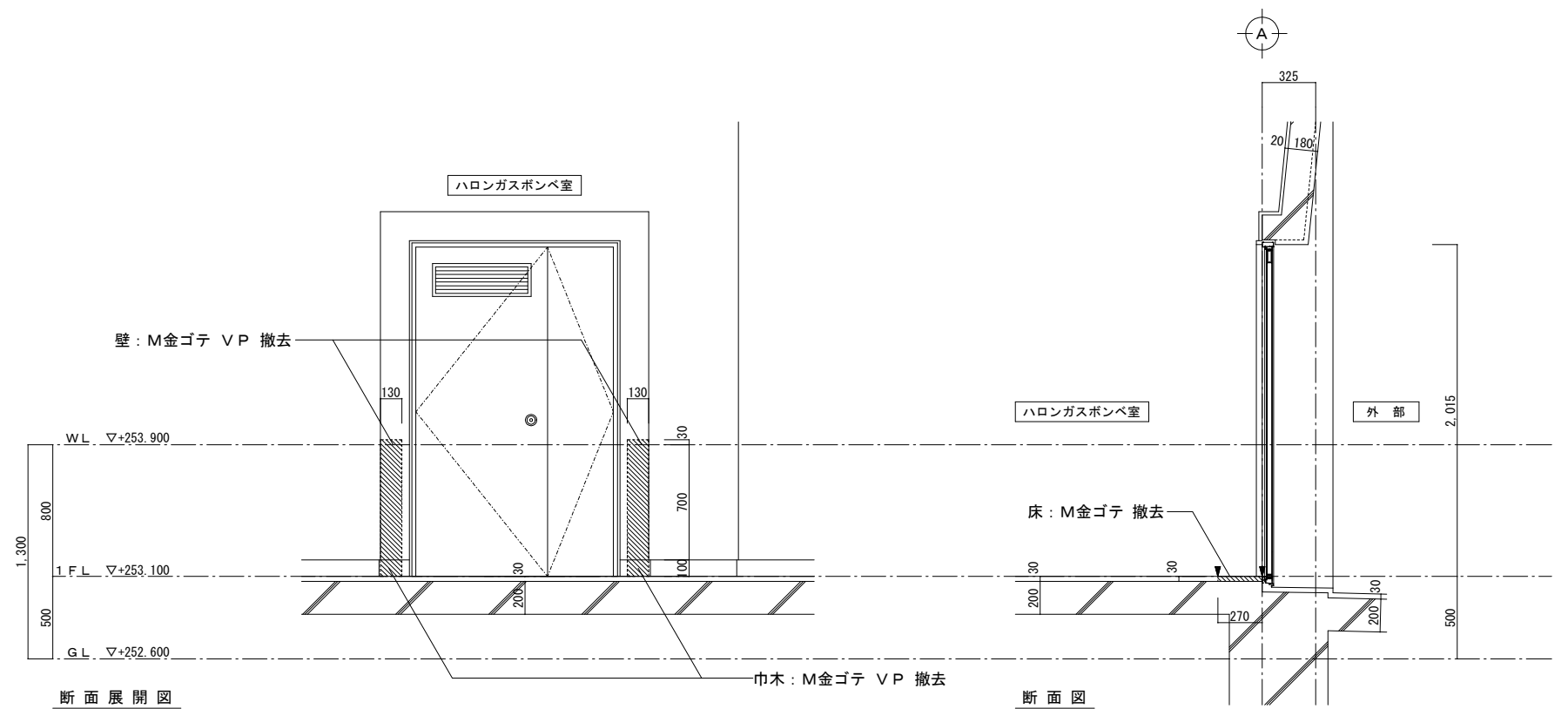
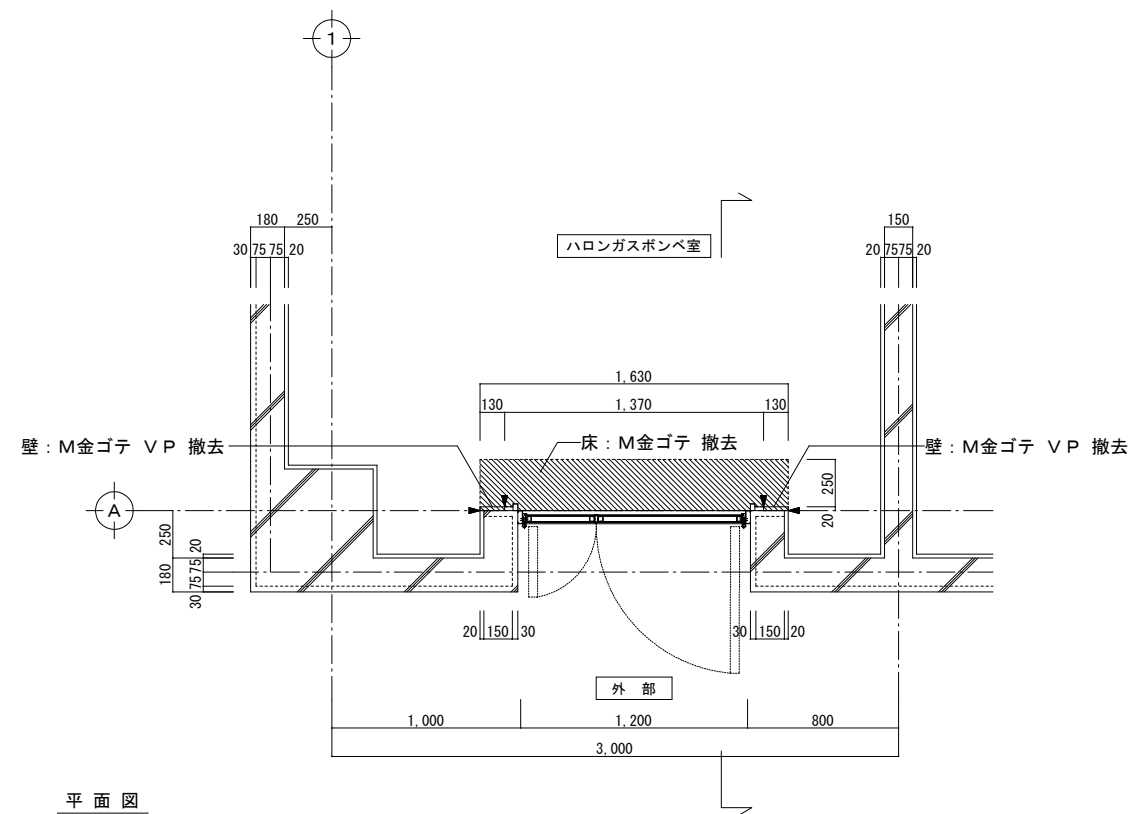


甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（３）（改修前後）		
図面番号	3D-13		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

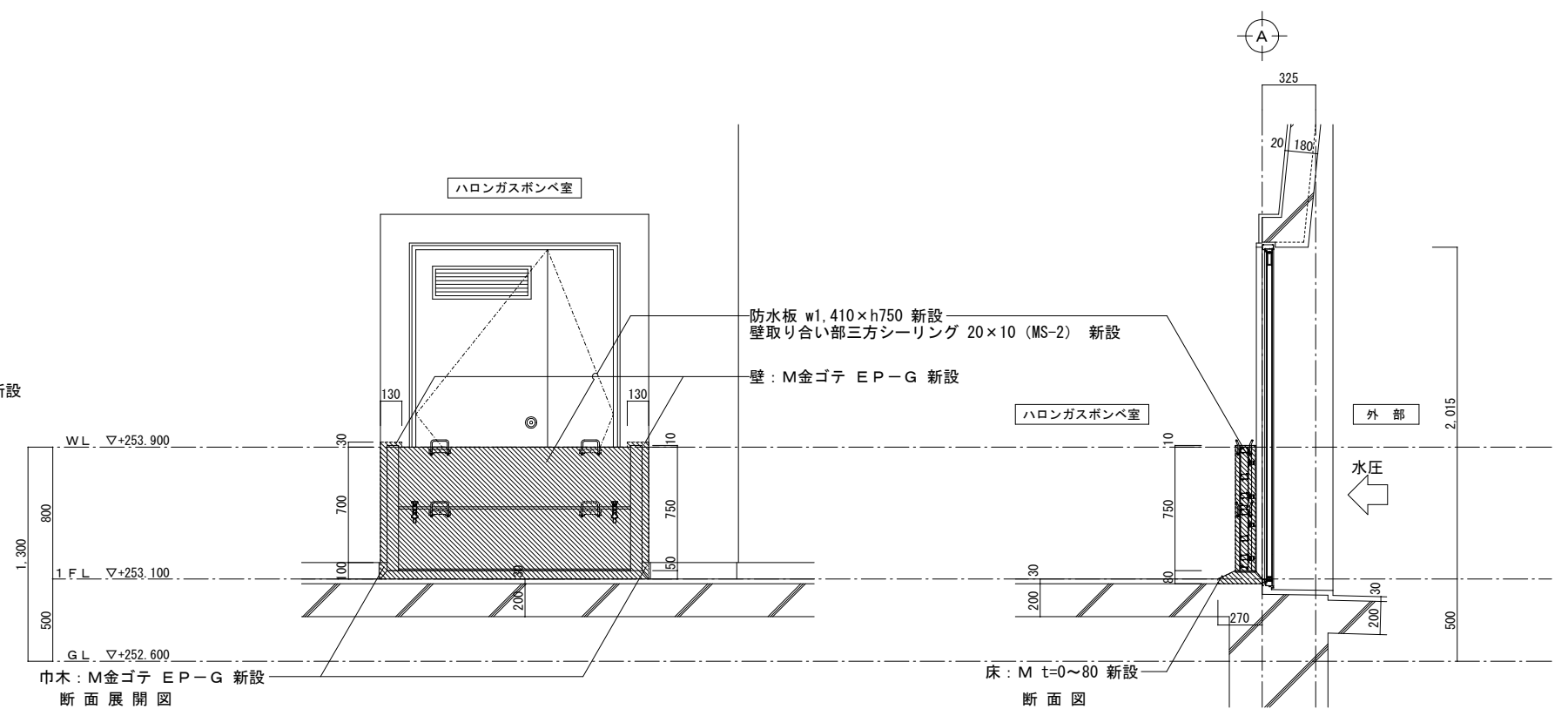
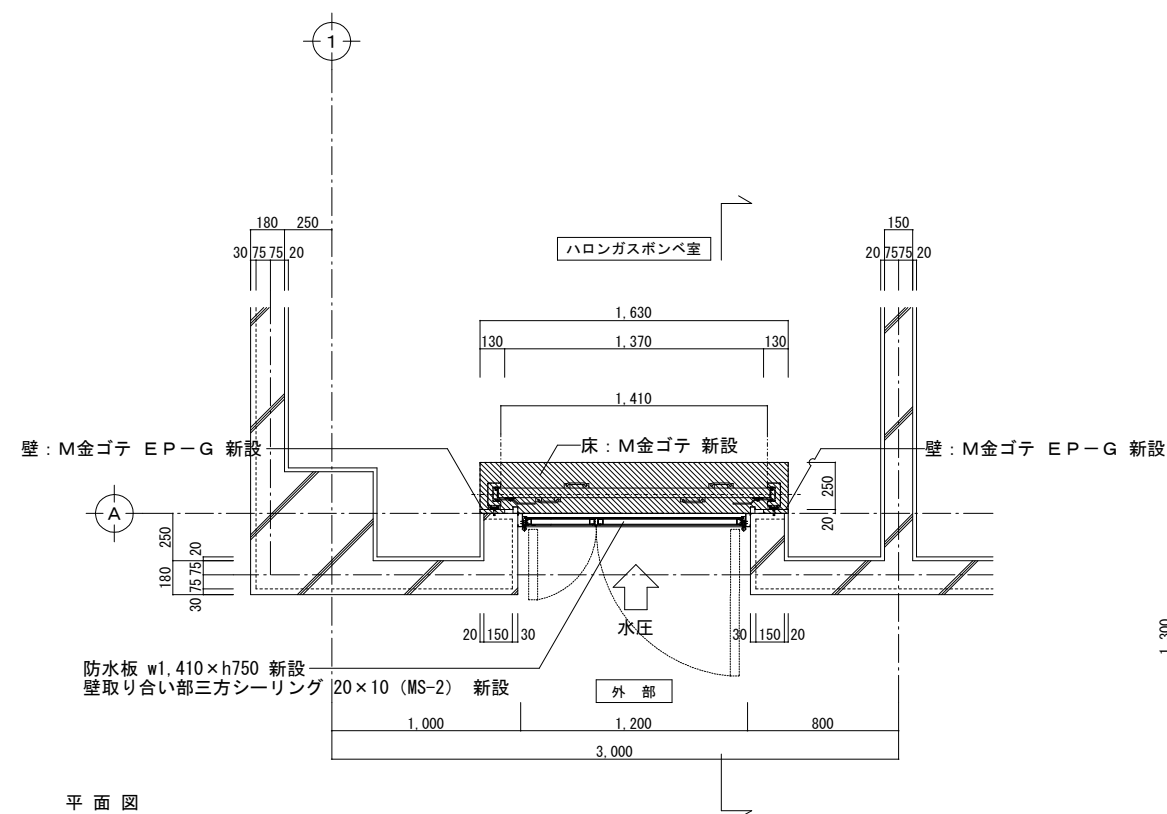
改修後


凡例

 A通り 1～2間 仕上 一部撤去



 A通り 1～2間 仕上 一部新設、防水板 新設



 撤去・新設（復旧）範囲

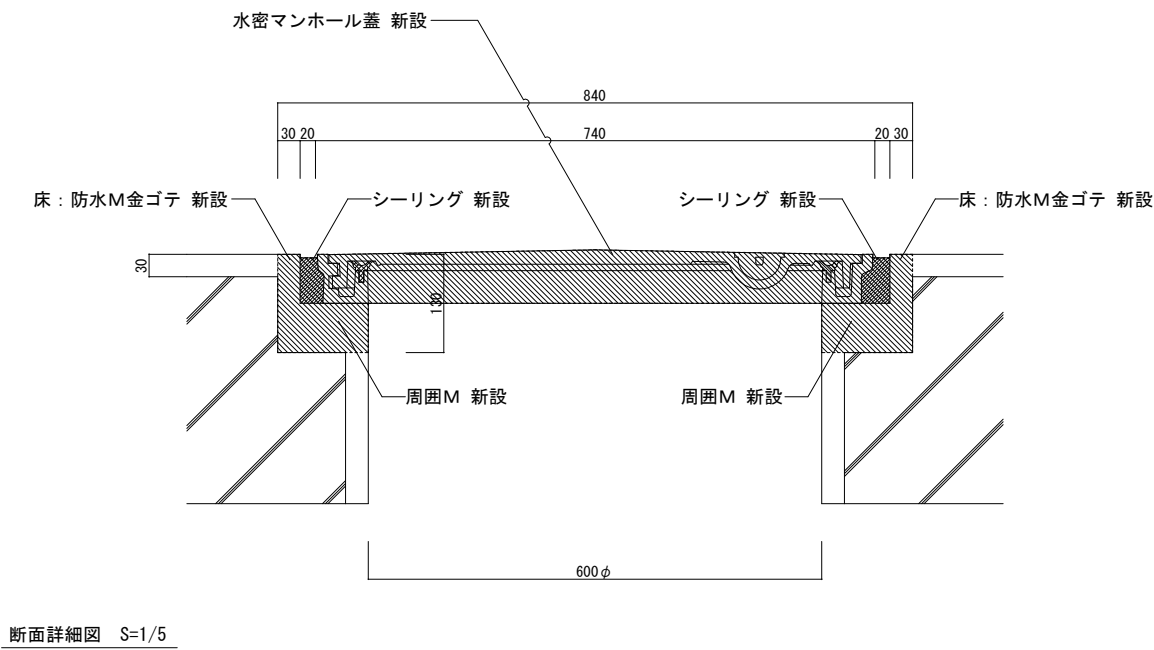
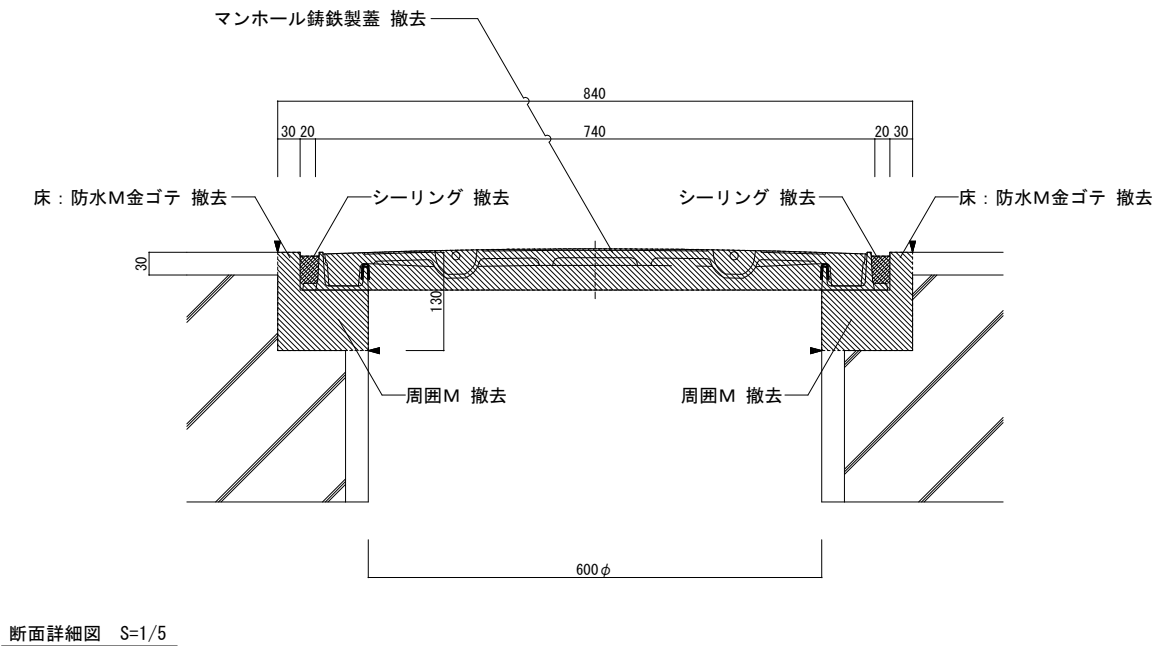
階数— 0-0 — 部位番号
0 — 0 : 改修前、N : 改修後

▽ カッター入れ（躯体） ヽ シーリング20x10（PU-2）
▼ カッター入れ（仕上） ヽ シーリング20x10（MS-2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（４）（改修前後）		
図面番号	3D-14		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

改修後

凡例



撤去・新設（復旧）範囲

階数 — 0-0 — 部位番号

0 — 0: 改修前、N: 改修後

▽ カッター入れ（駆体） ♡ シーリング20x10（P U-2）
 ▼ カッター入れ（仕上） ♡ シーリング20x10（MS-2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（5）（改修前後）		
図面番号	3D-15		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

A通り 1～3間 仕上 一部撤去



改
修
前

A通り 1～3間 仕上 一部新設、防水板 新設



改修後

凡
例

 撤去・新設（復旧）範圍

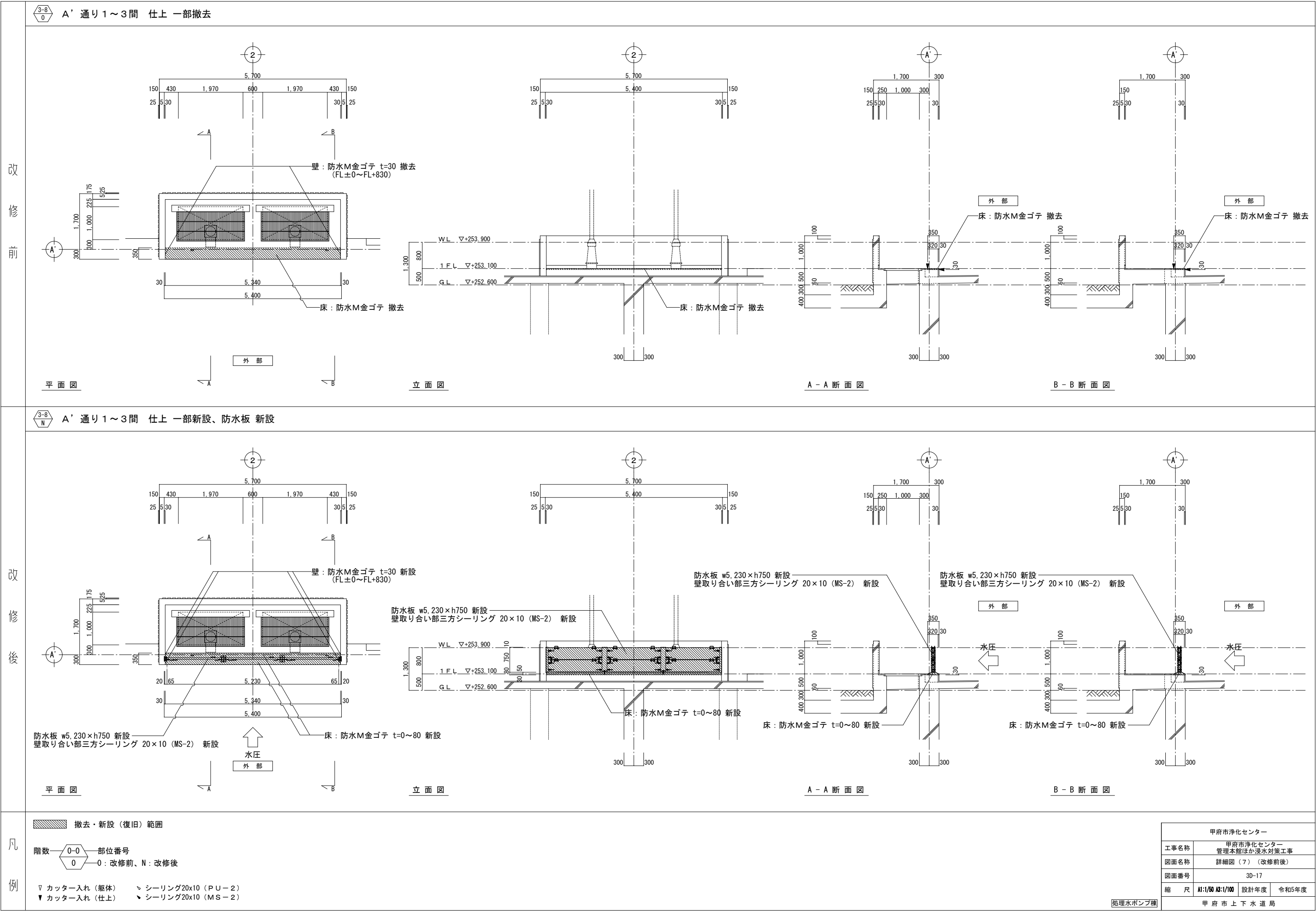
階数——0-0——部位番号

0 : 改修前、N : 改修後

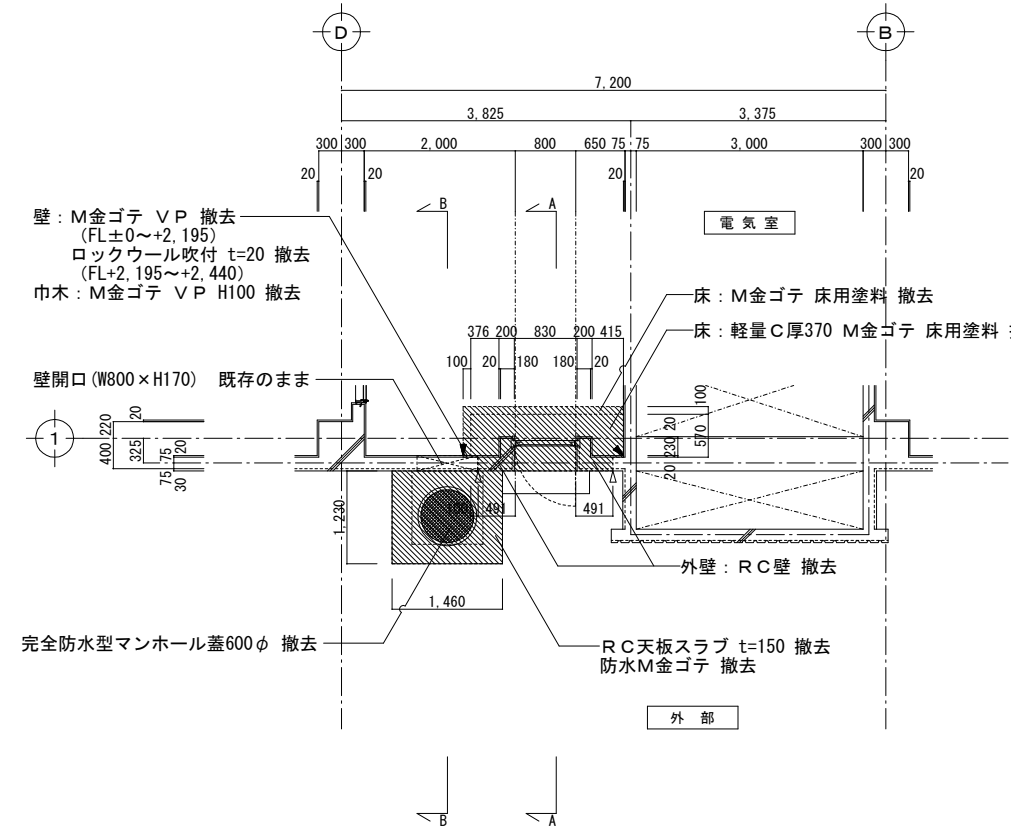
▽ カッター入れ (躯体) ♡ シーリング20x10 (PU-2)
▼ カッター入れ (仕上) ♡ シーリング20x10 (MS-2)

処理水ポンプ棟

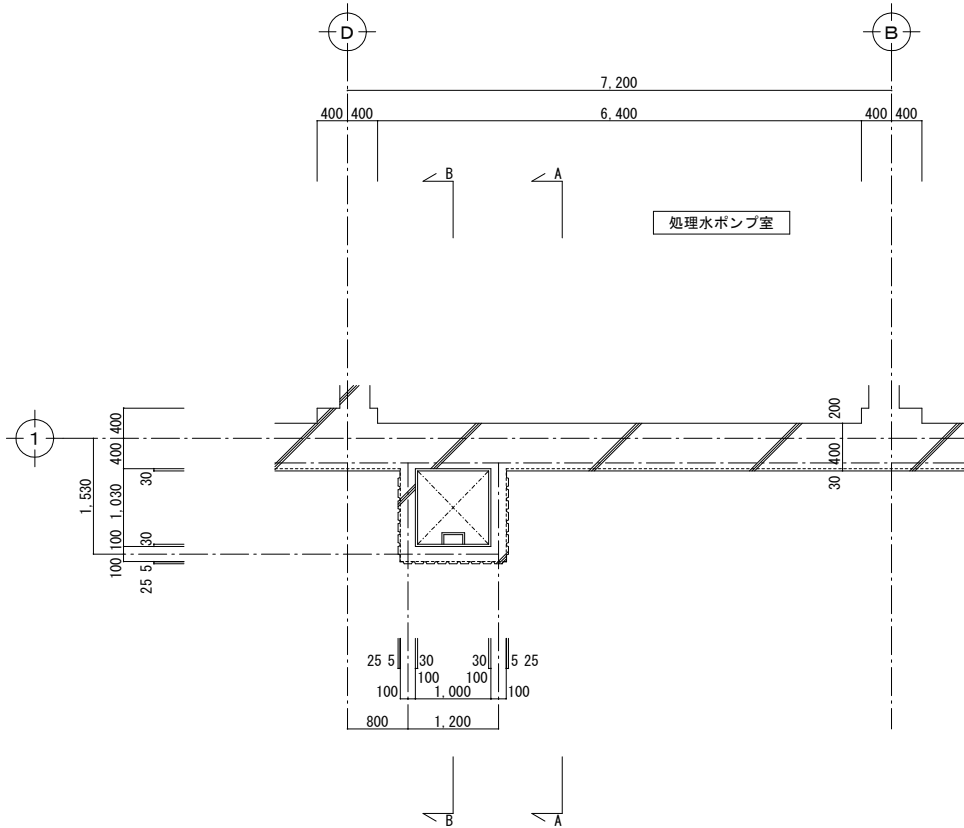
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図（６）（改修前後）		
図面番号	3D-16		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



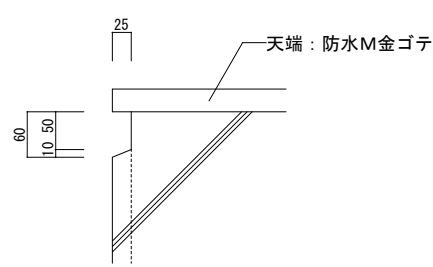
改
修
前



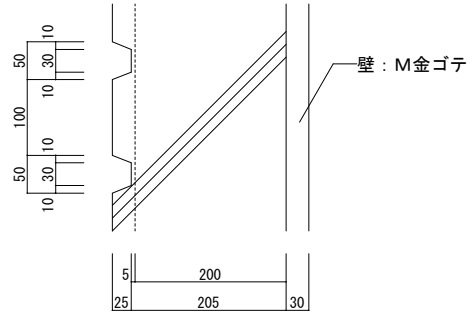
平面図



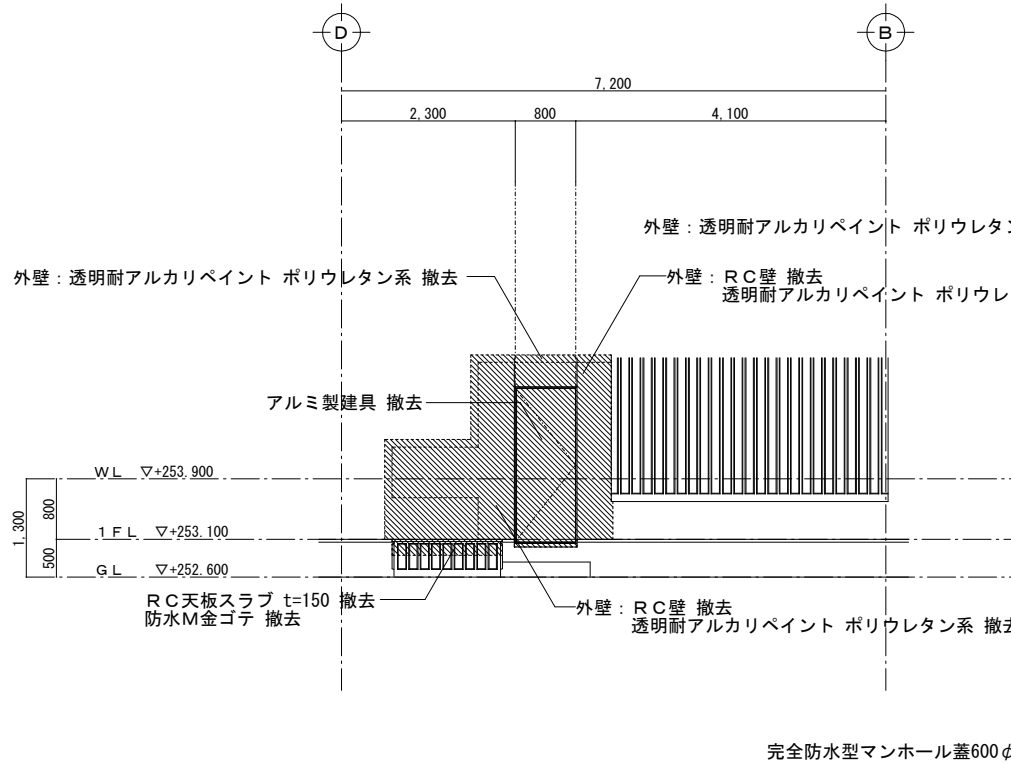
平面図 (FL-800)



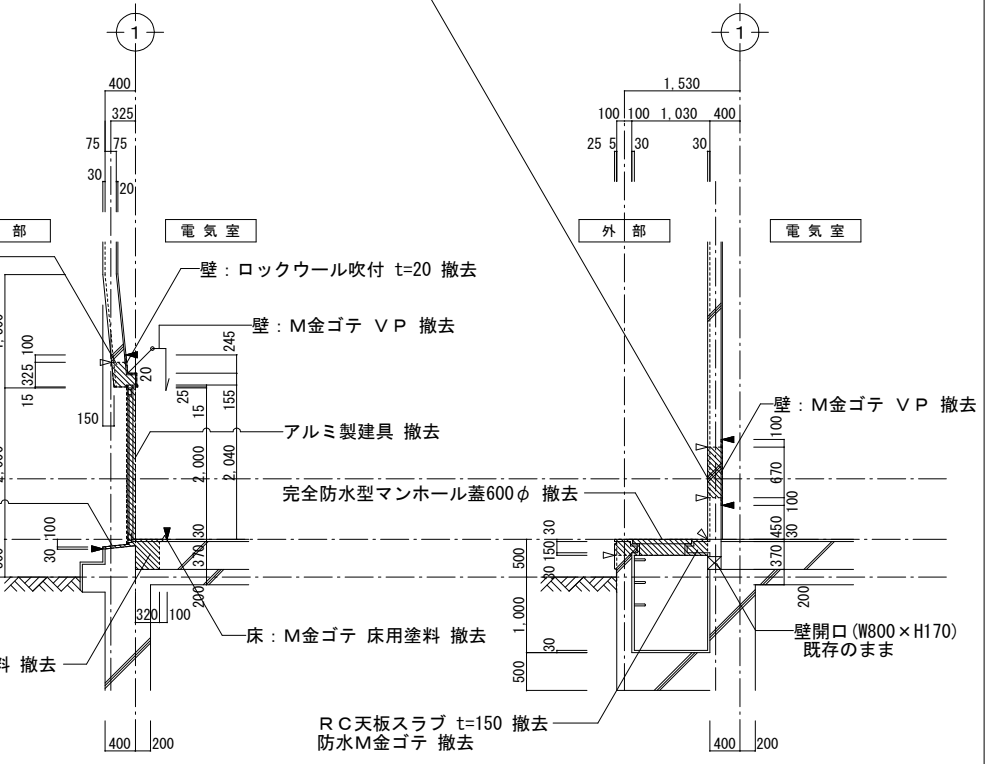
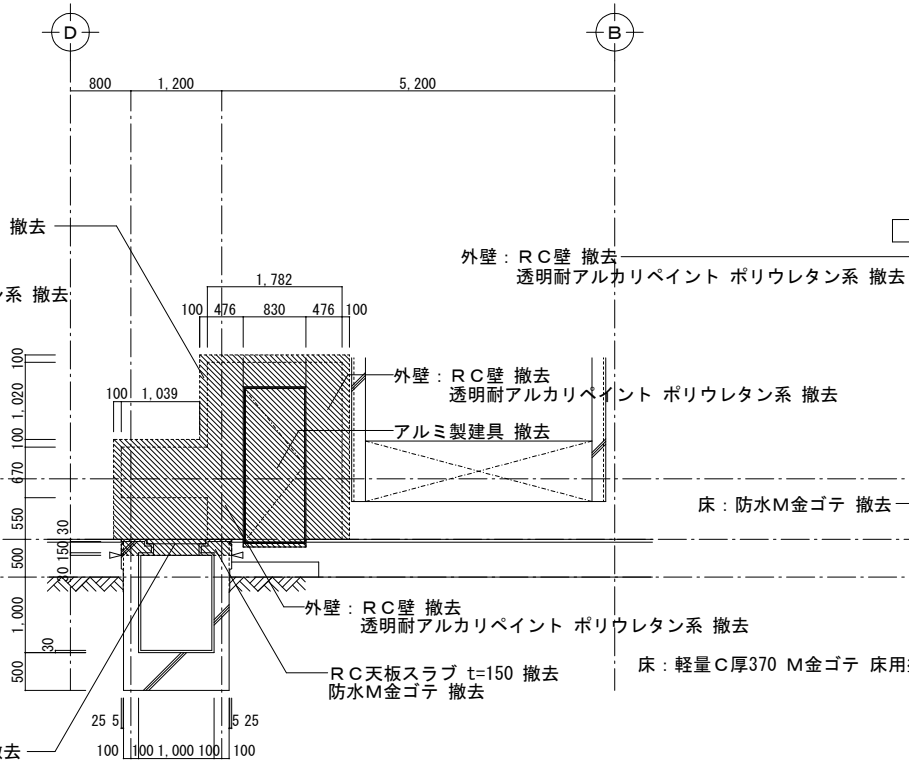
ハンドホール頂部詳細図 S=1/5



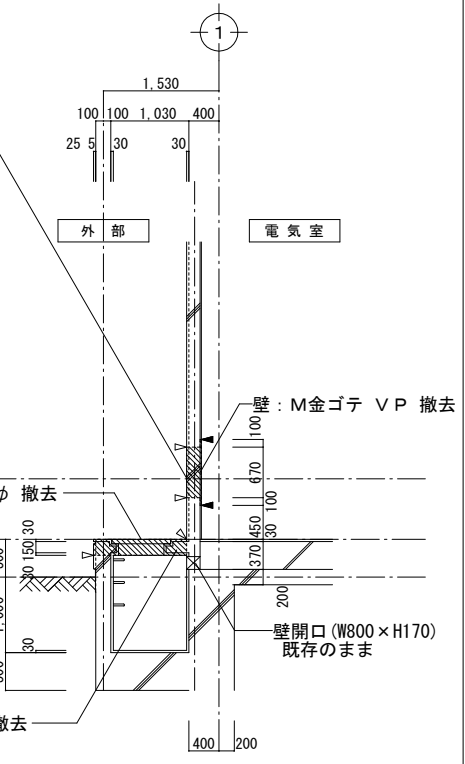
ハンドホール壁化粧リブ詳細図 S=1/5



立面図



A-A断面図



B-B断面図

凡
例

撤去・新設（復旧）範囲
階数 0-0 部位番号
0 0: 改修前、N: 改修後

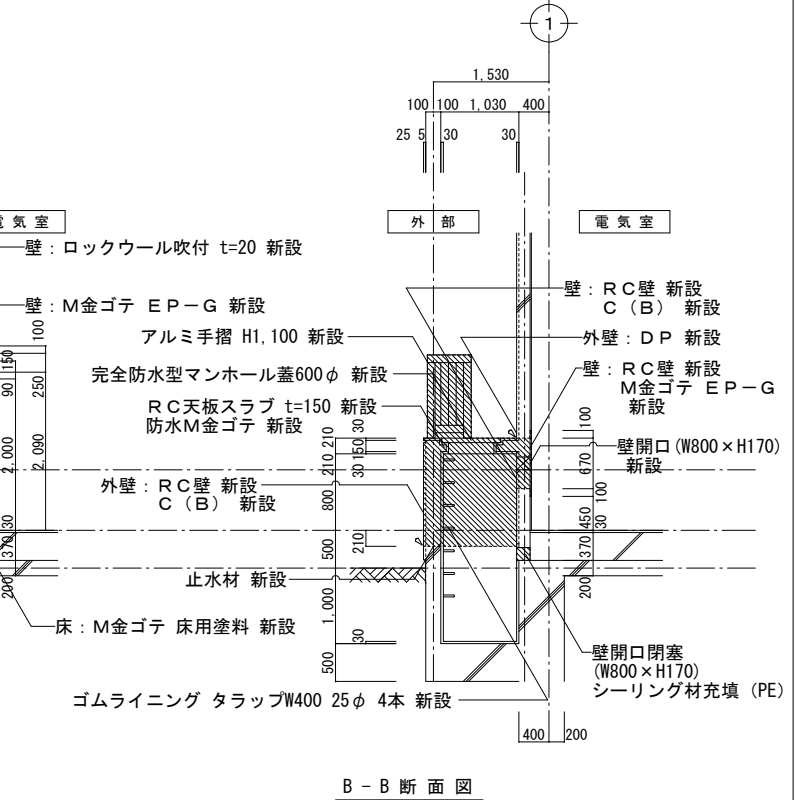
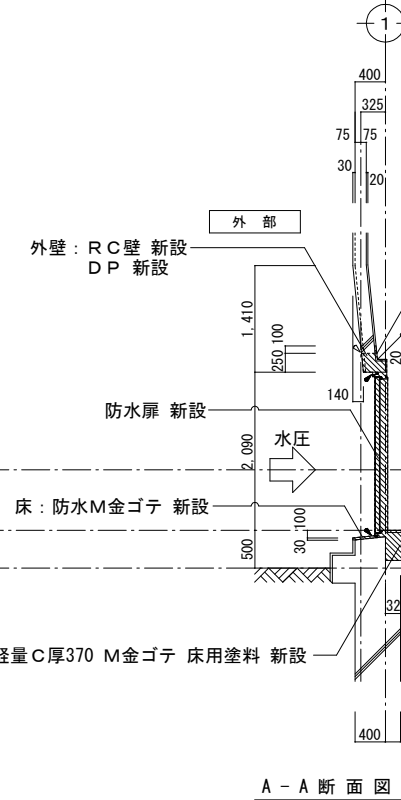
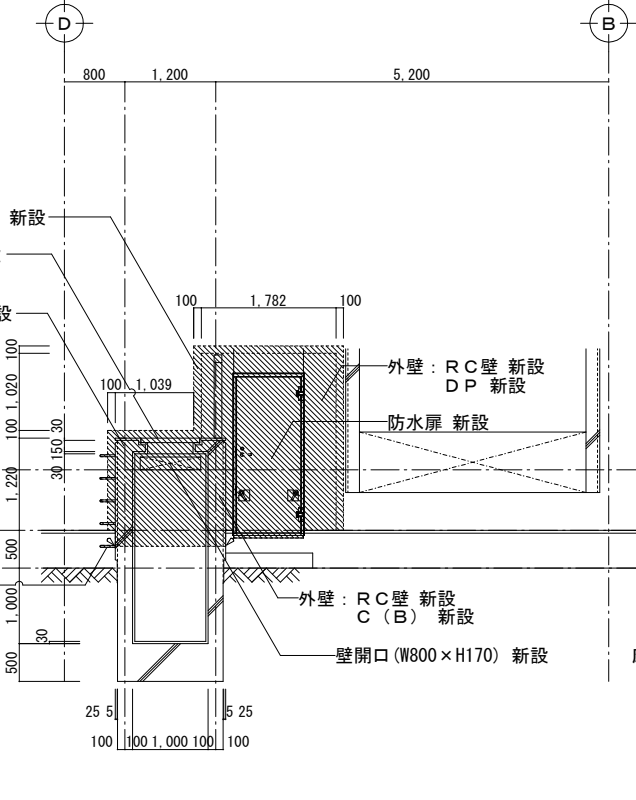
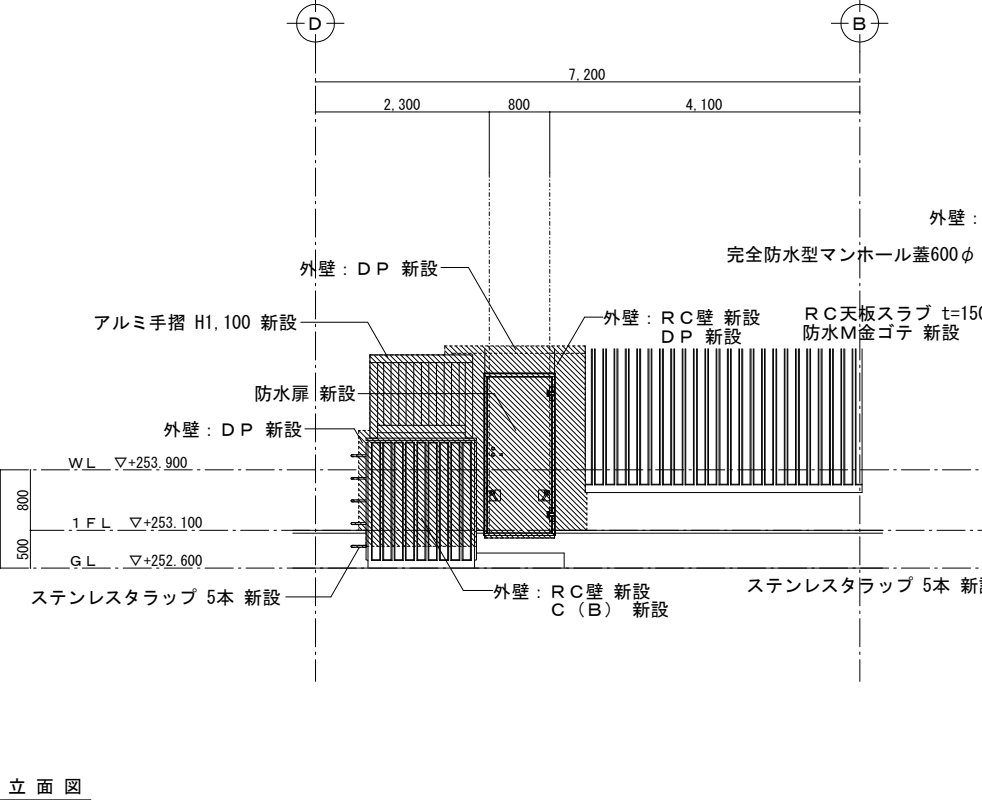
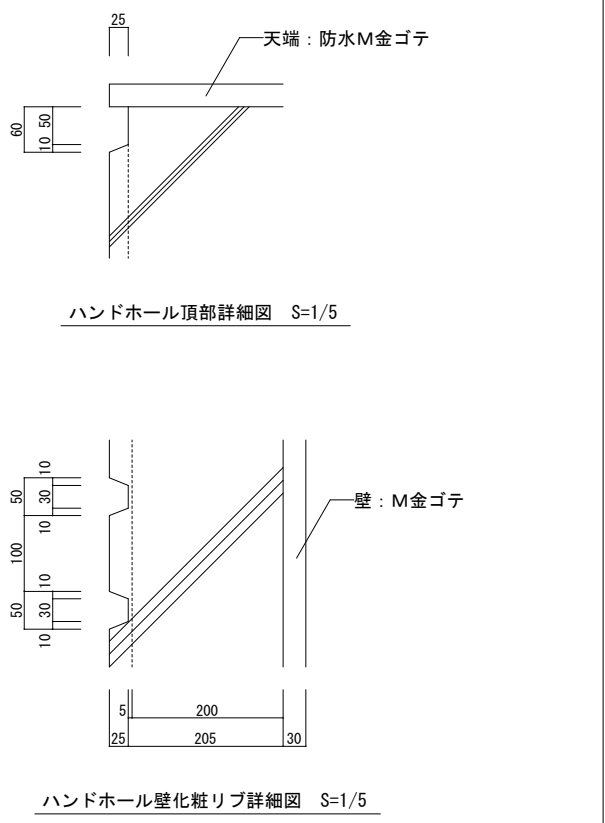
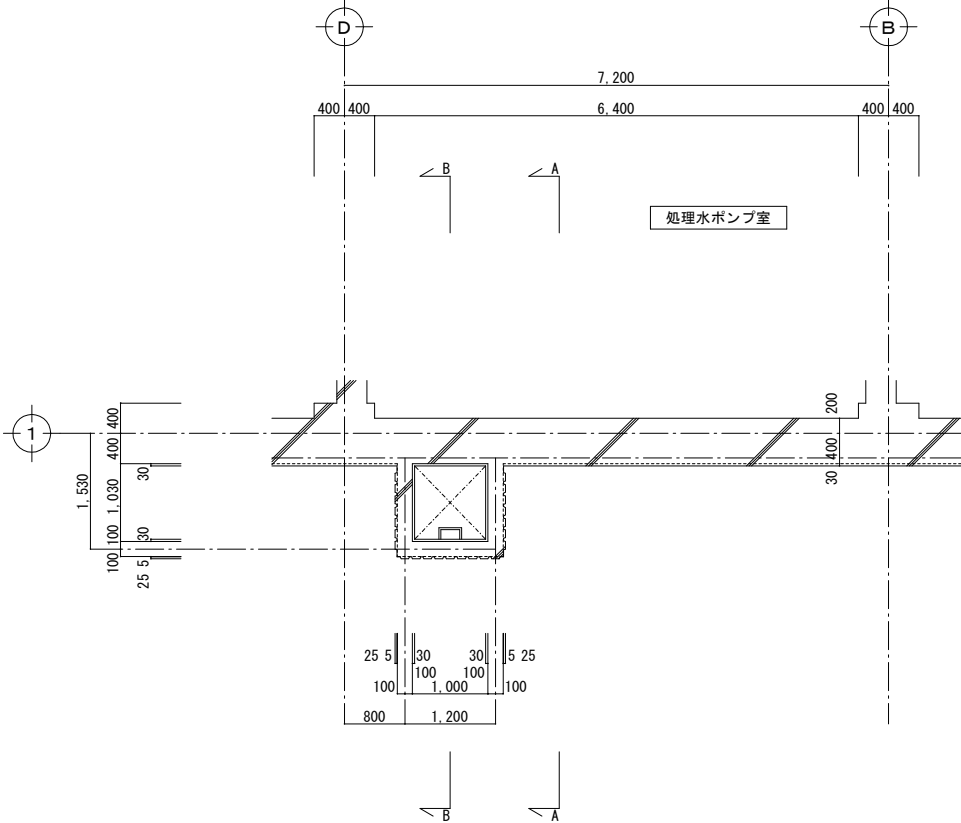
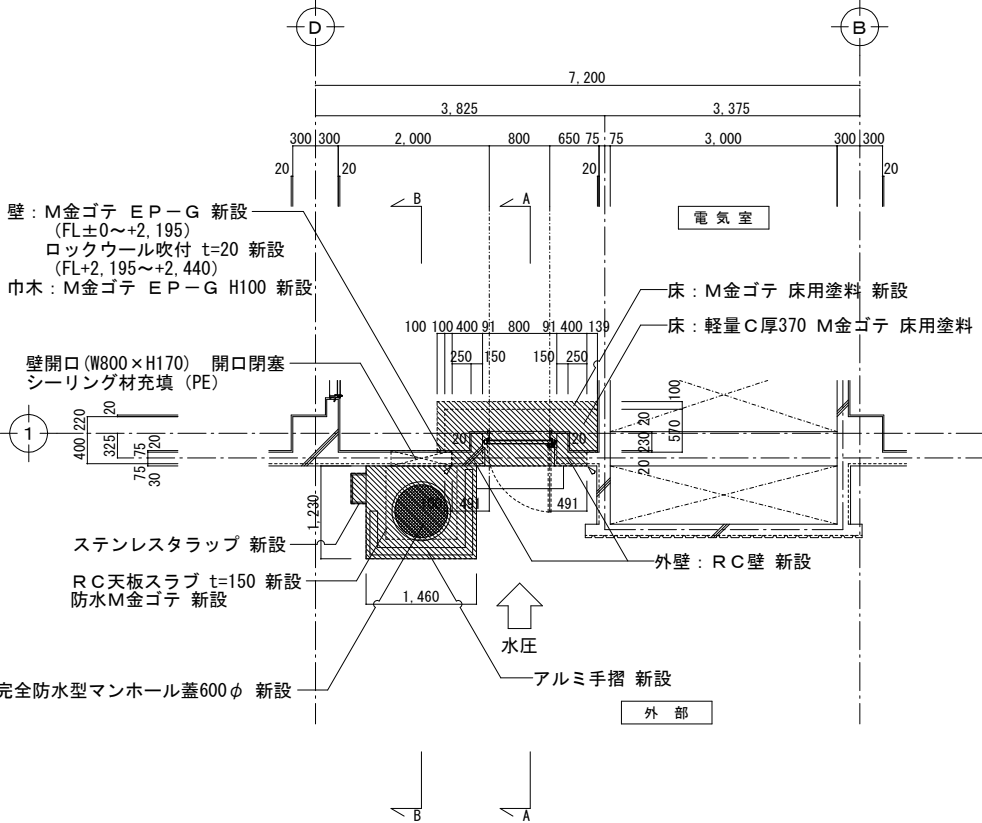
▽ カッター入れ（躯体）
▼ カッター入れ（仕上）

▽ シーリング20x10（PU-2）
▼ シーリング20x10（MS-2）

処理水ポンプ棟

甲府市浄化センター	
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事
図面名称	詳細図（8）（改修前）
図面番号	3D-18
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100 設計年度 令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局	

改
修
後



凡
例

撤去・新設 (復旧) 範囲

階数 0-0 部位番号

0 0: 改修前、N: 改修後

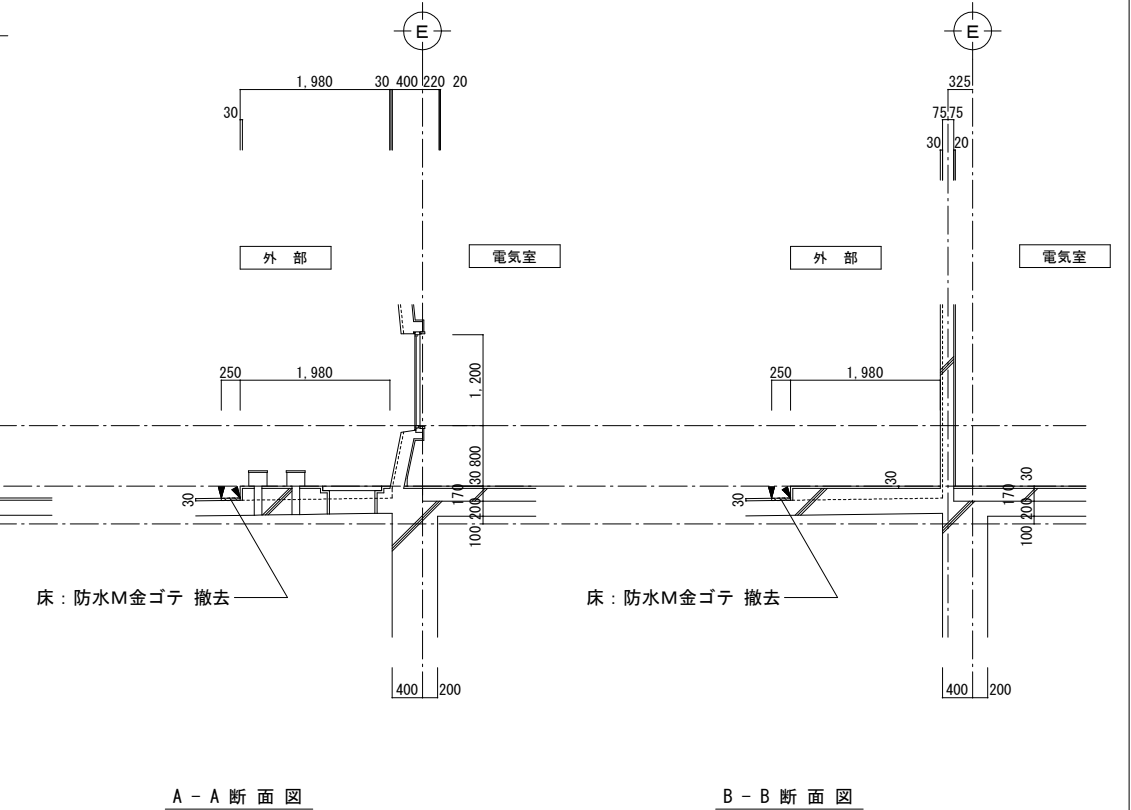
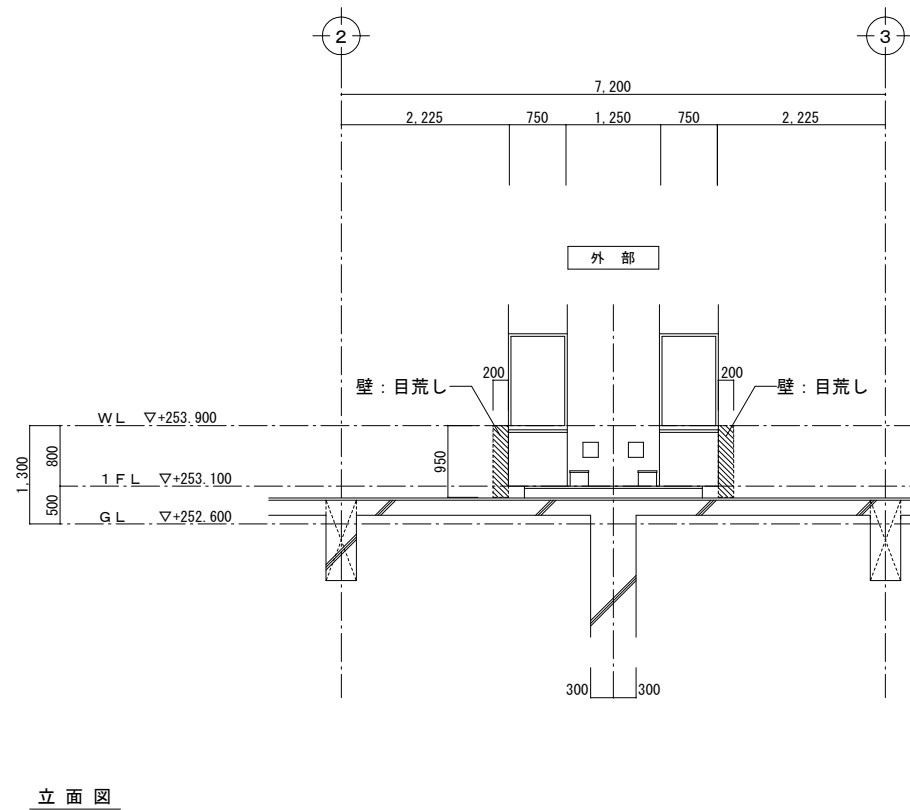
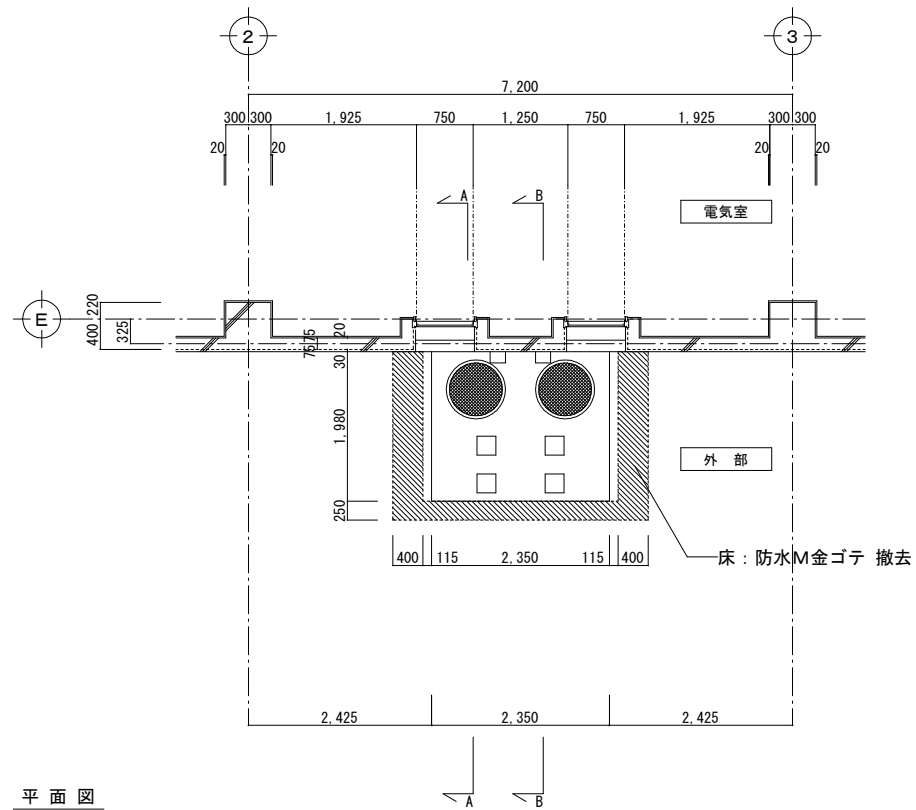
▽ カッター入れ (躯体) ヽ シーリング20x10 (PU-2)

▼ カッター入れ (仕上) ヽ シーリング20x10 (MS-2)

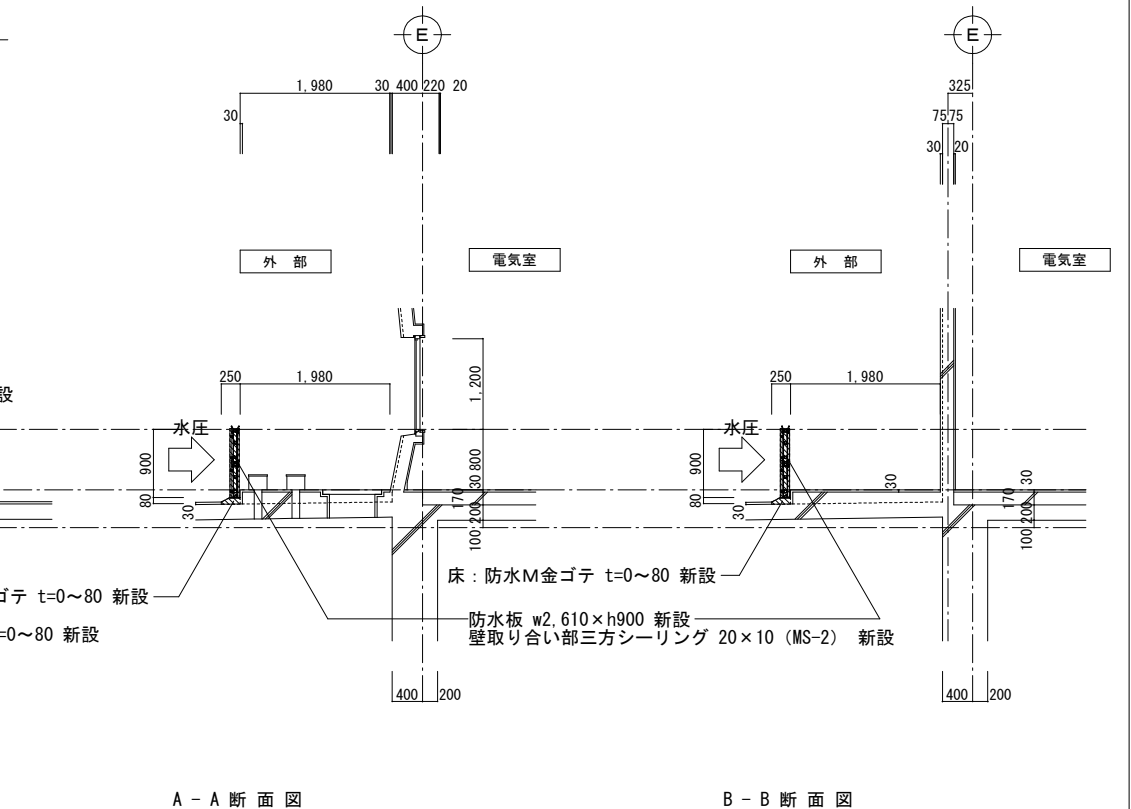
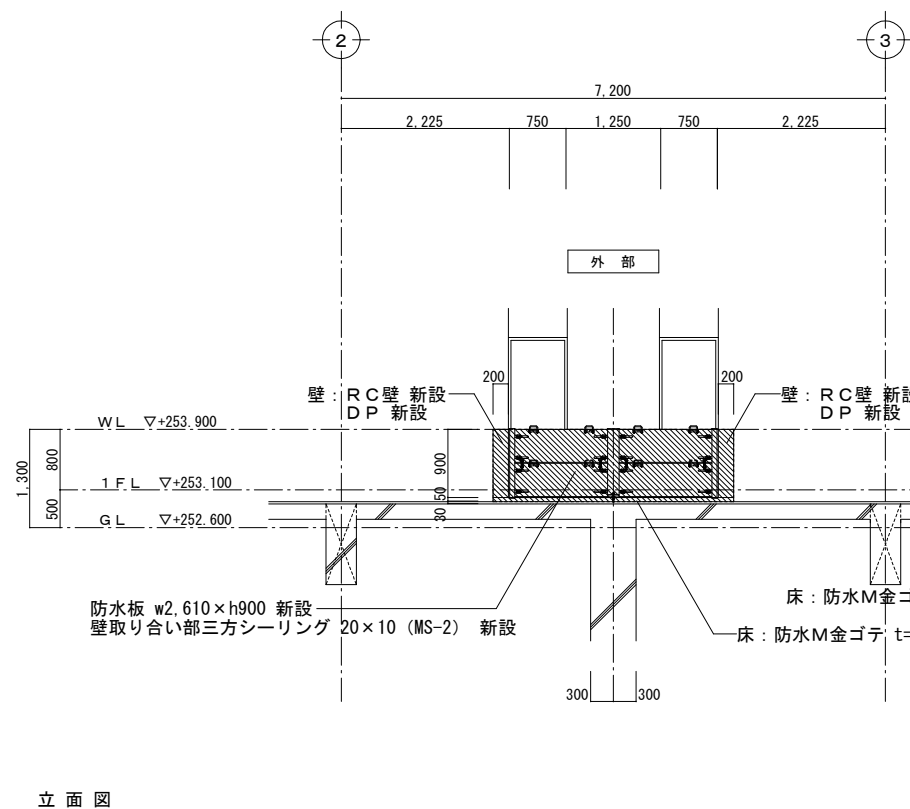
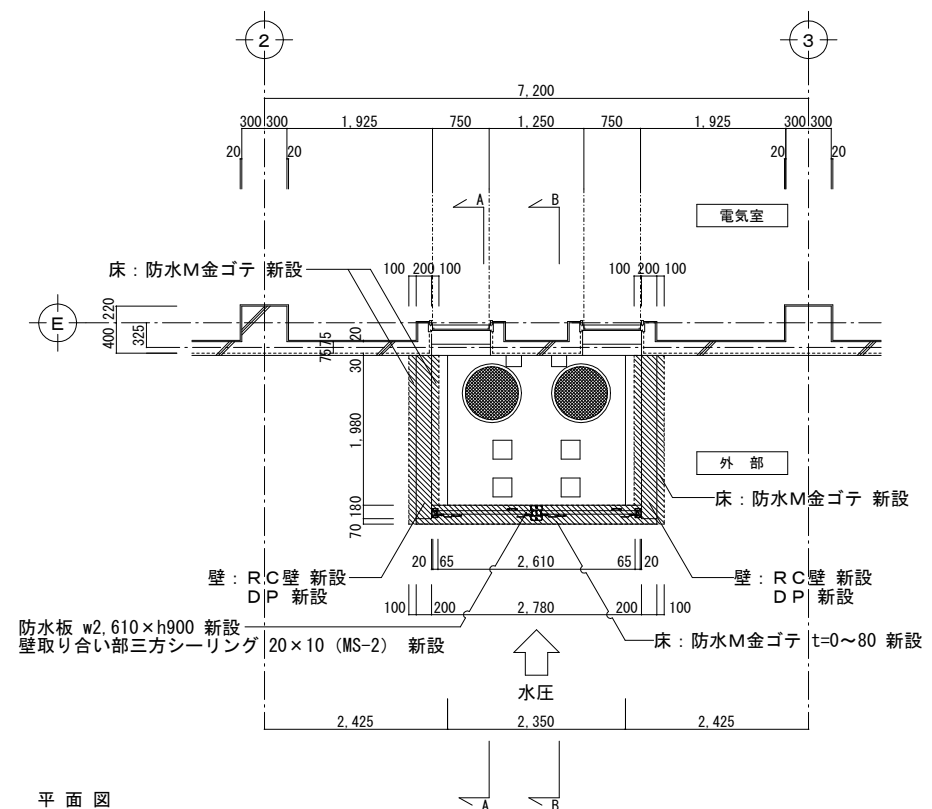
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図 (9) (改修後)		
図面番号	3D-19		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			

処理水ポンプ棟

改
修
前



改修後



 撤去・新設（復旧）範囲

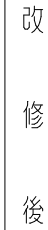
階数—0-0—部位番号
0—0：改修前、N：改修後

▽ カッター入れ（躯体） ♪ シーリング20x10（PU-2）
▼ カッター入れ（仕上） ♪ シーリング20x10（MS-2）

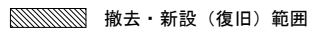
処理水ポンプ棟

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図 (10) (改修前後)		
図面番号	3D-20		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

改
修
前



凡例



▽ カッター入れ（躯体） ヶ シーリング20x10（PU-2）
▼ カッター入れ（仕上） ヶ シーリング20x10（MS-2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図 (11) (改修前後)		
図面番号	3D-21		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

処理水ポンプ棟

改
修
前

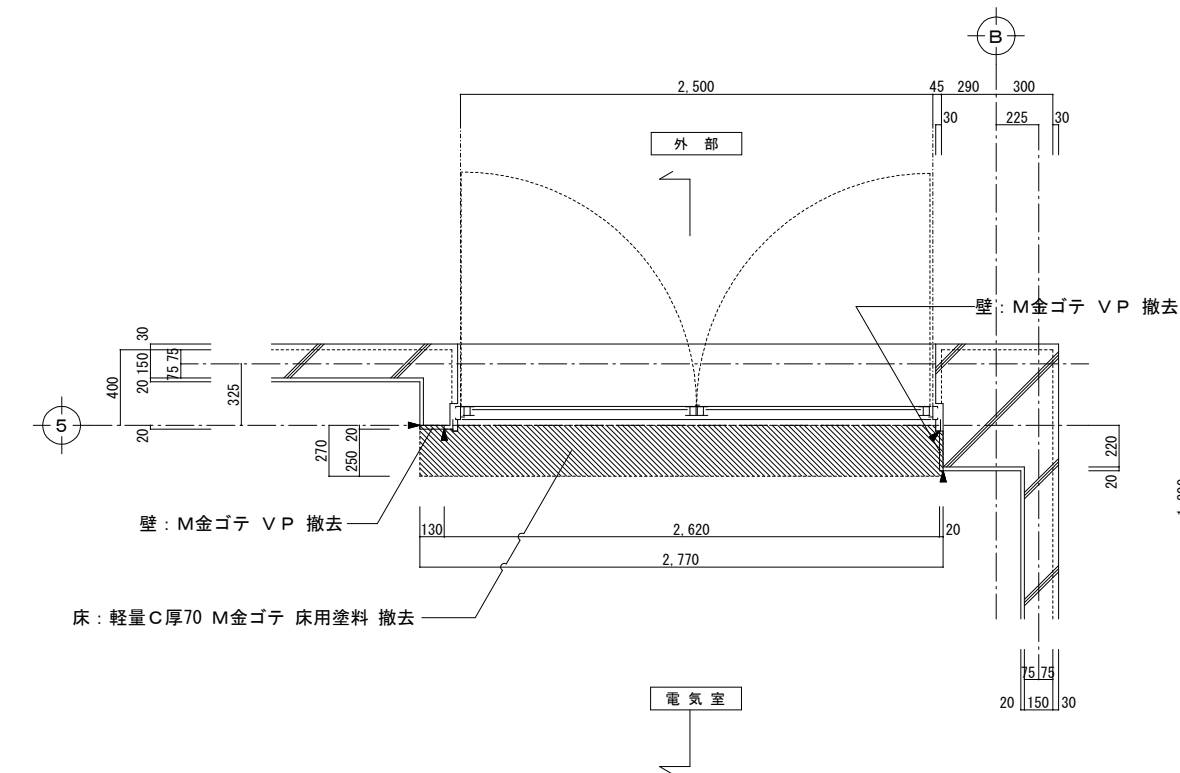


甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図 (12) (改修前後)		
図面番号	3D-22		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

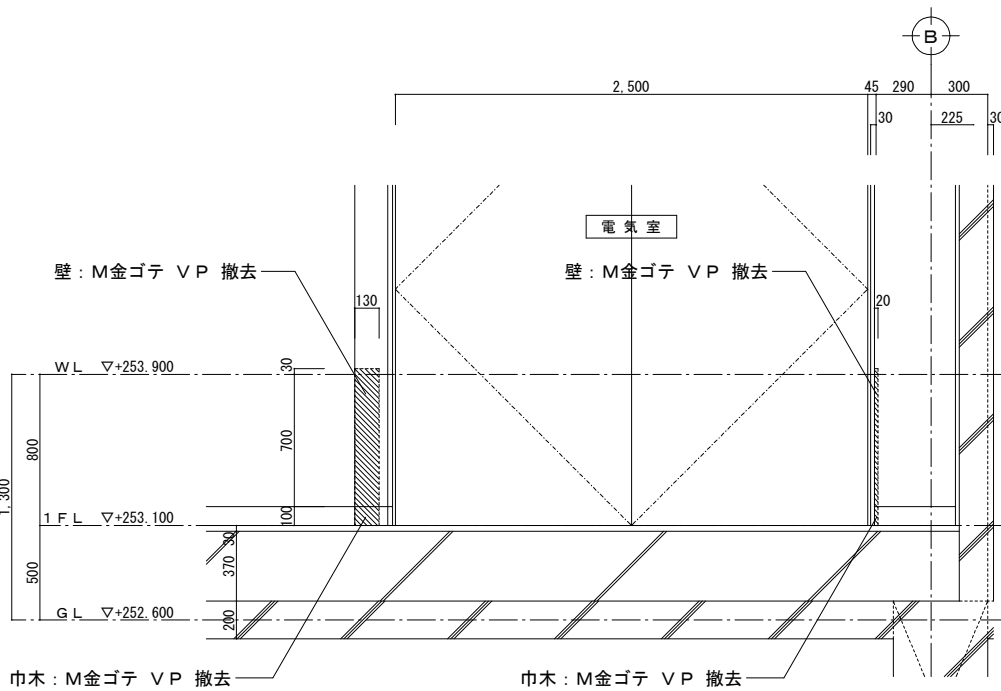
改修後

凡例

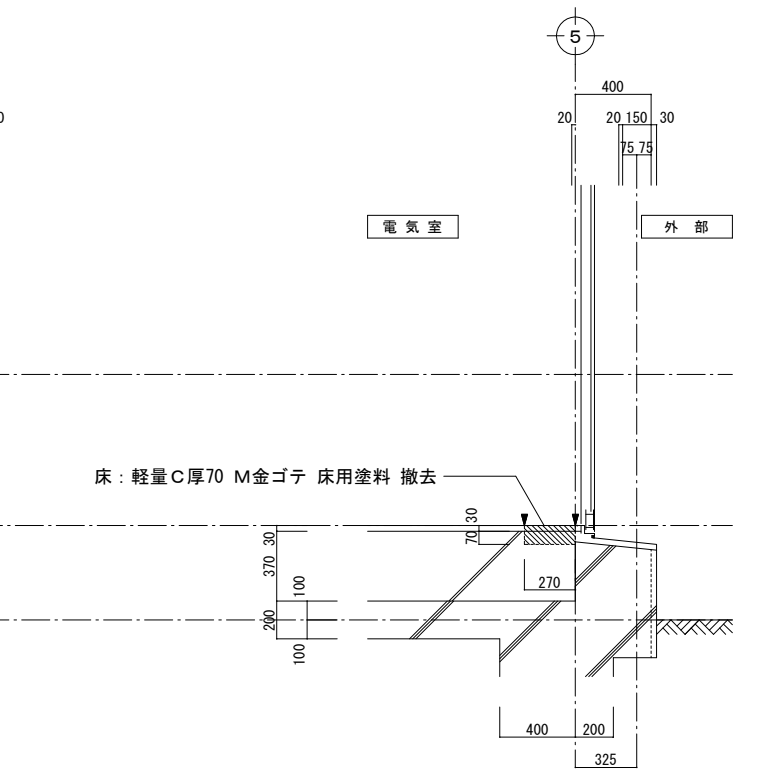
 5通り B～D間 仕上 一部撤去



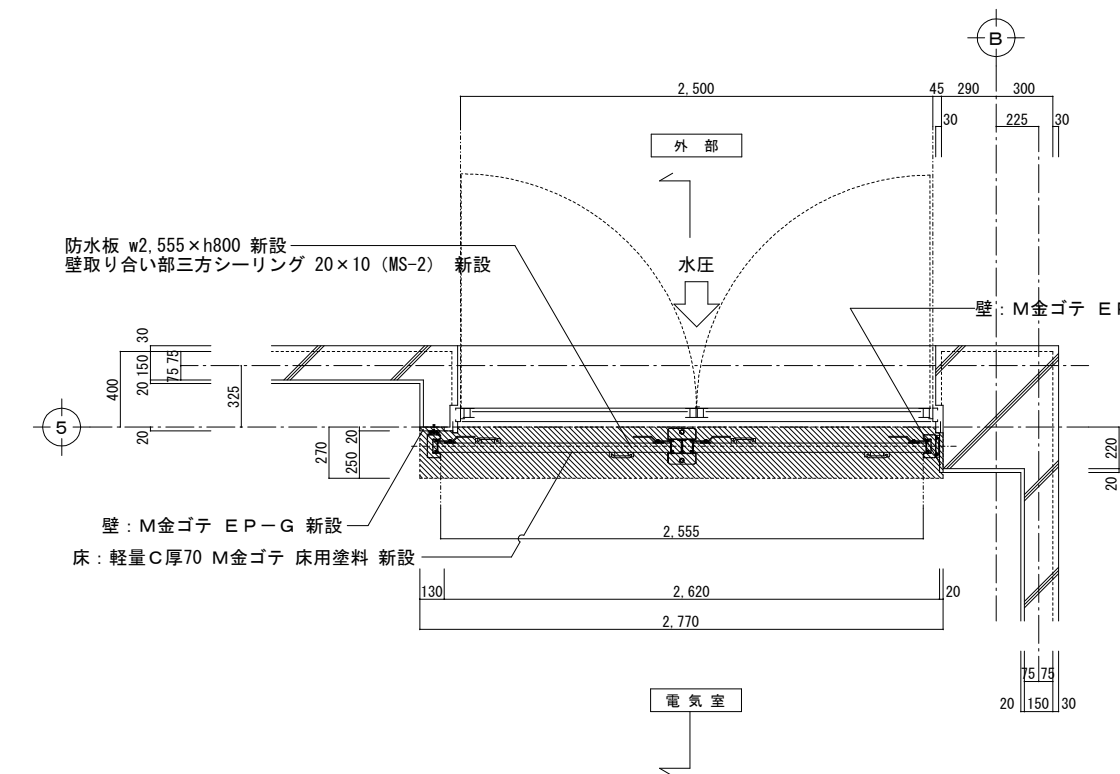
断面展開図



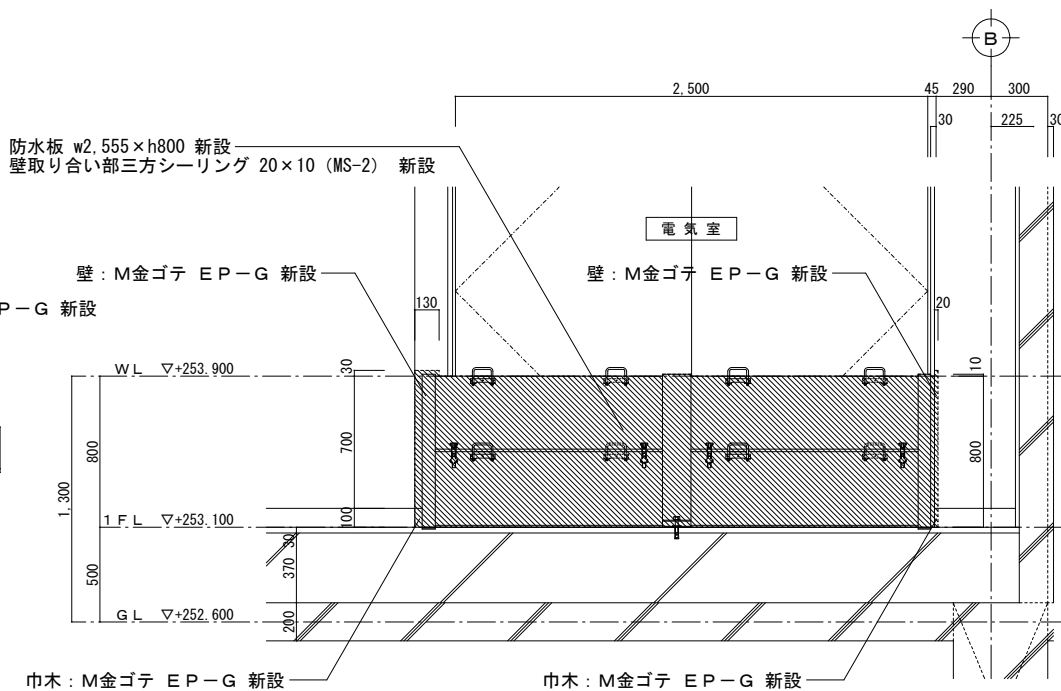
断面図



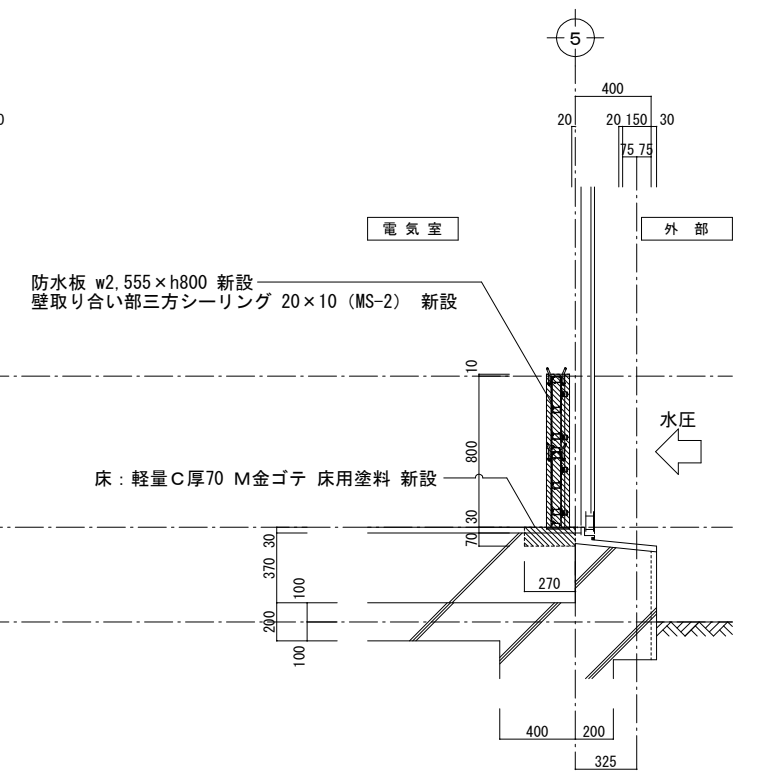
5 通り B ~ D 間 仕上 一部新設、防水板 新設



断面展開図



断面図

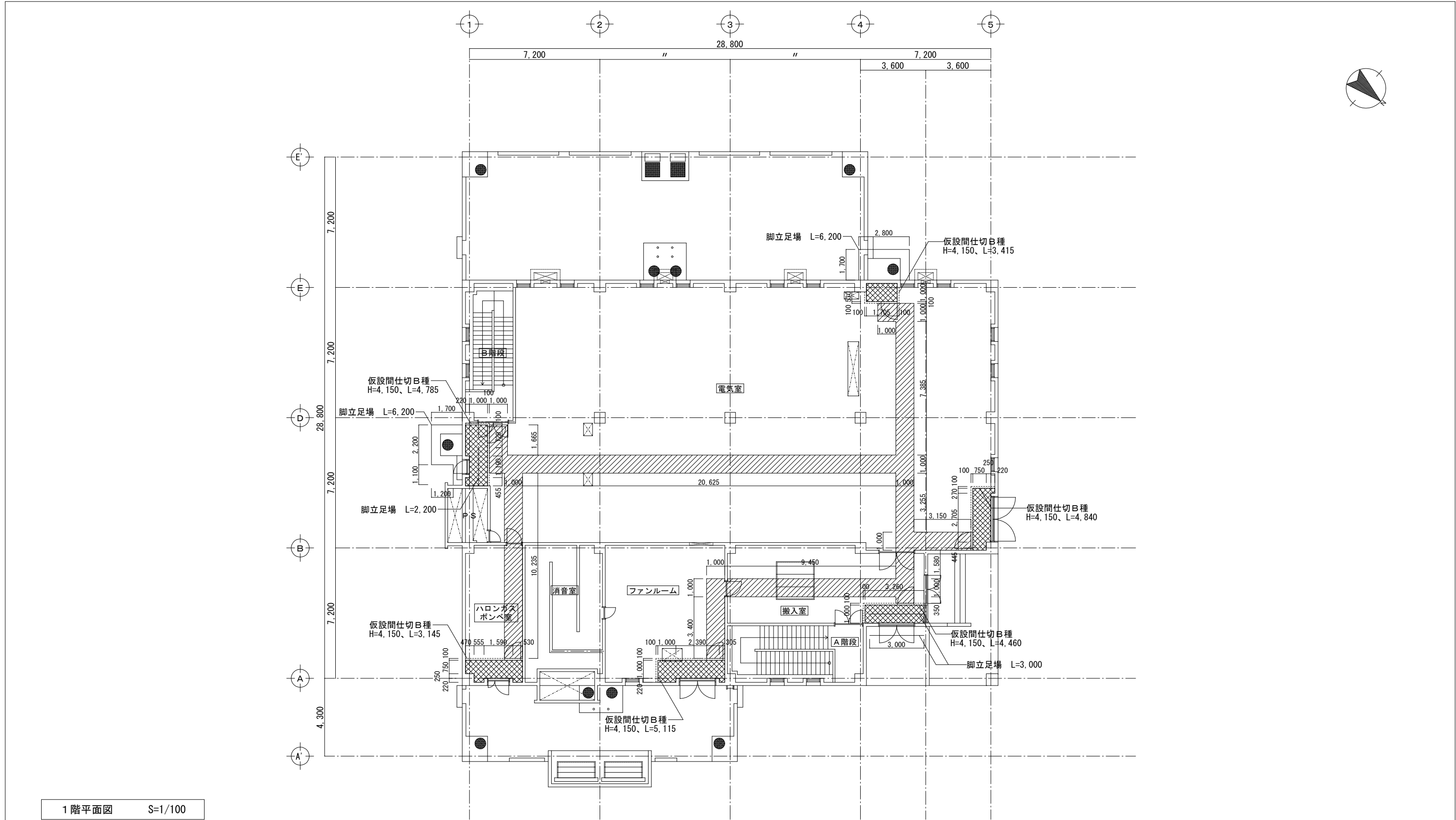


 撤去・新設（復旧）範囲

階数— 0-0 — 部位番号
0 — 0 : 改修前、N : 改修後

▽ カッター入れ（躯体） ♪ シーリング20x10（PU-2）
▼ カッター入れ（仕上） ♪ シーリング20x10（MS-2）

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	詳細図 (13) (改修前後)		
図面番号	3D-23		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



1 階平面図 S=1/100

凡例

改修用養生・整理・清掃

通路用養生・整理・清掃

仮設間仕切 B種

外部・内部足場：枠組本足場 900枠

外部・内部足場：脚立足場
※H=4.0m以下

※「参考図面」は請負契約上の拘束力を生じるものでなく、
請負者は施工条件、地質条件を十分考慮して、仮設、施工方法、
安全対策等、工事目的物を完成させるための一切の手段について
請負者の責任において定めるものとする。

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1階仮設図（参考図）		
図面番号	30-24		
縮尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			

処理水ポンプ棟

構造細目共通図(建築構造物) ＜令和4年版＞ <small>※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。 使用にあたっては、上記協会への使用願いの提出と、配布番号の記載が必要である。 枠外右下の【協会員番号】と【配布番号】の記載が無い図面は無効とする。</small>					
1 特記事項					
1.1 適用範囲					
(1)本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。 (2)図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。					
1)建築工事特記仕様書 2)建築改修工事特記仕様書 3)建築工事一般仕様書 4)公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 (令和 4 年版) 5)公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部 (令和 4 年版)	(別紙による。) (別紙による。) (令和 年版) (令和 4 年版) (令和 4 年版)				
(3)項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※ 印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。					
1.2 鉄筋の仕様					
鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。					
1.1表 鉄筋の種類及び継手					
鉄筋の種類	種 別	径			
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下			
	SD 345	※D19以上			
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外			
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋			
	機械式継手	※図示による。			
1.3 コンクリートの仕様					
コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。					
1.2表 コンクリートの仕様					
分 類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スラブ(cm)	セメントの種類	
鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下 基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※ 普通ポルトランドセメント	
注1:無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。					
1.4 砕石及び捨てコンクリート					
砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1.3表による。					
1.3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様					
種 別	厚さ(mm)				
砂利または砕石	※ 60				
捨てコンクリート	※ 50				

2 共通事項								
2.1 記号及び符号								
設計図中で使用する記号及び符号は、2.1表及び2.2表を標準とする。								
2.1表 鉄筋の断面表示								
径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記 号	●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊙
2.2表 一般凡例								
記 号・符 号	内 容	※印の説明及び注意事項						
F※	フーチング断面種別	※ 番号						
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号						
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----						
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない						
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く						
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない						
※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁、K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 階別区分はしない 壁厚(cm)						
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない						
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない						
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)						
	打ち増し範囲							
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの十、一に 応じた凡例により表示						
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)						
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁						
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱						
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱						
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁						
組立筋	組立て筋	床版、底版						
2.2 一般注意事項								
(1)設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。 変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。								

3 鉄筋の折曲げ加工				
鉄筋の折曲げ加工は、3.1表を標準とする。 (1)Dは、折曲げ内法直径を示す。 (2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。				
3.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)				
曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所
		SD295 SD345		
		D16 以下	D19 ～D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 杭基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	90° 幅止め筋
(注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。 2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。				

5 鉄筋のかぶり及び間隔																																											
5.1 かぶり厚さ																																											
かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(5.1図)をいう。 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。																																											
5.1図 鉄筋のかぶり厚さ																																											
5.2 最小かぶり厚さ																																											
最小かぶり厚さは、5.1表による。 (1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。 (2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。 (3)溶接金網にも適用する。																																											
5.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)																																											
<table><tr><th colspan="2">塩害区分</th><th>※ 通常の施工の場合</th><th>・ 塩害対策を 必要とする場合</th></tr><tr><th rowspan="3">一 般</th><th>構造部分の種類</th><td></td><td></td></tr><tr><td>床、耐力壁以外の壁</td><td>30</td><td>40</td></tr><tr><td>柱、梁、耐力壁</td><td>40</td><td>50</td></tr><tr><td></td><td>底版</td><td>40</td><td>50</td></tr><tr><td>土、水に 接する部分</td><td>柱、梁、床、壁</td><td>40</td><td>50</td></tr><tr><td></td><td>底版、基礎</td><td>60</td><td>70</td></tr><tr><td>煙突等高温を受ける部分</td><td></td><td>60</td><td>70</td></tr></table>		塩害区分		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合	一 般	構造部分の種類			床、耐力壁以外の壁	30	40	柱、梁、耐力壁	40	50		底版	40	50	土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50		底版、基礎	60	70	煙突等高温を受ける部分		60	70												
塩害区分		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合																																								
一 般	構造部分の種類																																										
	床、耐力壁以外の壁	30	40																																								
	柱、梁、耐力壁	40	50																																								
	底版	40	50																																								
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50																																								
	底版、基礎	60	70																																								
煙突等高温を受ける部分		60	70																																								
1:打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2:杭基礎の場合の最小かぶり厚さは、杭先端からとし、「21 杭基礎の補強」を参照。 3:仕上なしの場合を標準とする。																																											
5.3 鉄筋相互のあき及び間隔																																											
鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合のあきは図面による。 (1)粗骨材の最大寸法の1.25倍 (2)最小のあき25mm (3)隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍																																											
5.2図 鉄筋相互のあき及び間隔																																											
5.2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧																																											
<table><tr><th colspan="2">鉄筋径(mm)</th><th colspan="3">鉄筋相互のあき:a</th><th>最小鉄筋芯間隔</th></tr><tr><th>鉄筋径 d</th><th>最外径 D</th><th>(1) 粗骨材径×1.25</th><th>(2) 最小あき</th><th>(3) 鉄筋径×1.5</th><th>a+D</th></tr><tr><td>D10</td><td>11</td><td rowspan="7">32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合</td><td rowspan="7">25mm</td><td>15mm</td><td>43mm</td></tr><tr><td>D13</td><td>14</td><td>20mm</td><td>46mm</td></tr><tr><td>D16</td><td>18</td><td>24mm</td><td>50mm</td></tr><tr><td>D19</td><td>21</td><td>29mm</td><td>53mm</td></tr><tr><td>D22</td><td>25</td><td>33mm</td><td>58mm</td></tr><tr><td>D25</td><td>28</td><td>38mm</td><td>66mm</td></tr><tr><td>D29</td><td>33</td><td>44mm</td><td>77mm</td></tr></table>		鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔	鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	a+D	D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm	D13	14	20mm	46mm	D16	18	24mm	50mm	D19	21	29mm	53mm	D22	25	33mm	58mm	D25	28	38mm	66mm	D29	33	44mm	77mm
鉄筋径(mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔																																						
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	a+D																																						
D10	11	32mm 粗骨材 最大径 25mm の場合	25mm	15mm	43mm																																						
D13	14			20mm	46mm																																						
D16	18			24mm	50mm																																						
D19	21			29mm	53mm																																						
D22	25			33mm	58mm																																						
D25	28			38mm	66mm																																						
D29	33			44mm	77mm																																						
<div>甲府市浄化センター</div> <div>工事名称 甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事</div> <div>図面名称 構造細目共通図(1)</div> <div>図面番号 S-1</div> <div>縮 尺 設計年度 令和5年度</div> <div>甲 府 市 下 水 道 局</div>																																											

4 異形鉄筋の末端部																																											
4.1 フックを設ける位置																																											
異形鉄筋の末端部には、4.1表によりフックを設ける。																																											
4.1表 フックを設ける位置																																											
<table><tr><th colspan="2">部 位</th><th colspan="2">継手方式</th><th rowspan="2">備 考</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>重ね継手</th><th>圧接継手</th></tr><tr><td rowspan="3">柱</td><td>四隅の主筋</td><td>――</td><td>1)最上階の柱頭部</td><td>4.1図の●印 8.1図参照</td></tr><tr><td>上下階の柱断面が異なる場合</td><td>――</td><td>1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部</td><td>4.1図の●印 8.2図参照</td></tr><tr><td>帯筋(HOOP)</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>9.1図参照</td></tr><tr><td>梁</td><td>あばら筋(STP)</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>11.1図参照</td></tr><tr><td>杭基礎</td><td>独立フーチング基礎の底盤筋</td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>20.1図参照</td></tr><tr><td>煙突の鉄筋</td><td></td><td>1)末端部 2)継手部</td><td>1)末端部</td><td>壁の一部となる場合を含む</td></tr><tr><td>幅止め筋</td><td>――</td><td>――</td><td>――</td><td>3.1表参照</td></tr></table>		部 位		継手方式		備 考			重ね継手	圧接継手	柱	四隅の主筋	――	1)最上階の柱頭部	4.1図の●印 8.1図参照	上下階の柱断面が異なる場合	――	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4.1図の●印 8.2図参照	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	9.1図参照	梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	11.1図参照	杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	20.1図参照	煙突の鉄筋		1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む	幅止め筋	――	――	――	3.1表参照
部 位		継手方式		備 考																																							
		重ね継手	圧接継手																																								
柱	四隅の主筋	――	1)最上階の柱頭部	4.1図の●印 8.1図参照																																							
	上下階の柱断面が異なる場合	――	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4.1図の●印 8.2図参照																																							
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	9.1図参照																																							
梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	11.1図参照																																							
杭基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	20.1図参照																																							
煙突の鉄筋		1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む																																							
幅止め筋	――	――	――	3.1表参照																																							
4.1図 異形鉄筋の末端部																																											

6 鉄筋の継手及び定着

6. 1 継手及び定着

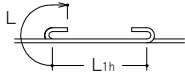
6. 1. 1 鉄筋の重ね継手

- (1)鉄筋の重ね継手の長さは、6. 1表による。
- (2)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3)主筋及び耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

6. 1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)
SD295	24, 27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24, 27	40d	30d
	30	35d	25d

- (注)1. L_1 、 L_{1h} ：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、6. 1図に示すようにフック部分 L を含まない。



6. 1図

6. 1. 2 継手の特記事項

- (1) 継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

6. 1. 3 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、6. 2表による。

6. 2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L_1	L_2	L_3		L_{1h}	L_{2h}	L_{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d			25d	20d		

- (注)1. L_1 、 L_{1h} ：2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ

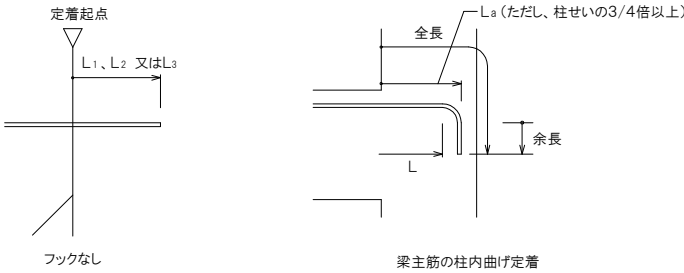
2. L_2 、 L_{2h} ：割裂破壊の恐れのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L_3 ：小梁及びスラブの下端の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く)なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h} ：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、6. 2図(イ)に示すようにフック部分 b を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。

6. 1. 4 定着の方法

定着の方法は6. 2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さ L が、6. 2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を6. 2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを6. 3表に示す長さをのみみさせる。

- (注)1. L_a 、 L_b は、6. 3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記条件を満たすものとする。
- ・梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上
 - ・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
 - ・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



6. 2図 定着の方法

6. 3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種 類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	L_a	L_b
SD295	24, 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24, 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注)1. L_a ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

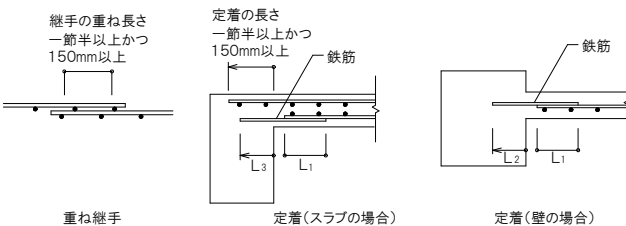
6. 2 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)隣り合う継ぎ手の位置は、6. 4表により、 a 寸法を守ること。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

6. 4表 隣り合う継手の位置

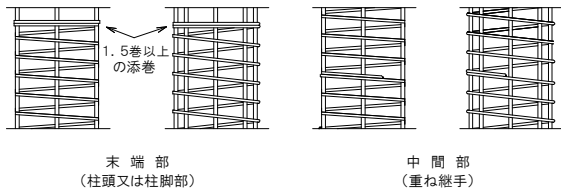
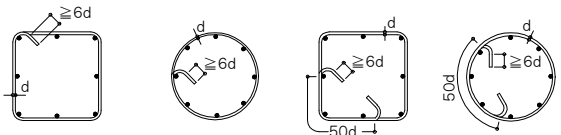
重ね継手	フック有りの場合		
		$a=0.5L_{1h}$	$a\geq 0.5L_{1h}$
	フックなしの場合		
圧接継手			
		$a\geq 400\text{mm}$	$a\geq 400\text{mm}$

- (2)溶接金網の継手及び定着は、6. 3図による。



6. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

(3)スパイラル筋の継手及び定着



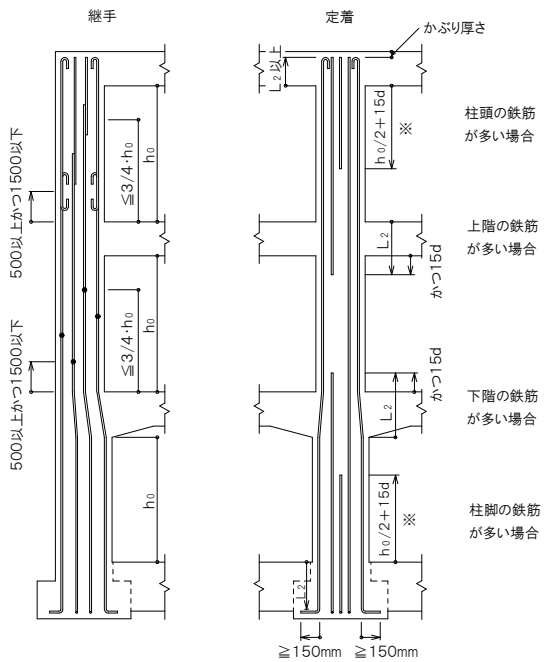
6. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

7 (欠番)

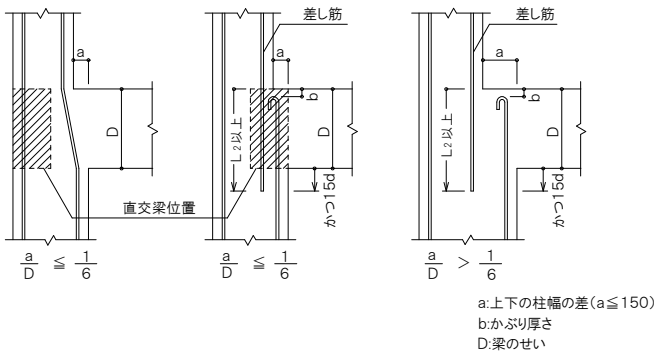
8 柱筋の継手及び定着

8. 1 一般事項

- (1)継手長さは L_1 とし、定着及び余長は、8. 1図による。
- (2)柱頭定着長さ L_2 が確保出来ない場合は、図面による。
- (3)上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、8. 2図による。
- (4)柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ3/4 h_o (h_o は柱の内法高さ)以下とする。
- (5)※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



8. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長

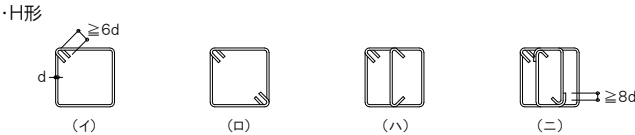


8. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

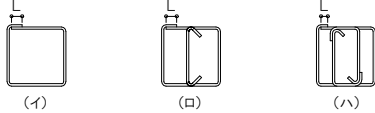
9 帯筋

9. 1 帯筋の形状

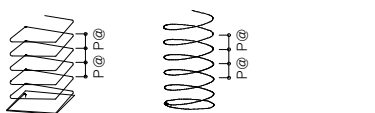
- (1)帯筋の形状は、9. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
- (a)H形を標準とする。
- (b)H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W—I形とする。
- (c)溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
- (d)SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。



・W—I形(溶接を行う)



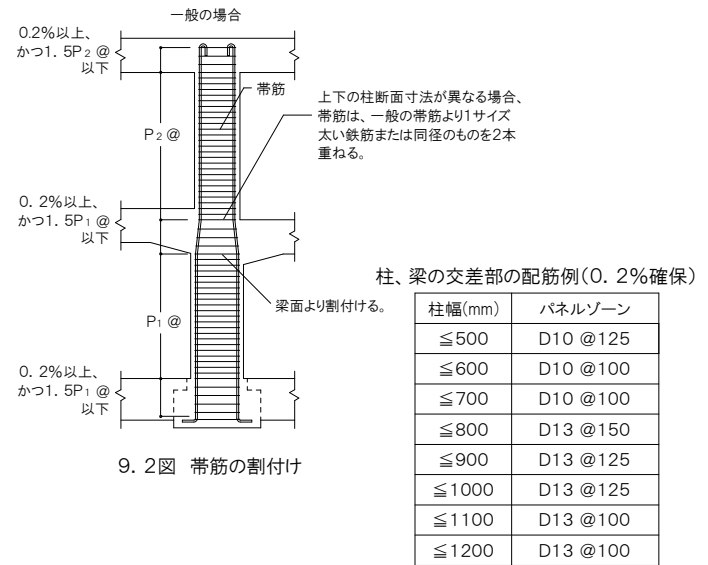
・SP形(スパイラル筋)



9. 1図 帯筋組立の形

9. 2 帯筋の割付け

- (1)フック及び継手の位置は交互とする。
- (2)帯筋の割付けは、9. 2図による。ただし、図面にある場合はそれによる。
- (3)柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0. 2%以上を確保し、補強筋間隔 $\leq 1. 5P$ とする。

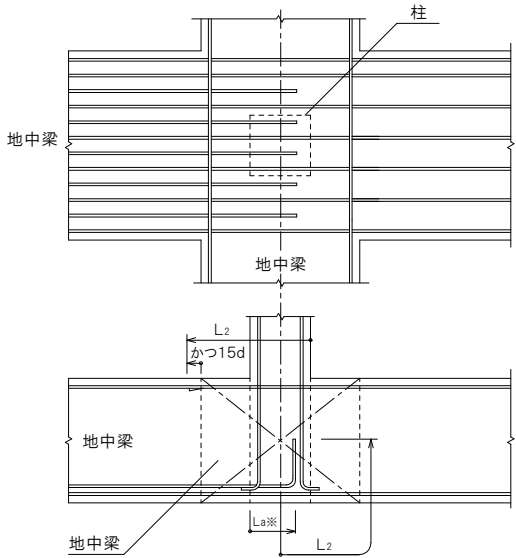


- ※1. 5P₁、1. 5P₂ のピッチは150mm以下とする。

甲府市浄化センター	
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事
図面名称	構造細目共通図 (2)
図面番号	S-2
縮 尺	設計年度 令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局	

10 大梁筋の継手及び定着	10. 3 ハンチのある場合	11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋	12 基礎梁及び底版の継手及び定着
10. 1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長	(1)最上階の場合	11. 1 一般事項	12. 1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長
大梁主筋の継手及び定着の一般事項 a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。 ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、10. 1図による。		(1)腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。 (2)壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L ₂ とする。 (3)土圧、水圧を受ける梁は、図面による。 (4)幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10ー1000mmピッチ程度とする。	(1)一般事項 (a)梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、12. 1図による。 (b)梁筋を柱内に定着する場合は10. 1(1)bによる。
	10. 4図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)	11. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置	
10. 1図 梁主筋の梁内定着	(2)一般階の場合	(1)形は、11. 1図(イ)を標準とする。 ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。 a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ) b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)	(2)独立基礎で基礎梁(スラブなどの上載荷重を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長
b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。 なお、定着の方法は、6. 1. 4による。 上端筋:曲げ下ろす。 下端筋:原則として曲げ上げる。 c. 段違い梁は10. 2図による。		(2)フックの位置 a. (イ)の場合は交互とする。 b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側。床版が両側に付く場合は交互。 c. (ハ)の場合は床版の付く側を90°折曲げ、8d確保する。 d. (ホ)(ヘ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが1. 5m以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)	
	10. 5図 ハンチのある大梁の定着及び余長(一般階)		
10. 2図 段違い梁	(注)1. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。 2. 印は、継手及び余長を示す。 3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、===== のように引き通すことができる。 4. 破線は、梁内定着の場合を示す。 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。	11. 1図 あばら筋組立の形及びフックの位置	(注)1. 図示のない事項は、10. 1iによる。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。
10. 2 ハンチのない場合	10. 4 水平段差のある場合	11. 3 あばら筋の割付け	
	水平段差のある場合	(1)間隔が一様でハンチのない場合	12. 2図 主筋の継手、定着及び余長(その1)
10. 3図 大梁の重ね継手、定着及び余長		(注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。	(3)連続基礎及びべた基礎の基礎梁(基礎梁の下方より地反力(杭反力)を受ける場合)の主筋の継手、定着及び余長
(注)1. 継手中心位置は次による。 上端筋:中央L ₀ /2以内 下端筋:柱面より梁せい(D)以上離し、L ₀ /4を加えた範囲以内 2. 4. 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。 3. 印は、継手及び余長を示す。 4. 破線は、柱内定着の場合を示す。 5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。	10. 6図 大梁の定着及び余長(水平段差のある場合)	11. 2図 あばら筋の割付け(その1)	
10. 3図 大梁の重ね継手、定着及び余長	10. 5 鉛直段差(e)のある場合	(2)間隔が一様でハンチのある場合	(注)1. 図示のない事項は、10. 1iによる。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 ※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。 4. 基礎梁内の主筋カットオフ位置及び余長は図面による。
	(1)e/D≤1/6の場合		12. 3図 主筋の継手、定着及び余長(その2)
		(注)1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。 2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。	
	10. 7図 鉛直段差梁(その1)	11. 3図 あばら筋の割付け(その2)	
	(2)e/D>1/6の場合	(3)梁の端部で間隔の異なる場合	
	10. 8図 鉛直段差梁(その2)	(注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。 2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。	
		11. 4図 あばら筋の割付け(その3)	
		11. 4 腹筋及び幅止め筋	
		(1)一般の梁	
		a) 腹筋及び幅止め筋	
		600≤D<900 900≤D<1200 1200≤D≤1500	
		11. 5図 腹筋及び幅止め筋	
		(2)特殊な梁	
		腹筋及び幅止め筋は、図面による。	

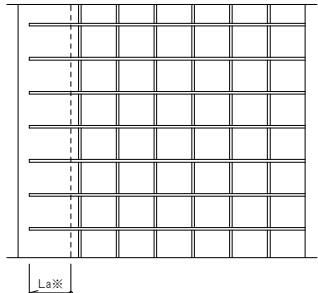
- (4)柱幅<梁幅の場合
(a)交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



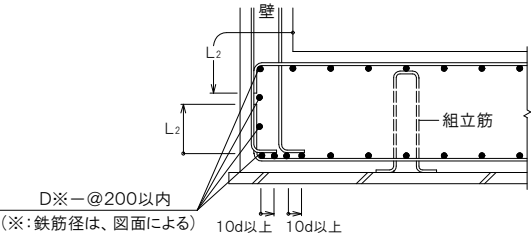
※ Laの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
12. 4図 主筋の継手、定着及び余長(その3)

12. 4 梁形を設けない場合の基礎底版(オイルタンク等)

- (1)定着の取り方は、壁の面からとする。
(2)途中で配筋が変わる場合の定着は、12. 2図のように基礎底版筋を梁筋と読みかえる。

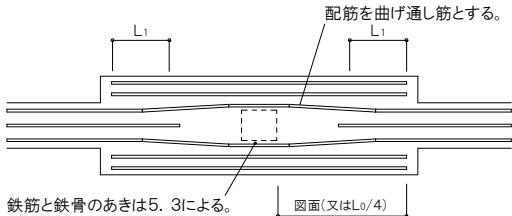


※ Laの数値は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。



12. 5図 主筋の継手、定着及び余長(その4)

- (3)鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



12. 6図 主筋の継手、定着及び余長(その5)

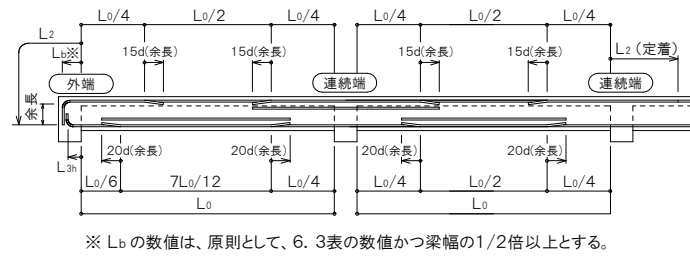
13 小梁及び片持梁の配筋要領

13. 1 一般事項

- (1)図面でない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
(2)印は、継手及び余長を示す。

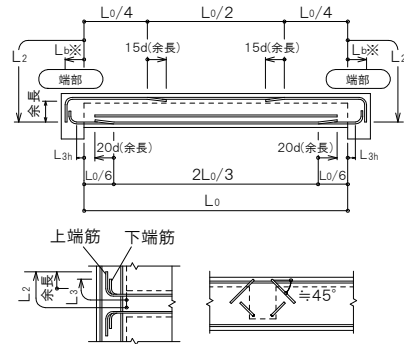
13. 2 小 梁

- (1)連続小梁の場合



13. 1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

- (2)単独小梁の場合

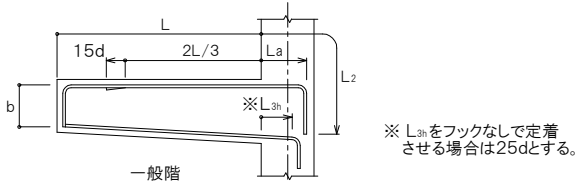


13. 2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

- (注)1. 印は、継手及び余長を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、10. 1及び12. 1に準ずる。
※ Lbの数値は、原則として、6. 3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。

13. 3 片持梁筋の定着

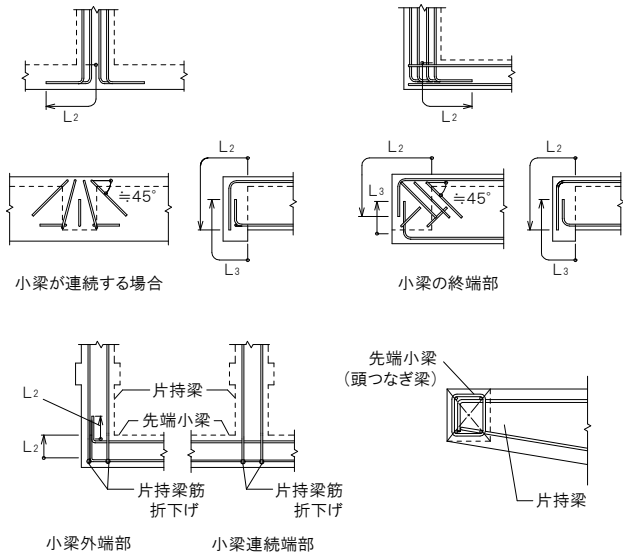
- (1)先端に小梁のない場合
a. 先端の折曲げの長さblは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



13. 3図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

- (2)先端に小梁がある場合

- a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

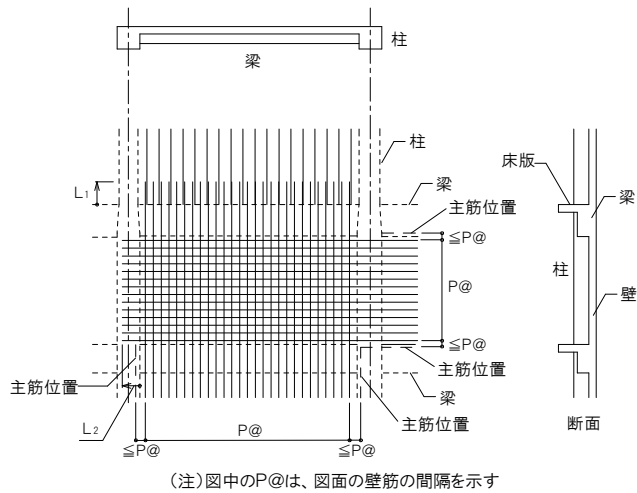


13. 4図 片持梁主筋の定着

14 壁の配筋要領

14. 1 一般事項

- (1)一般壁配筋の重ね継手の長さはL1とし、耐震壁の鉄筋の重ね継手の長さは40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。
また、定着の長さは、L2とし、鉄筋の継手位置は、柱・梁部以外とする。
(2)幅止め筋は、縦、横ともD10-@1000を標準とする。
(3)打増し部分に、壁及びスラブ等が取りつく場合は、壁及びスラブ筋等の定着長さには打増し部分は含まない。
(4)土圧及び水圧などを受ける壁の配筋は、図面による。



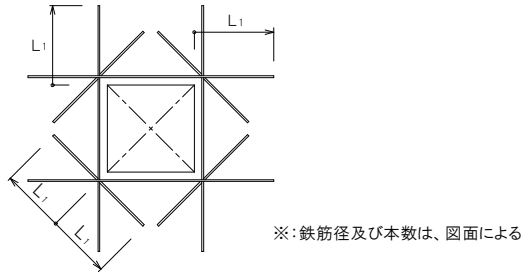
14. 1図 壁の配筋

14. 2 耐震壁の開口

- (1)耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
(2)やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

14. 3 壁開口部の補強

- (1)壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、14. 3図を標準とする。

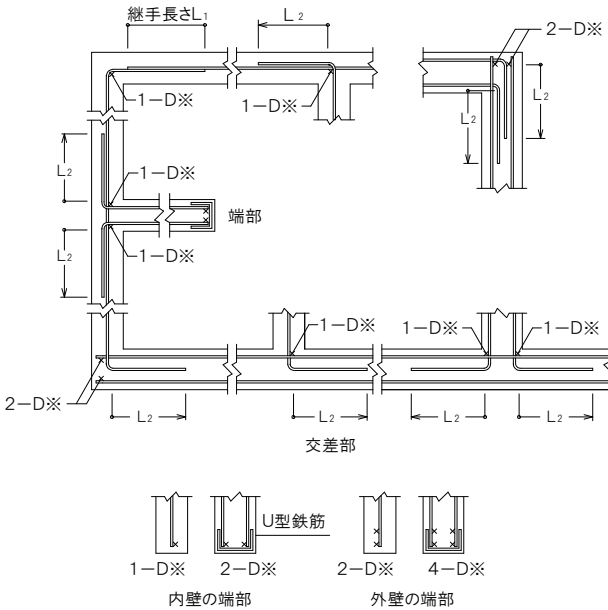


14. 3図 壁開口部の補強の定着長さ

- (2)開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

14. 4 壁の交差部及び端部

- 壁の交差部及び端部の交差部は、14. 4図による。
a. 交差部補強筋D※はD13以上、かつ壁主筋と同径とする。
b. 壁の端部にU型鉄筋を使用する場合の径及び間隔は、壁筋と同径及び同間隔とする。

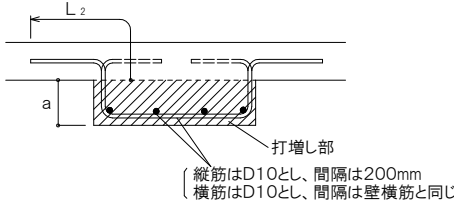


14. 4図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

14. 5 壁の打増し要領

- コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、14. 5図による。
打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
200mmを越える場合は、特記による。



14. 5図 壁の打増し補強配筋

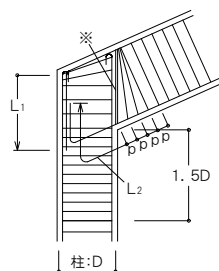
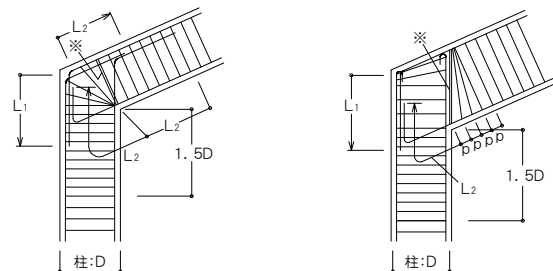
甲府市浄化センター	
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事
図面名称	構造細目共通図(4)
図面番号	S-4
縮 尺	設計年度 令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局	

15 床の配筋要領	16 柱及び梁の増し打ち要領	18 階段の配筋要領
15.1 一般事項	16.1 柱	18.1 階段の配筋要領
(1)鉄筋の継手長さは、 L_1 とする。 (2)定着長さ及び受け筋は、15.1図による。ただし、引き通すことができない場合は、15.2図、15.3図により梁内に定着する。 (3)基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。	(1)増し打ちコンクリートの補強は、16.1図による。 ただし、 $a<70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm}<a$ の場合は、図面による。	(1)壁配筋は、図面による。 (2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。
<div></div> <div>15.1図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その1)</div> <div></div> <div>15.2図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その2)</div> <div>※ L_bの数値は、原則として、6.3表の数値かつ梁幅の1/2倍以上とする。</div>	<div></div> <div>16.1図 柱の増し打ち補強配筋</div> <div>(2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、L_2以上とする。 (4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。</div>	<div></div> <div>18.1図 片持ちスラブ形階段配筋の定着</div>
15.2 片持ちスラブ	16.2 梁	
(1)片持ちスラブの配筋	(1)増し打ちコンクリートの補強は、16.2図による。 $a<70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm}<a$ の場合は、図面による。	
<div></div> <div>15.4図 片持ちスラブの配筋</div> <div>※先端の折り曲げ長さbは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。</div>	<div></div> <div>16.2図 梁の増し打ち補強配筋</div> <div>(2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合は除く。 (3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、L_2以上とする。 (4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。 (5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合</div>	
(2)先端に小梁がなく壁が取り付け場合	(6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合	
<div></div> <div>15.5図 先端に壁が付く場合の配筋</div>	<div></div> <div>16.4図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)</div>	
15.3 片持ちスラブ出隅部の補強配筋	15.4 地上部最上階の屋根床版	
(1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、15.6図による。 (2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。	(1)出隅及び入隅部分には、15.7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。 (2)陸屋根、勾配屋根共通とする。	
<div></div> <div>15.6図 片持ちスラブ出隅部の補強配筋</div>	<div></div> <div>15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋</div>	
15.5 段差床版の補強	15.6 床版開口部の補強	
同一床版に段差がある場合、15.8図の補強を行う。ただし、 $H>150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。	(1)開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(15.9図) 開口の最大径 > 700 の場合は図面による。	
<div></div> <div>15.8図 段差のある床版の補強配筋</div>	<div></div> <div>15.9図 床版開口部の補強配筋</div> <div>(2)床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。</div>	

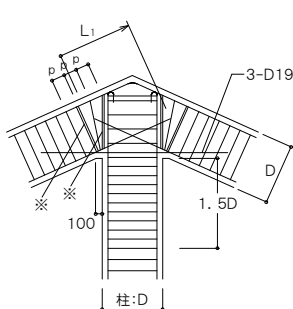
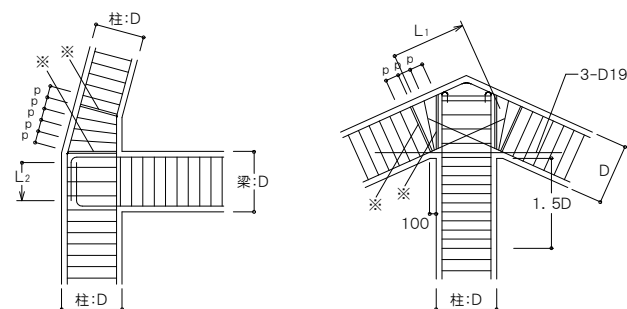
甲府市浄化センター	
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事
図面名称	構造細目共通図(5)
図面番号	S-5
縮 尺	設計年度 令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局	

19.1 斜め柱・斜め梁の取り合い

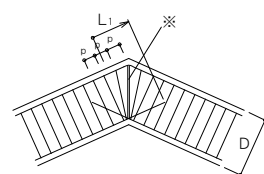
a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一 b) 柱幅と斜材幅が異なる



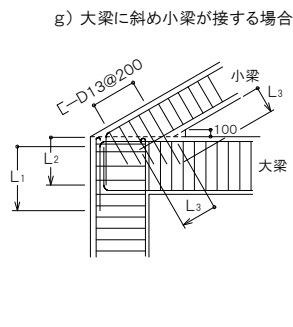
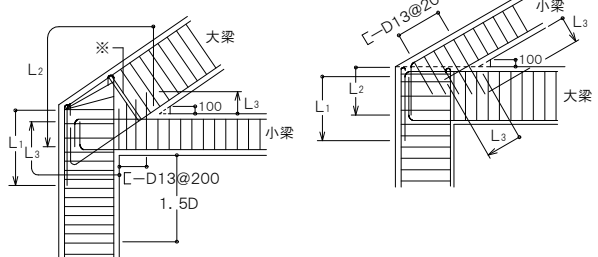
c) 柱脚で斜材となる



e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。

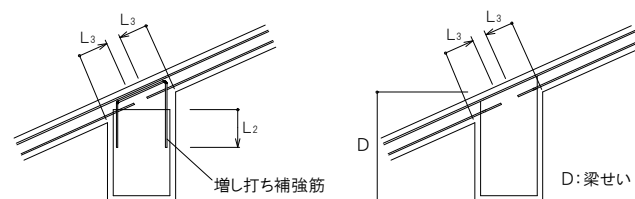


f) 斜め大梁に小梁が接する場合
柱筋はa), b)に倣う。



19.2 梁と床版の取り合い

増し打ち補強要領は、16. 2による。

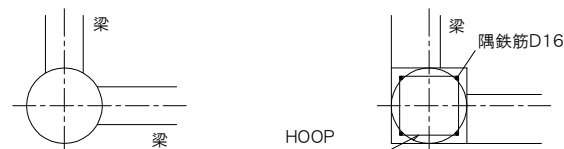


Type A

Type B

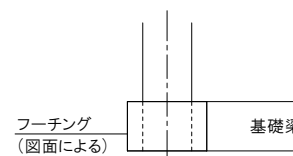
19. 2図 梁と床版の取り合い配筋

円柱と梁の取り合い



1) 柱頭部で柱が
取り付く場合

2) 柱頭部で柱外面に梁が
取り付く場合

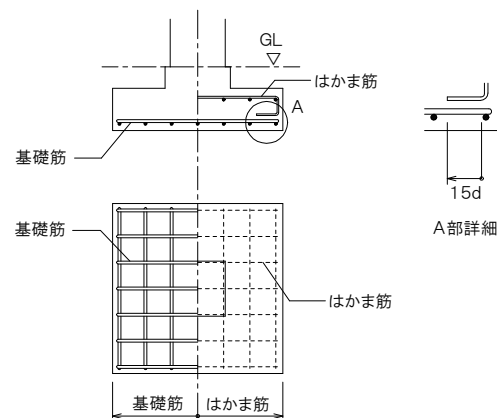


3) 柱脚部の円柱と基礎との
取合い

19. 3図 円柱の取り合い配筋

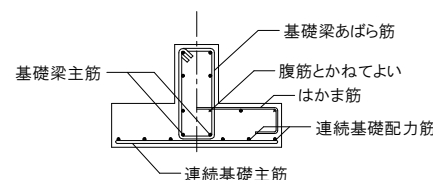
20.1 直接基礎の配筋

(1) 独立基礎

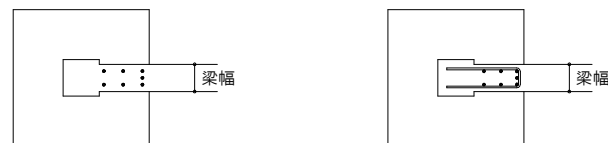


20. 1 図 独立基礎の配筋

(2)連続基礎



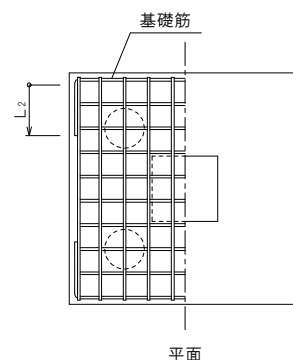
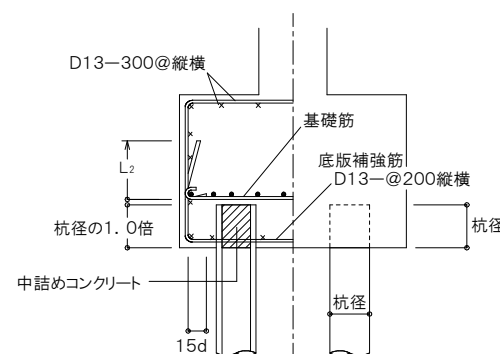
20.2図 連続基礎の配筋

 $0 < D \leq 200$ $200 < D \leq 1000$

※L_{2h}を確保できない場合は、標仕(5. 3. 4(e)(2))によることができる。

21.1 杭基礎の配筋

(1)中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートと同じ調合のコンクリートを使用する。
(2)既製コンクリート杭以外の場合は、特記による。

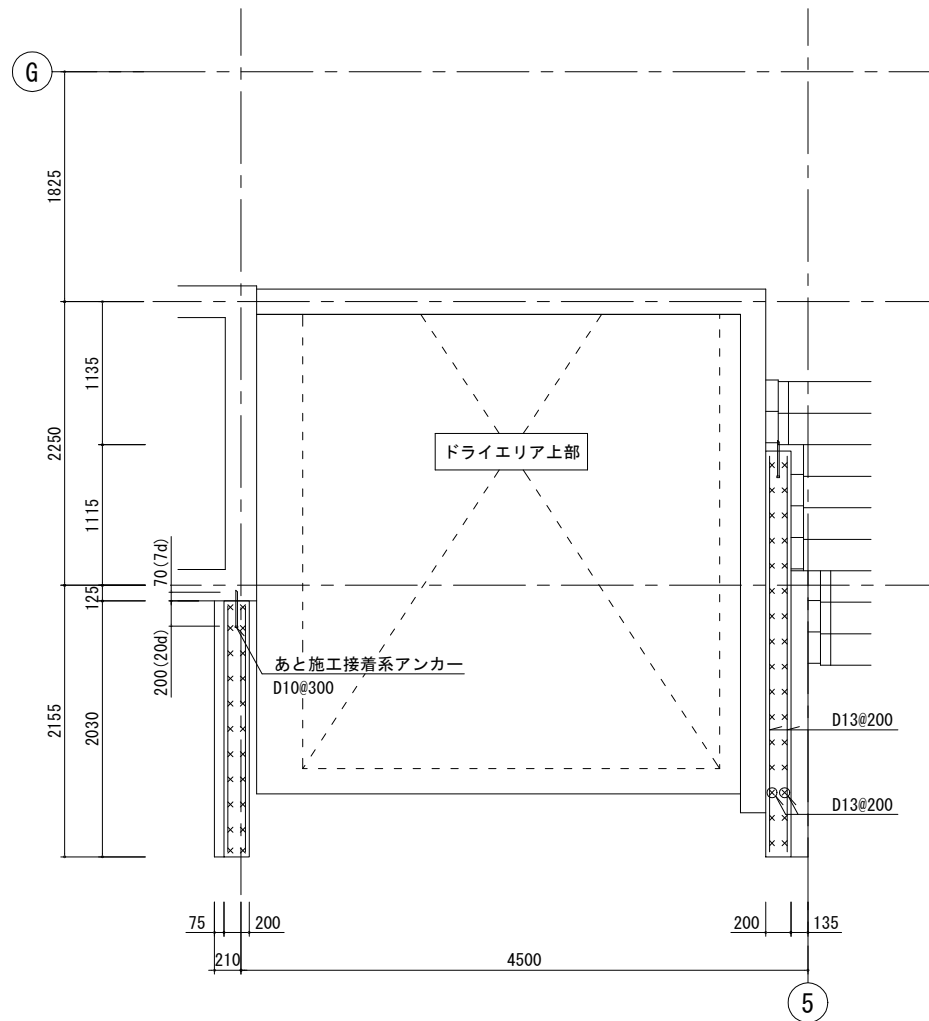


21.1 図 杭基礎の配筋及び杭頭部の補強方法

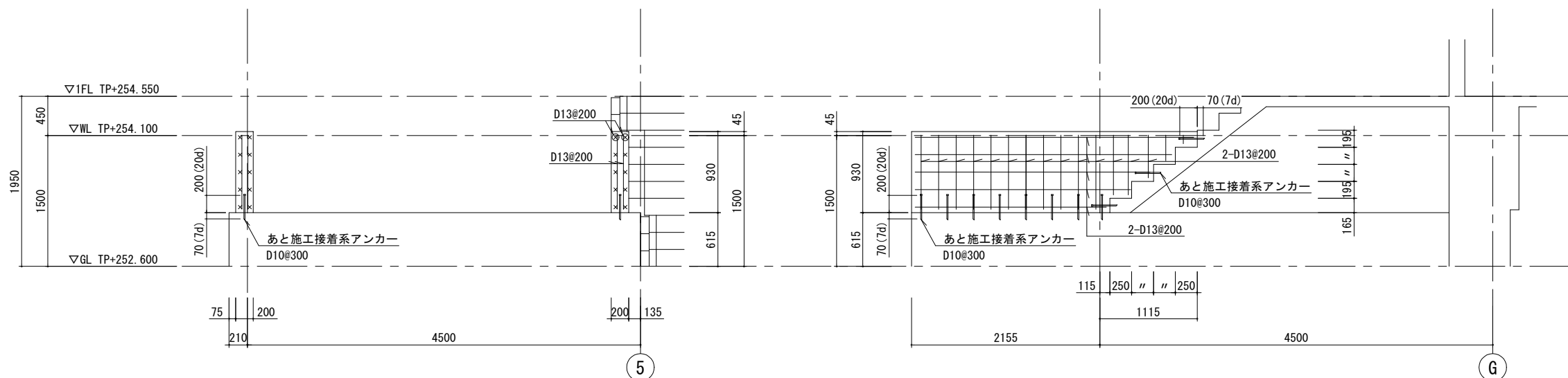
基礎接合部の補強は、20. 2による。

甲府市浄化センター		
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事	
図面名称	構造細目共通図(6)	
図面番号	S-6	
縮 尺		設計年度 令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局		

1-1
O/N



平面図 S=1/30



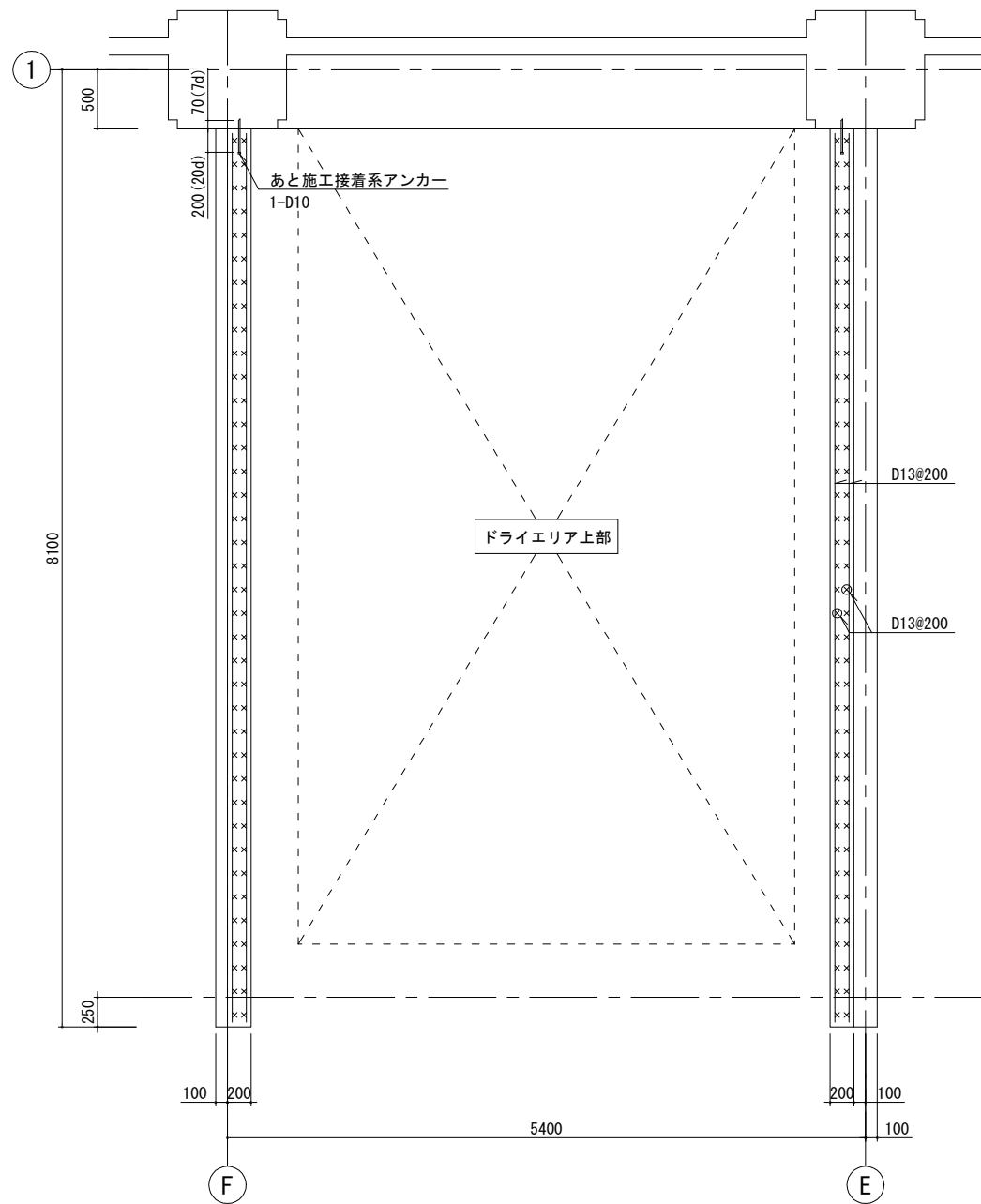
立面図 S=1/30

断面図 S=1/30

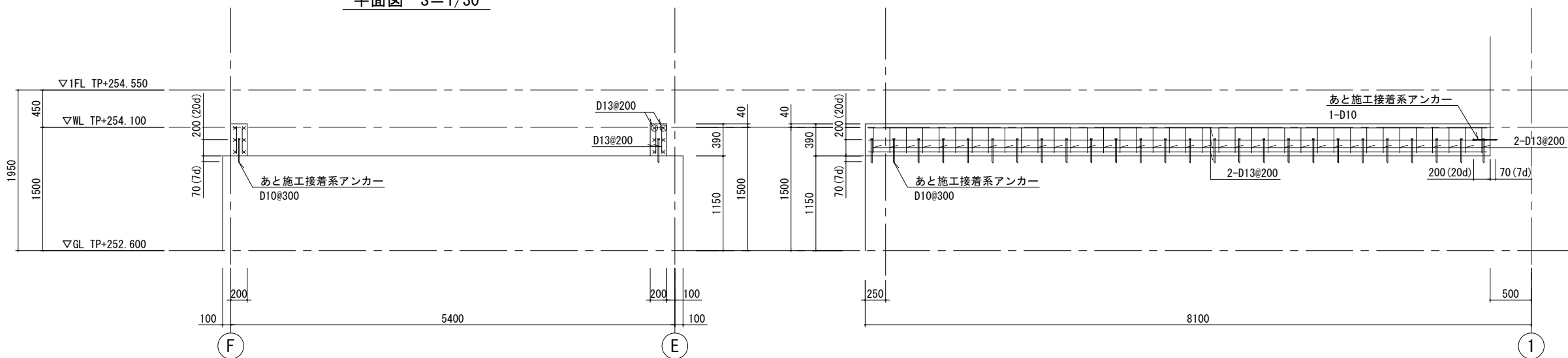
- 特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上)とする。
3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	管理棟 補強配筋概要図 (1)		
図面番号	1S-1		
縮 尺	A1:1/30 A3:1/80	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

1-2
0/N



平面図 S=1/30

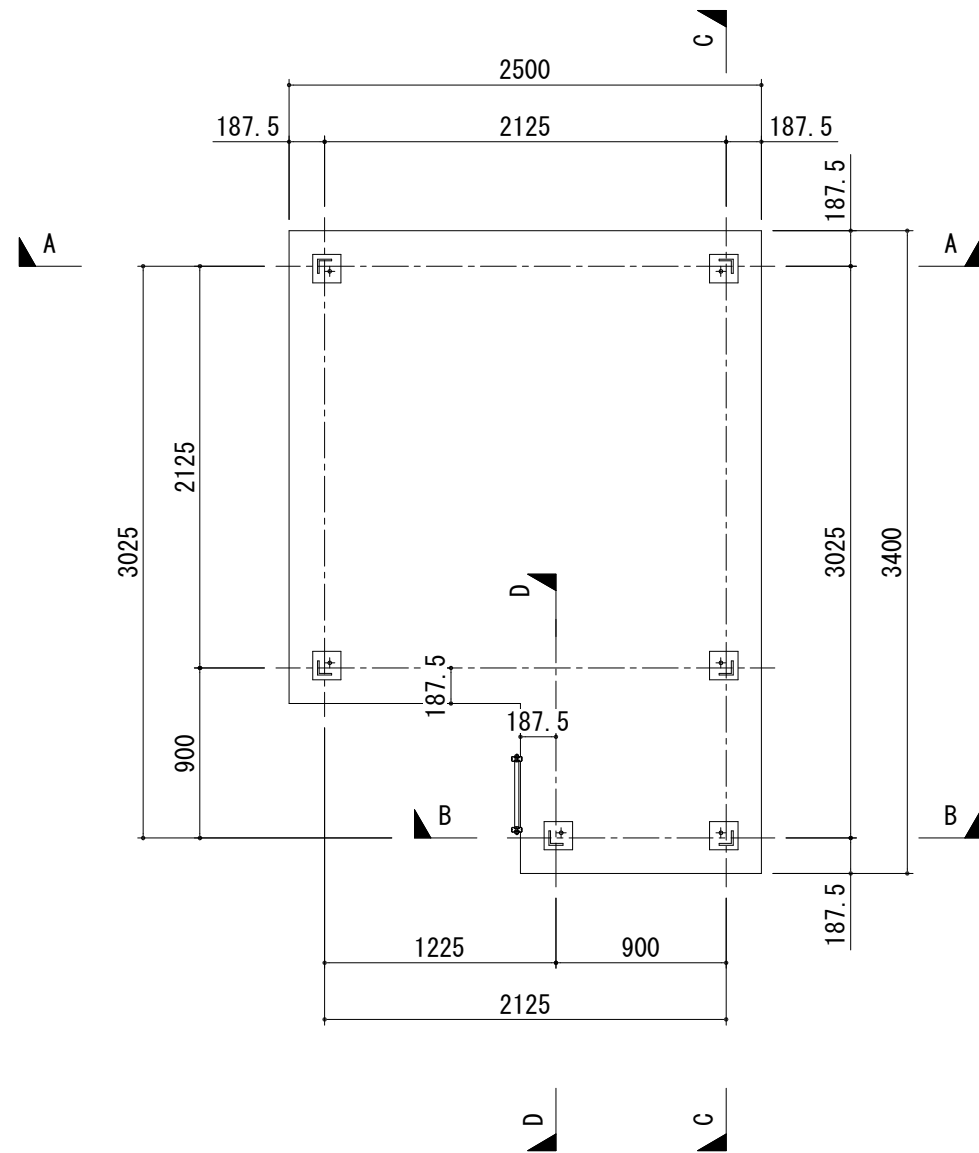


立面図 S=1/30

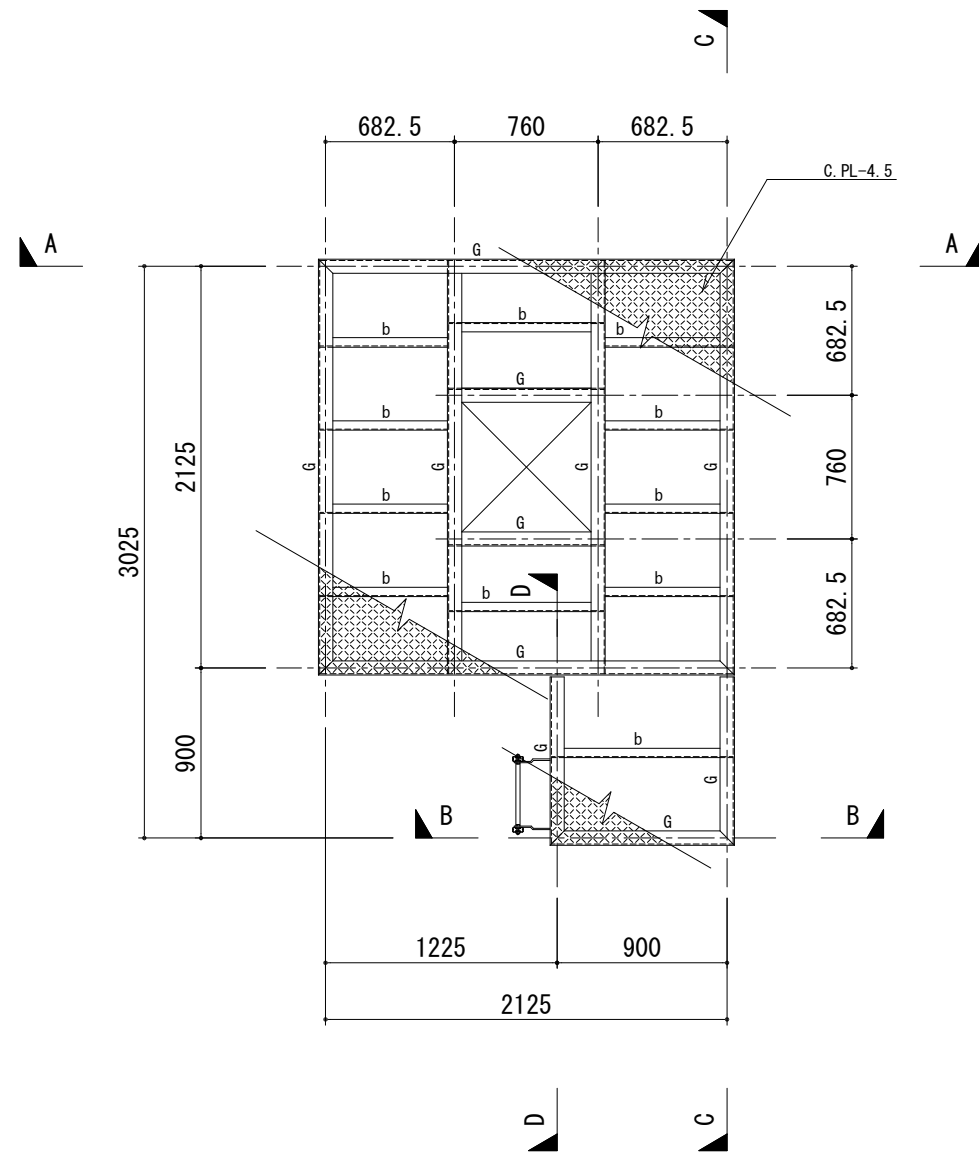
断面図 S=1/30

- 特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
 2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上)とする。
 3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	管理棟 補強配筋概要図(2)			
図面番号	1S-2			
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

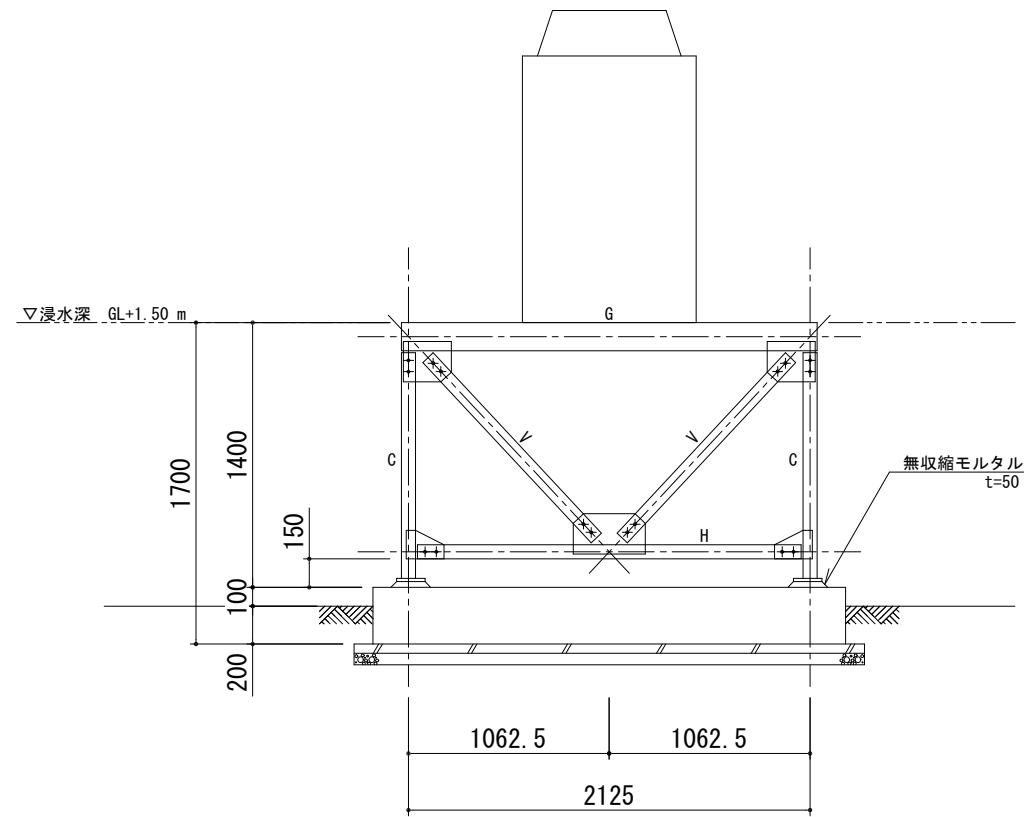


下部 伏図 S=1/20

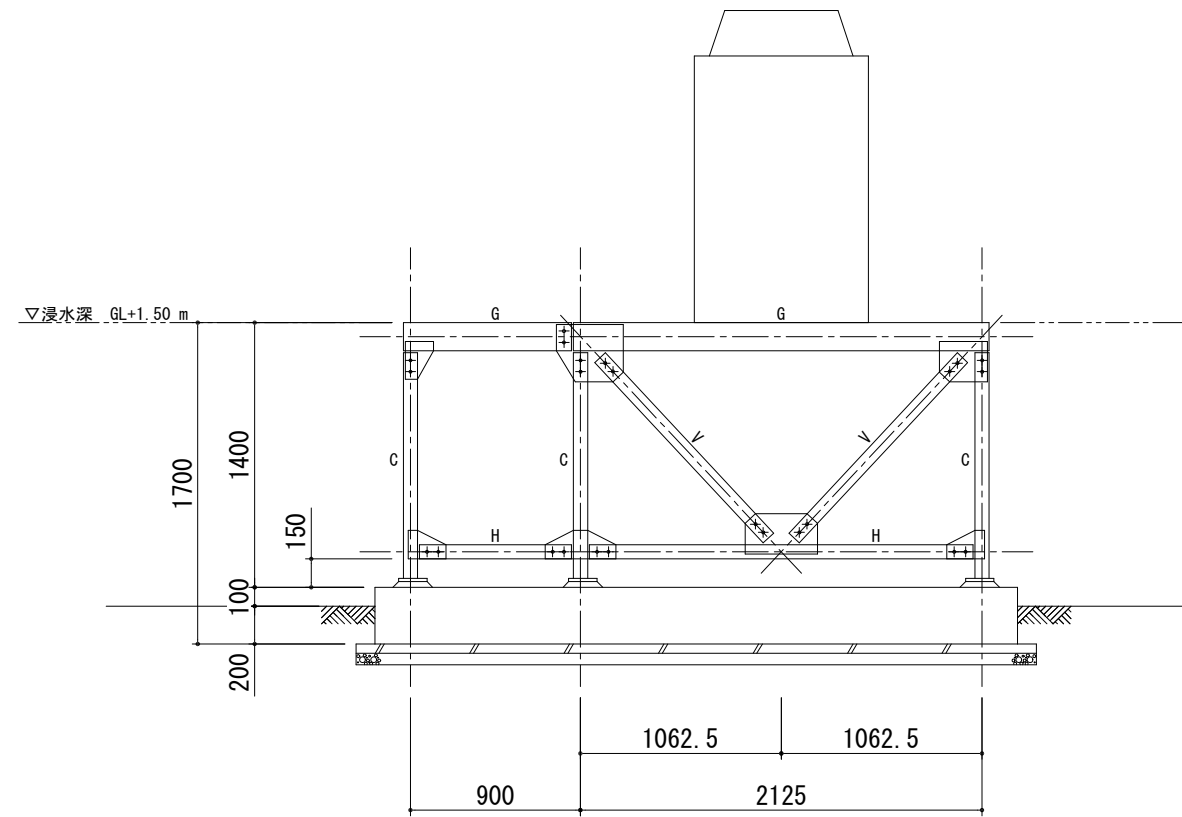


上部 伏図 S=1/20

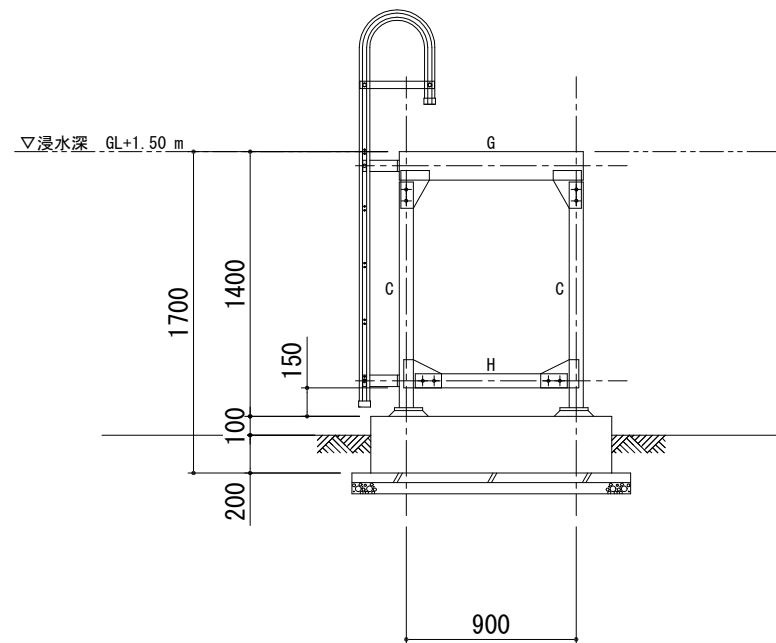
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	室外機架台 伏図		
図面番号	1S-3		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



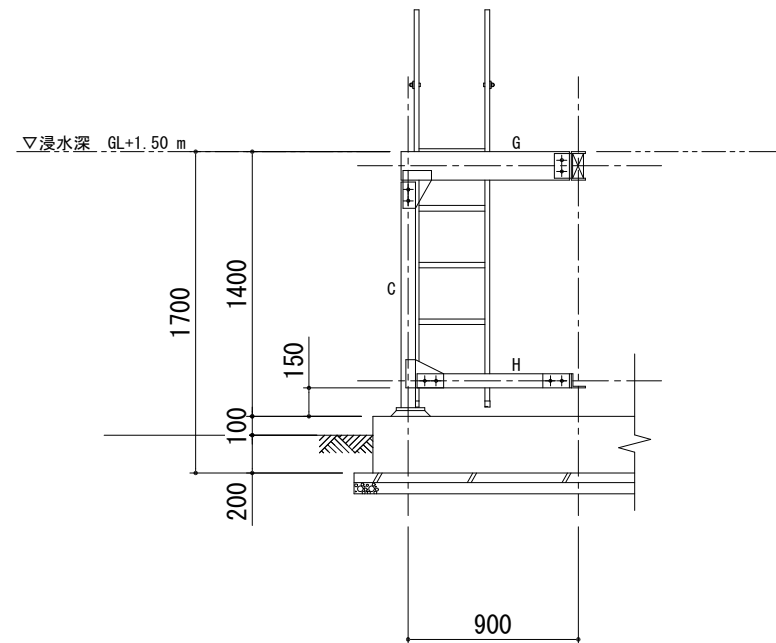
A-A 断面図 S=1/20



C-C 断面図 S=1/20



B-B 断面図 S=1/20



D-D 断面図 S=1/20

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	室外機架台 断面図			
図面番号	1S-4			
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

部材リスト

- 特記なき限り、下記とする。
- 銅材は SS400 とし、鉄部は溶融亜鉛メッキとする。
 - 接合部ボルトは、高力ボルト (HTB) F8T とする。

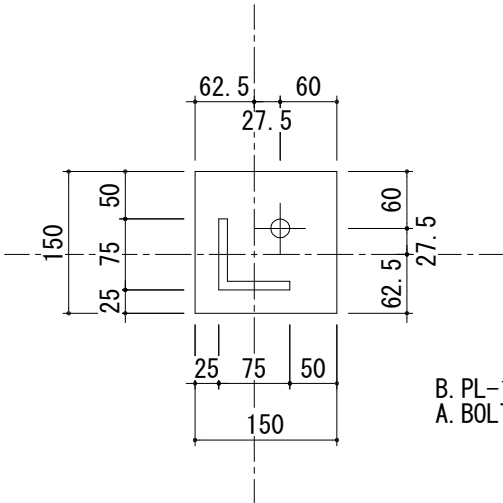
符 号	断 面	接合部	備 考
C	L-75×75×9	G. PL-9 HTB 2-M16	柱脚部は柱脚リストによる
G	[-150×75×6.5×10	溶接接合	一部 G. PL-9 HTB 2-M16
H	L-75×75×9	G. PL-9 HTB 2-M16	
b	L-50×50×6	溶接接合	
V	L-75×75×9	G. PL-9 HTB 2-M16	

基礎スラブリスト

- 特記なき限り、下記とする。
- 鉄筋は SD295 とし、コンクリートの設計基準強度は Fc24 とする。

	端 部	中 央	備 考
上端筋	D13 @200	D13 @200	
下端筋	D13 @200	D13 @200	

柱脚リスト

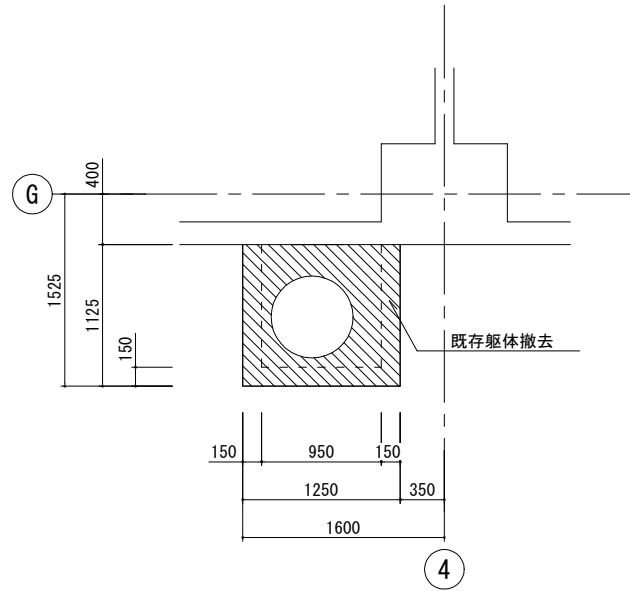


B. PL-16 (SM490)
A. BOLT 1-M20 (SS400) L=400 先端フック付 ダブルナット締め

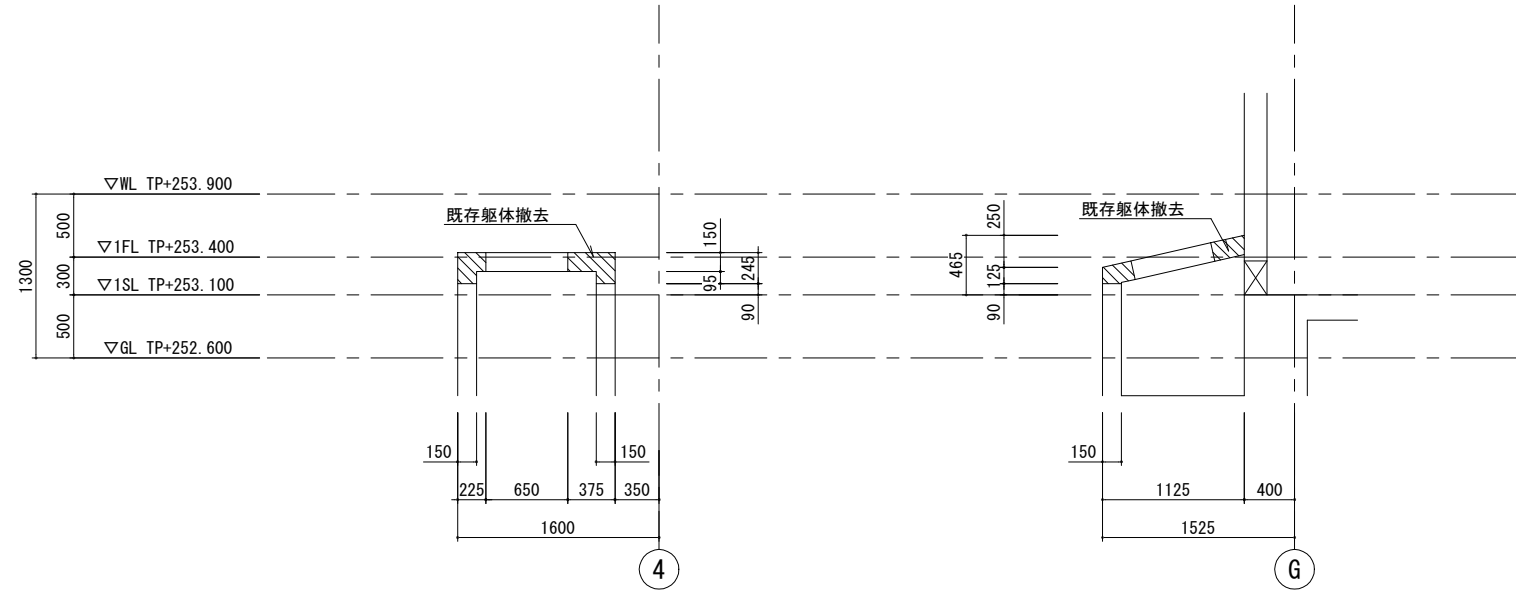
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	室外機架台 二次部材リスト		
図面番号	1S-5		
縮 尺	A1:1/20 A3:1/40	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

2-4
0

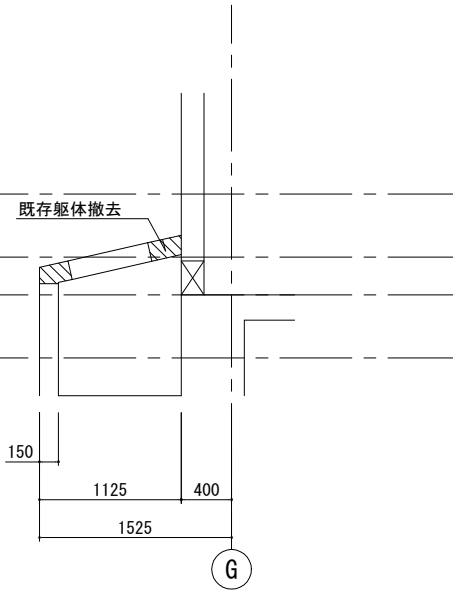
※2-1～2-3欠番



平面図 S=1/30

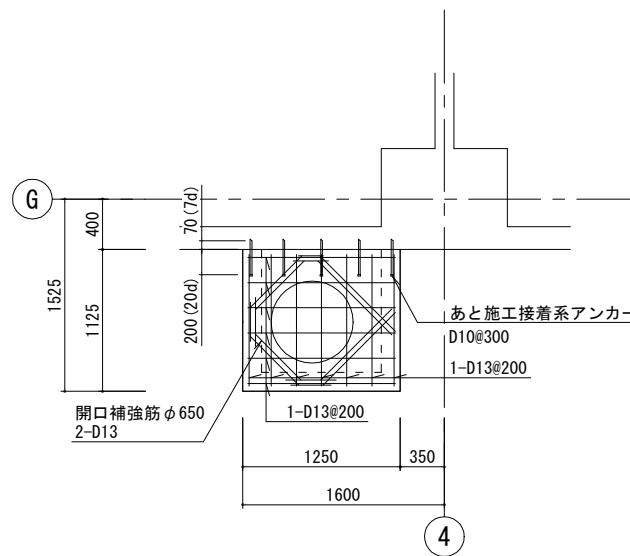


立面図 S=1/30

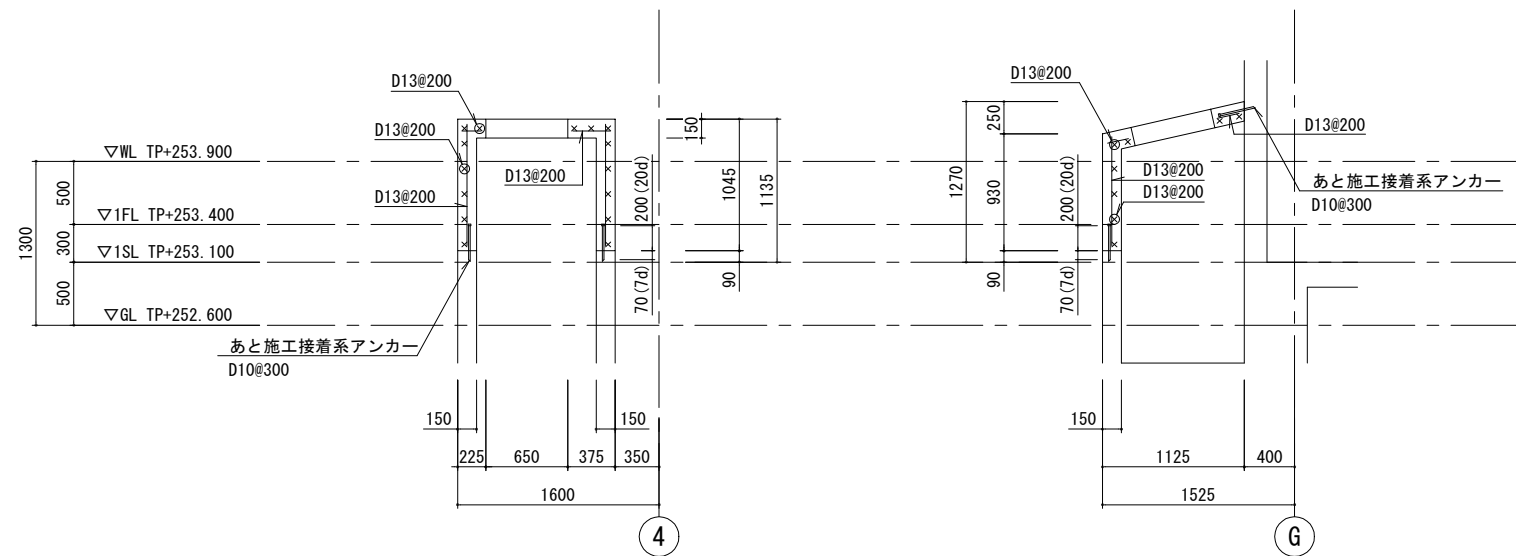


断面図 S=1/30

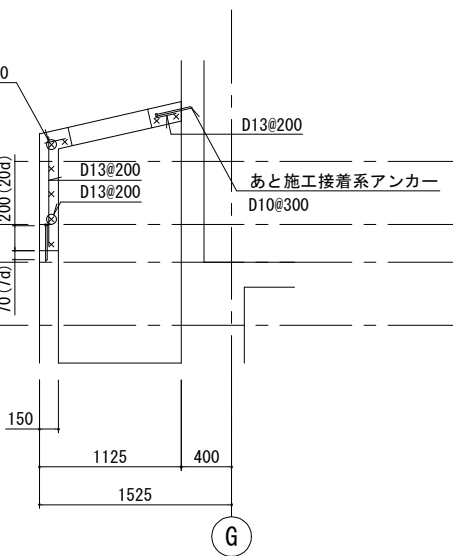
2-4
N



平面図 S=1/30



立面図 S=1/30

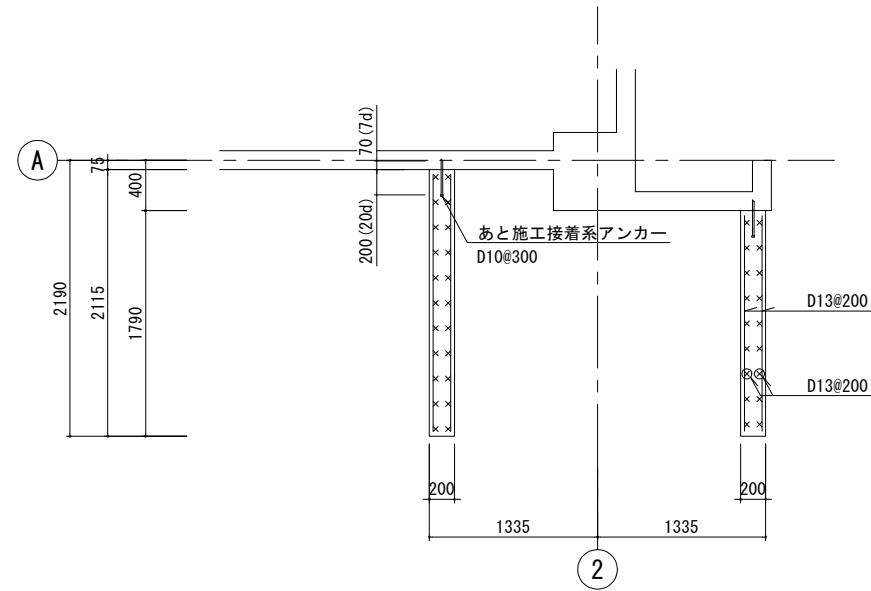


断面図 S=1/30

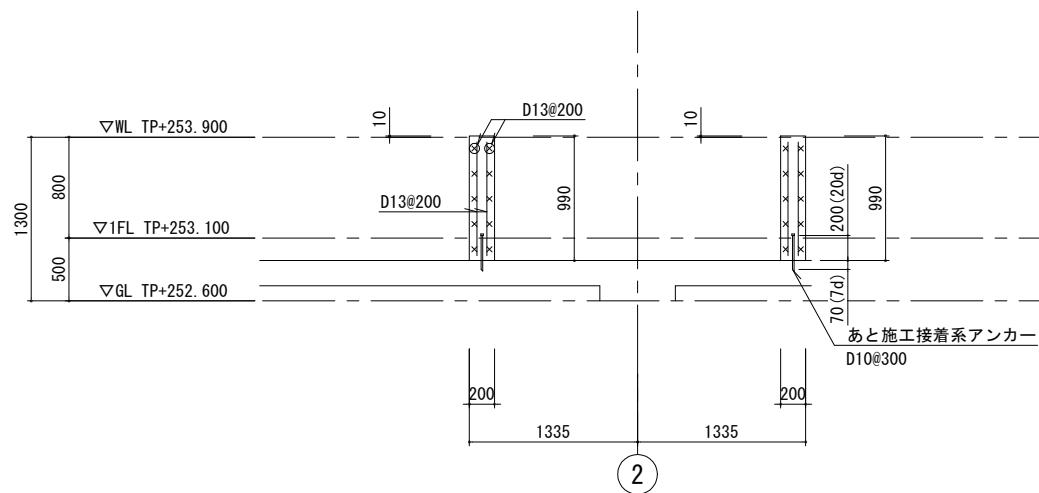
特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上) とする。
3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	塩素滅菌池棟 補強配筋概要図 (1)		
図面番号	2S-1		
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

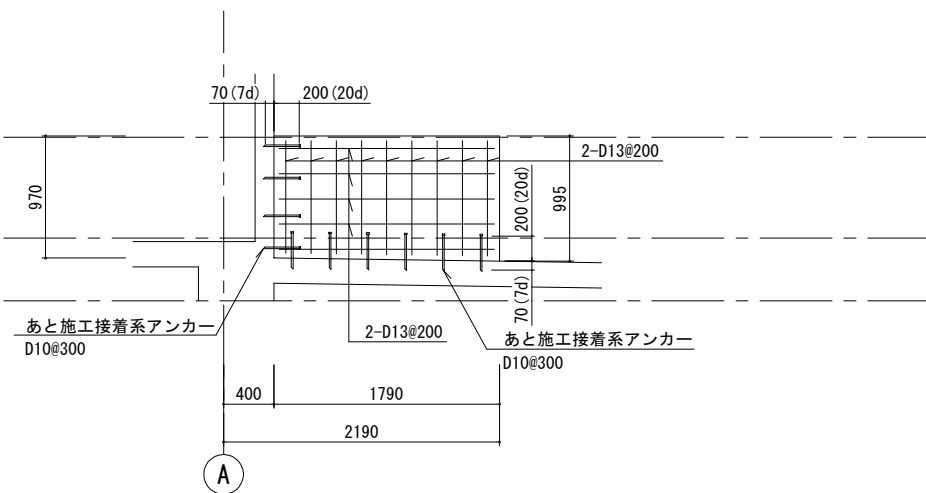
※3-1～3-6, 3-8～3-9, 3-11, 3-14, 3-16欠番



平面図 S=1/30



立面図 S=1/30



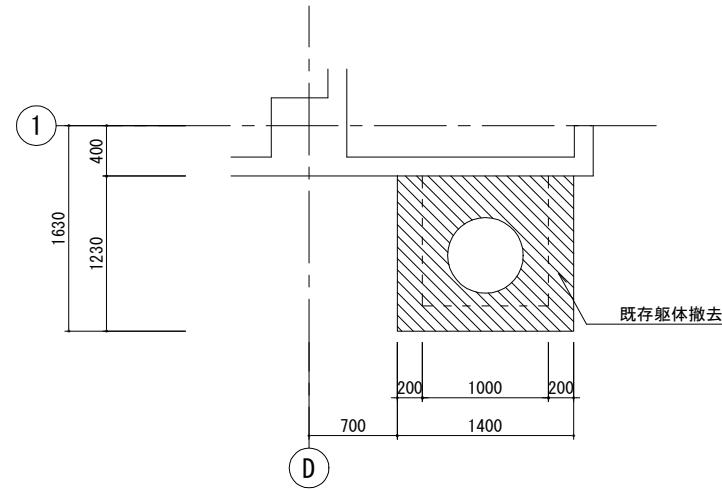
断面図 S=1/30

- 特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上)とする。
3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

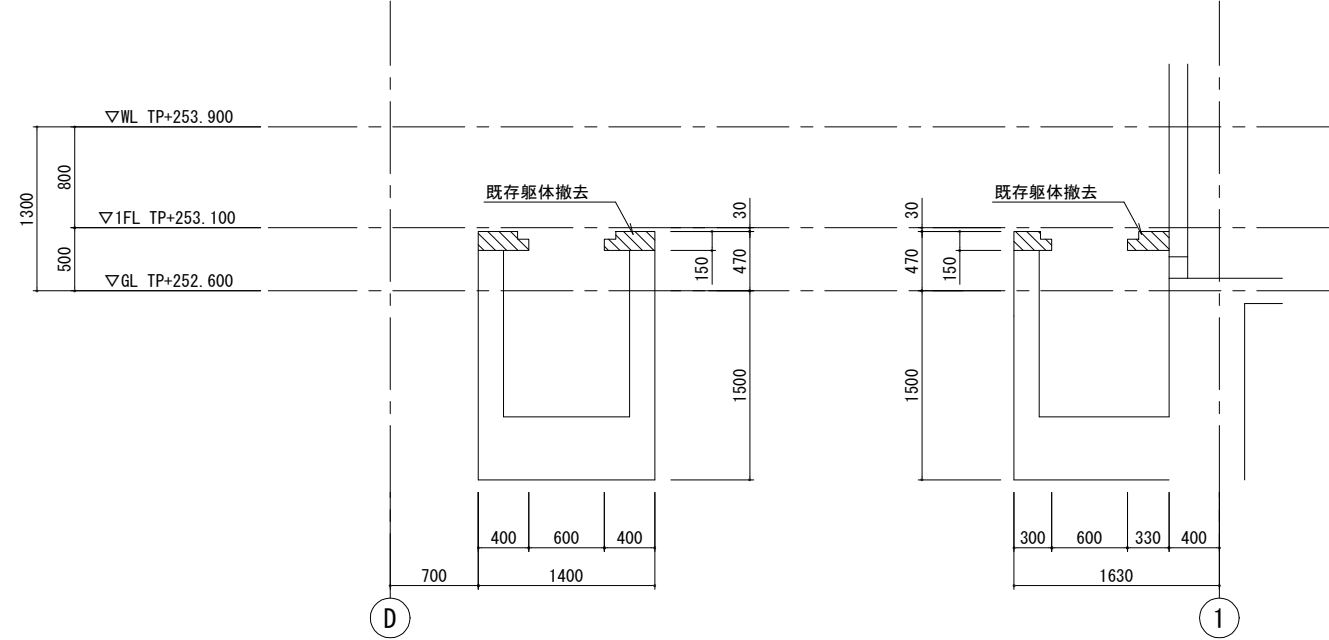
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	処理水ポンプ棟 補強配筋詳細図(1)		
図面番号	3S-1		
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

3-10
0

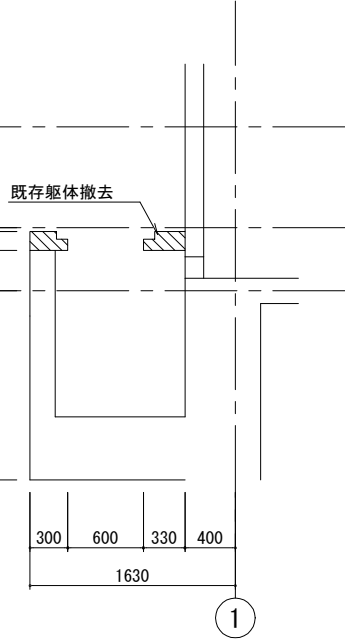
※3-1～3-6, 3-8～3-9, 3-11, 3-14, 3-16欠番



平面図 S=1/30

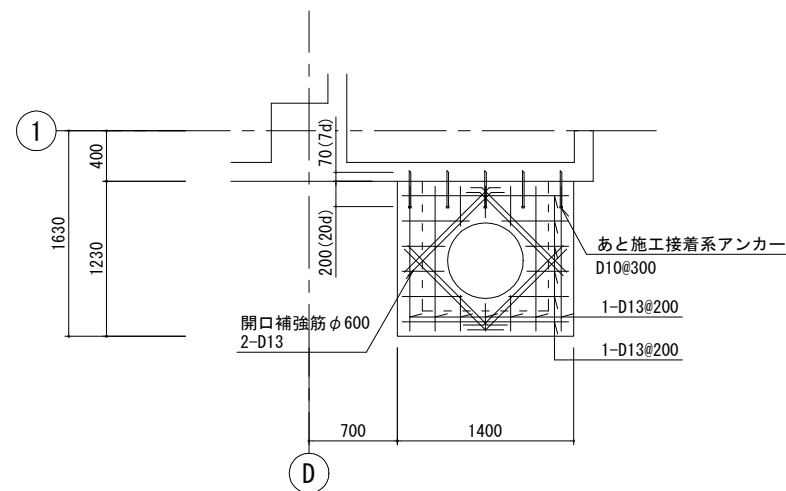


立面図 S=1/30

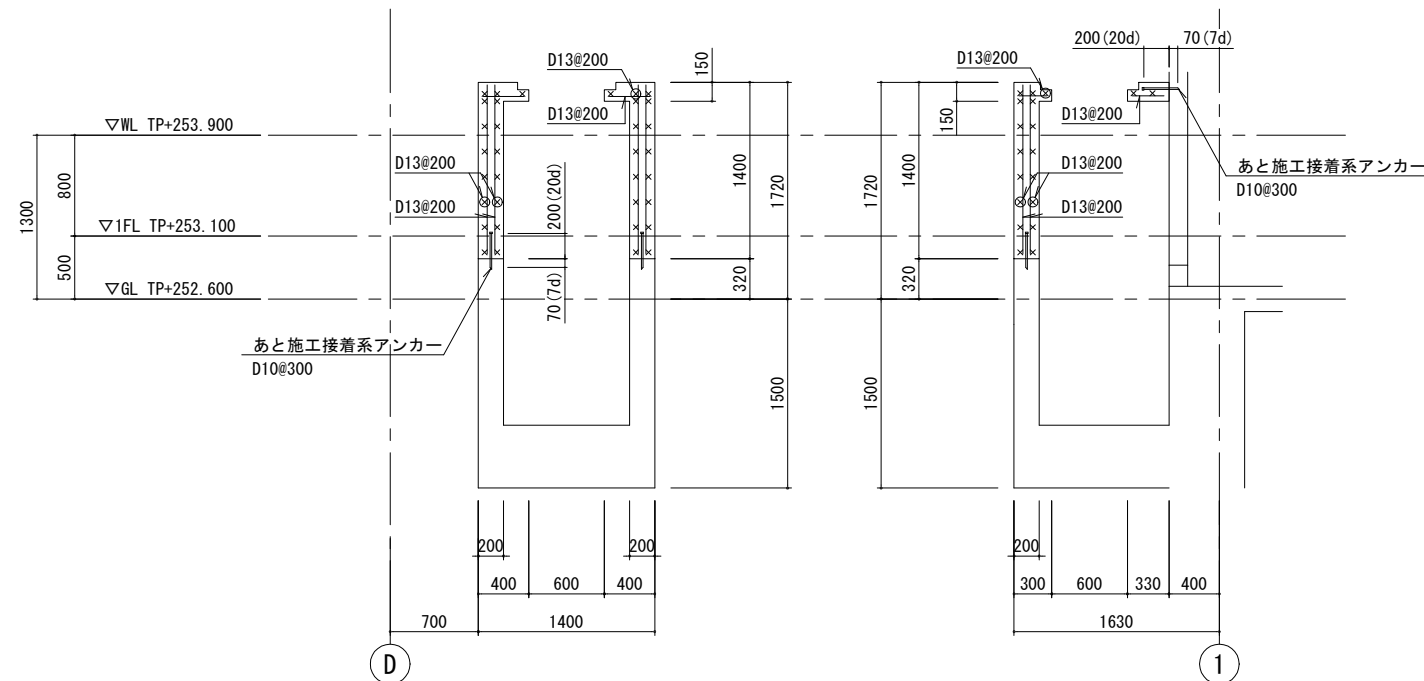


断面図 S=1/30

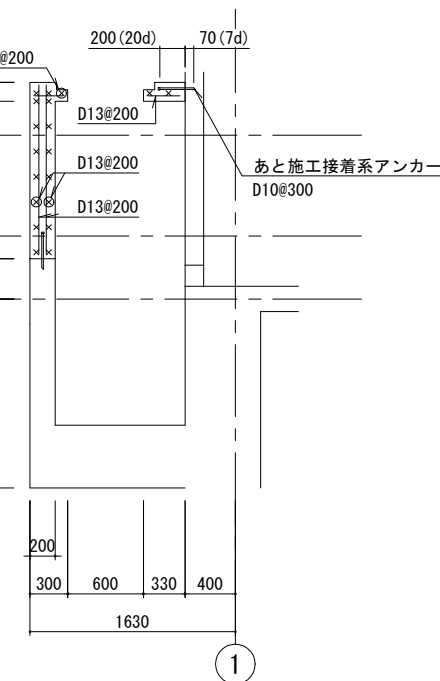
3-10
N



平面図 S=1/30



立面図 S=1/30

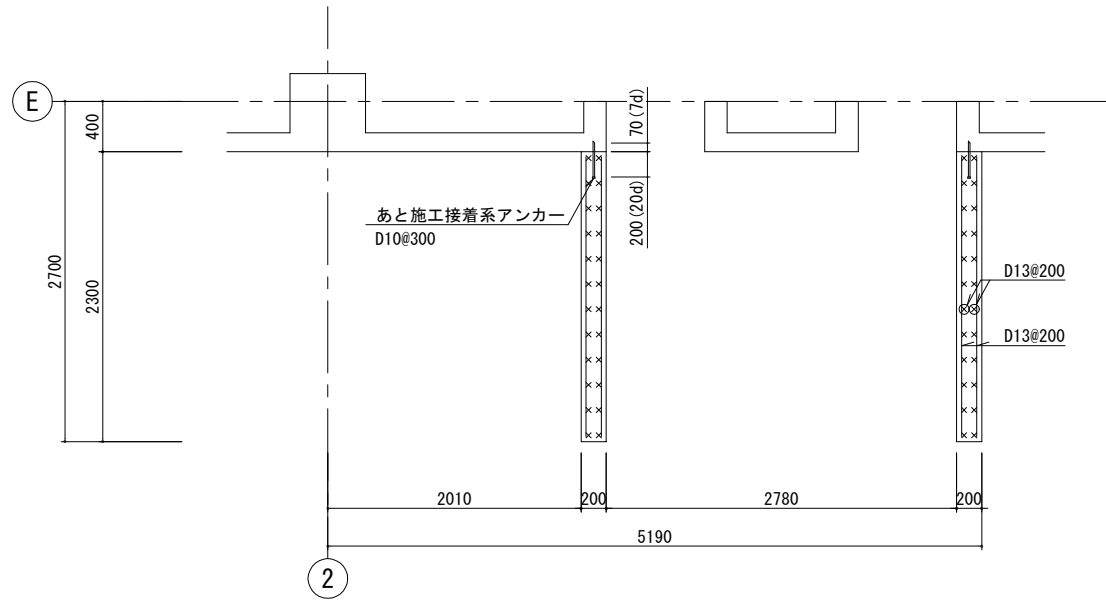


断面図 S=1/30

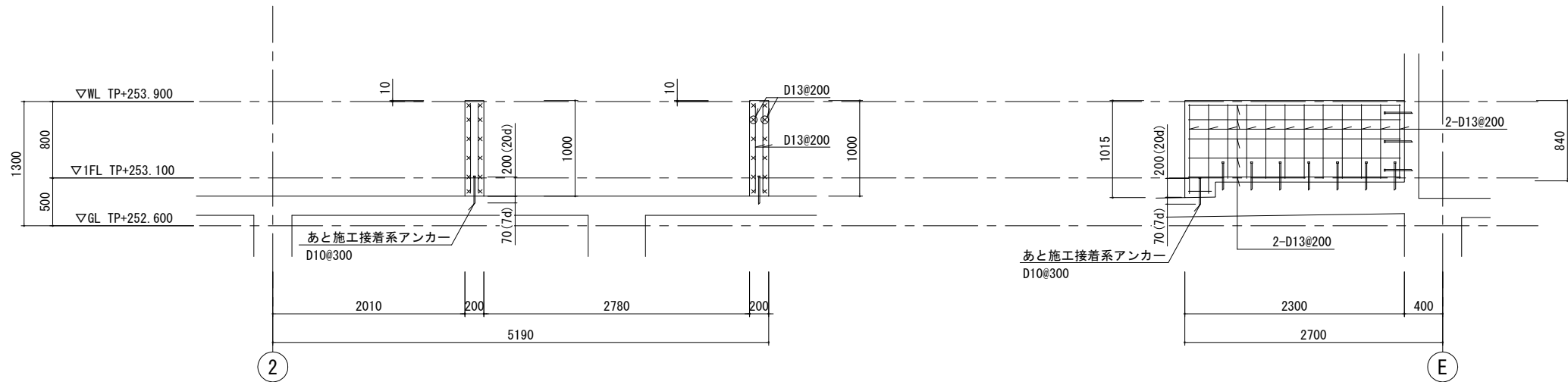
- 特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
 2. 鉄筋はSD295 (D16以下) SD345 (D19以上) とする。
 3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	処理水ポンプ棟 補強配筋詳細図(2)			
図面番号	3S-2			
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

※3-1～3-6, 3-8～3-9, 3-11, 3-14, 3-16欠番



平面図 S=1/30



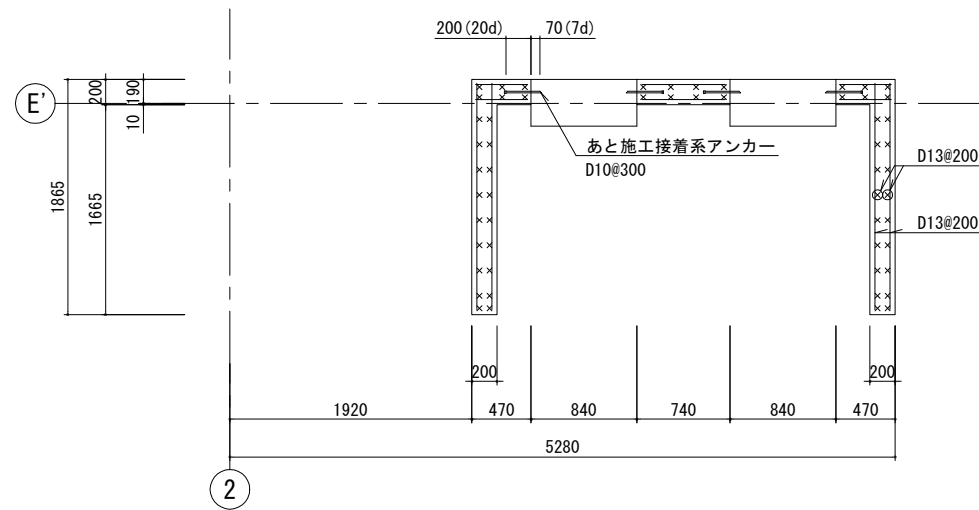
立面図 S=1/30

断面図 S=1/30

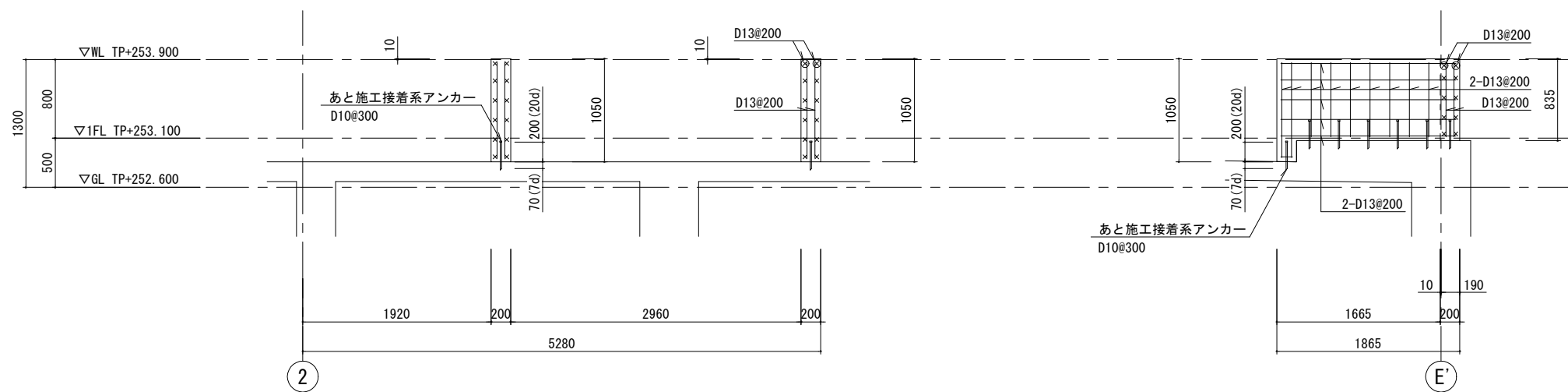
特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上)とする。
3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	処理水ポンプ棟 補強配筋詳細図(3)			
図面番号	3S-3			
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

※3-1～3-6, 3-8～3-9, 3-11, 3-14, 3-16欠番



平面図 S=1/30



立面図 S=1/30

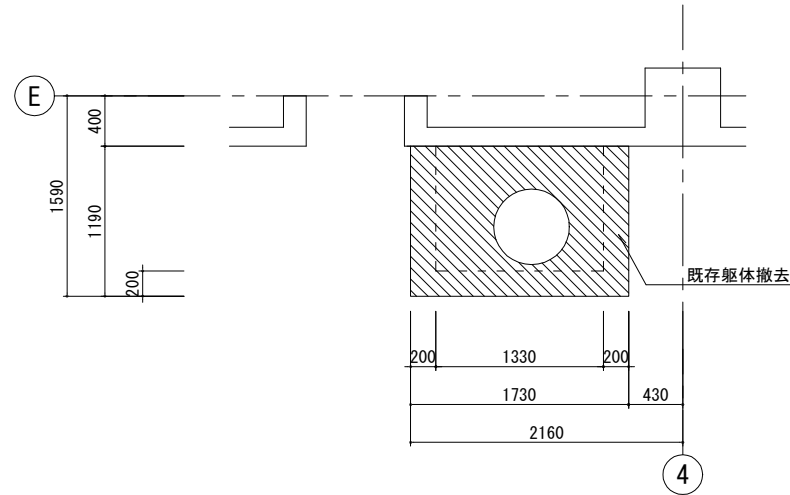
断面図 S=1/30

- 特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
 2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上)とする。
 3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

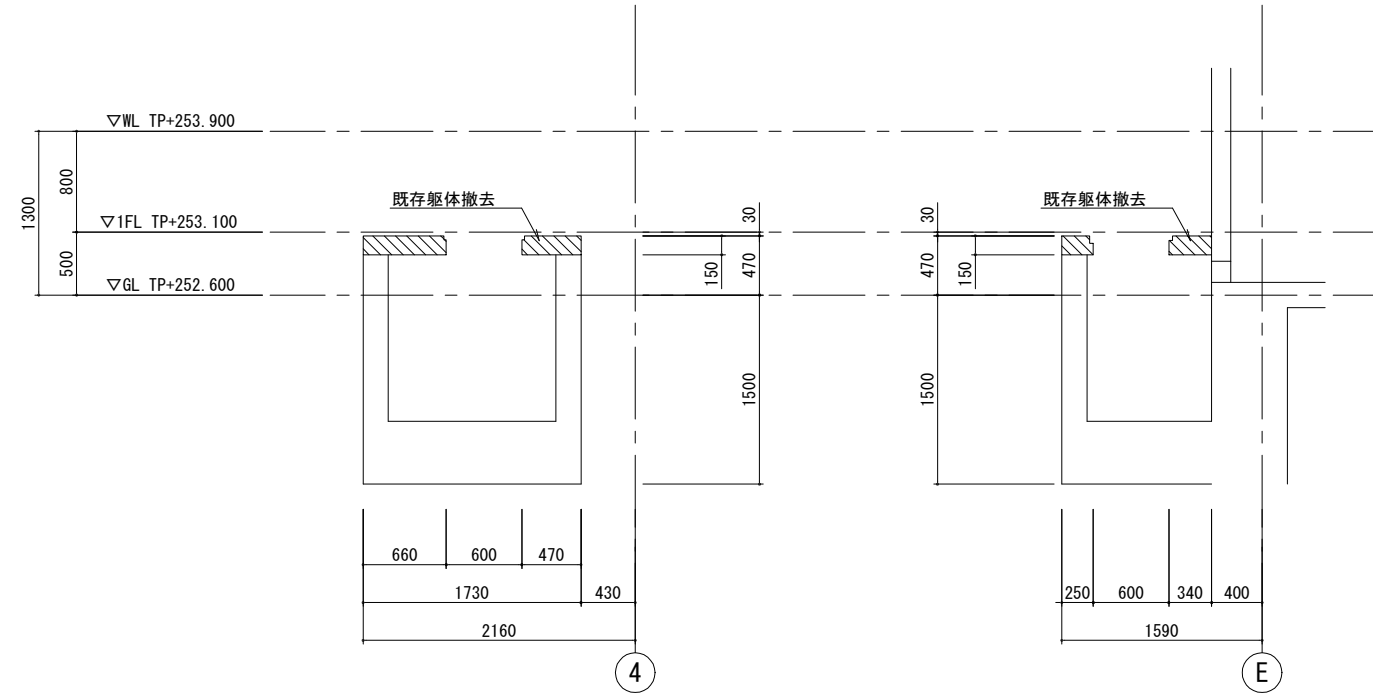
甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	処理水ポンプ棟 補強配筋詳細図 (4)			
図面番号	3S-4			
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

3-15
0

※3-1～3-6, 3-8～3-9, 3-11, 3-14, 3-16欠番



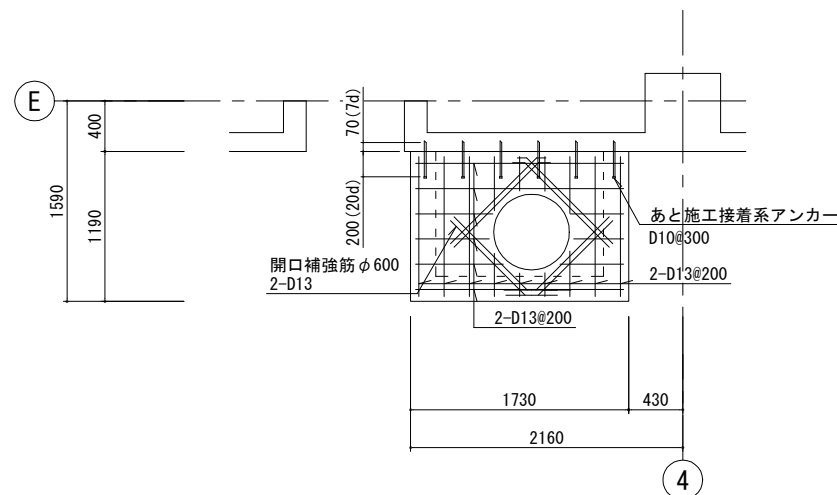
平面図 S=1/30



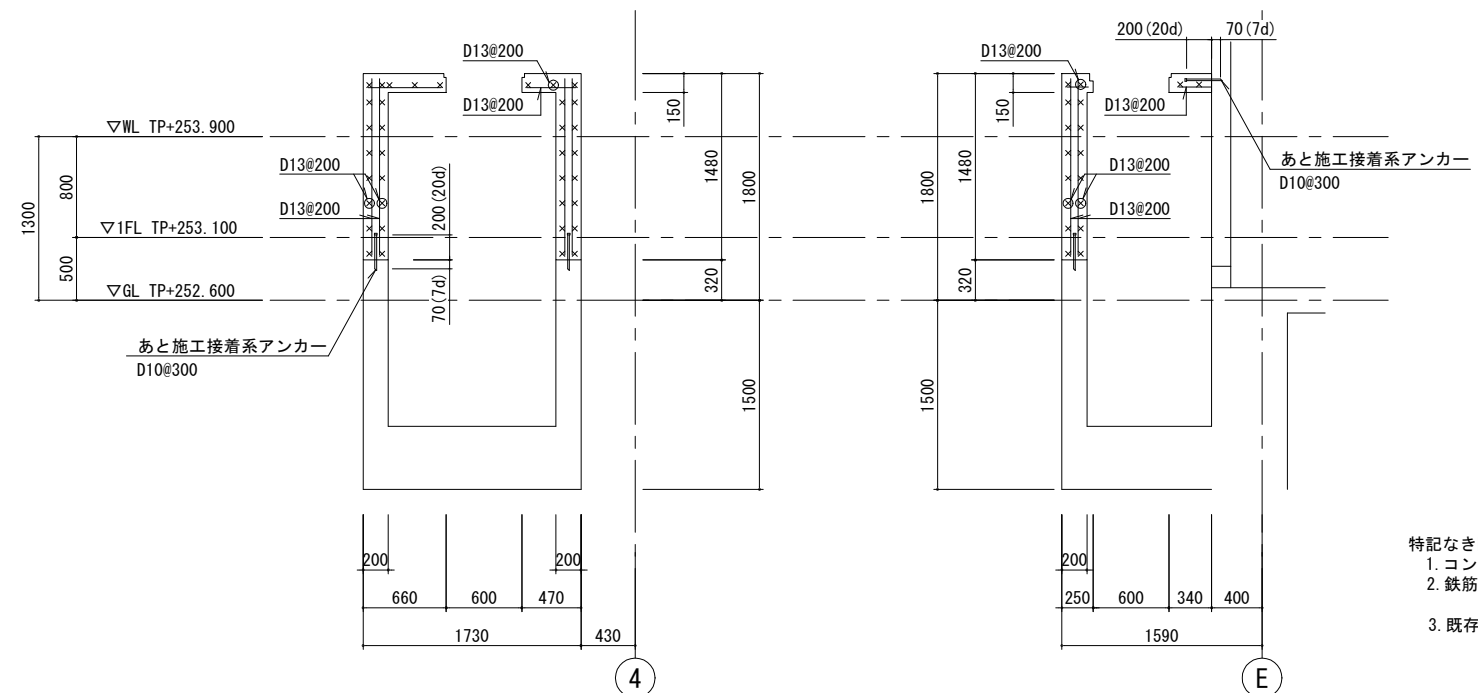
立面図 S=1/30

断面図 S=1/30

3-15
N



平面図 S=1/30



立面図 S=1/30

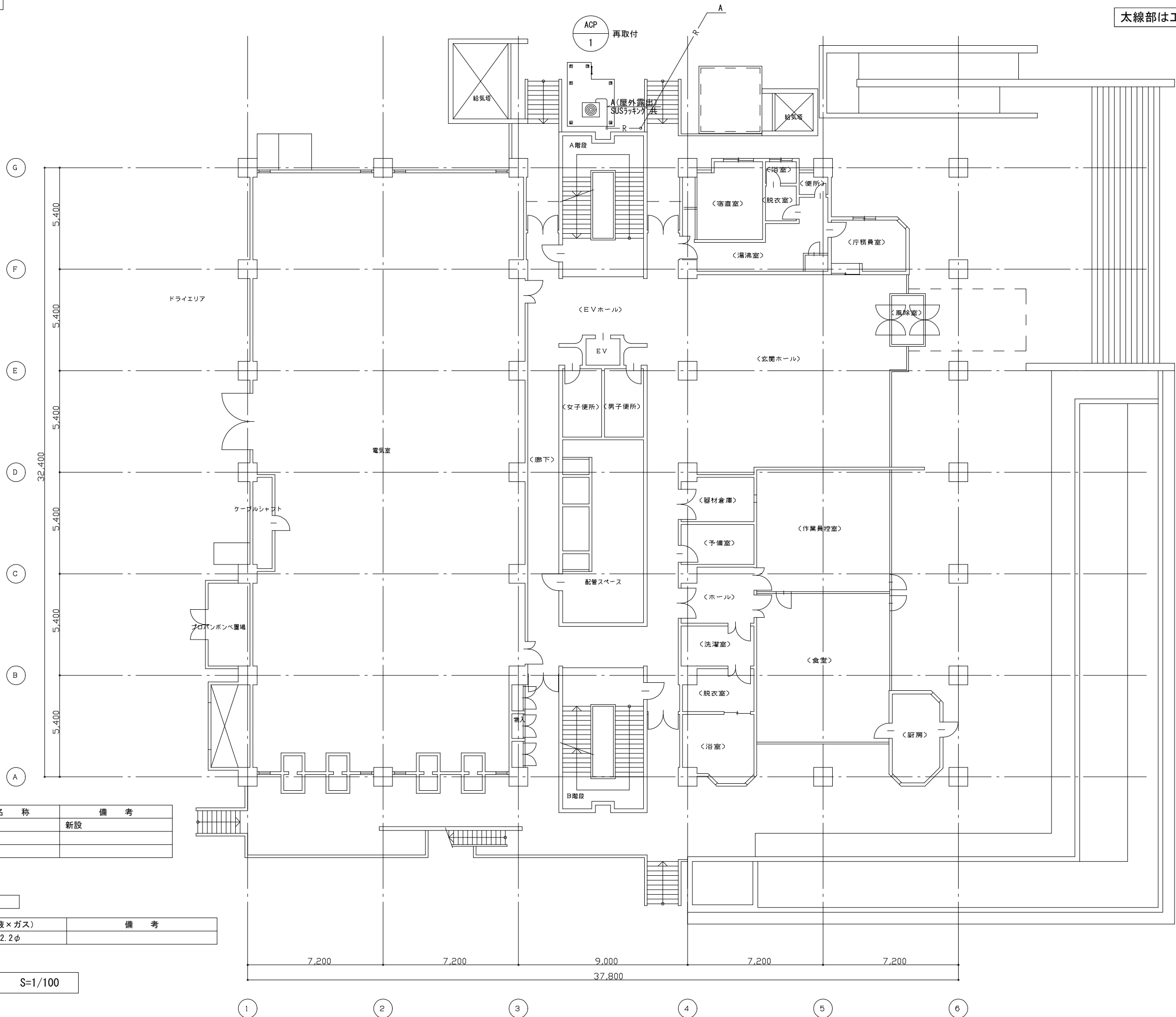
断面図 S=1/30

特記なき限り下記による。
1. コンクリートはFc24とする。
2. 鉄筋はSD295 (D16以下)
SD345 (D19以上) とする。
3. 既存躯体は目荒らしを行うこと。

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	処理水ポンプ棟 補強配筋詳細図(5)		
図面番号	3S-5		
縮 尺	A1:1/30 A3:1/60	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	一般平面図		
図面番号	AM - 02		
縮 尺	A1:1/200 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



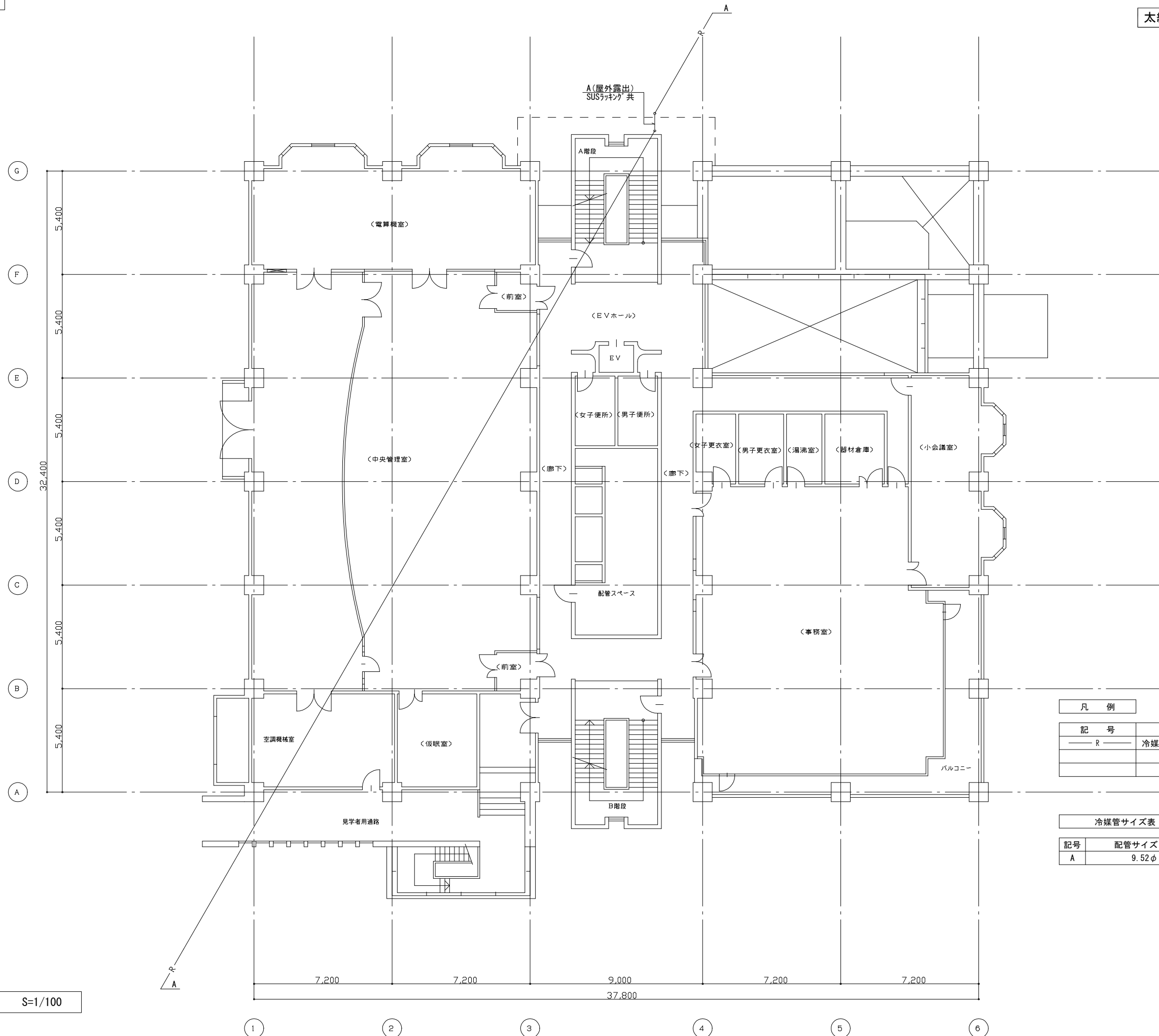
凡 例		
記 号	名 称	備 考
— R —	冷媒管	新設

冷媒管サイズ表		
記号	配管サイズ（液×ガス）	備 考
A	9.52φ×22.2φ	

1 階平面図 S=1/100

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 1 階平面図（改修後）		
図面番号	AM - 03		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（新設・再取付）を示す

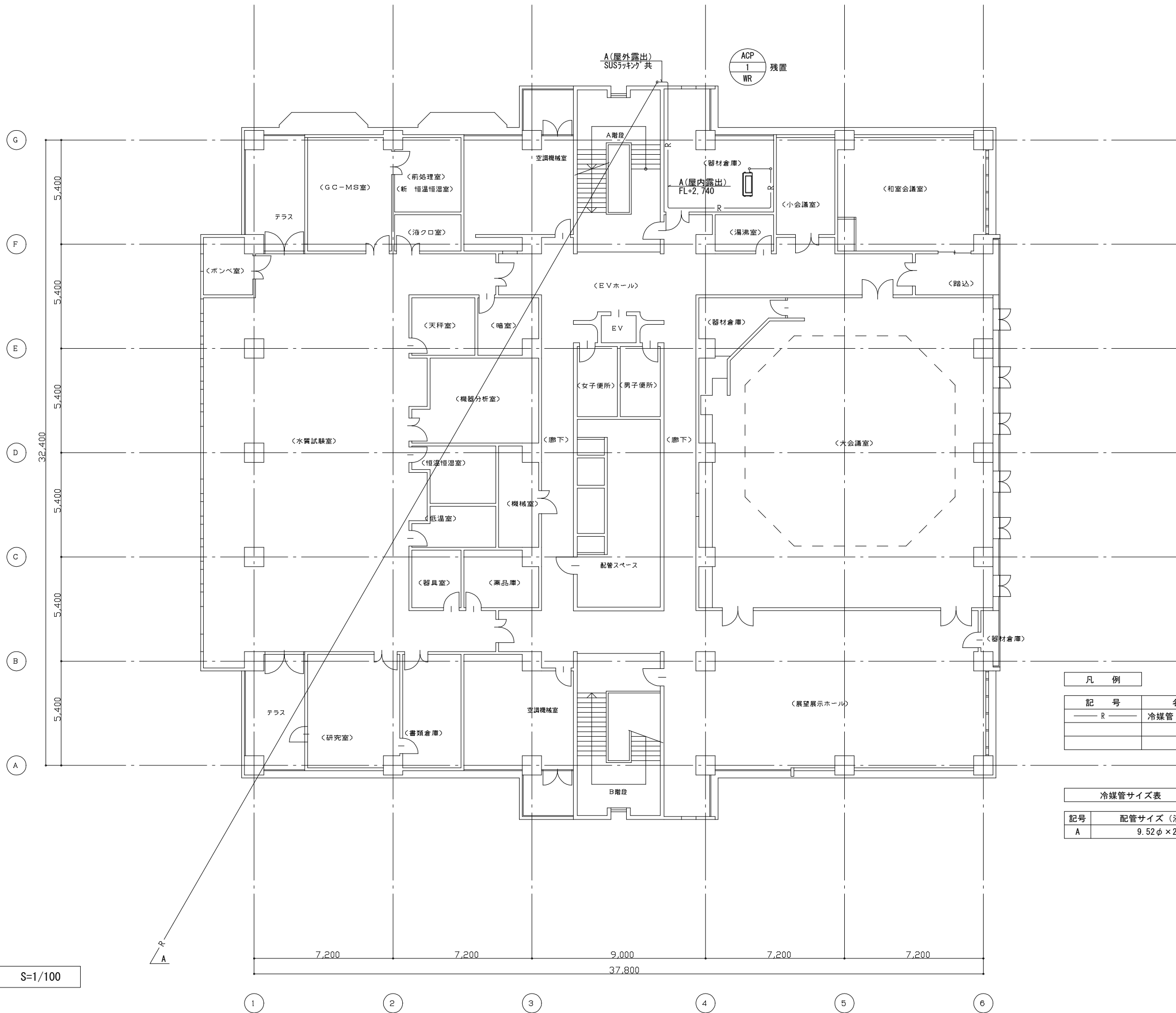


凡 例		
記 号	名 称	備 考
— R —	冷媒管	新設

冷媒管サイズ表		
記号	配管サイズ（液×ガス）	備 考
A	9.52φ×22.2φ	

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 2階平面図（改修後）		
図面番号	AM - 04		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

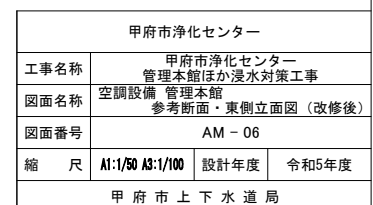
太線部は工事対象（新設・再取付）を示す



3 階平面図 S=1/100

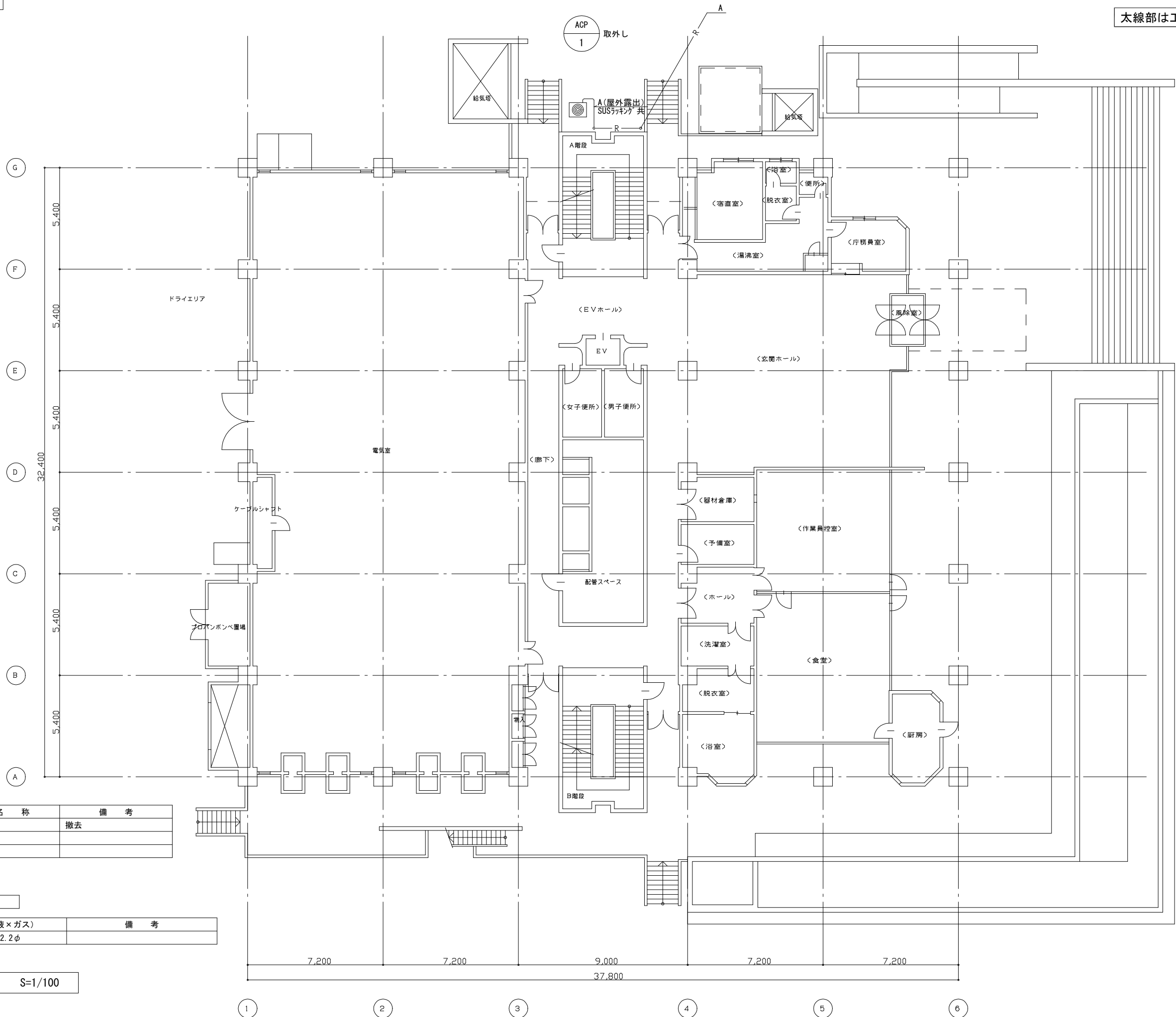
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 3階平面図 (改修後)		
図面番号	AM-05		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

記 号	名 称	仕 様	電気仕様 (50HZ)			台 数	設置場所	備 考	措 置
			容量 kW(W)	相 の	電圧 V				
ACP-1	和室・会議室系統	型 式 床置(露出)立形(ダクト) 圧縮機	6.7	3	400	1	器材倉庫	防振架台共	再取付
-FRV(D)	パッケージ形空気調和機	定格冷房能力 25.0kW (最大 28.0kW) 屋外FAN	0.92						
	PFHV-P280VCM-E	定格暖房能力 28.0kW (最大 31.5kW) 屋内FAN	1.5					高置架台 (建築工事)	
		使用冷媒 R410A							
		屋外機質量 210kg 外形寸法 920×760×1,650H							
		屋内機質量 158kg							





太線部は工事対象（撤去・取外し）を示す



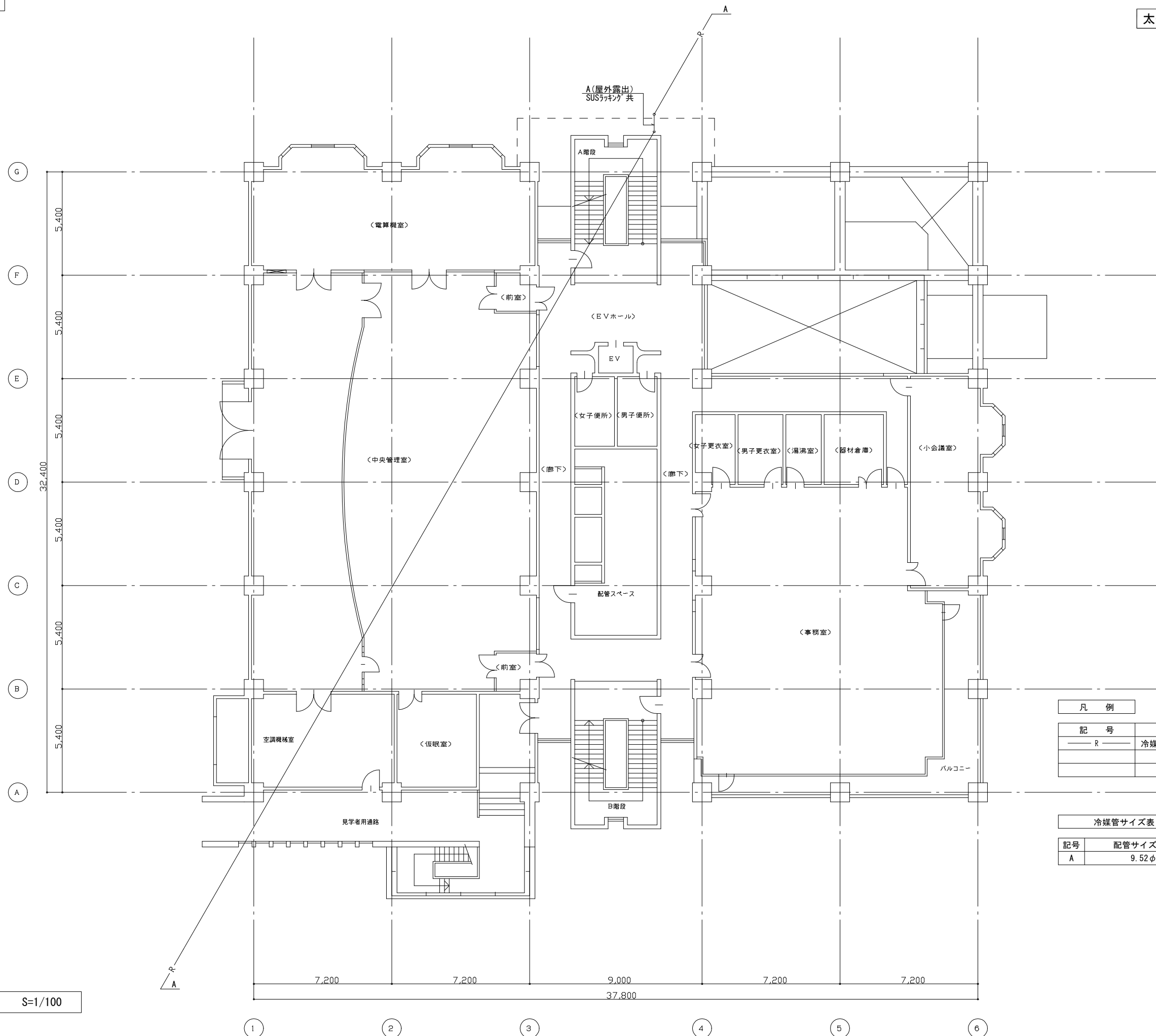
凡 例		
記 号	名 称	備 考
— R —	冷媒管	撤去

冷媒管サイズ表		
記号	配管サイズ（液×ガス）	備 考
A	9.52φ×22.2φ	

1 階平面図 S=1/100

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 1階平面図（改修前）		
図面番号	AM-07		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（撤去・取外し）を示す



凡 例

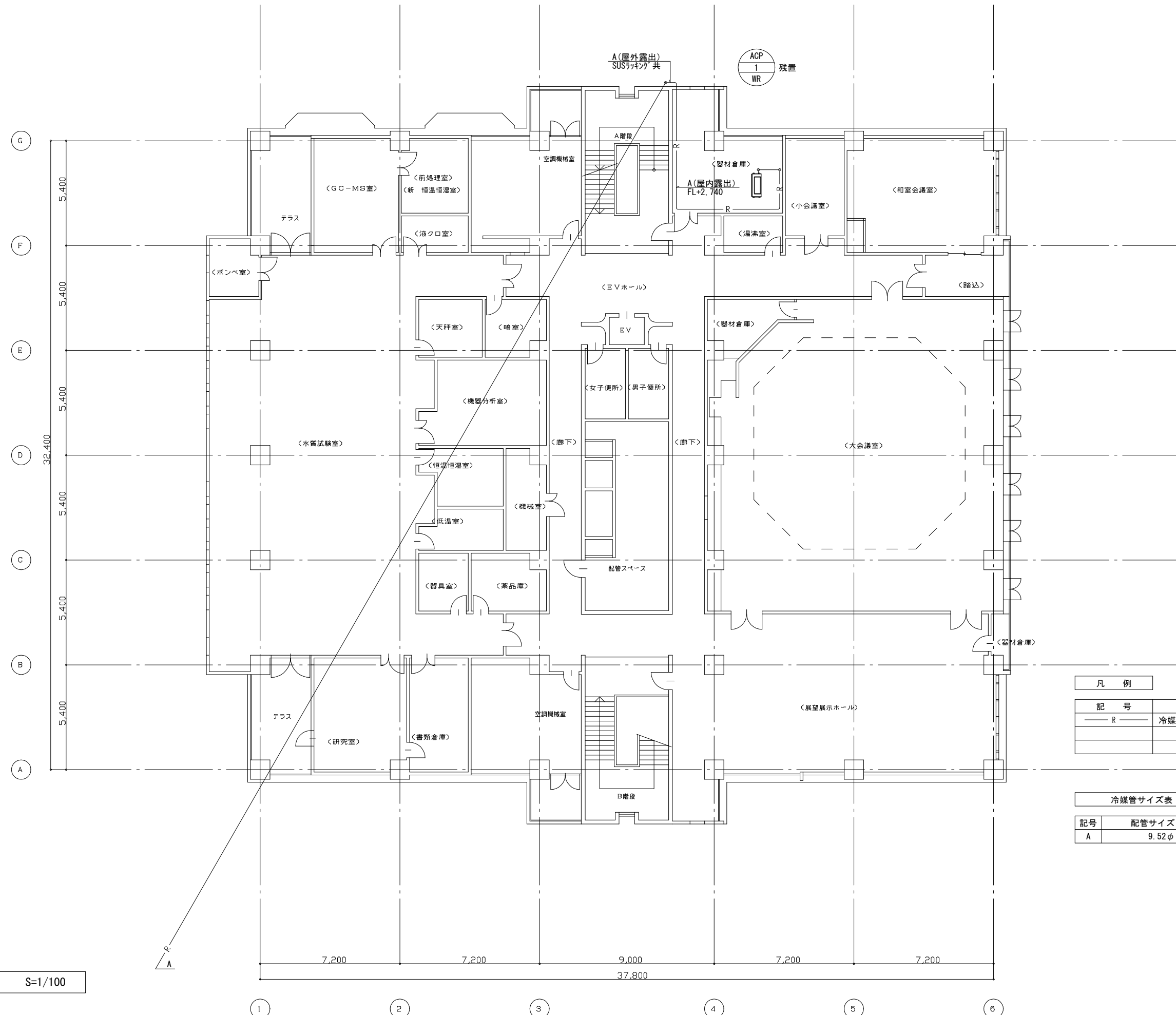
記 号	名 称	備 考
— R —	冷媒管	撤去

冷媒管サイズ表

記号	配管サイズ (液×ガス)	備 考
A	9.52φ×22.2φ	

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 2階平面図 (改修前)		
図面番号	AM - 08		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（撤去・取外し）を示す



凡 例		
記 号	名 称	備 考
—— R ——	冷媒管	撤去

冷媒管サイズ表		
記号	配管サイズ (液×ガス)	備 考
A	9.52φ×22.2φ	

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 3階平面図（改修前）		
図面番号	AM - 09		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（撤去・取外し）を示す

機 器 表

記 号	名 称	仕 様	電気仕様 (50HZ)			台 数	設置場所	備 考	措 置
			容量 kW (W)	相 φ	電圧 V				
ACP-1	和室・会議室系統	型 式 床置 (露出) 立形 (ダクト)	圧縮機 6.7	3	400	1	器材倉庫	防振架台共	屋外機取外し (ポンプ・ダクト)
FRV (D)	パッケージ形空調和機	定格冷房能力 25.0kW (最大 28.0kW)	屋外 F A N 0.92						
	PFHV-P280VCM-E	定格暖房能力 28.0kW (最大 31.5kW)	屋内 F A N 1.5					空調用基礎ブロック	撤去
		使用冷媒 R410A							
		屋外機質量 210kg 外形寸法 920×760×1,650H							
		屋内機質量 158kg							



参考断面図 S=1/50

東側立面図 S=1/50

凡 例

記 号	名 称	備 考
— R —	冷媒管	撤去

冷媒管サイズ表

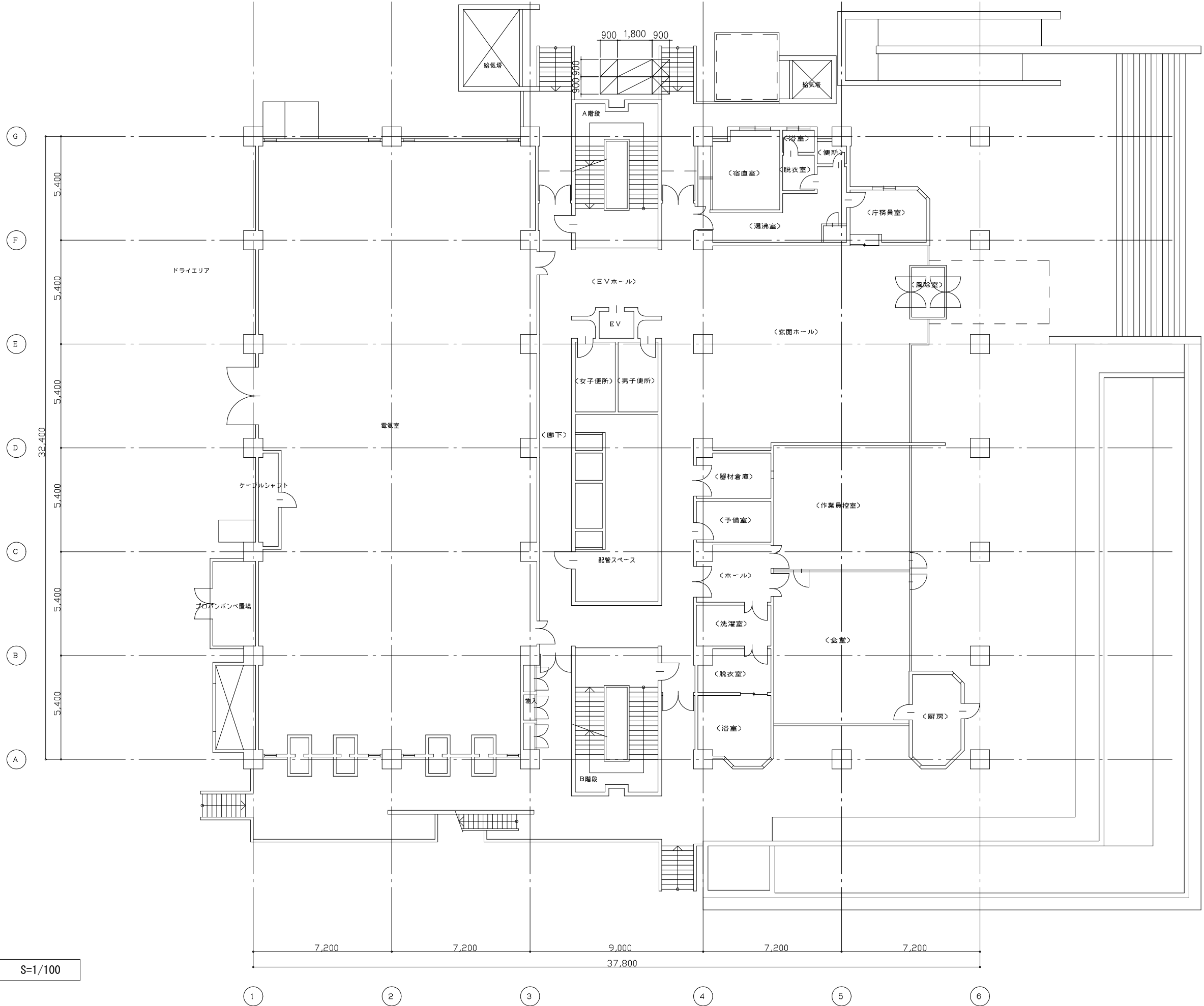
記号	配管サイズ (液×ガス)	備 考
A	9.52φ×22.22φ	

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	空調設備 管理本館 参考断面・東側立面図 (改修前)		
図面番号	AM - 10		
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（仮設足場）を示す



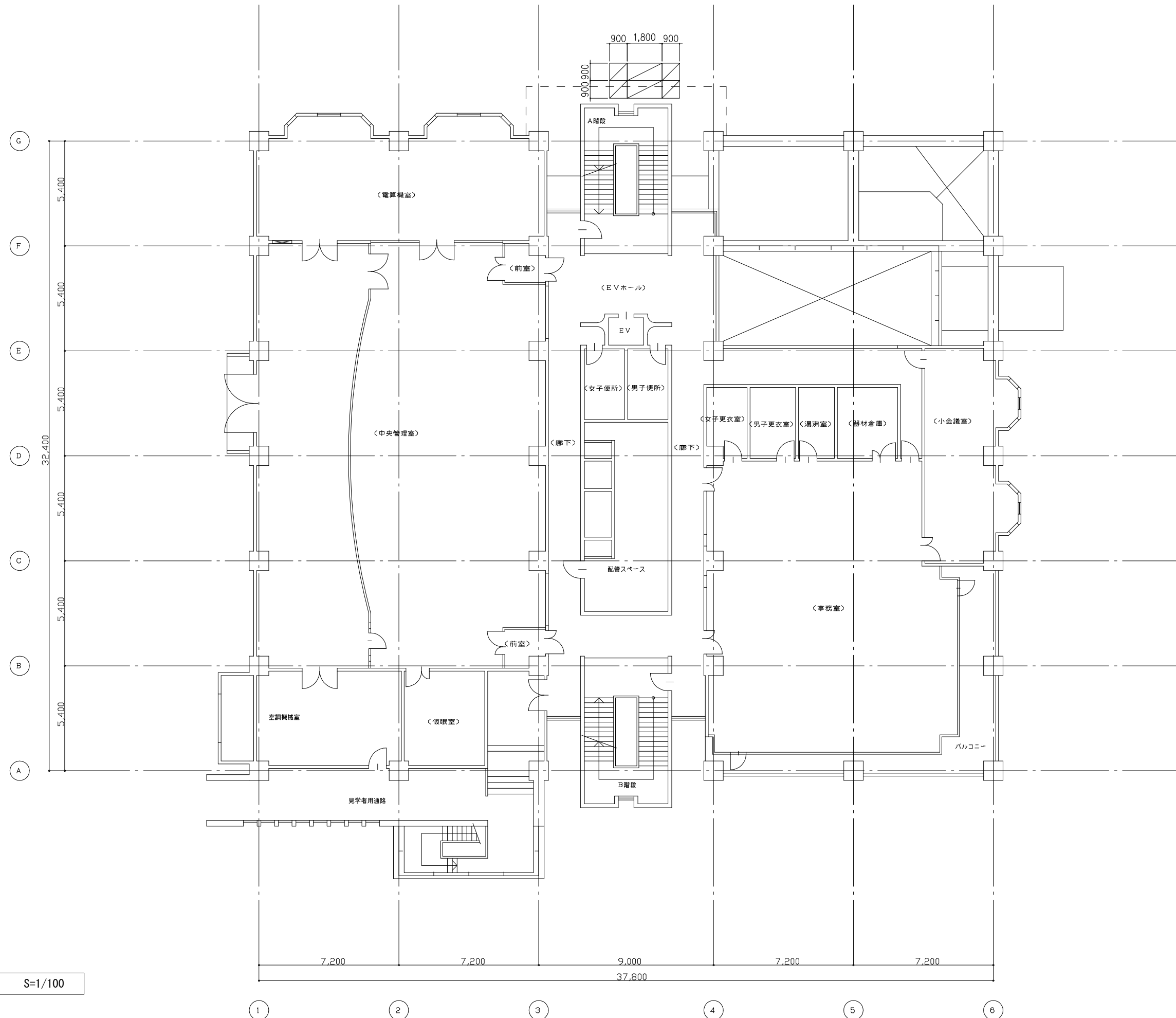
- 凡例
- 枠組足場 (H=15.8m)
 - 単管足場



1 階平面図 S=1/100

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	管理本館 1 階平面図 仮設足場参考図			
図面番号	AM - 11			
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

太線部は工事対象（仮設足場）を示す



凡例

 : 桝組足場 (H=15.8m)

 : 単管足場


2 階平面図 S=1/100

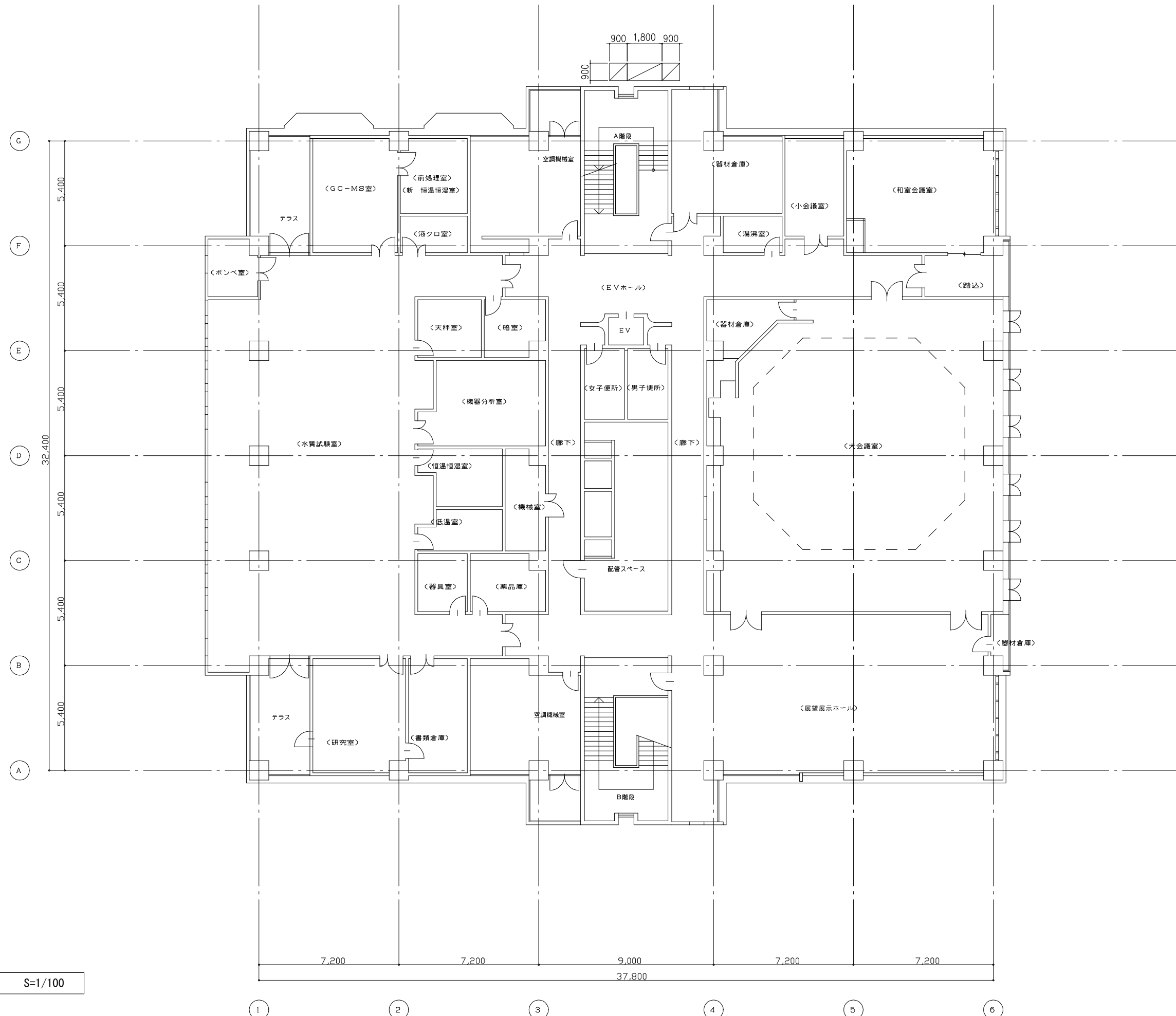
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	管理本館 2階平面図 仮設足場参考図		
図面番号	AM - 12		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（仮設足場）を示す

凡例

 : 枠組足場 (H=15.8m)



 : 単管足場

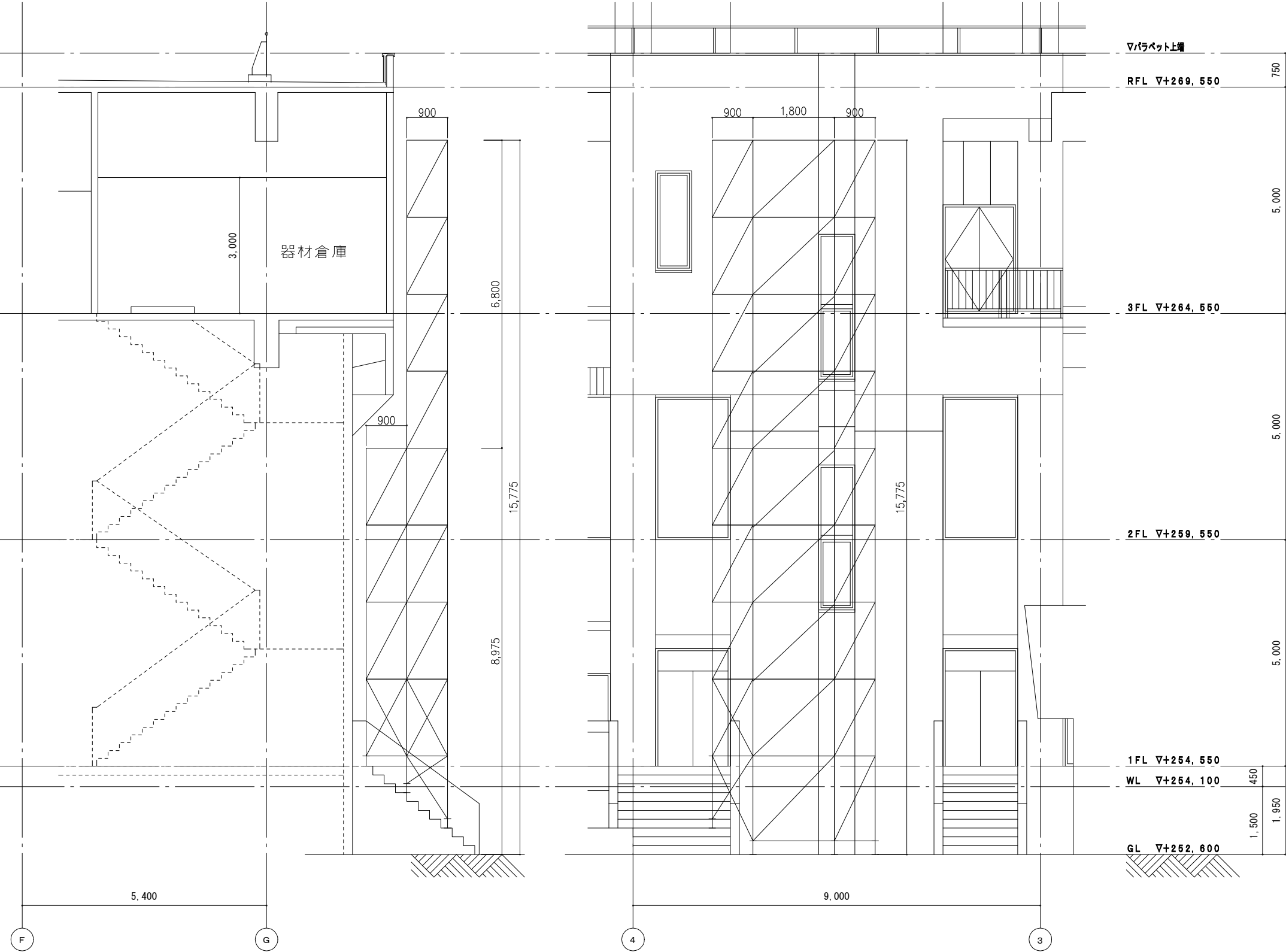


3 階平面図 S=1/100

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	管理本館 3階平面図 仮設足場参考図		
図面番号	AM - 13		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

太線部は工事対象（撤去・取外し）を示す

- 凡例
-  : 枠組足場 (H=15.8m)
 -  : 単管足場



参考断面図 S=1/50

東側立面図 S=1/50

甲府市浄化センター				
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事			
図面名称	管理本館 参考断面・東側立面図 仮設足場参考図			
図面番号	AM - 14			
縮 尺	A1:1/50 A3:1/100	設計年度	令和5年度	
甲 府 市 上 下 水 道 局				

工事設計図

令和 年 月 (全 校)

特記仕様書

1. 工事概要

1. 工事場所 **山梨県甲府市大井町地内**

2. 建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	建築基準法による 延べ面積 (㎡)	消防法施行令 別表第一の区分	施設の分類	備 考
管理本館	RC造	3階建 (地下 1 階 地上 1 階)	5,290.500	1 5 項		改修

(注) 延べ面積は建築基準法による表記)

3. 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

建物別及び屋外 工 事 種 目	管電本館					屋 外
○ 電灯設備						
● 動力設備	●					
○ 電気自動車用充電設備						
○ 電熱設備						
○ 雷保護設備						
○ 受変電設備						
○ 電力貯蔵設備						
○ 発電設備						
○ 構内情報通信網設備						
○ 構内交換設備						
○ 情報表示設備						
○ 映像・音響設備						
○ 拡声設備						
○ 誘導支援設備						
○ テレビ共同受信設備						
○ 監視カメラ設備						
○ 駐車場管制設備						
○ 防犯・入退室管理設備						
○ 火災報知設備						
○ 中央監視制御設備						一式
○ 構内配電線路						一式
○ 構内通信線路						一式
○ テレビ電波障害防除設備						一式
○						
○						
○						

4. 指定部分 ○ 無 ○ 有 (対象部分
指定部分工期 年 月 日)

5. 改修内容

II. 工事仕様

1. 共通仕様

1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、
●印の付いたものを適用する。
●「公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) 」 (以下「標準仕様書」という。)
●「公共建築改修工事標準仕様書 (電気設備工事編) (令和4年版) 」 (以下「改修標準仕様書」という。)
(改修標準仕様書の中でいう標準仕様書は、令和4年度版 (電気設備工事編) とする。)
●「公共建築設備工事標準図 (電気設備工事編) (令和4年版) 」 (以下「標準図」という。)
2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を適用する。
なお、機械設備工事の特記仕様書は (/) 図、建築工事の特記仕様書は (/) 図による。

2. 特記仕様

項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。

項 目

特 記 事 項

●適用区分

(1) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
○ 風圧力
風速 (Vo= m/s)
地表面粗度区分 (○Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ ○Ⅳ)
○ 積雪荷重
建設省告示第1455号における区域 別表 ()

(2) 塩害地域
● 一般地域 ○ 里耐塩地域 ○ 耐塩地域

●環境への配慮

(1) 本工事において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律 (平成12年法律第100号) 」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針 (令和4年2月閣議決定) 」に定める特定調達品目「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。
(2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
① 合板、木質系フローリング、構造パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びステレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑性 (フタル酸ジ n-ブチル及びフタル酸ジ n-エチルヘキシル等を含有しない難燃発性の可塑性を除く。) が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びステレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

○ 機材の品質等

(3) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三种」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
① 建築基準法施行令第20条の7 第1項に定める第一種、第二種及び第三种ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
② 建築基準法施行令第20条の7 第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③ 建築基準法施行令第20条の7 第1項に定める第三种ホルムアルデヒド発散建築材料
④ 建築基準法施行令第20条の7 第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
(1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価されたことを示す外部機関が発行する書面を提出し、監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。
① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。
② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③ 安定的な供給が可能であること。
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

機材等
○LED照明器具 (一般屋内用に限る)
○照明制御装置
○可変速運転用インバータ装置
○分電盤
○制御盤
○キュービクル式配電盤
○高圧スイッチギヤ (C形)
○高圧スイッチギヤ (P形)
○高圧交流遮断器
○高圧進相コンデンサ
○高圧限流ヒューズ
○高圧負荷開閉器
○高圧変圧器 (特定機器)
○交流無停電電源装置
○太陽光発電装置 (パワーコンディショナ及び系統連系保護装置)
○監視カメラ装置
○中央監視制御 (監視制御装置)
○
○
○
○
○
○

●電源周波数

●電気工事士

●工事用仮設物

○足場その他

○建設発生土の処理

○耐震施工

●配管本数、管路等

項 目

特 記 事 項

●金属製電線管の仕上げ

露出配管の仕上げは次による。
屋外
● 厚鋼電線管は、溶融亜鉛めっき仕上り付着量300g/㎡以上のものとする。
○ 塗装あり (場所:)
屋内
○ 塗装なし
○ 塗装あり (場所:)

測定数 箇所以上 測定し監督職員に報告する。

○ 非常用照明装置の照度測定箇所数

○ 電流値等の計測

下記の電流値等を計測し、報告書を監督職員に提出する。
計測箇所 (○ 図示による。)
計測項目 (○ 電流値 (記録間隔1分毎 ○ 照度)
計測日数 (通常使用状態の電流値: 改修着手前 5日間、改修後 5日間)
計測測定箇所数 (改修前及び改修後の照度測定 箇所以上)
備 考
(1) 計測機器及び計測装置等の詳細は監督職員との協議による。
(2) 報告書には、測定装置 (もしくはソフトウェア) の換算機能により算出された電力 (瞬時値) 及び電力量 (積算値30分単位) も記録すること。
(3) 照度測定は作業面照度 (床土0.8m) とし、測定方法はJIS C 7612による。

事務室等に設ける○A壁、分電盤、端子箱の鋼板製キャビネット等及び意匠上配慮する必要のある機器の色彩計画を監督職員に提出するものとする。

フラッシュプレート
○ 金属製 (ステンレス、新金属を含む) ○ 樹脂製 ()

() 書きの室名は直天井の室を示し、それ以外は二重天井の室を示す。

○インバータ装置の規約効率

三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力 [kW]	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30
規約効率 [%]	定格電圧 200 [V]	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	94.5	95.0	95.5	95.5
	定格電圧 400 [V]	87.0	90.5	93.5	94.0	94.5	94.5	95.0	95.0	96.0	96.5	96.5

電動機出力 [kW]	37	45	55	75	
規約効率 [%]	定格電圧 200 [V]	95.5	95.5	95.5	95.5
	定格電圧 400 [V]	96.5	96.5	96.5	96.5

【備考】 (1) 規約効率は、JEM-TR 245 「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
(2) 0.4kWの規約効率は、JIS C 4212 「高効率低圧三相かご形誘導電動機」のIP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。
(3) 0.75kWの規約効率は、JIS C 4213 「低圧三相かご形誘導電動機-低圧トッブランナーモータ」のIP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。

壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面に記載がない場合は、表-1「機器標準取付高さ」による。

図面に記載がない場合は、表-2「接地極一覧表」による。

図面に記載がない場合は、工事区分表による。ただし、これにより難しい場合は監督職員と協議する。

事前調査 (○ 本工事 ○ 別途)
調査項目 (○ 既存資料調査 ○)
調査範囲 (○ 図示 ○)
調査方法 (○ 図示 ○)
○はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。

穿孔機械を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる附属装置等を用いて施工する。

EM-高圧架構ポリエチレンケーブルは、JCS 4395 「6600V 架構ポリエチレンケーブル (3層押出型) 」によるものとする。

呼称 (図記号)	種 類
6kV EM-CE	6600V 架構*リフレイン絶縁耐燃性*リフレインスケープ* (6600V CE/F (EE))
6kV EM-CET	6600V トリプル*リフレイン絶縁耐燃性*リフレインスケープ* (6600V CET/F (EE))

○ 壁類等の色彩計画

○ プレートの材質

○ 天井仕上区分

○インバータ装置の規約効率

●機器取付高さ

○接地極

●他工事又は他工種との取り合い

○施工調査

○既存躯体への穿孔

○ケーブルの種類

表-1 機器標準取付高さ

名称	測点	取付高 [mm]	名称	測点	取付高 [mm]
積算計器	地上～窓中心	1,800～2,000	壁掛形時計	床土～中心	1,500
引込開閉器 (低圧)	地上～中心	1,800～2,200	時計	〃	(天井高)×0.9
分電盤	床土～中心	1,500	壁掛形スピーカ	〃	(天井高)×0.9
			壁付アッテネータ	〃	1,300
スイッチ	床土～中心	1,300			
〃 (多機能トイレ)	〃	1,100	情報表示盤	床土～中心	(天井高)×0.9
コンセント (一般)	〃	300	壁付発信機	〃	1,300
〃 (和室)	〃	150	ベル、ブザー、チャイム	〃	2,300
〃 (台上)	台上～中心	150～200	壁付押しボタン (一般)	〃	1,300
〃 (車椅子用)	床土～中心	900			
ブラケット (一般)	〃	2,100～2,300			
〃 (踊場)	〃	2,000～2,500			
〃 (鏡上)	鏡上端～中心	150			
			外部受付用インターホン (子機)	「標準図」による。	
			壁付インターホン (上取以外)	床土～中心	1,300
			壁付呼出ボタン (多機能トイレ)	〃	900 (400)
壁掛形制御盤	床土～中心	1,500			
開閉器箱	〃	1,500 (上端1,900以下)	機器收容箱 (室内)	天井下～上端	200
制御用スイッチ	〃	1,300	テレビ端子 (一般)	床土～中心	300
			〃 (和室)	〃	150
端子盤 (室内)	床土～下端	300			
集合保安器	天井下～上端	200			
壁付電話機 (一般)	床土～中心	1,300	受信機・副受信機	床土～操作部	800～1,500
			機器收容箱	〃	800～1,500
			発信機	床土～中心	800～1,500
			警報ベル	〃	(天井高)×0.9
			表示灯	〃	(天井高)×0.8
			液化石油ガス検知器	床土～上端	300

(備考) (天井高)×0.9及び(天井高)×0.8は天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。
注) 天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。
呼出ボタン (多機能トイレ) の取付け高さ (400) は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

表-2 接地極一覧表

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
○ 共用接地	E _A -D	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 共用接地	E _A -C-D	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ A種	E _A	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ B種	E _B	Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ C種	E _C	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ D種	E _D	100Ω以下	EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1
○ D種	E _D	Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 高圧避雷器用	E _{LH}	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 交換装置用	E _L	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 通信用 (10Ω)	E _{A1}	10Ω以下	EB (D=14, L=1,500 又は W=40, L=1,200) ×3連一組
○ 通信用 (100Ω)	E _{D1}	100Ω以下	EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1
○ 電話引込口の保安器	E _{L1}	100Ω以下	EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1
○ 測定用	E ₀		EB (D=10, L=1,000 又は W=30, L=900) ×1

甲府市浄化センター

工事名称 甲府市浄化センター
管理本館ほか排水対策工事

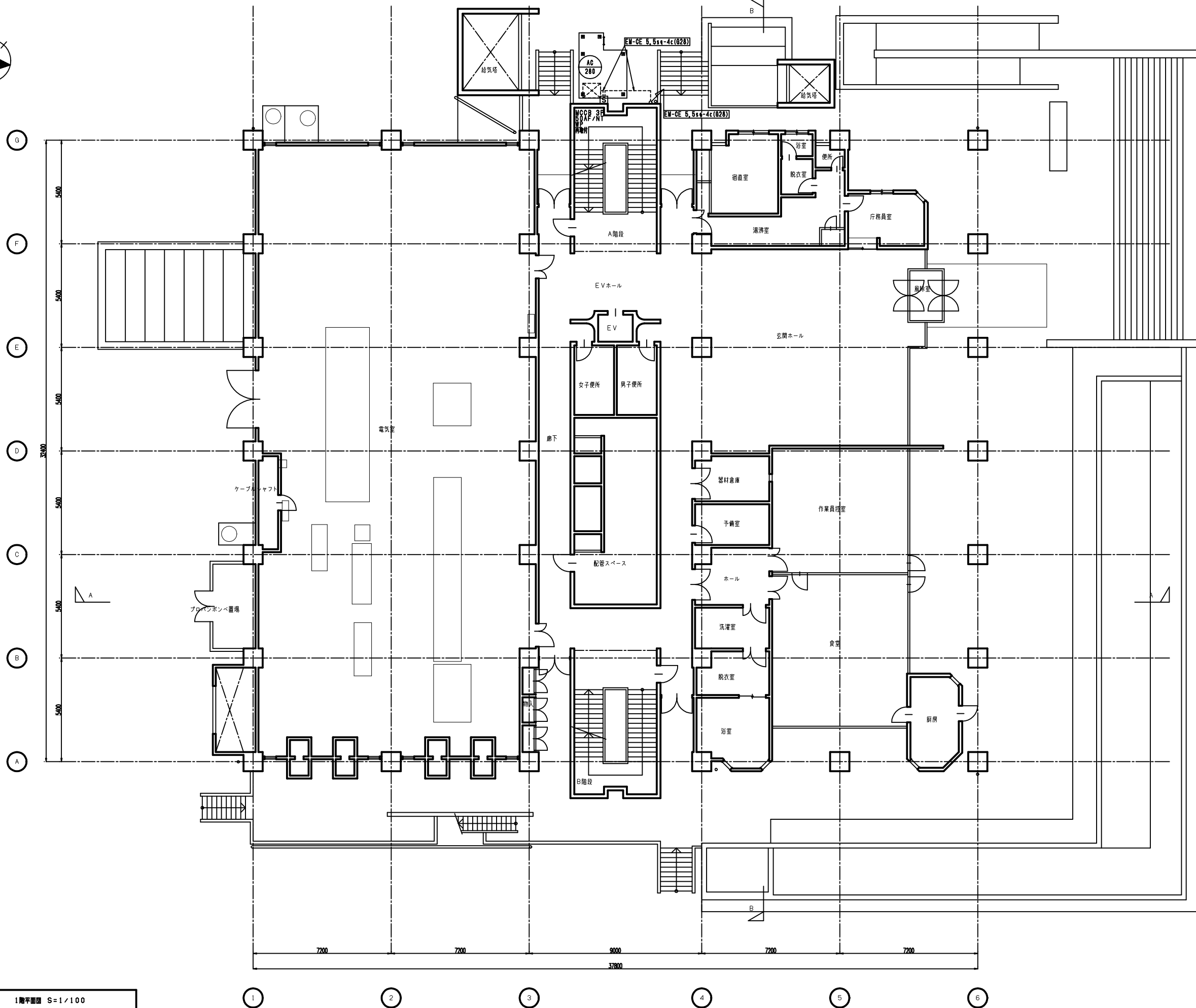
図面名称 建築電気設備 特記仕様書

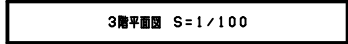
図面番号 AE-1

縮 尺 A1: NONE
A3: NONE

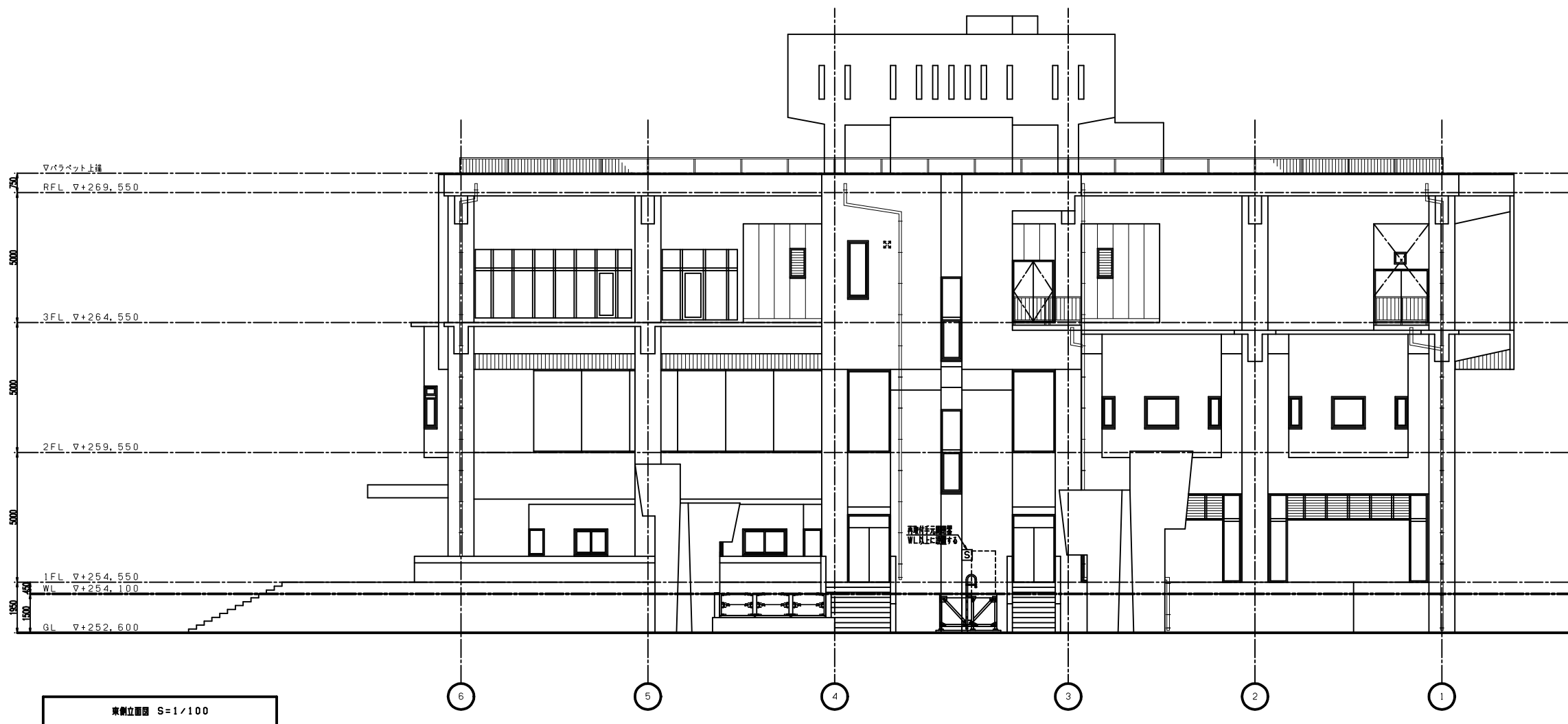
設計年度 令和5年度

甲 府 市 上 下 水 道 局

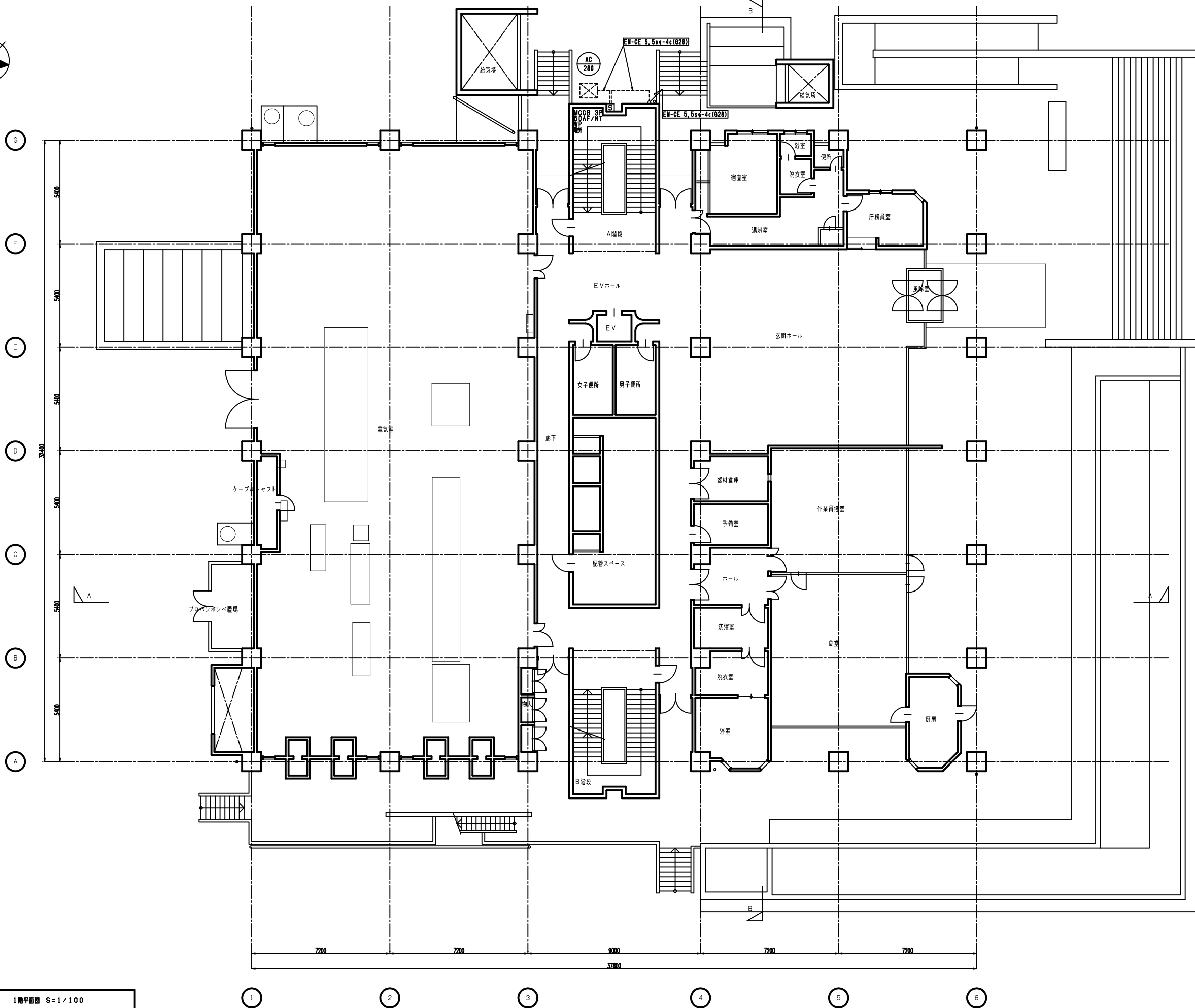




甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	3階平面図（改修後）		
図面番号	AE-4		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



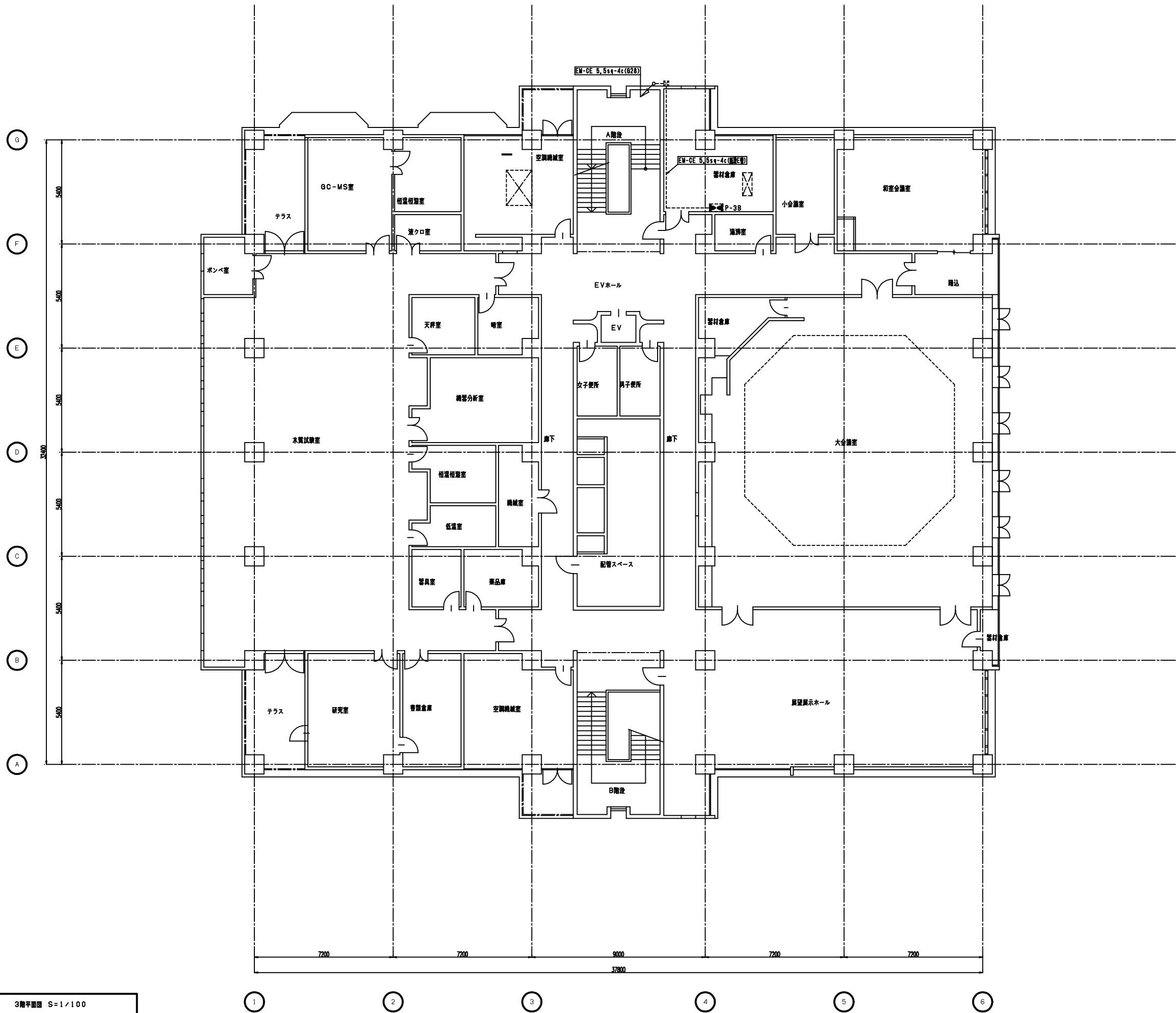
甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	立面図		
図面番号	AE-5		
縮 尺	A1:1/100	設計年度	令和5年度
	A3:1/200		
甲 府 市 上 下 水 道 局			



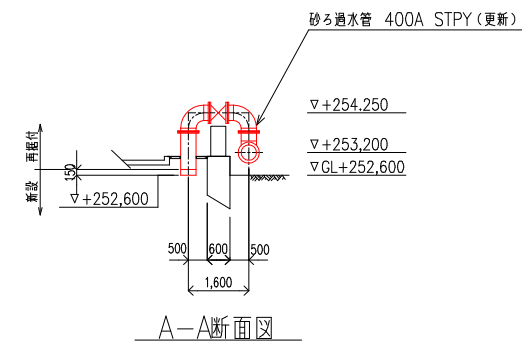
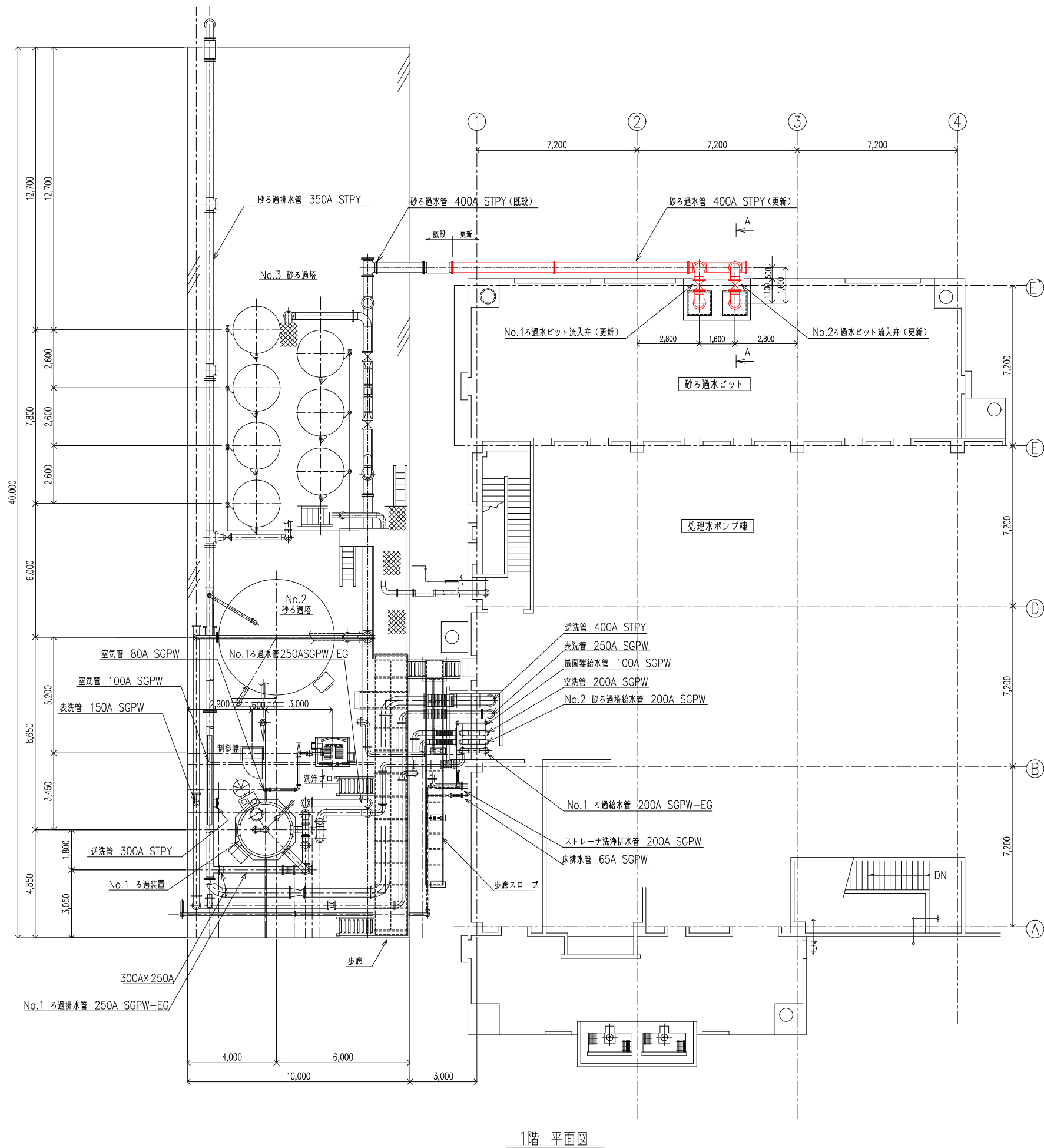
1階平面図 S=1/100

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	1階平面図（改修前）		
図面番号	AE-6		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			

3階平面図 S=1/100

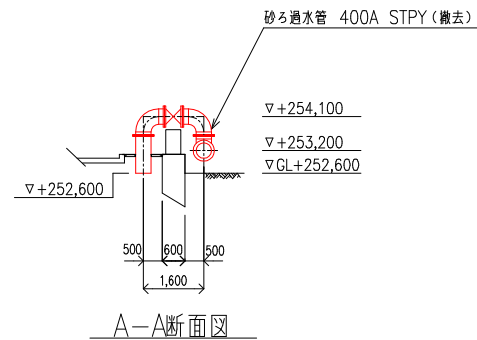
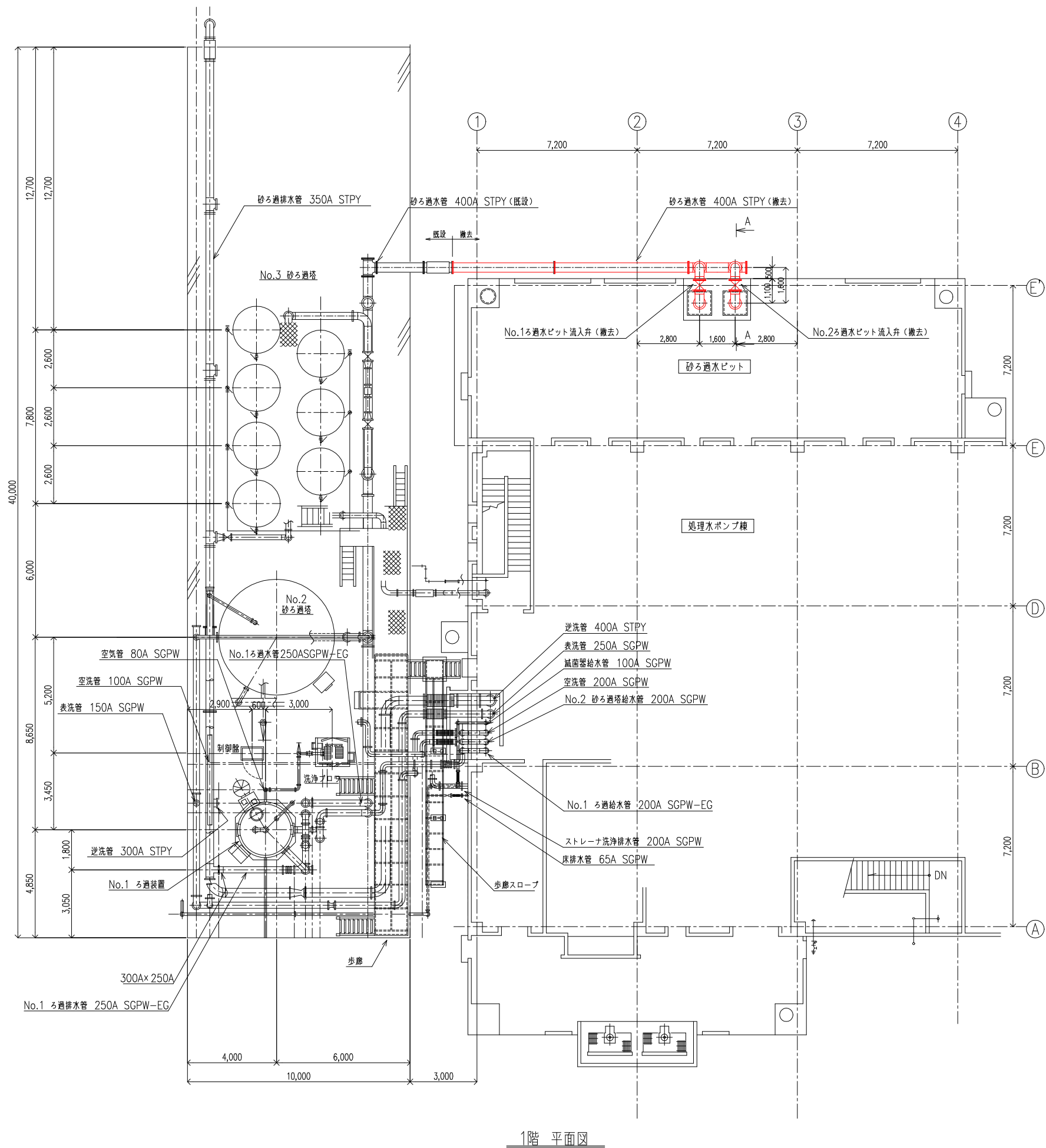


甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	3階平面図（改修前）		
図面番号	AE-7		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



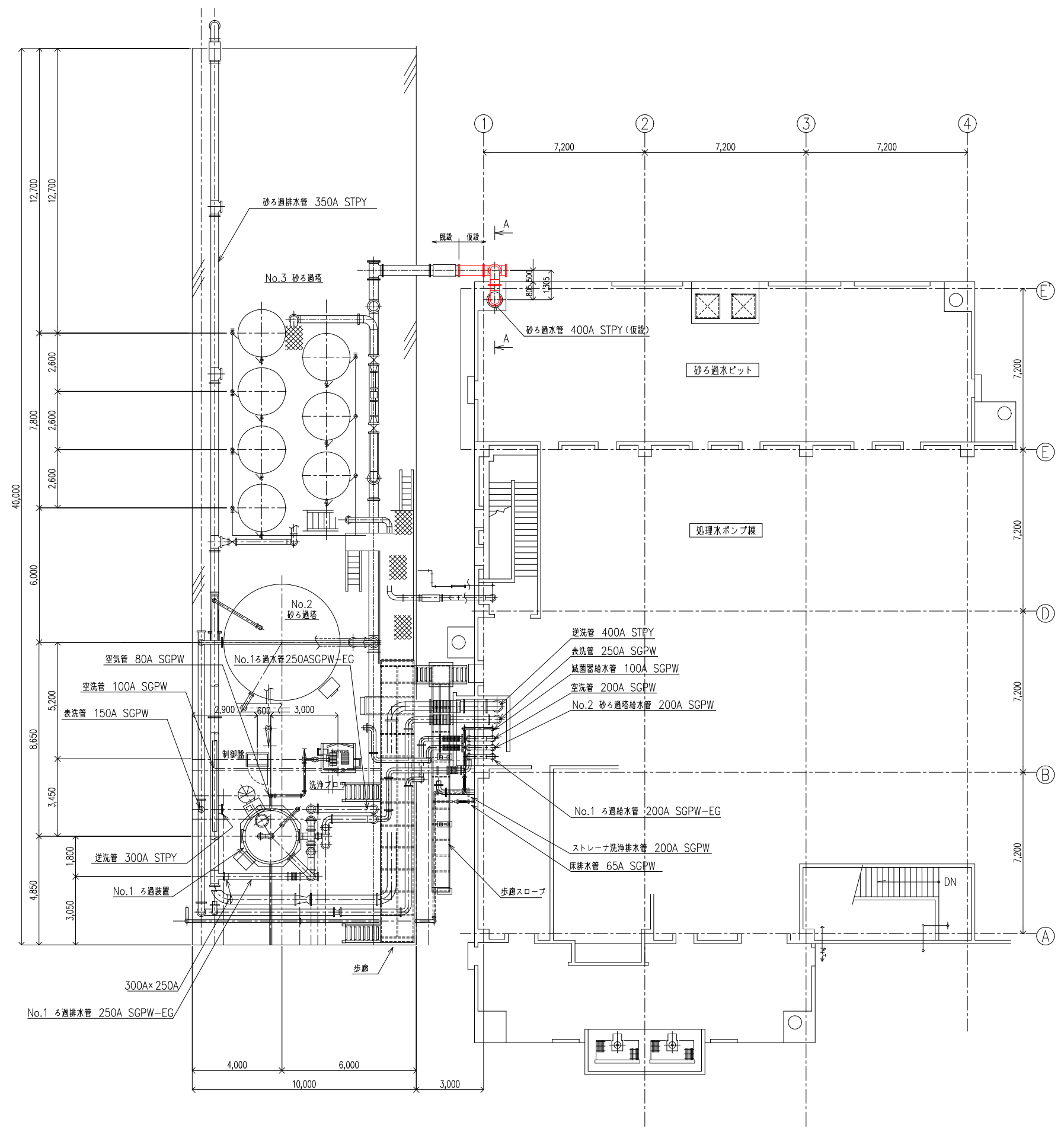
今回工事範囲

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	処理水ポンプ棟機械設備図（更新）		
図面番号	M-1		
縮尺	1/100	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			

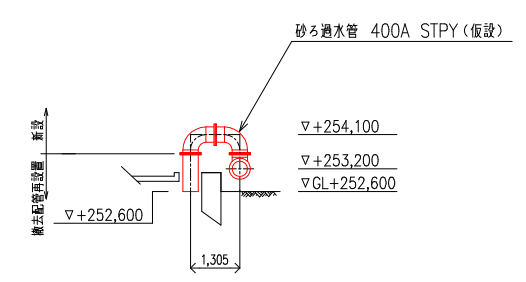


今回工事範囲

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	処理水ポンプ棟機械設備図（撤去）		
図面番号	M-2		
縮尺	1/100	設計年度	令和5年度
甲府市上下水道局			



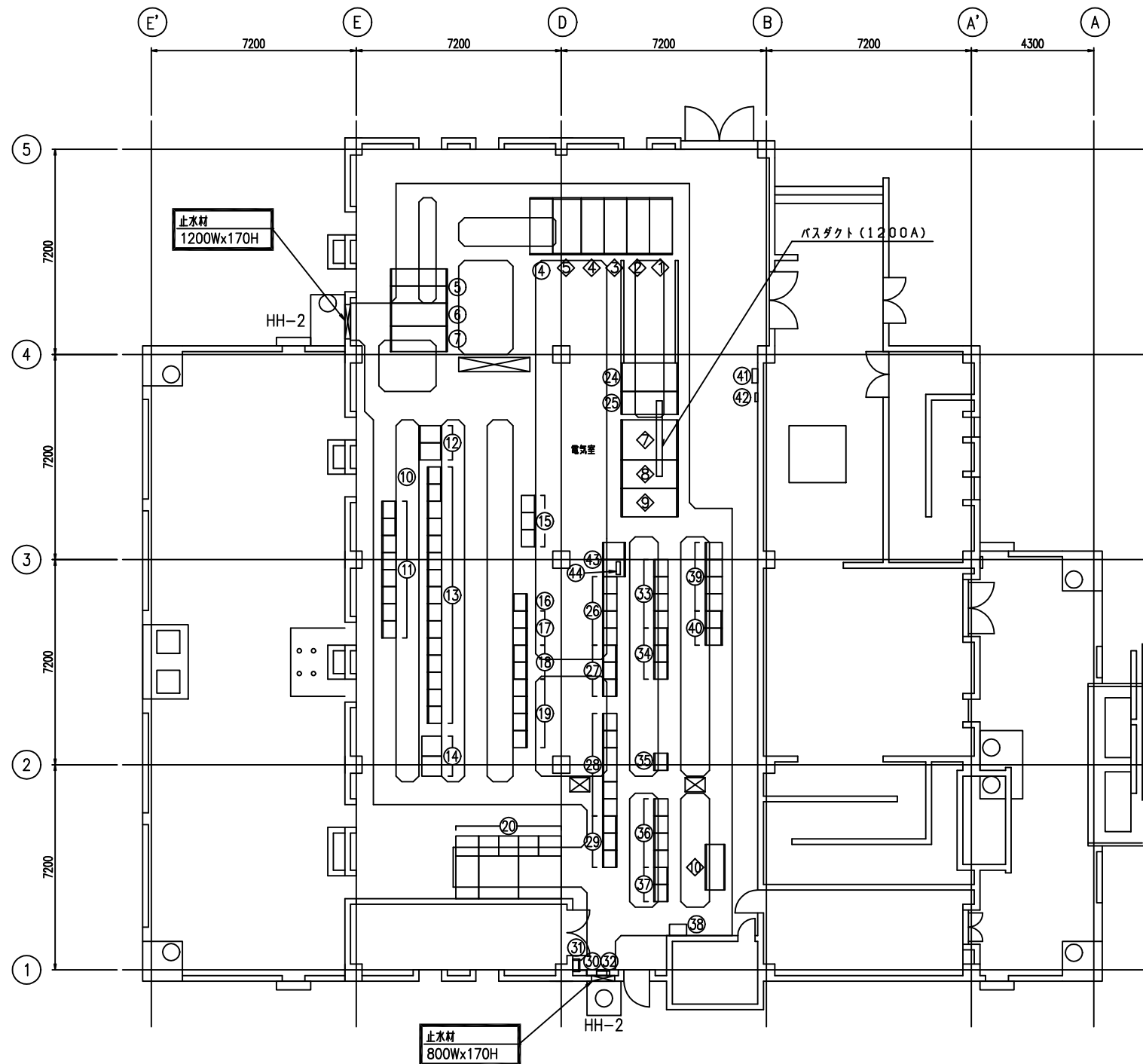
1階 平面図



A-A断面図

今回工事範囲

甲府市浄化センター			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	処理水ポンプ棟機械設備図（仮設）		
図面番号	M-3		
縮 尺	1/100	設計年度	令和 5 年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			




処理水ポンプ棟1階 電気室平面図
(S=1/100)

機器一覧表

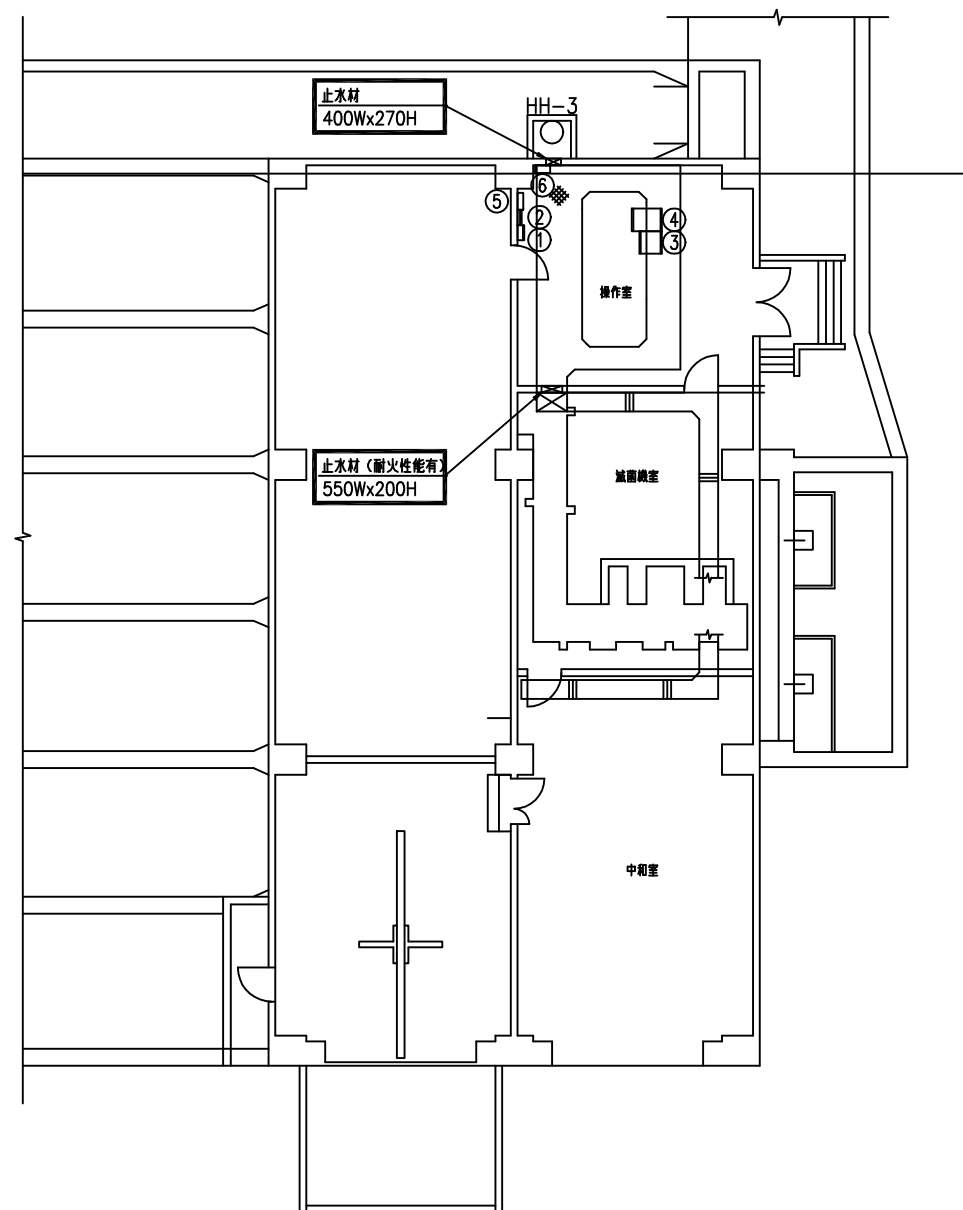
番号	名 称	記 号	備 考
④	NAS/引込受電盤	KH11	既設
⑤	施却動力用分岐	LC-SY2	〃
⑥	施却動力用主幹/照明用変換器	LC-SY1	〃
⑦	施却動力用変圧器 (750kVA)	TC-SY1	〃
⑩	No.1施却設備計装盤	K-SY-1-1~2	既設
⑪	No.1排ガス灰処理設備コントロールセンタ	CC-HJ1-1~6	〃
⑫	No.1施却炉コントロール盤	CT-SYG-1~2	〃
⑬	No.1施却設備コントロールセンタ	CC-SY1-1~10	〃
⑭	流動ブロー (I) /誘引ファン (I)	VF-SY2/VF-HJ1	〃
⑮	放流ポンプ設備コントロールセンタ3	CC-J3	〃
⑯	放流ポンプ設備補助継電器	Ry-J2	〃
⑰	放流ポンプ設備コントロールセンタ	CC-J2-1~2	〃
⑱	放流ポンプ設備補助継電器	Ry-J1-1~2	〃
⑲	コントロールセンタ	CC-J1-1~4	〃
⑳	砂ろ過給水設備監視盤	KY1	〃
㉔	No.2動力用分岐	KH8	既設
㉕	No.2動力用主幹	KH9	〃
㉖	砂ろ過設備コントロールセンタ	CC-K1	〃
㉗	砂ろ過設備補助継電器	Ry-K1-1~3	〃
㉘	砂ろ過設備コントロールセンタⅡ	CC-K2	〃
㉙	砂ろ過設備補助継電器	Ry-K2-1~3	〃
㉚	光成線箱		〃
㉛	接地端子盤		〃
㉜	計装用接地端子盤		〃
㉝	砂ろ過給水設備コントロールセンタⅢ	CC-K3-1~4	〃
㉞	砂ろ過給水設備補助継電器Ⅲ	Ry-K3-1~3	〃
㉟	砂ろ過給水設備コントロールセンタ	CC-K4	〃
㊱	砂ろ過給水設備コントロールセンタ	CC-K4-1~4	〃
㊲	補助継電器Ⅴ-1,2	Ry-K4-1~2	〃
㊳	放流ゲート遠方操作	LCB-J115	〃
㊴	砂ろ過設備コントロールセンタⅦ	CC-K5-1~4	〃
㊵	砂ろ過設備補助継電器Ⅶ	Ry-K5	〃
㊶	1L分電盤		〃
㊷	弱電用端子盤	TP-9	〃
㊸	砂ろ過電気室RI/O盤	RI/O-K	〃
㊹	汎用ミニUPS (2kVA)	UPS-8	〃

番号	記 号	名 称	備 考
◇	SH101	No.1処理水ポンプ棟高圧引込盤	既 設
◇	SH102A/B	汚水コグスモキ電盤/No.1処理水ポンプ棟動力変圧器1次盤	〃
◇	SH103	処理水ポンプ棟母線連絡DS盤	〃
◇	SH202A/B	処理水ポンプ棟母線連絡VCB盤/汚泥焼却キ電盤	〃
◇	SH201	No.2処理水ポンプ棟高圧引込盤	〃
◇	SL101	No.1処理水ポンプ棟動力変圧器盤	〃
◇	SL102	No.1処理水ポンプ棟動力分岐盤 (1)	〃
◇	SL103	No.1処理水ポンプ棟動力分岐盤 (2)	〃
◇			

注 記


1.  は今回を示す。
2. 特記なきは既設を示す。

甲 府 市 浄 化 セ ン タ ー			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	処理水ポンプ棟 1階平面図		
図面番号	E-1		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			



塩素滅菌棟 1 階 平面図
(S=1/100)

機器一覧表			
番号	名 称	記 号	備 考
①	照明分電盤		既設
②	継子盤		"
③	滅菌設備電源分岐盤		"
④	RI/O 盤 (塩素滅菌室)	RI/O-L	"
⑤	乳用ミニUPS (2kVA)		
⑥	放流流量計盤		

- 注 記
-  は今回を示す。
 - 特記なきは既設を示す。

甲 府 市 浄 化 セ ン タ ー			
工事名称	甲府市浄化センター 管理本館ほか浸水対策工事		
図面名称	塩素滅菌池棟 1階平面図		
図面番号	E-2		
縮 尺	A1:1/100 A3:1/200	設計年度	令和5年度
甲 府 市 上 下 水 道 局			